

青 森 県 の 教 育

—令和5年度の実績—

青 森 県 教 育 委 員 会

青 森 県 の 教 育

—令和5年度の実績—

青 森 県 教 育 委 員 会

青森県教育委員会 (R6.3.31現在)

委員長
風張知子



委員・教育長職務代理者
平間恵美



委員
戸塚学



委員
新藤幸子



委員
安田博



委員
松本史晴



も く じ

第1部 教育行財政

1章 青森県教育委員会	1
1節 青森県教育施策の方針	1
2節 教育長・教育委員	1
3節 事務局の機構・分掌事務	2
4節 附属機関	7
5節 会議の記録	12
6節 規則の制定改廃	15
2章 教育財政	16
1節 当初予算	16
2節 補正予算	29
3章 企画・調査・広報・情報化推進	30
1節 企画	30
2節 調査・統計	32
3節 広報・広聴	32
4節 教育行政における情報化の推進	34
4章 叙勲、表彰	36
1節 職員福利課関係	36
2節 学校教育課関係	39
3節 生涯学習課関係	39
4節 スポーツ健康課関係	41

第2部 教 職 員

1章 教職員の配置	53
1節 教職員の配置基準	53
2節 学級編制の基準	57
2章 教職員の異動	58

1節 小・中学校	58
2節 県立学校	60
3章 採用・昇任・退職	62
1節 採用・昇任	62
2節 退職勸奨	67
4章 給与等	68
5章 免許	69
6章 教職員研修・教育研究	71
1節 教職員研修	71
2節 教育研究	80
7章 教職員の福利厚生	87
1節 福利厚生の概要	87
2節 福利厚生事業	91
8章 教職員の人事評価制度	94

第3部 学校教育

1章 学校教育指導の方針と重点	95
2章 幼稚園教育	97
1節 幼稚園の概況	97
2節 幼保連携型認定こども園の概況	98
3節 教育課程・保育指導	98
3章 小・中学校教育	99
1節 学校の概況	99
2節 施設・設備	102
3節 生徒指導	104
4節 道徳教育	107
5節 へき地教育	108
6節 教科書採択	109
4章 高等学校教育	111

1節	学校の概況	111
2節	施設・設備	111
3節	教育課程	113
4節	学習指導	117
5節	生徒指導	118
6節	道徳教育	119
7節	進路指導	120
8節	産業教育	124
9節	定時制・通信制教育	124
10節	文化活動支援	126
11節	高等学校入学者選抜	129
12節	ドリカム人づくり推進事業	132
13節	持続可能な地域づくり「あおり創造学」プロジェクト事業	132
14節	高等学校教育改革	133
5章	特別支援教育	137
1節	学校の概況	137
2節	障がいのある子どもの早期からの一貫した支援	138
3節	施設・設備	139
4節	教育課程	140
5節	学習指導	141
6節	生徒指導	141
7節	道徳教育	141
8節	進路指導	142
6章	情報教育	143
7章	国際理解教育	144
1節	日本語指導が必要な児童生徒等の受入	144
2節	外国語教育	144
3節	在外教育施設への教員派遣	146
8章	私学教育	147

1 節 私学教育の現状	147
2 節 私立学校に対する助成	148
3 節 私立学校審議会	151
9 章 育英・奨学	152
1 節 青森県育英奨学会	152

第4部 社会教育

1 章 社会教育行政の方針と重点	155
2 章 事業の概要	156
1 節 学校・家庭・地域の協働による未来を担う人財の育成	156
2 節 活力ある持続可能な地域づくりに向けた人財の育成	174
3 節 生涯を通じた学びと社会参加の推進	177
4 節 社会教育推進のための基盤整備	179
3 章 施設と職員の状況	183
1 節 社会教育施設の状況	183
2 節 社会教育関係職員の状況	185

第5部 体育・スポーツ

1 章 体育・健康・スポーツ行政の方針と重点	189
2 章 体 育	190
1 節 学 校 体 育	190
2 節 学 校 保 健	193
3 節 学 校 安 全	195
4 節 学校における食育・学校給食	196
3 章 ス ポ ー ツ	198
1 節 スポーツ活動の拡充	198
2 節 スポーツ団体	200
3 節 体育・スポーツ施設	201

第6部 文 化

1章 文化財保護行政の方針と重点	205
2章 文 化 財	206
1節 文化財の指定等	206
2節 文化財の調査	208
3節 文化財の公開・文化財保護思想の普及等	210
4節 文化財の修理・環境整備等	212
3章 博 物 館 等	213

第7部 教育機関等

1章 青森県立図書館・青森県近代文学館	217
2章 県立少年自然の家	233
1節 梵珠少年自然の家	233
2節 種差少年自然の家	238
3章 青森県総合社会教育センター	242
4章 青森県総合学校教育センター	262
5章 青森県営体育施設	292
6章 青森県立郷土館	313
7章 青森県埋蔵文化財調査センター	320
8章 三内丸山遺跡センター	325

第1部 教育行財政

第1部 教育行財政

1章 青森県教育委員会

1節 青森県教育施策の方針

青森県教育委員会は、郷土に誇りを持ち、多様性を尊重し、創造力豊かで、新しい時代を主体的に切り拓く人づくりを目指します。このため、
夢や志の実現に向け、知・徳・体を育む学校教育
学びを生かし、つながりをつくり出す社会教育
次代へ伝える、かけがえのない文化財の保存・活用
活力、健康、感動を生み出すスポーツ
を、市町村教育委員会、家庭や地域社会との連携を図りながら推進します。
平成26年1月8日決定

2節 教育長・教育委員

(令和6年3月31日)

	(氏名)	(任命年月日)
教 育 長	風 張 知 子	令和5年7月10日
委員・教育長職務代理者	平 間 恵 美	令和2年10月1日
委 員	戸 塚 学	令和2年10月1日
委 員	新 藤 幸 子	令和3年12月27日
委 員	安 田 博	令和4年12月20日
委 員	松 本 史 晴	令和5年10月10日

(委員の異動)

- ・令和5年7月6日付けで風張知子氏が教育長に任命された。
任期：令和5年7月10日～令和6年3月31日
- ・令和5年10月10日付けで平間恵美委員が教育長職務代理者に指名された。
- ・令和5年10月10日付けで松本史晴氏が委員に任命された。
任期：令和5年10月10日～令和9年10月9日

3節 事務局の機構・分掌事務

1 機

構

教育
長

和嶋 延寿
(6月28日退任)

風張 知子
(7月10日就任)

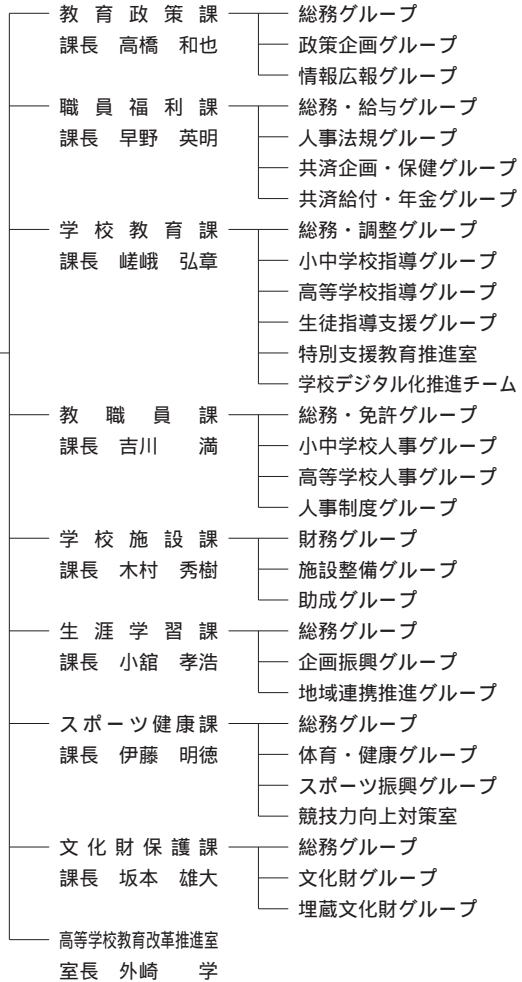
教育
次長

小坂 秀滋

教育
次長

長内 修吾

(二人制)



(出先機関)

東青教育事務所 所長 福士 浩司
 西北教育事務所 所長 山館久美子
 中南教育事務所 所長 清川 喜之
 上北教育事務所 所長 花田 千穂
 下北教育事務所 所長 佐藤 広洋
 三八教育事務所 所長 小関 英規
 青森県埋蔵文化財調査センター 所長 渡部 泰雄

(教育機関)

青森県立図書館 館長 仁和由紀人
 青森県立梵珠少年自然の家 所長 北風 州康
 青森県総合社会教育センター 所長 赤尾 芳伸
 青森県総合学校教育センター 所長 和田 和男
 青森県立郷土館 館長 白戸 克幸
 三内丸山遺跡センター 所長 岡田 康博

2 分 掌 事 務

本庁及び出先機関並びに学校以外の教育機関の分掌事務は、次のとおりである。

本 庁	
教育政策課	
総務グループ	教育委員会会議、秘書、課内総務、課予算・決算・監査、地球にやさしい青森県行動プラン総括、災害対策総括、県議会との連絡調整、教育庁議、総合教育会議
政策企画グループ	教育の全体計画、政策立案・調整、知事部局等との連絡調整、青森県基本計画「選ばれる青森」への挑戦、政策点検、行財政改革、「選ばれる青森」への挑戦重点枠事業、教育委員会の事務の点検・評価、予算・決算総括、監査総括
情報広報グループ	調査統計、教育行政情報化の総合調整、教育行政情報システムの企画調整・運用・管理・保守、教育行政情報の処理、教育委員会ホームページの管理・運営、広報・広聴（教育行政相談含む）
職員福利課	
総務・給与グループ	課内庶務、県予算・決算、財形貯蓄、個人型確定拠出年金、教職員給与費・旅費、給与制度、恩給、給与電算処理
人事法規グループ	事務局職員の人事・組織・服務・公務災害・研修、地教委指導助言、栄典、公益法人、法規・文書審査、文書收受・発送、定期健康診断・安全衛生管理（学校職員を除く。）
共済企画・保健グループ	共済組合予算・決算・掛金・負担金、生涯生活設計支援事業、住宅資金等貸付、保健事業、健康相談、健康意識啓発事業
共済給付・年金グループ	共済組合員証の認定・取消、短期給付（医療関係）、期給付（年金関係）
学校教育課	
総務・調整グループ	課内予算・決算、課内庶務、教科書無償給与、補助金、総合学校教育センターとの連絡調整
小中学校指導グループ	市町村立幼稚園、小学校及び中学校並びに県立中学校の教育課程、学習指導、キャリア教育・進路指導並びに学校教育に関する専門的事項の指導、教科用図書採択、県立中学校入学者選抜、教科用図書選定審議会、幼児教育センター
高等学校指導グループ	県立高等学校の教育課程、学習指導、キャリア教育・進路指導並びに学校教育に関する専門的事項の指導、教科用図書採択、県立高等学校入学者選抜
生徒指導支援グループ	市町村立幼稚園、小学校及び中学校並びに県立中学校及び高等学校の生徒指導に関する専門的事項の指導、県いじめ防止対策審議会
特別支援教育推進室	特別支援学校の設置・管理・廃止、定数・任免・服务等、特別支援学校の教育課程、学習指導、生徒指導及びキャリア教育・進路指導並びに特別支援教育に関する専門的事項の指導、教科用図書採択、就学奨励、医療的ケア
学校デジタル化推進チーム	学校教育のデジタル化

教 職 員 課

総務・免許グループ	課内庶務、課内予算・決算、教職員表彰、教員免許状、免許法認定講習、青森県育英奨学会
小中学校人事グループ	公立小・中学校の設置・廃止、学級編制、定数、人事、管理運営の指導・助言、公立幼稚園の設置・廃止、在外教育施設派遣
高等学校人事グループ	高等学校の人事、北海道・東北北3県人事交流、管理職選考、再任用、定数、管理運営の指導・助言、定時制通信制課程修学奨励金
人事制度グループ	学校職員の服務・勤務条件・分限・懲戒、公務災害、教職員団体との連絡調整、教職員の人事評価制度、指導改善研修、精神性疾患休職等審査会

学 校 施 設 課

財 務 グ ル ー プ	課内庶務、事務局費、県立学校の管理費・実習費、産業教育・理科教育等設備、県立高等学校授業料、庁内物品調達・管理、県立学校の財務事務、県立高等学校等就学支援金、奨学のための給付金
施設整備グループ	県立学校施設の整備・建築計画、財産の取得、教育財産の維持管理、県立学校の大規模改修、閉校校舎等の利活用、教職員住宅の整備、県立学校施設の建築工事・設備工事・土木工事の調査設計及び施工監理、県立学校施設の災害復旧
助 成 グ ル ー プ	公立学校施設整備費国庫負担（交付）金、市町村立学校施設の調査、市町村立学校施設整備事業の建築工事・設備工事・土木工事の指導助言、市町村立学校施設の災害復旧の指導助言

生 涯 学 習 課

○総務グループ	課内庶務、課内予算・決算、県有社会教育施設の管理運営、中学校卒業程度認定試験、高等学校卒業程度認定試験
○企画振興グループ	生涯学習振興のための総合的な企画・調整及び施策の推進、県生涯学習審議会、県社会教育委員、公民館及び図書館の設置及び管理の指導、視聴覚教育、社会教育主事資格認定
○地域連携推進グループ	学校・家庭・地域社会の連携による教育の推進、青少年・女性・成人及び家庭教育、社会教育関係団体及び社会教育を行う者に対する指導助言

ス ポ ー ツ 健 康 課

総 務 グ ル ー プ	課内庶務、予算・決算、県有体育施設の管理・運営、市町村体育施設及び学校給食施設国庫補助、独立行政法人日本スポーツ振興センター共済掛金及び給付、県有体育施設の整備
体育・健康グループ	教育課程（体育、保健体育）、学校体育関係事業、運動部活動関係事業、健康教育推進事業、学校環境衛生指導、学校安全指導、学校医の委嘱、学校における食育、学校給食に関する指導、学校職員の健康管理、学校給食関係補助事業
スポーツ振興グループ	生涯スポーツの推進、競技スポーツの推進、県スポーツ協会連絡調整、市町村スポーツ行政に係る事項、県スポーツ推進審議会、県スポーツ推進委員協議会、県広域スポーツセンター
競技力向上対策室	第80回国民スポーツ大会に向けた競技力の向上、県スポーツ科学センター運営

文化財保護課

総務グループ

文化財グループ

埋蔵文化財グループ

課内庶務、予算・決算、郷土館連絡調整、青森県ユネスコ協会

有形文化財、無形文化財、民俗文化財、記念物等の保護、文化財保護審議会、銃砲刀剣類登録審査会、博物館関係

埋蔵文化財の保護、埋蔵文化財調査センター連絡調整、三内丸山遺跡センター連絡調整

高等学校教育改革推進室

県立高等学校教育改革、県立中学校及び高等学校の設置・廃止、課程・学科の設置・廃止、学級編制

出先機関

東青教育事務所

西北教育事務所

中南教育事務所

上北教育事務所

下北教育事務所

三八教育事務所

総務課 所内庶務、小・中学校教職員の人事・給与、免許、小・中学校の設置・廃止、学級編制、公務災害
教育課 学校教育に関する専門的な事項の指導、生涯学習及び社会教育

埋蔵文化財調査センター

総務グループ

調査第一グループ

調査第二グループ

調査第三グループ

所内庶務、予算経理、施設設備の管理

埋蔵文化財の発掘調査、埋蔵文化財の研究及び報告書の刊行、埋蔵文化財の調査・保存に関する市町村支援、埋蔵文化財の情報収集、埋蔵文化財保護の啓発

埋蔵文化財の発掘調査、埋蔵文化財の研究及び報告書の刊行、埋蔵文化財の調査・保存に関する市町村支援、埋蔵文化財の情報収集、埋蔵文化財保護の啓発

埋蔵文化財の研究、出土品の保管・保存・活用、埋蔵文化財の保存・活用に関する市町村支援、埋蔵文化財の情報収集、埋蔵文化財保護の啓発

教育機関

図書館

企画支援課

奉仕課

近代文学館

図書館運営の企画、協力用図書資料の収集・整理・保存・除籍、市町村図書館等の援助・協力、図書館資料の相互貸借、館内庶務、行政・産業支援、予算経理、財産及び物品管理、コンピュータシステム運用・管理、総合社会教育センターとの連絡調整、アウトリーチサービス、図書館協議会

図書館資料の収集・整理・保存・除籍・寄託、図書館資料の利用提供、参考事務、館内奉仕

文学資料の収集・整理・保存・除籍・寄託、文学資料の展示・利用提供、文学資料の調査研究、特別展・企画展の企画・開催

梵珠少年自然の家 }
種差少年自然の家 }

総務課 所内庶務、予算経理

研修課 研修団体の指導、利用研修の企画調整

総合社会教育センター

総務課	所内庶務、予算経理、施設管理、総合社会教育センター運営協議会
育成研修課	社会教育に関する調査・研究、社会教育に関する指導者等の養成、視聴覚教育指導者の研修・養成、社会教育に関する情報の収集・提供
教育活動支援課	社会教育に関する学習方法の研究、社会教育の担当者及び支援者等の研修・支援、家庭教育及び子育てに関する研修・相談、視聴覚教材の作成・提供、社会教育に関する教材及び事業の開発

総合学校教育センター

総務課	所内庶務、予算経理、施設管理
義務教育課	幼稚園、幼保連携型認定こども園、小学校及び中学校における教育内容、教育方法、学校経営等に関する研修・研究
	幼稚園、小学校及び中学校における教育に関する資料及び情報の収集・提供
高校教育課	高等学校における教育内容、教育方法、学校経営等に関する研修・研究
特別支援教育課	特別支援教育に関する研修・研究
	特別支援学校における学校経営等に関する研修・研究
	特別な教育的支援を必要とする幼児児童生徒に係る教育相談、特別支援教育に関する資料及び情報の収集・提供
産業教育課	産業教育及び情報教育に関する研修・研究、資料及び情報の収集・提供
教育相談課	生徒指導・教育相談に関する研修・研究、資料及び情報の収集・提供
	教育相談及び不登校の児童生徒に係る適応指導

郷土館

総務課	館内庶務、予算経理、財産管理・保全
学芸課	郷土館資料の調査研究、資料の収集及び整理、展示の企画と実施、郷土館資料及び郷土についての教育普及の実施

三内丸山遺跡センター

総務課	所内庶務、予算経理、施設管理、許認可事務、広報、普及啓発
保存活用課	三内丸山遺跡の発掘調査、関連する縄文文化の調査研究、遺跡・出土品の保存、資料の展示と説明、体験学習の実施、図録等の作成及び配布
世界文化遺産課	縄文遺跡群の保存・管理に関する指導・助言（遺跡及び県外の資産に関するものを除く。）、縄文遺跡群の普及啓発、縄文遺跡群の保存・活用を行うための会議運営、縄文遺跡群の包括的保存管理計画推進

4節 附 属 機 関

1 青森県教科用図書選定審議会委員

(令和5年5月18日現在)

号	氏 名	所 属 ・ 職 名
一 号 委 員	須 藤 香代子	青森市立浪館小学校 校長
	高 屋 美 穂	青森市立油川中学校 校長
	下川原 慶 子	青森県立浪岡養護学校 校長
	工 藤 あゆみ	青森市立長島小学校 教頭
	田 中 優 子	青森市立浪打小学校 教諭
	鎌 田 奈緒子	弘前市立城東小学校 教諭
二 号 委 員	齋 藤 信 哉	八戸市教育委員会 教育長
	吉 崎 博	蓬田村教育委員会 教育長
	佐々木 康 栄	つがる市教育委員会 指導課長
	花 田 千 穂	上北教育事務所 所長
	野 呂 政 幸	青森県総合学校教育センター 副所長
三 号 委 員	山 下 孝 子	東青教育事務所 主任指導主事
	佐 藤 三 三	弘前大学 名誉教授
	森 本 洋 介	弘前大学教育学部 准教授
	横 岡 千和子	青森県PTA連合会 会長
	富 岡 朋 尚	青森県PTA連合会 副会長
	三 浦 博 美	青森県PTA連合会 理事

任期：令和5年5月18日～令和5年8月31日

2 青森県いじめ防止対策審議会委員

(令和5年7月30日現在)

	氏 名	所 属 等
1	竹 中 孝	竹中法律事務所
2	斉 藤 まなぶ	弘前大学大学院保健学研究科 弘前大学医学部心理支援科学科教授
3	内 海 隆	青森公立大学特別教授
4	関 谷 道 夫	青森県公認心理師・臨床心理士協会顧問
5	鳴 海 春 輝	青森県社会福祉士会会長
6	加 川 香寿美	青森県高等学校PTA連合会

任期：令和4年7月30日～令和6年7月29日

3 第16期青森県生涯学習審議会委員一覧

(令和6年3月31日現在)

	氏名	所属等
1	三上 菜穂子	十和田市立藤坂小学校 校長
2	小笠原 一 恵	県立八戸盲学校・県立八戸聾学校 校長
3	吉川 康 久	青森県教育支援プラットフォーム 東青地区実行委員会 前委員長
4	阿彦 正 弘	鯉ヶ沢町教育委員会 教育長
5	米田 大 吉	特定非営利活動法人プラットフォームあおもり 理事長
6	小寺 将 太	一般社団法人tsumugu 代表理事
7	中村 伸 二	社会福祉法人清養会 障がい者支援施設 幸養苑 苑長
8	田名部 由 香	青森県特別支援学校PTA連合会 副会長
9	工藤 貴 子	あおもり家庭教育アドバイザー
10	大木 えりか	八戸学院大学健康医療学部 講師
11	松浦 淳	青森中央短期大学幼児保育学科 非常勤講師
12	越村 康 英	弘前大学教育学部 准教授
13	山崎 結 子	外ヶ浜町 町長
14	小笠原 秀 樹	特定非営利活動法人あおもりラジオくらぶ 代表理事
15	岩本 美 和	青森市地域学校協働活動推進員

任期：令和4年10月19日～令和6年10月18日

4 第36期青森県社会教育委員名簿

(令和6年3月31日現在)

	氏名	所属等
1	小笠原 一 恵	県立八戸盲学校・県立八戸聾学校 校長
2	吉川 康 久	青森県教育支援プラットフォーム 東青地区実行委員会 前委員長
3	中村 伸 二	社会福祉法人清養会 障がい者支援施設 幸養苑 苑長
4	松浦 淳	青森中央短期大学幼児保育学科 非常勤講師
5	越村 康 英	弘前大学教育学部 准教授
6	工藤 貴 子	あおもり家庭教育アドバイザー
7	小笠原 秀 樹	特定非営利活動法人あおもりラジオくらぶ 代表理事
8	岩本 美 和	青森市地域学校協働活動推進員

任期：令和4年10月19日～令和6年10月18日

5 青森県立図書館協議会委員

(令和6年3月31日現在)

	氏名	所属等
1	大里 公子	黒石市立黒石東小学校 校長
2	竹浪 廣美	県立五所川原高等学校 教諭
3	松井 京子	(一社)八戸市読書団体連合会 理事
4	須藤 紀子	五所川原市立図書館 次長
5	浜田 祐子	おいらせ町家庭教育支援チーム・しるくはあと 代表
6	秋元 宏宣	東奥日報社編集局 文化出版部長兼論説編集委員
7	澤田 尚	五戸町教育委員会 教育長
8	本間 維	青森中央短期大学食物栄養学科 講師
9	佐藤 宰	公募委員
10	伊藤 友子	公募委員

任期：令和4年5月13日～令和6年5月12日

6 青森県スポーツ推進審議会委員

(令和6年3月31日現在)

	氏名	所属先における役職等
1	岡 一 仁	青森県高等学校体育連盟 会長
2	小山内 睦子	南地方小学校教育研究会体育部会 副部会長
3	工藤 裕司	青森県市町村教育委員会連絡協議会教育長会 会長
4	今 和香子	柴田学園大学短期大学部 特任准教授 (青森県スポーツ推進委員協議会女性委員)
5	澤田 孝 頼	青森県中学校体育連盟 会長
6	鹿内 葵	NPO法人スポネット弘前 理事長
7	杉本 和那美	弘前大学教育学部 准教授
8	津田 英 一	青森県スポーツドクターの会 会長
9	中嶋 亜 弥	あおもりアスリートネットワークメンバー
10	迫 祐子	青森県空手道連盟強化委員会委員
11	花田 慎	青森明の星短期大学 学長
12	東山 国 男	一般財団法人青森県身体障害者福祉協会 会長
13	法官 新一	学校法人光星学院 理事長
14	増田 あけみ	青森県女子体育連盟 会長
15	目澤 伸 一	青森県スポーツ推進委員協議会 会長
16	六角 正 人	青森観光コンベンション協会 専務理事
17	千葉 さおり	弘前医療福祉大学保健学部 講師

任期：令和5年11月13日～令和7年11月12日

7 青森県文化財保護審議会委員

(令和6年3月31日現在)

氏名	分野	備考
岡田俊治	建造物	
斎藤政人	建造物	
石川善朗	美術工芸品	
山田泰子	美術工芸品	
上條信彦	考古資料	
瀧本壽史	歴史資料	
藤田俊雄	歴史資料	
下田雄次	技芸	
葉山茂	民俗文化財	
山田巖子	民俗文化財	
岡田康博	史跡	
兵山勝幸	名勝	
岡田あゆみ	動物	
山岸洋貴	植物	
小形浩子	学校教育	任期 令和5年3月23日～令和6年4月8日

任期：令和4年4月9日～令和6年4月8日

8 銃砲刀剣類登録審査委員

(令和6年3月31日現在)

氏名	備考
杉本孝	
竹内正光	
細越敬喜	
山内正勝	

任期：令和4年5月13日～令和6年5月12日

9 青森県立郷土館協議会委員

(令和6年3月31日現在)

氏名	分野	備考
長根 朋子	学校教育	
米田 裕子	学校教育	
千葉 栄美	学校教育	
加賀 千裕	学校教育	
大鷹 依子	社会教育	
石岡 有佳子	社会教育	
西川 智香子	社会教育	
福眞 睦城	社会教育	
工藤 清泰	学識経験	(考古)
葉山 茂	学識経験	(博物館・人文)
小保内 裕之	学識経験	(博物館)
奈良岡 隆樹	学識経験	(自然)

任期：令和5年10月21日～令和7年10月20日

5 節 会議の記録

1 令和5年度教育委員会会議

第891回定例会 (R5.4.7 教育委員会室)

報告第1号 青森県教育委員会が取り扱う個人情報の保護に関する規則を廃止する規則について

報告第2号 青森県公立学校教員採用候補者選考試験における改善事項について

議案第1号 青森県公立中学校の休日の部活動の地域移行推進計画について(決定)

第892回定例会 (R5.5.17 教育委員会室等)

議案第1号 令和5年度青森県教科用図書選定審議会委員の人事について(決定)

議案第2号 青森県立図書館協議会委員の人事について(決定)

議案第3号 青森県スポーツ推進審議会委員の人事について(決定)

第893回定例会 (R5.6.7 教育委員会室)

議案第1号 令和6年度青森県立中学校入学者選抜基本方針案について(決定)

議案第2号 令和6年度青森県立高等学校入学者選抜基本方針案について(決定)

議案第3号 令和6年度青森県立特別支援学校高等部入学者選抜基本方針案について(決定)

議案第4号 県立高等学校の学科の設置及び廃止について(決定)

議案第5号 令和6年度青森県立三本木高等学校附属中学校の入学者募集人員について(決定)

その他 職員の懲戒処分の状況について

第325回臨時会 (R5.6.8 書面開催)

議案第1号 第325回臨時会の書面表決について(決定)

議案第2号 青森県教育委員会教育長の人事について(決定)

第894回定例会 (R5.7.5 教育委員会室)

報告第1号 議案に対する意見について

議案第1号 青森県立図書館協議会委員の人事について(決定)

その他 職員の懲戒処分の状況について

第895回定例会 (R5.8.2 教育委員会室)

報告第1号 令和5年度全国学力・学習状況調査の結果について

その他 職員の懲戒処分の状況について

第896回定例会 (R5.9.6 教育委員会室)

議案第1号 令和5年度青森県教育委員会の事務の点検及び評価に関する報告書について(決定)

第897回定例会 (R5.10.11 教育委員会室)

報告第1号 議案に対する意見について

報告第2号 三本木農業高等学校牛舎内生徒負傷事故検証結果最終報告書について

議案第1号 青森県立図書館協議会委員の人事について (決定)

議案第2号 青森県立郷土館協議会委員の人事について (決定)

そ の 他 職員の懲戒処分の状況について

第326回臨時会 (R5.10.25 教育委員会室等)

議案第1号 令和6年度青森県教育委員会事務局及び教育機関(学校を除く。)の職員人事異動方針案について (決定)

議案第2号 令和6年度県費負担教職員人事異動方針案について (決定)

議案第3号 令和6年度県立学校職員人事異動方針案について (決定)

議案第4号 令和6年度青森県立高等学校入学者募集人員について (決定)

議案第5号 令和6年度青森県立特別支援学校高等部及び専攻科入学者募集人員について (決定)

議案第6号 学校職員の人事について (決定)

第898回定例会 (R5.11.10 教育委員会室)

議案第1号 青森県スポーツ推進審議会委員の人事について (決定)

そ の 他 職員の懲戒処分の状況について

第899回定例会 (R5.12.6 教育委員会室等)

報告第1号 議案に対する意見について

議案第1号 市町村立学校職員の人事について (決定)

そ の 他 職員の懲戒処分の状況について

第900回定例会 (R6.1.10 教育委員会室)

そ の 他 県教育委員会が取り組む学校教育関連施策の方向性について

そ の 他 職員の懲戒処分の状況について

第901回定例会 (R6.2.7 教育委員会室)

議案第1号 青森県教育委員会委員の人事について (決定)

そ の 他 県立高等学校教育改革に係る件について

そ の 他 職員の懲戒処分の状況について

第327回臨時会 (R6.2.22 教育委員会室等)

報告第1号 議案に対する意見について

議案第1号 青森県教育委員会事務局及び教育機関(学校を除く。)の職員の人事について (決定)

議案第2号 市町村立学校職員の人事について (決定)

議案第3号 県立学校職員の人事について (決定)

議案第4号 青森県教育委員会事務局の組織等に関する規則の一部を改正する規則案について（決定）

その他 県立特別支援学校におけるスクール・ミッションについて

第328回臨時会（R6.3.18 書面開催）

議案第1号 第328回臨時会の書面表決について（決定）

議案第2号 青森県教育委員会事務局の組織等に関する規則の一部を改正する規則案について（決定）

第902回定例会（R6.3.25 教育委員会室）

報告第1号 議案に対する意見について

議案第1号 青森県学校教育情報化推進計画について（決定）

議案第2号 学校部活動及び新たな地域クラブ活動の指針について（決定）

議案第3号 青森県文化財保護審議会委員の人事について（決定）

議案第4号 障害に関する用語の表記の整理に関する規則案について（決定）

議案第5号 青森県立学校学則の一部を改正する規則案について（決定）

議案第6号 青森県立学校学校医、学校歯科医及び学校薬剤師に関する規則の一部を改正する規則案について（決定）

議案第7号 青森県三内丸山遺跡センター規則の一部を改正する規則案について（決定）

議案第8号 県重宝の指定及び追加指定について（決定）

その他 職員の懲戒処分状況について

2 令和5年度総合教育会議

第18回会議（R5.10.26 第三応接室）

議事 青森県教育改革有識者会議の議論等の状況について

議事 本県教育の現状と教育施策の方向性について

第19回会議（R5.11.28 第三応接室）

議事 青森県教育改革有識者会議からの中間報告について

第20回会議（R6.2.7 第三応接室）

議事 青森県教育改革有識者会議からの提言及び青森県教育施策の大綱（素案）について

第21回会議（R6.3.21 第三応接室）

議事 青森県教育施策の大綱について

6 節 規則の制定改廃

規則番号	施行年月日	規 則 名	主 な 改 正 内 容
第 1 号	R5.4.1	青森県教育委員会事務局の組織等に関する規則の一部を改正する規則	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育課に幼児教育センター及び学校デジタル化推進チームを設置することに伴い、同課の所掌事務に関連する事務を加えた。 ・教職員課の所掌事務に市町村立専修学校の設置・廃止等に関する事務を加えた。 ・生涯学習課の所掌事務に学校・家庭・地域の連携及び協働に関する事務を加えた。 ・スポーツ健康課の競技力向上対策グループを競技力向上対策室とすることに伴い、所要の整備を行った。 ・その他所要の整備を行った。
第 2 号	R5.4.1	博物館の登録に関する規則の一部を改正する規則	博物館法の一部改正に伴い、博物館の登録に関する規定等について、所要の整備を行った。
第 3 号	R5.4.1	青森県立学校学則の一部を改正する規則	青森県立金木高等学校、青森県立木造高等学校深浦校舎、青森県立板柳高等学校、青森県立鶴田高等学校、青森県立十和田西高等学校、青森県立六戸高等学校、青森県立三本木農業高等学校及び青森県立五所川原工業高等学校の廃止に伴う所要の整備を行った。
第 4 号	R5.4.1	地方公務員法の一部改正等に伴う関係規則の整備に関する規則	地方公務員法の一部改正により、地方公務員の定年年齢が段階的に引き上げられること等への対応が必要となるため、関係規則について所要の整備を行った。
第 5 号	R5.4.1	青森県立学校管理規則の一部を改正する規則	「分校主事」を廃止するほか、地方公務員法の一部改正に伴う所要の整備を行った。
第 6 号	R5.4.1	青森県教育委員会が取り扱う個人情報の保護に関する規則を廃止する規則	青森県個人情報保護条例の廃止に伴い、同条例の施行規則である青森県教育委員会が取り扱う個人情報の保護に関する規則を廃止した。
第 7 号	R5.4.1	青森県教育委員会の事務の委任等に関する規則の一部を改正する規則	個人情報の保護に関する法律の一部改正等に伴う所要の整備を行った。

2章 教育財政

1節 当初予算

1 教育予算の概要

令和5年度の当初予算においては、「青森県教育施策の方針」及び「青森県教育振興基本計画」に基づき編成した結果、青森県教育委員会関係予算額は、

1,190億7,230万8千円となり、一般会計予算総額の16.1%

を占めることになった。この額を令和4年度当初予算額と比較すると、33億4,920万3千円の減額となり、その伸び率は2.7%の減となる。

当初予算総括表

(単位：千円、%)

区 分	令和5年度		令和4年度		前年度との比較	
	予算額 A	構成割合	予算額 B	構成割合	増減額(A-B)	伸び率
一般会計予算総額	738,400,000	100.0	733,300,000	100.0	5,100,000	0.7
教育費(教育委員会所管分)	119,072,308	16.1	122,421,511	16.7	3,349,203	2.7

目的別予算内訳

(単位：千円、%)

区 分	令和5年度		令和4年度		前年度との比較		
	予算額 A	構成割合	予算額 B	構成割合	増減額(A-B)	伸び率	
歳入	使用料及び手数料	2,564,513	2.2	2,704,550	2.2	140,037	5.2
	国庫支出金	21,382,156	17.9	21,913,068	17.9	530,912	2.4
	財産収入	204,795	0.2	211,767	0.2	6,972	3.3
	寄附金	4,755	0.1	1,815	0.1	2,940	162.0
	繰入金	801,286	0.6	779,835	0.6	21,451	2.8
	諸収入	237,654	0.2	353,115	0.3	115,461	32.7
	県債	3,218,000	2.7	2,017,000	1.7	1,201,000	59.5
	一般財源	90,659,149	76.1	94,440,361	77.0	3,781,212	4.0
計	119,072,308	100.0	122,421,511	100.0	3,349,203	2.7	
歳出	教育総務費	5,593,513	4.7	5,354,829	4.4	238,684	4.5
	小学校費	39,582,961	33.2	42,686,959	34.8	3,103,998	7.3
	中学校費	25,905,112	21.8	26,933,925	22.0	1,028,813	3.8
	高等学校費	29,301,052	24.6	31,085,591	25.4	1,784,539	5.7
	特別支援学校費	12,569,054	10.6	11,586,369	9.5	982,685	8.5
	社会教育費	3,215,991	2.7	2,401,493	2.0	814,498	33.9
	保健体育費	2,904,625	2.4	2,372,345	1.9	532,280	22.4
	計	119,072,308	100.0	122,421,511	100.0	3,349,203	2.7

令和4年度の予算額及び構成割合は組織改正前及び組織間の事業移管前のものである。

課(室)別予算内訳

(単位:千円、%)

区 分	令和5年度		令和4年度		前年度との比較	
	予算額 A	構成割合	予算額 B	構成割合	増減額(A-B)	伸び率
教育政策課	89,438	0.1	78,710	0.1	10,728	13.6
職員福利課	98,810,489	82.9	105,224,564	85.9	6,414,075	6.1
学校教育課	1,851,626	1.6	1,720,898	1.4	130,728	7.6
教職員課	83,861	0.1	70,577	0.1	13,284	18.8
学校施設課	12,090,036	10.1	10,535,996	8.6	1,554,040	14.7
生涯学習課	1,532,480	1.3	1,483,564	1.2	48,916	3.3
スポーツ健康課	2,904,625	2.4	2,372,345	1.9	532,280	22.4
文化財保護課	1,683,511	1.4	917,929	0.7	765,582	83.4
高等学校教育改革推進室	26,242	0.1	16,928	0.1	9,314	55.0
計	119,072,308	100.0	122,421,511	100.0	3,349,203	2.7

性質別予算内訳

(単位:千円、%)

区 分	令和5年度		令和4年度		前年度との比較		
	予算額 A	構成割合	予算額 B	構成割合	増減額(A-B)	伸び率	
義務的経費	人件費	99,968,294	84.0	106,244,340	86.8	6,276,046	5.9
	扶助費	1,318,751	1.1	1,370,861	1.1	52,110	3.8
	小計	101,287,045	85.1	107,615,201	87.9	6,328,156	5.9
投資的経費 (普通建設事業費)	6,585,297	5.5	4,340,884	3.6	2,244,413	51.7	
その他の経費	物件費	7,474,165	6.3	6,646,756	5.4	827,409	12.4
	維持修繕費	792,160	0.7	780,248	0.6	11,912	1.5
	補助費等・貸付金等	2,933,641	2.4	3,038,422	2.5	104,781	3.4
	小計	11,199,966	9.4	10,465,426	8.5	734,540	7.0
計	119,072,308	100.0	122,421,511	100.0	3,349,203	2.7	

2 施策別主要事業の概要

あおもりの未来をつくる人財の育成

「生活創造社会」の実現に向けて、未来の青森県の基盤となる人財の育成に取り組みます。

子どもたちが、ふるさとあおもりに対する誇りと愛着を持ち、新しい価値を創造する力や国際感覚を身に付け、多様性を認め、人権を尊重し、心身ともに健康で自立した人財として成長するよう、学校・家庭・地域が連携・協働して取り組みます。

青森を理解し、世界に向かってチャレンジできる人づくり

子どもの頃から、身近な大人や地域との関わり、異文化交流などを通して、ふるさとへの理解や愛着を深め、将来、青森から世界に向かってチャレンジできる人財の育成に、学校・家庭・地域が連携して取り組みます。

ア 持続可能な地域づくり「あおもり創造学」プロジェクト事業【継続重点】

83,404千円（学校教育課）

イ 青森から世界へ向かってチャレンジするグローバル人材育成事業【継続重点】

23,906千円（学校教育課）

幅広い教養や主体的に課題を発見し解決する国際的素養を身に付けた人材を育成するため、国際的な教育プログラムである国際バカロレアの理念に基づく教育プログラムの開発・普及に取り組むとともに、本県の高校生と台湾の高校生の相互交流による主体的で実践的な協働学習を実施する。

ウ ドリカム人づくり推進事業 9,258千円（学校教育課）

エ 小・中学校外国語教育充実支援事業 1,074千円（学校教育課）

オ 済州国際青少年フォーラム派遣事業 972千円（学校教育課）

カ 高校生国際交流推進事業 1,920千円（学校教育課）

キ 外国語指導助手設置事業 135,401千円（学校教育課）

ク 英語力を強化する指導改善事業 2,267千円（学校教育課）

ケ 青商ビジネスチャレンジwith台湾事業【継続重点】 9,353千円（学校教育課）

青森商業高等学校と台湾の高校による青森県と台湾での販売実践活動を通じて、県内商業高校との連携及び台湾の高校との連携強化を図るとともに、国内外でビジネスを展開するノウハウを高校段階から学び、ビジネスプロジェクトの協働実践を行う。

コ 国際バカロレア認定支援事業【新規】 2,835千円（学校教育課）

世界に通用する論理的思考や表現力、コミュニケーション能力などを身に付けることのできる国際バカロレア（IB）教育を青森南高等学校に導入するため、IB候補校の認定に向けた科目別ワークショップの受講やIBの理念を取り入れた授業・探究活動を行う。

サ エネルギーに関する教育支援事業費補助 2,858千円（学校教育課）

シ 少年自然の家運営管理事業 217,224千円（生涯学習課）

ス 小学生による縄文遺跡と地域の文化財体験事業【継続重点】 3,071千円（文化財保護課）

セ こども民俗芸能大会 4,570千円（文化財保護課）

ソ 運営管理事業（郷土館） 94,383千円（文化財保護課）

「知・徳・体」の調和のとれた「生きる力」の育成

確かな学力の向上に取り組むほか、主権者教育や情報教育などにより、新しい時代に求められる資質・能力の育成に取り組みます。

また、人権を尊重し、他者を思いやる心を育成するとともに、将来にわたって健康に暮らすための知識の習得や意識の醸成、生活習慣の定着に取り組みます。

ア あおもり教育フォーラム開催事業 593千円（教育政策課）

イ 学習状況調査 6,126千円（学校教育課）

ウ 県立学校におけるICTを活用した授業づくり推進事業【新規重点】

13,730千円（学校教育課）

・ 高等学校におけるICTを活用した資質・能力を育む授業づくり推進事業

6,315千円

授業の充実による生徒の資質・能力の育成を図るため、推進校においてICTを効果的に活用した授業改善のための実践研究を行うとともに、ICTの活用推進に向けた教員研修等を実施する。

・ 特別支援学校におけるICTを活用した自立と社会参加を目指す学びの推進事業

7,415千円

障がい種や個々の障がいに応じた主体的、対話的で深い学びを推進するため、特別支援学校においてICTを活用した授業実践や研修会を行うとともに、ICTの効果的な活用を検討する協議会を開催する。

エ 進学力を高める高校支援事業 6,883千円（学校教育課）

オ 小・中学校外国語教育充実支援事業（再掲） 1,074千円（学校教育課）

カ 青森から世界へ向かってチャレンジするグローバル人材育成事業【継続重点】（再掲）
23,906千円（学校教育課）

キ 外国語指導助手設置事業（再掲） 135,401千円（学校教育課）

ク 英語力を強化する指導改善事業（再掲） 2,267千円（学校教育課）

ケ 済州国際青少年フォーラム派遣事業（再掲） 972千円（学校教育課）

コ 高校生国際交流推進事業（再掲） 1,920千円（学校教育課）

サ 医師を志す高校生支援事業 18,599千円（学校教育課）

シ スーパーサイエンスハイスクール支援事業 3,610千円（学校教育課）

ス 科学の甲子園関係事業 647千円（学校教育課）

セ ドリカム人づくり推進事業（再掲） 9,258千円（学校教育課）

ソ 青森県中学校文化連盟支援事業 1,700千円（学校教育課）

タ 青森県高等学校文化連盟支援事業 791千円（学校教育課）

チ 県高等学校総合文化祭 2,888千円（学校教育課）

ツ 外部人材活用による教科指導等充実事業 21,631千円（教職員課）

テ 学校図書館活動支援事業 6,604千円（教職員課）

ト 道徳教育地域支援事業 1,682千円（学校教育課）

- ナ 多様な教育機会を活用した教育支援推進事業【新規重点】 8,216千円(学校教育課)
- 〔 小・中学校の不登校児童生徒を支援するため、関係機関等と連携し、学習機会の提供や支援の在り方について検討を進めるとともに、研究指定校に校内教育支援センターを設置し、不登校児童生徒への支援の調査研究等を行う。〕
- ニ 学校の教育相談体制充実を支援する外部専門家活用事業 155,883千円(学校教育課)
- ヌ 居場所づくり・絆づくり推進事業 2,661千円(学校教育課)
- ネ ソーシャルメディア等監視員配置事業 2,935千円(学校教育課)
- ノ 24時間いじめ等電話相談事業 9,900千円(学校教育課)
- ハ 青森県いじめ防止対策審議会(人件費) 177千円(学校教育課)
- ヒ 安心できる学校づくり推進事業 2,150千円(学校教育課)
- フ いじめ防止対策事業 760千円(学校教育課)
- ヘ いじめ防止キャンペーン推進事業 7,441千円(生涯学習課)
- ホ 幼児教育の質的向上強化事業【新規重点・将来対応分】 11,677千円(学校教育課)
- 〔 幼児教育の質的向上を図るため、関係者が連携して幼児教育推進体制の在り方について研究・検討を行うとともに、幼保小連携の推進に向けた「幼保小の架け橋プログラム」の開発・実践等を行う。〕
- マ 命を守る!防災教育推進事業【継続重点】 3,496千円(スポーツ健康課)
- 〔 児童生徒が自然災害発生時に適切に対応できる資質・能力の向上を図るため、指定校による取組をまとめた防災教育実践事例集を作成・配布するとともに、防災教育推進事業成果発表会や学校防災の中核となる教職員を養成する研修会を実施する。〕
- ミ 定期健康診断費 88,788千円(スポーツ健康課)
- ム いきいき青森っ子健康づくり事業 1,518千円(スポーツ健康課)
- メ 県民の未来の健康創造事業(教育委員会分)【新規重点・将来対応分】 2,559千円(スポーツ健康課)
- 〔 児童生徒及びその保護者の生活習慣の実態を調査し、肥満傾向児出現率の改善に向けた取組を推進するとともに、児童・保護者の意識の向上を図るため、教員を対象とした体育・食育の楽しさアップ研修会を開催する。〕
- モ がん教育総合支援事業 833千円(スポーツ健康課)
- ヤ 学校体育実技講習会 895千円(スポーツ健康課)
- ユ 体力向上推進事業 869千円(スポーツ健康課)
- ヨ 地域スポーツクラブ活動体制推進事業【新規】 61,211千円(スポーツ健康課)
- 〔 公立中学校における休日の部活動の地域移行を推進するため、指導者の人材バンクの構築を行うとともに、県立中学校において部活動の地域移行に向けた実証を行うほか、市町村が行う地域移行体制の構築を支援する。〕
- 一人ひとりの教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進
障がいのある児童生徒の自立や社会参加を促進するため、個に応じた適切かつ専門性の高い指導・支援に取り組みます。
- ア 高等学校における通級指導関連経費 109千円(学校教育課)
- イ 訪問教育指導事業 287千円(学校教育課)
- ウ 特別支援学校就学奨励費 230,141千円(学校教育課)

エ	特別支援学校技能検定事業	4,606千円（学校教育課）
オ	特別支援学校におけるコミュニティ・スクール導入事業	2,926千円（学校教育課）
カ	地区特別支援連携協議会【新規】	400千円（学校教育課）
	〔 地域の関係機関（教育・福祉・医療）との連携による特別な支援を必要とする幼児児童生徒の支援に関する情報共有及び特別支援教育に関する専門性の向上を図るため、県内各地区において協議会及び研修会を開催する。〕	
キ	特別支援学校における家庭教育支援事業	707千円（生涯学習課）
ク	障害者の生涯学習支援事業	1,014千円（生涯学習課）
ケ	特別支援学校教室不足対策事業	392,911千円（学校施設課）
コ	特別支援教育相談事業（総合学校教育センター）	7,577千円（学校教育課）

子どもが安心して学び、多様な能力を伸ばす教育環境の整備

安全・安心な教育環境の確保や、教員の実践的な指導力の向上、ICTの効果的活用など、時代や社会環境の変化に対応した、質の高い教育を受けられる持続可能な環境づくりに取り組みます。

ア	老朽改築（校舎等建築）事業	1,653,020千円（学校施設課）
	〔 学校施設の安全・安心の確保及び機能向上等を図るため、八戸工業高校の校舎の改築工事を行うとともに、五所川原高校、八戸東高校、下北地区統合校を開設するむつ工業高校及び県立盲学校を併設する青森聾学校（寄宿舎を含む）の校舎並びに五所川原農林高校の寄宿舎の改築設計を行う。〕	
イ	県立学校長寿命化・重点改良事業	545,642千円（学校施設課）
	〔 黒石養護学校を旧黒石商業高校の敷地に移転するため、旧黒石商業高校の校舎等の改修設計・工事を行う。〕	
ウ	県立学校大規模改修	1,858,655千円（学校施設課） （うち2月補正分210,309千円）
エ	特別支援学校教室不足対策事業（再掲）	392,911千円（学校施設課）
	〔 教室不足の解消を図るため、七戸養護学校及びむつ養護学校の校舎の増築設計を行う。〕	
オ	県立学校A E D整備費	4,314千円（スポーツ健康課）
カ	被災児童生徒就学支援等事業	950千円（学校教育課・スポーツ健康課）
キ	高等学校定時制・通信制教科書学習書給与事業	2,110千円（学校教育課）
ク	特別支援学校就学奨励費	230,141千円（学校教育課）
ケ	特別支援教育就学奨励費システム保守委託経費	935千円（学校教育課）
コ	高校奨学金貸与事業費補助	20,351千円（教職員課）
サ	高等学校定時制・通信制課程修学奨励金貸与事業	5,328千円（教職員課）
シ	県立高等学校等就学支援金	2,051,333千円（学校施設課）
	〔 家庭における教育費負担を軽減するため、県立高校等の一定の所得未満の世帯の生徒に対し、授業料に充てるための支援金を支給する。〕	

ス 奨学のための給付金事業 536,788千円（学校施設課）

低所得世帯の授業料以外の教育費負担を軽減するため、県立高校等の生徒の保護者等に対し、奨学のための給付金を給付する。（第1子の高校生等がいる世帯の給付額増額）

【給付額（年額）】

対象者区分		令和4年度	令和5年度
生活保護受給世帯	全日制・定時制・通信制	32,300円	32,300円
	専攻科	50,500円	50,500円
道府県民税所得割	全日制・定時制（第1子）	114,100円	117,100円
及び市町村民税所	全日制・定時制（第2子以降）	143,700円	143,700円
得割非課税世帯	通信制・専攻科	50,500円	50,500円

セ 学校給食衛生管理事業 7,668千円（スポーツ健康課）

ソ 県立学校給食設備整備事業 3,375千円（スポーツ健康課）

タ 県立学校給食委託事業 21,650千円（スポーツ健康課）

チ 「あおもりで働こう」小学校教員魅力向上事業【新規重点】 11,787千円（教職員課）

小学校教員の志望者の増加を図るため、小学校教員の魅力を伝える動画を作成し、大学生や高校生に向けてPR活動等を実施するとともに、臨時講師採用に向けた研修会等を開催する。

ツ あおもりっ子育てプラン21事業 1,119,265千円（教職員課）

きめ細かな学習指導や生活指導を実施するため、これまで小学校全学年及び中学校1年生を対象に実施してきた33人学級編制等を中学校2年生まで拡充し実施する。また、指導の充実を図るため、小学校全学年を対象に、引き続き複式学級の一定の児童数以上で非常勤講師を配置する。

対象	教員数	当初予算額
小学校	143(75)人	588,897千円
中学校	102人	530,368千円
合計	245(75)人	1,119,265千円

小学校の（ ）は非常勤講師で内数。

テ 外部人材活用によるスクールサポートスタッフ配置事業

164,301千円（学校教育課・教職員課）

教職員の業務の負担軽減を図るため、小・中学校、高等学校及び特別支援学校で教職員の事務的補助を行うスクールサポートスタッフの配置を拡充する。拡充に当たっては、障がい者を雇用することとし、県教育委員会における障がい者雇用を推進する。

R 4 小・中学校27校、高等学校22校、特別支援学校20校

R 5 小・中学校42校、高等学校26校、特別支援学校20校

ト 学校等における法務相談体制整備事業 1,988千円（教職員課）

深刻な児童生徒間トラブルや外部からの過剰な要求等に対応する教職員の負担軽減を図るとともに、児童生徒にとって最適な教育環境を維持するため、県弁護士会と連携してスクールロイヤーを配置し、学校からの法務相談に対応できる体制を整備する。

ナ スクールライフサポーター配置事業 4,376千円（教職員課）

ニ	地域スポーツクラブ活動体制推進事業【新規】（再掲）	61,211千円（スポーツ健康課）
又	学校における運動部活動推進事業	11,610千円（スポーツ健康課）
	〔 適切な運動部活動の実現及び教職員の運動部活動指導の負担軽減を図るため、市町 村立中学校及び県立学校に運動部活動指導員を配置する。 〕	
ネ	学校における文化部活動推進事業	3,364千円（学校教育課）
	〔 適切な文化部活動の実現及び教職員の文化部活動指導の負担軽減を図るため、市町 村立中学校及び県立学校に文化部活動指導員を配置する。 〕	
ノ	教員等資質向上推進協議会	252千円（学校教育課）
ハ	初任者研修	14,500千円（学校教育課）
ヒ	教職員研修関係経費	2,442千円（学校教育課）
フ	幼稚園新規採用教員研修	507千円（学校教育課）
ヘ	A O M O R I 多文化共生推進事業	4,000千円（学校教育課）
ホ	研修講座（総合学校教育センター）	11,338千円（学校教育課）
マ	長寿命化推進事業（総合学校教育センター）	140,340千円（学校教育課）
ミ	県立学校におけるICTを活用した授業づくり推進事業【新規重点】（再掲）	13,730千円（学校教育課）
ム	県立学校情報通信技術支援事業	12,382千円（学校教育課）
メ	授業目的公衆送信補償金	10,394千円（学校教育課）
モ	学校安全指導者研修	302千円（スポーツ健康課）
ヤ	学校安全総合支援事業	3,051千円（スポーツ健康課）
ユ	学校安全対策費	2,250千円（スポーツ健康課）
ヨ	養護教諭研修（新規採用研修、経験者研修）	3,819千円（スポーツ健康課）
ラ	栄養教諭・学校栄養職員研修（新規採用研修、経験者研修）	1,162千円（スポーツ健康課）
リ	県立高等学校教育改革推進事業	26,242千円（高等学校教育改革推進室）
	〔 県立高等学校教育改革推進計画の着実な推進のため、県立高等学校の特色等を発信 するホームページの開設や全国からの生徒募集等を行うとともに、令和10年度以降の 実施計画の策定に向けて検討会議や高等学校教育に関する意識調査を実施する。 〕	
	「生きる・働く・学ぶ」をつなぐキャリア教育の推進	
	小・中・高等学校から大学等そして就職までのつながりや将来の生き方を意識したキャリア教育を社会全体で推進し、社会的・職業的自立のために必要な能力・態度を育成します。	
	地域や大学・企業等と連携し、子どもや若者の地域に対する貢献意欲の向上や創造力の育成を図るなど、県内定着促進も意識したキャリア形成支援に取り組みます。	
ア	高校生の就職総合支援プロジェクト事業	20,080千円（学校教育課）
イ	医師を志す高校生支援事業（再掲）	18,599千円（学校教育課）
ウ	青森から世界へ向かってチャレンジするグローバル人材育成事業【継続重点】（再掲）	23,906千円（学校教育課）
エ	特別支援学校技能検定事業（再掲）	4,606千円（学校教育課）

オ	持続可能な地域づくり「あおもり創造学」プロジェクト事業【継続重点】（再掲）	83,404千円（学校教育課）
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 高校生の県内定着促進や、持続可能な青森県を創造できる人材育成に向けて、全ての県立高校において、地域資源や人材を活用して、高校所在地及び自身の居住地等について理解を深める学習「あおもり創造学」に取り組むほか、県内就職に関する情報提供や学校と企業の相互理解を促進するための就職支援員を配置する。 </div>	
カ	仕事力養成推進事業	2,501千円（学校教育課）
キ	青森で生きる未来人材育成事業（総合社会教育センター）	1,000千円（生涯学習課）
ク	大学生とカタル！キャリア形成サポート事業（総合社会教育センター）	995千円（生涯学習課）
ケ	高校生スキルアッププログラム推進事業（総合社会教育センター）	190千円（生涯学習課）
コ	元気青森人を創造するeラーニング推進事業（総合社会教育センター）	987千円（生涯学習課）

学校・家庭・地域が連携し社会全体で子どもを育む仕組みづくり

学校・家庭・地域の連携を強化し、社会全体で子どもを育む仕組みづくりを推進します。

ア	高等学校におけるコミュニティ・スクール導入モデル事業	890千円（教職員課）
イ	特別支援学校におけるコミュニティ・スクール導入事業（再掲）	2,926千円（学校教育課）
ウ	地域と学校とのパートナーシップ強化事業【新規重点】	5,619千円（生涯学習課）
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 地域学校協働活動の更なる推進を図るため、学校関係者と地域の企業等との情報交換会等や市町村向けの研修会を実施するとともに、県立学校に地域学校協働活動推進員を配置し、活動の効果検証を行う。 </div>	
エ	地域学校協働活動推進事業	2,539千円（生涯学習課）
オ	学校・家庭・地域連携協働推進事業費補助	38,237千円（生涯学習課）
カ	子どもの読書活動推進事業	3,426千円（生涯学習課）
キ	あおもり家庭教育支援総合事業	2,566千円（生涯学習課）
ク	特別支援学校における家庭教育支援事業（再掲）	707千円（生涯学習課）
ケ	障害者の生涯学習支援事業（再掲）	1,014千円（生涯学習課）
コ	若者の社会参加促進事業	1,018千円（生涯学習課）
サ	地域の今と未来をつなぐキャリア教育推進事業（総合社会教育センター）	801千円（生涯学習課）
シ	家庭教育支援動画制作普及事業（総合社会教育センター）	3,866千円（生涯学習課）
ス	あおもり家庭教育力向上事業（総合社会教育センター）	1,025千円（生涯学習課）

あもりの今をつくる人財の育成

地域の課題に主体的に取り組む意欲ある人財の育成、地域における持続可能な人財育成の仕組みづくり、国内外の人財の交流による地域の活性化に取り組みます。

移住の促進など多様な人財との交流によるネットワークを構築し、地域の担い手の確保・育成につなげます。

若者や女性、高齢者の活躍促進、県民が生きがいを持って生活できる環境づくりに取り組みます。

活力ある持続可能な地域づくりのための人づくり

地域の活力が将来にわたって持続するよう、「生業」づくりや地域づくりに取り組むリーダーの育成を行うとともに、次の世代を担う人財の育成に向けた仕組みづくりに取り組みます。

国内外の人財の交流などによる地域の活性化や、多様な働き方を可能とする環境づくりに取り組みます。

- | | | |
|---|---------------------------------------|----------------|
| ア | 社会教育を核とする地域ネットワーク活用促進事業 | 1,649千円（生涯学習課） |
| イ | パワフルAOMORI！創造塾開催事業（総合社会教育センター） | 1,196千円（生涯学習課） |
| ウ | 地域の今と未来をつなぐキャリア教育推進事業（総合社会教育センター）（再掲） | 801千円（生涯学習課） |

生涯を通じた学びと社会参加活動の拡大

県民の生涯を通じた学びの機会の提供や、その学習成果を生かした地域活動への参加推進、高齢者の活躍促進に取り組みます。

- | | | |
|--|--------------------------------------|------------------|
| ア | 夜間中学需要等調査事業【新規】 | 993千円（教職員課） |
| 「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律」（教育機会確保法）等によって夜間中学における就学の機会等の措置を講ずるものとされていることを踏まえ、夜間中学に対するニーズ調査を実施し、本県における在り方を検討する。 | | |
| イ | 特別支援学校を活用した生涯学習講座開設事業 | 802千円（生涯学習課） |
| ウ | 生涯学習推進基盤整備事業 | 1,048千円（生涯学習課） |
| エ | 若者の社会参加促進事業 | 1,018千円（生涯学習課） |
| オ | 子どもの読書活動推進事業（再掲） | 3,426千円（生涯学習課） |
| カ | 資料整備事業（県立図書館） | 65,475千円（生涯学習課） |
| キ | 読書バリアフリー推進事業（県立図書館） | 1,612千円（生涯学習課） |
| ク | 運営管理事業（総合社会教育センター） | 132,490千円（生涯学習課） |
| ケ | 施設設備改修工事（総合社会教育センター） | 83,652千円（生涯学習課） |
| コ | 元気青森人を創造するeラーニング推進事業（総合社会教育センター）（再掲） | 987千円（生涯学習課） |
| サ | 学習情報の収集・提供事業（総合社会教育センター） | 7,343千円（生涯学習課） |

あもりの活力をつくる文化・スポーツの振興

本県の歴史・文化を継承していくため、その適切な保存と積極的な活用に取り組みます。文化芸術に親しむ環境づくりと人財の育成を進めるほか、文化芸術資源を活用した地域づくりに取り組みます。

スポーツを通じた県民の健康増進や、スポーツを活用した交流人口の拡大などによるにぎわいの創出、第80回国民スポーツ大会の本県開催を見据えた競技力の向上などに取り組みます。

歴史・文化の継承と活用

縄文遺跡群の世界文化遺産登録をめざす取組を推進するとともに、一体的な保全と活用に取り組みます。

郷土の歴史、民俗、産業、自然等に関する資料や文化財などの適切な保存と活用を促進するとともに、伝統文化の鑑賞・体験機会の充実に取り組みます。

ア 「みんなあつまれ！三内丸山遺跡」保存・活用事業【新規重点】（三内丸山遺跡センター）
30,537千円（文化財保護課）

世界文化遺産として認められた三内丸山遺跡の価値を未来に継承し、伝えるため、地域住民や幅広い世代が参画し、保存・活用の意識を高めるとともに、国内・国外観光客への積極的なPRを行う。

イ 「青森の縄文遺跡群」保存・活用事業【新規重点・将来対応分】（三内丸山遺跡センター）
125,649千円（文化財保護課）

「青森の縄文遺跡群」の適切な保存・活用を推進していくため、関係自治体や民間団体等と連携し、縄文遺跡群の価値や魅力が広く国内外で理解され、世界に誇り、世界からも選ばれる場所となるよう普及啓発、認知度向上に向けた県外プロモーション、関係市町の遺跡施設等の整備に対する支援等の受入態勢の充実に取り組む。

ウ 「北海道・北東北の縄文遺跡群」保存・活用推進事業【継続重点】（三内丸山遺跡センター）
41,689千円（文化財保護課）

「北海道・北東北の縄文遺跡群」を次の世代に守り伝えていくため、関係道県及び市町と共同で設置する包括的保存管理体制の下、適切な保存と活用を推進するほか、登録直後の関心の高さを活かして国内外へ縄文遺跡群の価値や魅力を発信する。

エ 「青森の縄文遺跡群」情報発信拠点施設関連事業（三内丸山遺跡センター）
456,011千円（文化財保護課）

県内に所在する「北海道・北東北の縄文遺跡群」の8つの構成資産について、世界文化遺産としての価値の伝達や遺跡への来訪・周遊を促進する情報発信のための拠点施設を整備する。

オ 特別展開催事業（三内丸山遺跡センター） 10,488千円（文化財保護課）

カ 三内丸山遺跡保存・活用関連事業（三内丸山遺跡センター）
125,015千円（文化財保護課）

三内丸山遺跡の適切な保存と積極的な活用に向けた整備等を行う。

- 三内丸山遺跡史跡整備事業 81,140千円
子どもの墓覆屋設置工事、西盛土付近視点場設置工事、園路舗装改修工事等
- 三内丸山遺跡長寿命化事業 43,875千円
縄文時遊館屋上柵設置等改修工事、縄文シアター映像・音響機器更新

キ	文化財修理費補助	6,478千円（文化財保護課）
ク	無形民俗文化財等保護費補助	482千円（文化財保護課）
ケ	記念物環境整備費補助	3,773千円（文化財保護課）
コ	指定文化財管理費補助	1,803千円（文化財保護課）
サ	埋蔵文化財緊急発掘調査費補助	1,647千円（文化財保護課）
シ	こども民俗芸能大会（再掲）	4,570千円（文化財保護課）
ス	北海道・東北ブロック民俗芸能大会	779千円（文化財保護課）
セ	文化施設感染症防止等対策強化事業	3,941千円（文化財保護課）
ソ	「地元の縄文」再発見プロジェクト事業【継続重点】	8,809千円（文化財保護課）
	<p>世界文化遺産の構成資産以外も含めた地元の縄文遺物の価値や魅力を県民に伝達し、郷土愛の醸成や地域活性化を図るため、市町村と縄文遺物の活用に向けた連絡会議、授業で活用する縄文遺物セットの製作、地元の縄文を紹介する講演会等の開催、県内各地で配布する「あおり縄文カード」の作成等を行う。</p>	
タ	小学生による縄文遺跡と地域の文化財体験事業【継続重点】（再掲）	3,071千円（文化財保護課）
	<p>縄文遺跡をはじめとする県内の文化財の保存・活用に関わる人材の育成を図るため、小学生と地域との連携による地域の文化財の学習・体験活動等を実施する。</p>	
チ	長寿命化改修関連事業（郷土館）	66,941千円（文化財保護課）
	<p>郷土館の長寿命化改修に係る設計を行うとともに、資料等の館外退避に係る準備を行う。</p>	
ツ	運営管理事業（郷土館）（再掲）	94,383千円（文化財保護課）

健康でスポーツに親しむ環境づくりと競技力の向上

県民が年間を通じてスポーツに取り組める環境を充実させるほか、全国大会などで活躍できる選手や指導者を育成し、県民の健康づくりやスポーツによる地域活性化を進めます。

ア	全国スポーツ推進委員研究協議会開催費負担金【新規】	2,033千円（スポーツ健康課）
	<p>令和5年11月に青森市で開催される第64回全国スポーツ推進委員研究協議会の開催に要する経費を負担する。</p>	
イ	学校体育実技講習会	895千円（スポーツ健康課）
ウ	体力向上推進事業（再掲）	869千円（スポーツ健康課）
エ	全国大会派遣費補助（高等学校・中学校）	13,220千円（スポーツ健康課）
オ	学校における運動部活動推進事業（再掲）	11,610千円（スポーツ健康課）
カ	地域スポーツクラブ活動体制推進事業（再掲）	61,211千円（スポーツ健康課）
キ	各種体育・スポーツ大会開催費助成	4,900千円（スポーツ健康課）
ク	県有体育施設運営管理事業	1,401,433千円（スポーツ健康課）
ケ	青森県スポーツ協会補助	29,925千円（スポーツ健康課）
コ	スポーツ振興事業職員費	18,000千円（スポーツ健康課）
サ	青森県民駅伝競走大会開催費	16,811千円（スポーツ健康課）
シ	スポーツ科学センター運営管理費	60,849千円（スポーツ健康課）
ス	国体・東北総体派遣事業	96,243千円（スポーツ健康課）
セ	スポーツ・レクリエーション振興事業	7,718千円（スポーツ健康課）

ソ 広域スポーツセンター運営事業 3,792千円（スポーツ健康課）

タ 「スポーツでみんなを元気に」健康力アップ事業費【継続重点】

4,229千円（スポーツ健康課）

〔 スポーツを通じた健康づくりを推進するため、地域スポーツの担い手となる総合型
地域スポーツクラブと連携し、地域の実情に応じた運動・スポーツ活動に取り組む。〕

チ 競技力強化事業 415,535千円（スポーツ健康課）

国民スポーツ大会の本県開催に向けた総合的・戦略的な選手強化を行う。

- ・ 競技力向上対策本部運営費 9,492千円
- ・ 競技力向上事業 110,106千円
- ・ 競技力向上対策特別事業 247,092千円

競技力向上を図るため、競技団体へのアドバイザー派遣、強化拠点校や有力選手等への活動支援、女性アスリートの競技継続支援、指導者の育成及び公認資格の取得支援、トップレベルコーチの招へい、競技団体間の情報共有の強化、医・科学スタッフによるサポートの強化、特殊競技用具整備、雇用奨励金等による選手・指導者の雇用環境充実支援を行う。

- ・ スポーツ科学チームサポート事業 4,983千円
スポーツ科学専門員による科学的分析に基づくトレーニングのサポートを行う。
- ・ スポーツ科学センター環境充実事業 43,862千円

スポーツ科学チームサポート事業の実施に向け、スポーツ科学センターの組織の充実及び機器の整備等を行う。

2節 補正予算

令和5年度における教育委員会の補正予算総額は18億4,439万5千円で、最終予算額は1,172億2,791万3千円となり、県一般会計最終予算額7,146億3,300万8千円の16.4%を占めることとなった。

1 9月補正予算(補正第2号)(補正予算額 4,386万4千円)

(主な事業)

特別支援学校における医療的ケア実施体制整備事業費	119万1千円
I C T教育サポーター配置事業費	3,155万2千円

2 11月補正予算(補正第3号)(補正予算額 1億2,806万1千円)

(事業)

職員給与等の調整	1億2,806万1千円
----------	-------------

3 2月補正予算(補正第5号)[国の補正予算関連分](補正予算額 8億5,101万1千円)

(主な事業)

県立高等学校D X加速化推進事業	1億円
農業教育環境整備事業	4,973万9千円
公立学校情報機器整備事業	6億9,927万2千円

4 2月補正予算(補正第6号)[通常分](補正予算額 26億1,120万9千円)

(主な事業)

職員給与等の調整	18億5,539万2千円
総合学校教育センター庁舎長寿命化推進事業費	1,650万円
県立少年自然の家空調和設備設置工事費	597万3千円

3章 企画・調査・広報・情報化推進

1節 企 画

- 1 青森県教育委員会の「施策の柱」
教育施策の推進のため、令和5年度青森県教育委員会の「施策の柱」を設定した。
- 2 企画調整会議の開催
企画調整会議幹事会において、青森県基本計画「青森新時代」への架け橋、令和6年度当初予算編成等について協議した。
- 3 国の予算及び施策に対する提案
国の令和6年度予算及び施策に反映させるべき本県教育関係の重点施策として、次の事項について提案した。
 - ・人口減少社会におけるきめ細かな教育環境の充実
- 4 災害に関する連絡調整
地震
(災害名等) (発生年月日) (被害件数及び状況)
11月20日の地震 5年11月20日 人的被害 2件
その他の災害
(災害名等) (発生年月日) (被害件数及び状況)
10月20日の竜巻 5年10月20日 市町村立学校 設備破損 1校
○12月17日の暴風 5年12月17日 文化財(県天然記念物) 倒木 1件
○1月24日の暴風雪 6年1月24日 市町村立学校 設備破損 1校
○2月15日の積雪 6年2月15日 文化財(名勝) 倒木 1件
○2月26日からの大雪 6年2月26日 県立学校 設備破損 1件
文化財(史跡) 一部破損 1件
文化財(名勝) 石灯籠倒壊 1件
- 5 知事部局等との連絡調整
下記の事項について、関係知事部局及び庁内各課室との連絡調整を行った。
各種計画連絡調整
 - ・青森県基本計画「青森新時代」への架け橋
 - ・あおもり創生総合戦略
 - ・第2期まち・ひと・しごと創生青森県総合戦略
 - ・「青森新時代」への架け橋重点枠事業
 - ・政策点検
 - ・青森県行財政改革大綱
 - ・青森県行財政改革行動計画
 - ・あおもりを愛する人づくり戦略
 - ・青森県子どもの貧困対策推進計画

- ・青森県次世代育成支援行動計画「のびのびあおもり子育てプラン」後期計画
- ・青森県観光戦略
 - 各種会議等連絡調整
- ・市町村長会議
- ・重点事業説明会
- ・知事を囲む懇談会
- ・知事を囲む行政懇談会
- ・青森県事務権限移譲連絡会議
- ・県有不動産利活用推進会議
- ・行財政改革の推進
- ・政策調整会議
- ・全国知事会・北海道東北地方知事会に係る要望等
- ・日本海沿岸地帯振興連盟に係る要望等
- ・地方分権改革の推進
- ・津軽海峡交流圏形成促進庁内会議
- ・青森県人づくり戦略推進会議
- ・地域支援業務連絡会議
- ・社会保障・税番号制度推進委員会
- ・青森県男女共同参画推進本部
- ・あおもり地球温暖化対策庁内推進本部
- ・もったいない・あおもり県民運動推進会議
- ・いのち支える青森県自殺対策推進本部
- ・青森県子どもの貧困対策等推進委員会
- ・健康あおもり21推進本部
- ・青森県ドクターヘリ運行調整委員会
- ・青森県子ども・子育て支援推進本部
- ・中小企業振興庁内連絡会議
- ・青森県雇用推進本部
- ・青森県食育推進会議

6 青森県教育委員会の事務の点検及び評価

県教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに公表した。

7 大学との連絡調整

県教育委員会が連携協定を締結している6大学との連携の推進に関する事務として、各大学との連携・協力実績を取りまとめた。

8 青森県教育施策の概要等

「青森県の教育」の刊行

令和4年度の本県教育行政の実績を年報として収録し、教育行政推進のための資料として刊行した。(A5判 336ページ 340部)

2節 調査・統計

- 1 地方教育費調査（文部科学省調査）
令和4会計年度における教育費を、学校教育、社会教育、教育行政の分野ごとに調査し、報告書を作成した。（昭和24年度以降毎年実施）
- 2 中学校等卒業者及び高等学校等卒業者の進路状況調査
令和5年度学校基本調査（卒業後の状況調査）の附帯調査として、進学状況を詳細に調査し、学校基本調査を含めて報告書を作成した。（昭和25年度以降毎年実施）
- 3 中学校等卒業予定者の進路志望状況調査
令和6年3月中学校等卒業予定者の進路志望の状況を、令和5年11月6日（一次）と令和5年12月12日（二次）で調査し、報告書を作成した。（昭和26年度以降毎年実施）
- 4 学 校 一 覧
学校基本調査結果に基づき、学校種類別に、在学者数、学級数、教職員数等の状況をとりまとめた冊子を刊行した。（昭和24年度以降毎年実施）

3節 広報・広聴

県教育委員会の施策や主要な事業について、県内の教職員、地域住民、市町村教育委員会、その他関係機関・団体に対して的確な情報を提供するとともに、関係者の意見・要望などを教育行政に反映させ、調和のとれた教育を実現するために、次の広報・広聴活動を行った。

- 1 「教育広報あおもりけん」の発行
教育行政について、保護者及び教職員に幅広く積極的に情報を提供することを目的とした広報紙を発行し、保護者、教職員、市町村教育委員会等に配布した。
（B4判 4ページ 140,900部 年5回発行）
また、平成19年度から、広報紙に広告を掲載することによる財源確保のため、広告掲載事業者を募集している。
- 2 リーフレット「青森県の教育」の発行
本県教育の現状をグラフ化したリーフレットを、国際化に対応して英訳付きで作成し、来庁者等に配布した。（A4判 8ページ 800部 年1回発行）
- 3 知事部局で購入している広報媒体を活用した県民への情報提供
新聞による広報活動
「広報あおもりけん」
（東奥日報、デーリー東北、陸奥新報の3紙に同時掲載毎月1日、16日）年24回発行
テレビによる広報活動
「大好き、青森県。」（RAB、毎月第3日曜日 17:00～17:15）

- 「LINK / 青森県」(RAB、30秒スポット 不定期 年240回程度)
- 「みんなの県庁!」(ATV、毎週土曜日 16:55~17:00)
- 「メッセージ」(ABA、毎週土曜日 9:30~9:35)
- ラジオによる広報活動
- 「青森県広報タイム」(RAB、毎週月~木曜日 7:30~7:35)
- 「あおり・ふぁん」(エフエム青森、毎週月~金曜日 16:55~17:00)

4 知事部局の広報紙を活用した県民への情報提供

「県民だよりあおり」(タブロイド判 8ページ 毎戸配布紙 年6回発行)

5 ソーシャルメディアを活用した県民への情報提供

「ツイッター」

「Facebook(青森県企画政策部広報広聴課)」

「YouTube(青森県企画政策部広報広聴課)」

6 青森県庁ホームページを活用した県民への情報提供

青森県庁ホームページのメインビジュアルによる情報発信

7 県との地域協働事業に関する包括協定に基づき行う県民への情報提供

(株)ローソン、(株)ファミリーマート、イオン(株)、(株)セブン・イレブン・ジャパン及び(株)イトーヨーカ堂の各社の県内各店舗に、県政に係るポスター、パンフレット、チラシ等を掲示・設置

8 報道機関に対する情報提供

教育記者会を通じて、随時報道機関に対して情報の提供を行い、県民の教育行政に対する理解を深めるように配慮した。

教育記者会加盟16社(東奥日報、デーリー東北新聞、陸奥新報、朝日新聞、毎日新聞、読売新聞、河北新報、日本経済新聞、産経新聞、青森放送、青森テレビ、日本放送協会、青森朝日放送、フジテレビ、時事通信、共同通信)

教育記者会への発表事項

区分	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
記者発表		0	0	0	1	0	0	2	1	0	1	3	2	10
資料配布		22	20	26	38	27	33	41	31	33	28	30	35	364
計		22	20	26	39	27	33	43	32	33	29	33	37	374

9 あおり教育フォーラム

特定のテーマを設定し、様々な立場の方による意見交換を通して、幅広く意見を聴取し、今後の本県教育行政に反映させることを目的に、青森県PTA連合会・青森県PTA安全互助会との共催により、次のとおり実施し、その実施状況及び概要をホームページに掲載した。

テーマ「学校と地域との連携・協働の推進について」

〔期日〕令和6年2月9日（金）
〔場所〕アップルパレス青森（青森市）
〔参加者数〕約90名

4節 教育行政における情報化の推進

教育行政情報システムについて開発・運用・保守を行うとともに、教育行政の情報化についての総合的な企画・調整・連絡及び推進を行った。

1 教育情報化の推進

教育全般にわたる情報化の基本的方向や共通基盤の整備に係る総合的調整を図っている。

2 教育行政情報システムの開発・運用・保守

学力・成績情報

令和5年度県立高等学校入学者選抜学力検査結果について、「高校入試処理結果の情報管理に関する基準」に基づき、各種集計表及び詳細分析資料の出力を行った。

体格・体力・運動能力情報

令和5年度体格・体力・ライフスタイル調査結果について、集計分析処理を行った。なお、スポーツ健康課では、当該処理結果に基づき当該年度内に報告書を発行した。

児童生徒の健康管理情報

令和5年度学校保健調査結果について、集計分析処理を行った。なお、スポーツ健康課では、当該処理結果に基づき当該年度内に報告書を発行した。

学校属性・教育諸条件情報

学校基本調査データファイル（文部科学省マスタ）から、県内学校の基本データを蓄積し、学校一覧の作成をはじめ、進学・就職に関する情報等のシステムでデータを活用した。

施設・設備に関する情報

学校施設課において、公立学校施設実態調査結果を基に各種情報分析と資料作成等を行った。

進学・就職に関する情報

令和5年3月中学校等・高等学校等卒業者の進路状況及び令和6年3月中学校等卒業予定者の進路志望状況について、集計分析処理を行った。

職員の健康管理情報

令和5年度に実施した事務局職員の健康診断受診結果について、各種集計表の出力を行った。

銃砲刀剣情報

文化財保護課において、データの登録・更新を行いデータベースに蓄積されたデータを各種問い合わせの対応に活用した。

人事情報（学校教職員）オンラインシステム

各担当所属において、学校教職員にかかる人事情報の入力及び人事資料の出力等を逐次行った。

人事情報（事務局職員）オンラインシステム

職員福利課において、事務局職員にかかる人事情報の入力及び人事資料の出力等を逐次行った。

研修オンラインシステム

各担当所属において、研修情報の入力及び集計資料の出力等を逐次行った。

3 教育庁コンピュータシステム

教育行政情報システム（バッチ処理システム及びオンライン処理システム）を活用するためのクライアント・サーバ及びネットワーク機器等を整備し、管理・運用した。

4 教育庁OAシステム

教育庁の情報基盤整備のため、平成12年度から本庁各課及び各公所へクライアント、サーバ、ネットワーク機器等を整備し、管理・運用している。

5 県教育委員会のホームページ

県教育委員会と県民の窓口として開設している県教育委員会ホームページについて、コンテンツの充実に取り組み、積極的な情報発信及び教育行政への県民からの意見反映等に努めた。

なお、平成20年8月からCMS（コンテンツマネジメントシステム）が導入され、各コンテンツの管理は各担当所属が行っている。

なお、平成19年度から、トップページに広告を掲載することによる財源確保のため、広告掲載事業者を募集している。

6 青森県教育データブックの作成

教育関係の基礎的なデータについて、学校教育、社会教育を中心に、スポーツ、文化、教育費も含めて整理し、グラフを用いて視覚的にわかりやすくあらわした資料として、「青森県教育データブック」を作成し、県教育委員会のホームページに掲載した。

7 研 修

「電子計算組織利用による教育行政情報システム開発基本計画」に基づき、計画的に情報広報グループ員の養成を図っている。

4章 叙 勲、表 彰

1 節 職 員 福 利 課 関 係

1 叙勲受章者

令和5年春の叙勲

平 川 俊 治	(瑞 双)	元公立小学校長	初等中等教育の発展に貢献
溝 江 康 徳	(瑞 双)	元公立小学校長	同 上
三 上 秀 哲	(瑞 双)	元公立中学校長	同 上
村 上 謙 藏	(瑞 小)	元公立高等学校長	同 上
中 村 皖 一	(瑞 双)	元公立中学校長	同 上
羽 賀 誠 二	(瑞 小)	元公立高等学校長	同 上
根 岸 英 樹	(旭 単)	ボーイスカウト青森県連盟理事長	社会教育の振興発展に貢献
竹 田 昭 一	(瑞 双)	元学校薬剤師	学校保健衛生の向上発展に貢献
北 村 箴 至	(瑞 双)	学校医	同 上
後 藤 秀 喜	(瑞 双)	元青森県アーチェリー協会会長	スポーツの振興発展に貢献

令和5年秋の叙勲

西 谷 健 三	(瑞 双)	元公立中学校長	初等中等教育の発展に貢献
立 崎 健 司	(瑞 双)	元公立中学校長	同 上
菊 池 武	(瑞 双)	元公立中学校長	同 上
佐 藤 紘 昭	(瑞 小)	元公立高等学校長	同 上
吉 田 秀 一	(瑞 双)	元公立小学校長	同 上
瀧 澤 政 夫	(瑞 双)	元学校歯科医	学校保健衛生の向上発展に貢献
井 上 哲	(瑞 双)	学校医	同 上

高齢者叙勲

本 田 光 明	(瑞 双)	元公立中学校長	初等中等教育の発展に貢献
西 村 泉	(瑞 双)	元公立小学校長	同 上
澤 頭 不二夫	(瑞 双)	元公立小学校長	同 上
早 坂 理 悦	(瑞 双)	元公立小学校長	同 上
椀 本 良 一	(瑞 双)	元公立小学校長	同 上
江 渡 浩三郎	(瑞 双)	元公立中学校長	同 上
古 沢 哲五郎	(瑞 双)	元公立小学校長	同 上
清 藤 範十郎	(瑞 双)	元公立中学校長	同 上
大和田 一 衛	(瑞 双)	元公立中学校長	同 上
前 田 尚 彦	(瑞 双)	元公立小学校長	同 上
大 川 雄 弘	(瑞 双)	元公立小学校長	同 上
長谷川 勇	(瑞 双)	元公立小学校長	同 上
中 山 雅 善	(瑞 双)	元公立小学校長	同 上

前田晶子	(瑞小)	元公立養護学校長	初等中等教育の発展に貢献	
佐藤卓爾	(瑞双)	元公立小学校長	同	上
中村與吉	(瑞双)	元公立小学校長	同	上
松木十四雄	(瑞双)	元公立小学校長	同	上
馬淵五七	(瑞双)	元公立小学校長	同	上
湊清枝	(瑞双)	元公立小学校長	同	上
小林信英	(瑞双)	元公立中学校長	同	上
福士健一	(瑞双)	元公立小学校長	同	上
三浦立博	(瑞双)	元公立中学校長	同	上
米澤實	(瑞双)	元公立中学校長	同	上
蔭山晃弘	(瑞双)	元公立小学校長	同	上
国分光明	(瑞双)	元公立中学校長	同	上
榊均	(瑞双)	元公立小学校長	同	上
鳩武治	(瑞双)	元公立小学校長	同	上
平山英司	(瑞小)	元公立高等学校長	同	上
小原馨	(瑞双)	元公立小学校長	同	上
根市政志	(瑞双)	元公立小学校長	同	上
川村博信	(瑞双)	元公立小学校長	同	上
長尾幸治	(瑞双)	元公立小学校長	同	上
芳賀邦彦	(瑞双)	元公立小学校長	同	上
瀧田明大	(瑞双)	元学校歯科医	学校保健衛生の向上発展に貢献	
樋渡和子	(瑞双)	元公立小学校長	初等中等教育の発展に貢献	
大坂純一	(瑞双)	元公立小学校長	同	上
小川淳	(瑞双)	元公立中学校長	同	上
奥本算人	(瑞双)	元公立小学校長	同	上
黒丸昱	(瑞双)	元公立小学校長	同	上
佐々木一吉	(瑞双)	元公立小学校長	同	上
竹内正美	(瑞双)	元公立中学校長	同	上
野坂隆	(瑞双)	元公立小学校長	同	上
佐々木文武	(瑞双)	元公立小学校長	同	上
笹谷柁四郎	(瑞双)	元公立小学校長	同	上
澁谷忠廣	(瑞双)	元公立小学校長	同	上
瀬川一雄	(瑞双)	元公立小学校長	同	上
筒井琇一	(瑞双)	元公立中学校長	同	上
甲地博夫	(瑞双)	元公立小学校長	同	上
齋藤昇一	(瑞双)	元公立小学校長	同	上
塩越亘	(瑞双)	元公立小学校長	同	上
畑山房子	(瑞双)	元公立小学校長	同	上
蛇口剛義	(瑞小)	元公立高等学校長	同	上
大橋信雄	(瑞双)	元公立小学校長	同	上
上村次郎	(瑞双)	元公立小学校長	同	上

坂本 啓	(瑞双)	元公立小学校長	初等中等教育の発展に貢献
鈴木 義廣	(瑞双)	元公立小学校長	同 上
竹内 照明	(瑞双)	元公立中学校長	同 上
中川原 兵威	(瑞双)	元公立小学校長	同 上
外崎 憲治	(瑞小)	元公立高等学校長	同 上
工藤 與四郎	(瑞双)	元公立小学校長	同 上
出町 勇雄	(瑞双)	元公立中学校長	同 上
中村 至孝	(瑞双)	元公立中学校長	同 上
藤澤 隆	(瑞双)	元公立小学校長	同 上

2 県褒賞

伊藤 博章	教育の振興発展に貢献
葛西 岷輔	同 上
高瀬 厚太郎	社会教育の振興発展に貢献
阿保 憲興	学校保健衛生の向上発展に貢献
田島 剛一	同 上

3 文部科学大臣表彰

地方教育行政功労者表彰

和嶋 延寿	元青森県教育委員会教育長
木田 専一	元大鰐町教育委員会教育長
伊藤 博章	元八戸市教育委員会教育長
木村 吉幸	元五所川原市教育委員会委員
成田 悦雄	つがる市教育委員会委員
附田 道大	七戸町教育委員会教育長

教育者表彰

谷地村 克久	青森県立八戸高等学校長
木村 信一	青森市立浦町中学校長

2 節 学校教育課関係

1 年度末表彰（青森県教育委員会）

	校種	氏名	ふりがな	学校名	学年	区分
1	小学校 (三八)	中村 悠人	なかむらゆうと	八戸市立青潮小学校	6	(4)
2	高校 (県立)	新谷 銀次	あらや ぎんじ	むつ工業高等学校	3	(1)
		高橋 拓真	たかはし たくま		3	
		二本柳 龍輝	にほんやなぎ たつき		3	
3	高校 (県立)	長内 麻緒	おさない まお	五所川原農林高等学校	3	(1)
		柏崎 優里音	かしわざき ゆりね		3	
		小林 美咲	こばやし みさき		3	
		三戸 優奈	さんのへ ゆな		3	
		竹内 和葉	たけうち かずは		3	
		鳴海 碧巴	なるみ あおば		3	
		福沢 侑菜	ふくざわ ゆうな		3	
		山口 夢萌	やまぐち ゆめ		3	
		米塚 星莉	よねづか きらり		3	
		秋庭 健之介	あきば けんのすけ		2	
		岩本 凌介	いわもと りょうすけ		2	
		野呂 敦獅	のろ あつし		五所川原工科大学	

区分は、表彰基準 1 の「推薦の対象」の分類番号である。

- (1) 人命を救助した。
- (2) 災害に際し適切な判断のもとに行動した。
- (3) 他人の不幸に際し、誠意をもって援助した。
- (4) その他奉仕活動等、社会的に有益な行為をした。

3 節 生涯学習課関係

1 文部科学大臣表彰

社会教育功労者表彰

佐々木 忠一 元十和田市少年少女発明クラブ会長

佐々木 博子 青森県地域婦人団体連合会理事

視聴覚教育・情報教育功労者表彰

幸山 勉 (弘前市)

優良PTA表彰

青森市立千刈小学校

五所川原市立南小学校

認定こども園油川幼稚園

P T A 活動振興功労者表彰

柴 田 一 則 八戸工業大学第二高等学校・附属中学校父母と教師の会元会長
外 崎 浩 司 青森県 P T A 連合会前会長
福 士 素 子 青森県特別支援学校 P T A 連合会前会長

優良公民館表彰

六ヶ所村立中央公民館
青森市東部市民センター

子供の読書活動優秀実践校・図書館・団体（個人）表彰

【学校】 青森市立筒井小学校
五所川原市立松島小学校
おいらせ町立木ノ下小学校
【図書館】 藤崎町図書館 大夢
【団体（個人）】 親子読書会「わっこの会」（十和田市）

「障害者の生涯学習支援活動」に係る文部科学大臣表彰

山田 金治（大鰐町）

「家庭教育支援チーム」の活動の推進に係る文部科学大臣表彰

今別町家庭教育支援チームTAZUNA

4節 スポーツ健康課関係

1 体育・スポーツ関係

教育長表彰

青森県体育功労者（8名）

	氏名	年齢	市町村	競技団体等における主な役職	体育・スポーツに関する主な功績
1	川端 満	66歳	青森市	青森県山岳連盟 副会長	平成10年より、青森県山岳連盟の役員として、山岳・スポーツクライミング競技の小学生から高校生までの指導・育成を中心に、選手強化及び指導者の育成に精力的な活動を続け、同競技の発展に寄与した功績が大きい。
2	木村 義男	68歳	八戸市	青森県山岳連盟 副会長	平成10年より、青森県山岳連盟の役職を歴任し、会長職を補佐しながら山岳・スポーツクライミング競技の選手強化及び指導者の育成に努めるとともに、県内で開催される各種大会の準備から運営を率先して行うなど、山岳・スポーツクライミングの振興に大きく貢献した。
3	工藤 勇蔵	95歳	五所川原市	青森県銃剣道連盟 副会長	平成7年より、青森県銃剣道連盟の役員として、銃剣道競技の普及・促進に尽力し、同競技の発展に寄与した功績が大きい。また、小学生から高校生までの指導を中心に、選手強化及び指導者の育成に精力的に取り組んだ。
4	小比類巻雅彦	67歳	三沢市	三沢市バレーボール協会 会長	平成4年より、三沢市バレーボール協会の役員として、小学生や家庭婦人チームの指導を通して、競技力向上に努めるとともに、競技者の発掘及び普及啓蒙に注力するなど、バレーボール競技の発展に大きく貢献した。

	氏名	年齢	市町村	競技団体等における主な役職	体育・スポーツに関する主な功績
5	高橋 京子	88歳	五所川原市	青森県ゲートボール協会 常任理事	平成14年より、青森県ゲートボール協会役員として、本県のゲートボール競技の普及・発展に寄与した。現在は、同協会の常任理事として、後進育成のための講習会を開催し、自ら講習会の講師を務め指導に当たるなど、選手・指導者の資質向上に尽力している。
6	竹中 晋也	68歳	青森市	青森市サッカー協会 副会長	昭和62年の理事就任から現在まで、青森市サッカー協会の役員として、各種大会や行事の企画・立案及び運営において中心的な役割を担い、地域のサッカー競技の発展に寄与した。また、後進の指導・育成に努め、幅広い世代がサッカーに取り組める環境づくりに尽力し、地域のスポーツ振興にも多大な貢献をした。
7	中村 征典	81歳	むつ市	むつ市剣道協会 会長	昭和57年より、むつ市剣道協会の役員を歴任し、管内主催事業や県内の各種大会の参加等を通じて、幼少年・会員の資質向上に努めるなど、多大な貢献を果たした。また、管内主催事業を企画・運営し、剣道競技の普及・発展に寄与した功績が大きい。
8	吉成 幸三	74歳	八戸市	八戸市陸上競技協会 会長	平成7年より、八戸市陸上競技協会の役員として、市内の選手強化や育成に努めたほか、後継者の指導・育成に尽力し、陸上競技の発展に寄与した功績が大きい。また、同協会の役員として、八戸うみねこマラソン全国大会の企画・運営に長く関わり、大会を成功に導いた。

青森県社会体育優良団体（1団体）

	団体名	代表者氏名	実績
1	むつ市バスケットボール協会 （むつ市） 昭和21年設立	会長 大瀧 次男	小学生から社会人まで、年代別の大会を開催し、競技の普及や競技力向上を図るとともに、どの年代でもスポーツに親しめる体制を構築している。また、指導者や審判員を育成するための講習会を積極的に行うなど、青少年の健全育成や知己スポーツの振興に寄与している。

青森県優良スポーツクラブ（1団体）

	団体名	代表者氏名	実績
1	むつ木曜クラブ （むつ市） 昭和56年設立	会長 川西 宏樹	卓球を通じた会員の親睦と技術向上を図ることを目的に活動しており、主催大会の開催や県内外の大会に積極的に参加することで、地域間交流を図るとともに卓球競技の普及と競技力向上に努めるなど、地域スポーツの振興に寄与している。

青森県スポーツ功労賞（1名）

	氏名	競技種目	所属	大会名及び成績
1	田中 博男	マスターズ陸上	青森マスターズ 陸上競技連盟 （青森市在住）	世界マスターズ室内陸上競技選手権 M90 200m 優勝（38秒79） （世界記録更新）

青森県スポーツ大賞（104名）

	氏名	競技種目	所属	大会名及び成績
1	山田 棕喬	スキー	ヘッドスキークラブ	特別国民体育大会冬季大会スキー競技会 ジャイアントスラローム 成年男子A 優勝
2	根城 理実	スケート	八戸西高校	令和4年度第13回全国高等学校選抜スピードスケート競技会 女子マススタートレース（10周）優勝
3	渡辺 倫果	スケート	法政大学	グランプリシリーズ第2戦カナダ大会 フィギュア女子シングル 優勝
4	山本 大史	スケート	八戸市スケート協会	特別国民体育大会冬季大会スケート競技会 成年男子1000m 優勝 成年男子1500m 優勝
5	上野恵理子	スケート	八戸学院大学	2022/2023全日本選抜スピードスケート競技会釧路大会 女子5000m 優勝 2022/2023全日本選抜スピードスケート競技会恵那大会 女子5000m 優勝 2022/2023全日本選抜スピードスケート競技会渋川伊香保大会 女子5000m 優勝 第42回全日本学生スピードスケート選手権大会 女子5000m 優勝
6	安田 彩夏	スケート	八戸学院大学	2022/2023全日本選抜スピードスケート競技会渋川伊香保大会 女子マススタートレース（16周）優勝

	氏名	競技種目	所属	大会名及び成績
7	木村 咲映	スケート	八戸学院大学	第42回全日本学生スピードスケート選手権大会 女子1500m 優勝
8	澤口 輝	アイスホッケー	中央大学	2023IIHFアイスホッケーU20世界選手権 ディビジョン1グループB 男子 優勝 2023IIHFアイスホッケーU18世界選手権 ディビジョン1グループA 男子 3位
9	佐々木珠南	水泳	東中学校 (八戸市)	第63回全国中学校水泳競技大会 女子200m個人メドレー 優勝
10	成田宗土楼	水泳	油川中学校	第46回全国JOCジュニアオリンピックカップ夏季 水泳競技大会 男子11～12歳以下区分50m自由形 優勝
11	相馬 あい	水泳	ミキハウス	第19回アジア競技大会 女子100mバタフライ 2位
12	工藤 美優	ローイング	仙台大学	第101回全日本ローイング選手権大会 女子エイト 優勝 第50回全日本大学ローイング選手権大会 女子エイト 優勝
13	村上 来花	陸上競技	九州共立大学	特別国民体育大会陸上競技 成年女子ハンマー投 優勝 第92回日本学生陸上競技選手権大会 女子ハンマー投 優勝
14	田澤 廉	陸上競技	トヨタ自動車	第25回アジア陸上競技選手権大会 男子10000m 優勝
15	ルーンードウータ	陸上競技	青森山田高校	特別国民体育大会陸上競技 少年女子3000m 優勝
16	鈴木 将永	サッカー	青森山田高校	高円宮杯JFA U-18サッカープレミアリーグ2023 ファイナル 優勝
17	小林 拓斗	サッカー	青森山田高校	高円宮杯JFA U-18サッカープレミアリーグ2023 ファイナル 優勝
18	小沼 蒼珠	サッカー	青森山田高校	高円宮杯JFA U-18サッカープレミアリーグ2023 ファイナル 優勝
19	山本 虎	サッカー	青森山田高校	高円宮杯JFA U-18サッカープレミアリーグ2023 ファイナル 優勝
20	小泉 佳絃	サッカー	青森山田高校	高円宮杯JFA U-18サッカープレミアリーグ2023 ファイナル 優勝
21	菅澤 凱	サッカー	青森山田高校	高円宮杯JFA U-18サッカープレミアリーグ2023 ファイナル 優勝
22	谷川 勇獅	サッカー	青森山田高校	高円宮杯JFA U-18サッカープレミアリーグ2023 ファイナル 優勝
23	川原 良介	サッカー	青森山田高校	高円宮杯JFA U-18サッカープレミアリーグ2023 ファイナル 優勝

	氏名	競技種目	所属	大会名及び成績
24	津島 巧	サッカー	青森山田高校	高円宮杯JFA U-18サッカープレミアリーグ2023 ファイナル 優勝
25	芝田 玲	サッカー	青森山田高校	高円宮杯JFA U-18サッカープレミアリーグ2023 ファイナル 優勝
26	米谷 壮史	サッカー	青森山田高校	高円宮杯JFA U-18サッカープレミアリーグ2023 ファイナル 優勝
27	長谷川龍也	サッカー	青森山田高校	高円宮杯JFA U-18サッカープレミアリーグ2023 ファイナル 優勝
28	福島 健太	サッカー	青森山田高校	高円宮杯JFA U-18サッカープレミアリーグ2023 ファイナル 優勝
29	杉本 英誉	サッカー	青森山田高校	高円宮杯JFA U-18サッカープレミアリーグ2023 ファイナル 優勝
30	山口 元幹	サッカー	青森山田高校	高円宮杯JFA U-18サッカープレミアリーグ2023 ファイナル 優勝
31	後藤 礼智	サッカー	青森山田高校	高円宮杯JFA U-18サッカープレミアリーグ2023 ファイナル 優勝
32	三浦 陽	サッカー	青森山田高校	高円宮杯JFA U-18サッカープレミアリーグ2023 ファイナル 優勝
33	別府 育真	サッカー	青森山田高校	高円宮杯JFA U-18サッカープレミアリーグ2023 ファイナル 優勝
34	関口 豪	サッカー	青森山田高校	高円宮杯JFA U-18サッカープレミアリーグ2023 ファイナル 優勝
35	池田 勇氣	サッカー	青森山田高校	高円宮杯JFA U-18サッカープレミアリーグ2023 ファイナル 優勝
36	磯村 颯	サッカー	青森山田高校	高円宮杯JFA U-18サッカープレミアリーグ2023 ファイナル 優勝
37	山下 凱也	サッカー	青森山田高校	高円宮杯JFA U-18サッカープレミアリーグ2023 ファイナル 優勝
38	齊藤 和祈	サッカー	青森山田高校	高円宮杯JFA U-18サッカープレミアリーグ2023 ファイナル 優勝
39	須藤 嬉多	ボクシング	青森北高校	第3回全日本マ斯巴クシング選手権大会 ユース高校生女子160cmまで 優勝
40	天内 俊陽	ボクシング	青森山田高校	第3回全日本マ斯巴クシング選手権大会 ユース高校生男子165cm超 優勝
41	秋元アリンダ	ボクシング	青森山田高校	第2回全日本女子ジュニアボクシング選手権大会 女子ライトウェルター級 優勝
42	金澤 潤	ボクシング	青森大学	第3回全日本マ斯巴クシング選手権大会 エリートU-30男子170cm超 優勝
43	工藤 光莉	バレーボール	尾上中学校	第1回アジアU16女子バレーボール選手権大会 優勝
44	松田 里奈	体操	弘前学院聖愛高校	第39回全国高等学校体操競技選抜大会 女子種目別 ゆか 優勝

	氏名	競技種目	所属	大会名及び成績
45	太田 悠介	体操	青森大学	第75回全日本学生新体操選手権大会 男子団体 優勝
46	田口 海	体操	青森大学	第75回全日本学生新体操選手権大会 男子団体 優勝
47	石橋 知也	体操	青森大学	第75回全日本学生新体操選手権大会 男子団体 優勝
48	中山蒼一郎	体操	青森大学	第75回全日本学生新体操選手権大会 男子団体 優勝
49	裏山 大生	体操	青森大学	第75回全日本学生新体操選手権大会 男子団体 優勝
50	村里 剛一	体操	青森大学	第75回全日本学生新体操選手権大会 男子団体 優勝
51	佐々木杏花	バスケットボール	拓殖大学	FIBA 3×3 U18ワールドカップ2023 3×3女子 3位
52	類家 直美	レスリング	勝レスター・ホールディングス	特別国民体育大会レスリング競技 女子フリースタイル62kg級 優勝
53	高田ここな	レスリング	日本体育大学	文部科学大臣杯UNIVAS CAP 令和5年度全日本学生レスリング選手権大会 女子フリースタイル68kg級 優勝
54	高畑 芳和	レスリング	八戸東消防署	2023年世界ベテランズレスリング選手権大会 ディビジョンD(51~55歳)フリースタイル 88kg級 2位
55	室谷 榎音	自転車競技	青森商業高校	令和4年度全国高等学校選抜自転車競技大会 女子ケイリン 優勝 令和5年度全国高等学校総合体育大会自転車競技大会 女子ケイリン 優勝
56	小原 佑太	自転車競技	日本プロフェッショナル サイクリスト協会	第19回アジア競技大会自転車競技 男子チームスプリント 優勝
57	小原 乃亜	自転車競技	八戸学院大学	文部科学大臣杯 第78回全日本大学対抗選手権自転車競技大会 スプリント 優勝
58	牧田 咲子	自転車競技	順天堂大学	文部科学大臣杯 第78回全日本大学対抗選手権自転車競技大会 マディソン 優勝
59	北嶋 孝基	卓球	弘前中央高校	第50回全国高等学校選抜卓球大会 男子シングルス2部 優勝
60	山崎 玲奈	卓球	青森大学(教)	令和5年度第67回全国教職員卓球選手権大会 女子団体 優勝 女子フォーティ 優勝
61	塚本 佳苗	卓球	弘前第一養護学校(教)	令和5年度第67回全国教職員卓球選手権大会 女子団体 優勝 女子ダブルス 優勝
62	佐藤 芽里	卓球	東奥学園高校(教)	令和5年度第67回全国教職員卓球選手権大会 女子団体 優勝 女子ダブルス 優勝
63	長内 風道	相撲	五所川原農林高校	令和4年度全国高等学校相撲選抜大会 団体 優勝

	氏名	競技種目	所属	大会名及び成績
64	浅瀬石光玖	相撲	五所川原農林高校	令和4年度全国高等学校相撲選抜大会 団体 優勝
65	長谷川力響	相撲	五所川原農林高校	令和4年度全国高等学校相撲選抜大会 団体 優勝
66	奈良 昂	相撲	五所川原農林高校	令和4年度全国高等学校相撲選抜大会 団体 優勝
67	木村 喜人	相撲	五所川原農林高校	令和4年度全国高等学校相撲選抜大会 団体 優勝
68	長谷川理央	相撲	慶応義塾大学	2023世界相撲選手権大会 女子中量級 3位
69	新井田哩来	相撲	田子中学校	第20回全日本中学生女子相撲大会 個人 優勝
70	清瀬 璃子	バドミントン	青森山田高校	令和4年度第51回全国高等学校選抜バドミントン大会 女子ダブルス 優勝 世界ジュニアバドミントン選手権2023 女子ダブルス 3位
71	平本梨々菜	バドミントン	青森山田高校	令和4年度第51回全国高等学校選抜バドミントン大会 女子ダブルス 優勝 JOC ジュニアオリンピックカップ第42回全日本 ジュニアバドミントン選手権大会 ジュニアの部 女子ダブルス 優勝 世界ジュニアバドミントン選手権2023 女子ダブルス 3位
72	横内 美音	バドミントン	青森山田高校	JOC ジュニアオリンピックカップ第42回全日本 ジュニアバドミントン選手権大会 ジュニアの部 女子ダブルス 優勝
73	奈良岡功大	バドミントン	FWDグループ	世界バドミントン選手権大会2023 男子シングルス 2位 ワールドツアースーパー750中国マスターズ大会2023 男子シングルス 優勝
74	大竹 望月	バドミントン	BIPROGY	第66回全日本社会人選手権大会 女子ダブルス 優勝
75	高橋 美優	バドミントン	BIPROGY	第66回全日本社会人選手権大会 女子ダブルス 優勝
76	菅原 海斗	バドミントン	浪岡高校	グアテマラフューチャーシリーズ2023 男子シングルス 3位 バドミントンアジアジュニア選手権2023 団体 優勝
77	浅野 真央	バドミントン	青森山田中学校	韓国ジュニアインターナショナルチャレンジ2023 U17女子シングルス 優勝 U17女子ダブルス 3位
78	山田 奈瑚	アーチェリー	弘前医療福祉大学	特別全国障害者スポーツ大会アーチェリー競技 聴覚障害者女子リコープ30mダブルラウンド 優勝
79	丸子幸志郎	空手道	名川中学校	文部科学大臣杯第65回小学生・中学生全国空手道選手権大会 個人戦 中学3年生男子 形の部 優勝

	氏名	競技種目	所属	大会名及び成績
80	須藤 雄大	空手道	濤和館	第24回松涛連盟全国空手道選手権大会 一般2部 男子組手 優勝 一般2部3部 男子型 優勝
81	西村 海志	空手道	青森明の星高校	第42回全国高等学校空手道選抜大会 男子団体組手競技(3人制) 優勝
82	出町 梢真	空手道	青森明の星高校	第42回全国高等学校空手道選抜大会 男子団体組手競技(3人制) 優勝
83	廣瀬 尊	空手道	青森明の星高校	第42回全国高等学校空手道選抜大会 男子団体組手競技(3人制) 優勝
84	小向 夢庵	空手道	青森明の星高校	第42回全国高等学校空手道選抜大会 男子団体組手競技(3人制) 優勝
85	東 亮太	ゲートボール	十和田市ゲートボール協会	第39回全日本ゲートボール選手権大会 優勝
86	東 尚希	ゲートボール	十和田市ゲートボール協会	第39回全日本ゲートボール選手権大会 優勝
87	坪 直人	ゲートボール	上北郡ゲートボール協会	第39回全日本ゲートボール選手権大会 優勝
88	木村 光子	ゲートボール	弘前市ゲートボール協会	第39回全日本ゲートボール選手権大会 優勝
89	住吉 雅和	ゲートボール	平川市ゲートボール協会	第39回全日本ゲートボール選手権大会 優勝
90	大橋 至道	ゲートボール	青森市ゲートボール協会	第39回全日本ゲートボール選手権大会 優勝
91	枋木 司	バイアスロン	陸上自衛隊青森駐屯地 第5普通科連隊	第59回全日本選手権大会バイアスロン競技 男子4.5kmスプリント(一般銃) 優勝 男子4×4.5kmリレー(一般銃) 優勝 第94回宮様スキー大会国際競技会バイアスロン競技 男子4.5kmインディヴィデュアル(一般銃) 優勝
92	渡邊 美桜	バイアスロン	陸上自衛隊青森駐屯地 第5普通科連隊	第59回全日本選手権大会バイアスロン競技 女子ジュニアスプリント(一般銃) 優勝
93	高畑 弘也	バイアスロン	陸上自衛隊青森駐屯地 第5普通科連隊	第59回全日本選手権大会バイアスロン競技 男子4×4.5kmリレー(一般銃) 優勝
94	船水 大也	バイアスロン	陸上自衛隊青森駐屯地 第5普通科連隊	第59回全日本選手権大会バイアスロン競技 男子4×4.5kmリレー(一般銃) 優勝
95	板橋 達基	バイアスロン	陸上自衛隊青森駐屯地 第5普通科連隊	第59回全日本選手権大会バイアスロン競技 男子4×4.5kmリレー(一般銃) 優勝
96	小田桐 咲	武術太極拳	(株)金入	第40回全日本武術太極拳選手権大会 女子 伝統器械 優勝
97	鈴木 凜	カーリング	青森明の星高校	第18回全農全国高等学校カーリング選手権大会 女子の部 優勝
98	永谷 純奈	カーリング	青森東高校	第18回全農全国高等学校カーリング選手権大会 女子の部 優勝
99	相澤 天	カーリング	青森高校	第18回全農全国高等学校カーリング選手権大会 女子の部 優勝
100	松山 心優	カーリング	青森山田高校	第18回全農全国高等学校カーリング選手権大会 女子の部 優勝

	氏名	競技種目	所属	大会名及び成績
101	柳谷 広晴	カーリング	浦町中学校	第2回全農全日本中学生カーリング選手権大会 優勝
102	三上 拓仁	カーリング	浦町中学校	第2回全農全日本中学生カーリング選手権大会 優勝
103	鹿野 悠太	カーリング	浦町中学校	第2回全農全日本中学生カーリング選手権大会 優勝
104	三上 滉人	カーリング	浦町中学校	第2回全農全日本中学生カーリング選手権大会 優勝

青森県スポーツ努力賞（5名）

	氏名	競技種目	所属	大会名及び成績
1	福井 瑠那	ボクシング	泉川小学校	第3回全日本マスコクシング選手権大会 ゴールデンキッズ小学生低学年女子125cmまで 優勝
2	岡山 裕弥	相撲	篠田小学校	第19回全国少年相撲選手権大会 6年生の部 優勝 第36回全日本小学生相撲優勝大会 6年生の部 優勝
3	新井田心路	相撲	田子小学校	第4回わんぱく相撲女子全国大会 5年生の部 優勝
4	成田 皇大	空手道	筒井小学校	第61回全国防具付空手道選手権大会 組手競技 小学6年生男子部門 優勝
5	工藤 穂月	空手道	小湊小学校	文部科学大臣杯第65回小学生・中学生全国空手道 選手権大会 個人戦 小学6年生女子 形の部 優勝

青森県スポーツ・レクリエーション奨励賞

- 1 地域又は職域において、引き続き10年以上スポーツ・レクリエーション活動の企画・指導に当たり、その普及・振興に尽くした者

	氏名	年齢	住所	活動年数	実績
1	北山 誠	72歳	弘前市	44年	平成26年から現在に至るまで、青森県ハング・パラグライディング連盟の役員を務め、幅広い知識と経験を活かし、指導活動を行うとともに、クラブ間の交流活動の調整を行うなど、スカイスポーツの普及・発展に尽力した。
2	鎌田 修三	68歳	黒石市	25年	平成17年から現在に至るまで、青森県ボウリング連盟の役員を務め、大会運営や多くの競技力向上対策に取り組みとともに、競技役員等に対する各種研修会を企画するなど、ボウリング競技の普及・推進に尽力した。

2 地域のスポーツ・レクリエーションの普及・振興のため、市町村域または広域のスポーツ振興に功績のあった団体で次の条件を満たすもの

ア 引き続き5年以上活動し、会員等の構成員がおおむね10名以上であること

イ 活動と運営が、定期的、計画的かつ組織的に行われていること

(五十音順)

	団体名	主な功績
1	むつ市ベタンク協会	ベタンク協会の普及・振興を図り、市民の健康づくりに寄与することを目的に活動しており、市民大会の運営や初心者等を対象としたスポーツ教室を開催するとともに、近隣市町村での競技普及に取り組むなど、むつ市内のみならず、下北地区の健康増進や市町村交流に貢献している。

3 新たなスポーツ・レクリエーションの種目や用具を開発し、県民のスポーツ・レクリエーション活動の普及・振興に功績のあった者又は団体

団体名又は氏名	主な功績
該当なし	

4 全国を統括する連盟・協会が主催する大会において、優秀な成績を収め表彰された者若しくは団体又は顕著な活動・功績により表彰された者若しくは団体

	氏名	種目	市町村	大会名及び成績
1	芳賀裕美子	マスターズ陸上	十和田市	2023全日本マスターズ競歩大会 W70 5kmW 優勝
2	田中 博男	マスターズ陸上	青森市	世界マスターズ室内陸上競技選手権 M90 200m 優勝
3	新山 さつ	マスターズ陸上	東北町	第44回全日本マスターズ陸上競技選手権大会 2023山口大会 W75 3000mW 優勝

2 学校給食関係

令和5年度学校給食表彰(文部科学大臣表彰)

<個人>

鳴海 祐子(青森市立三内西小学校 元栄養教諭)

令和5年度青森県学校給食表彰(県教育長表彰)

本表彰は、学校給食の普及と充実を図るため、学校給食実施上優れた効果をあげている学校、学校給食共同調理場、個人及び団体に対して青森県教育委員会教育長が行うものです。

<学校>

青森市立幸畑小学校 (校長 西村 健)

つがる市立穂波小学校 (校長 千葉 義幸)

八戸市立南郷小学校 (校長 小笠原 一彦)

<個人>

浅利由美子	(青森市立三内西小学校 栄養教諭)
木村雪乃	(五所川原市立松島小学校 栄養教諭)
宮内郁江	(八戸市立桔腓野小学校 栄養教諭)

3 学校保健関係

学校保健及び学校安全表彰

文部科学大臣表彰

学校保健関係

個人の部

田中幸子	元学校医	(弘前市)
阿保憲興	元学校歯科医	(青森市)
福士光喬	学校薬剤師	(十和田市)

学校の部

なし

学校安全関係

なし

青森県教育委員会教育長表彰

本表彰は、学校保健及び学校安全の普及と向上を図るため、これらに関して顕著な功績をあげた学校保健及び学校安全関係者、学校、団体に対して青森県教育委員会教育長が行うものです。

学校保健関係

<個人>

佐藤藏人	学校歯科医	(青森市)
波多野潤一	学校歯科医	(弘前市)
松尾芳明	学校歯科医	(八戸市)
工藤清太郎	学校医	(八戸市)
福士みどり	学校薬剤師	(青森市)
高橋秀知	学校医	(八戸市)
伊藤千春	学校医	(黒石市)
佐藤志津子	学校薬剤師	(黒石市)
佐々木均	学校医	(青森市)
木村文祥	学校医	(青森市)
柳田隆	学校歯科医	(県立八戸商業高等学校)
松尾將之	学校歯科医	(三戸町)
田村研	元学校医	(県立むつ工業高等学校)

<学校>

なし

学校安全関係

<個人>

なし

<学校>

なし

青森県学校保健会長表彰

本表彰は、学校保健の普及と向上に関して、顕著な功績をあげた学校保健関係者、学校及び団体に対して、青森県学校保健会会長が行うものです。

<個人>

細川 興一 学校薬剤師 (十和田市)
田中 志昌 学校歯科医 (むつ市)
大津 匡志 学校歯科医 (弘前市)
菊池 和義 元学校医 (青森市)
小山内 幹浩 学校医 (大鰐町)

<学校・団体>

八戸市立三条小学校 (校長 在家 正行)
平内町学校保健会 (会長 中屋 久美子)

学校歯科保健優良校

<小学校>

小規模校 県一 三沢市立三川目小学校
中規模校 県一 三沢市立三沢小学校
大規模校 県一 三沢市立岡三沢小学校

<中学校>

小規模校 県一 つがる市立稲垣中学校
大規模校 該当なし

<高等学校>

応募なし

<特別支援学校>

応募なし

<幼稚園>

県一 認定こども園百石幼稚園

歯・口の健康児童表彰

感染症予防の観点より実施せず

歯科保健図画・ポスター・標語の表彰

図画・ポスター

小学校低学年の部	特選	五所川原市立三好小学校	3年	木村 瑠愛
小学校高学年の部	特選	八戸市立小中野小学校	5年	知野 和仁
中学校の部	特選	八戸市立第二中学校	1年	鈴木 寿理
高等学校の部	特選	八戸工業大学第二高等学校	2年	相内 奏空

標語

特選 むつ市立関根中学校 1年 増田 美優

第 2 部 教 職 員

第2部 教 職 員

1章 教職員の配置

1節 教職員の配置基準

1 公立小学校及び中学校の教職員配置基準は、次のとおりとする。学級数については、県が定める学級編制基準による。

1 小 学 校

〔1〕校 長

1校に1人とする。

〔2〕教員（教頭・教諭）

次の表のとおり配置する。

教員数には教頭を含むものとする。

学級数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
教員数	2	3	4	5	6	8	9	10	11	12	13	14	15	16	18
学級数	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
教員数	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	31	32	33	34

特別支援学級（各障害種別）において、担当教員1人当たりの指導児童数が、平均して6人を超える学校には、1人増配置する。

指導方法の工夫改善等に積極的に取り組む学校には、学級数及び児童数を勘案し、別途配置する。

〔3〕養 護 教 諭

4学級以上の学校に1人とする。

3学級以下の学校については、児童数、施設、設備、学校保健活動の推進状況等を勘案し、努めてへき地に重点をおいて配置するものとする。

児童数が851人以上の学校に1人増配置する。

以外の学校については、児童数及び保健室登校等学校事情を勘案し、1人増配置する。

〔４〕事務職員

４学級以上の学校に１人とする。

３学級以下の学校については、次のとおりとする。

ア 児童数が25人以上の学校に１人とする。

イ 中学校が併置されている場合は、児童及び生徒の数が合わせて25人以上の学校に１人とする。

27学級以上の学校に１人増配置する。

要保護及び準要保護児童が100人以上、かつその学校の児童数に対する割合が25/100以上の場合、児童数及び学校事務処理体制等の事情を勘案し、必要があると認められる学校に１人増配置する。

事務の共同実施による事務部門の強化対応を行う学校には、別途配置する。

〔５〕栄養教諭・学校栄養職員

学校給食（給食内容がミルクのみである給食を除く。以下同じ。）を実施する共同調理場については、次のとおりとする。

ア 児童及び生徒の数が1,500人以下の共同調理場に１人とする。

イ 児童及び生徒の数が1,501人以上6,000人以下の共同調理場に２人とする。

ウ 児童及び生徒の数が6,001人以上の共同調理場に３人とする。

学校給食の単独実施校については、次のとおりとする。

ア 児童及び生徒の数が550人以上の単独実施校に１人とする。

イ 児童及び生徒の数が550人以上の単独実施校を有しない市町村に１人とする。

ただし、共同調理場に栄養教諭又は学校栄養職員（以下「栄養教諭等」という。）が配置される市町村は除く。

ウ 栄養教諭等が配置されていない単独実施校を８校以上有している市町村に１人とする。

エ 栄養教諭等が配置されていない単独実施校の児童及び生徒の数が合わせて800人以上の町村に１人とする。

オ 上記以外の単独実施校については、児童及び生徒の数及び学校数等を勘案し配置する。

児童の食に関する指導に積極的に取り組む学校には、児童数等を勘案し、１人増配置する。

児童の食に関する指導体制の整備に積極的に取り組む市町村には、取組状況等を勘案し、上記～の人数の範囲内で、栄養教諭を配置する。

2 中 学 校

〔1〕校 長

1校に1人とする。

ただし、小学校が併置されている場合は、小学校の校長が兼務するものとする。

〔2〕教員（教頭・教諭）

次の表のとおり配置する。

教員数には教頭を含むものとする。

学級数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
教員数	3	5	7	8	10	11	12	13	15	17	18	19	20	22	24
学級数	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
教員数	25	27	29	30	32	33	35	36	37	39	40	42	43	45	47

特別支援学級（各障害種別）において、担当教員1人当たりの指導生徒数が、平均して6人を超える学校には、1人増配置する。

学校規模が14学級以上の上記教員数には、生徒指導専任教諭1人を含むものとする。

指導方法の工夫改善等に積極的に取り組む学校には、学級数及び生徒数を勘案し、別途配置する。

〔3〕養 護 教 諭

4学級以上の学校に1人とする。

3学級以下の学校については、生徒数、施設、設備、学校保健活動の推進状況等を勘案し、努めてへき地に重点をおいて配置するものとする。

生徒数が801人以上の学校に1人増配置する。

以外の学校については、生徒数及び保健室登校等学校事情を勘案し、1人増配置する。

小学校が併置されている場合は、小学校の養護教諭が兼務するものとする。ただし、又はを満たし、かつ、小学校に配置がない場合、中学校に1人とし、小学校の養護教諭を兼務するものとする。

〔4〕事 務 職 員

4学級以上の学校に1人とする。

3学級以下の学校については、生徒数25人以上の学校に1人とする。

21学級以上の学校に1人増配置する。

要保護及び準要保護生徒が100人以上、かつその学校の生徒数に対する割合が25/100以上の場合、生徒数及び学校事務処理体制等の事情を勘案し、必要があると認められる学校に1人増配置する。

事務の共同実施による事務部門の強化対応を行う学校には、別途配置する。

小学校が併置されている場合は、小学校の事務職員が兼務するものとする。ただし、又

は を満たし、かつ、小学校に配置がない場合、中学校に 1 人とし、小学校の事務職員を兼務するものとする。

(5) 栄養教諭・学校栄養職員

小学校に同じ。

2 弾力的な学級編制による学級増に伴う教職員の配置については、次のとおりとする。

1 県が実施する弾力的な学級編制

小学校

1 学級増につき教諭又は講師を 1 人とする。

中学校

1 学級増につき教諭又は講師を、上記 1 中学校 2 (1) の基準により 1 人又は 2 人とする。

2 市町村が独自に実施する弾力的な学級編制

県費負担教職員の配置は行わないため、授業時間数の増加などによって現有の教員に著しい負担を課すことのないよう、実施市町村において適切に措置すること。

3 併置又は併設型の小中一貫教育推進校においては、指導計画や教育環境の整備状況及び学校規模等の学校事情を勘案し、協議の上、上記 1 によらない教職員の配置をすることができるものとする。

2 節 学級編制の基準

令和5年度学級編制について

1 学級編制基準

県が定める学級編制基準である、公立小学校及び中学校の1学級の児童生徒数の標準は、下表のとおりとする。

学級編制の区分	学校種別	小 学 校	中 学 校
単 式 学 級		第1～4学年 35 第5・6学年 40	40
2 個 学 年 複 式 学 級 (1)	第1学年の児童 を含む場合	8 (4)	8 (4)
	第1学年の児童 を含まない場合	16 (8)	
特 別 支 援 学 級 (2)		8	8

1 「2個学年複式学級」とは、引き続き2の学年の児童又は生徒で編制する学級をいい、()内の数字は、2の学年の間に児童又は生徒の存しない学年がある場合(いわゆる「飛び複式学級」)のいずれか一方の学年の児童生徒数である。

2 「特別支援学級」は、2以上の学年の児童又は生徒の数の合計が8人以下である場合は1学級に編制する。

学級は同学年で編制するのが原則であり、できる限り少ない個数の学年で編制し、同学年の児童生徒数は分割しない。

児童生徒数が8人を下回っている下の学年から順に編制する。ただし、必ずしも引き続き学年によることを要しない。

2 県が実施する弾力的な学級編制について

「単式学級」において、小学校全学年及び中学校1学年及び2学年は、上記1の表の学級編制基準(以下「基準」という。)により学年2学級以上の場合、児童生徒数の上限を33人とすることができる。

なお、33人を上限とした場合の学級増は、学年毎に1学級までとする。

2章 教職員の異動

1節 小・中学校

1 異動方針

全県的な視野に立って、教職員の適正配置と人事の刷新を図り、本県教育の振興を期するため、市町村教育委員会との緊密な連携のもと、次の方針によって、市町村立学校の県費負担教職員の異動を行う。

〔1〕基本方針

教育効果の向上を図るための異動を積極的に推進する。
地域及び学校の特性を勘案のうえ、職員組織の適正化に努める。
へき地学校の職員組織の充実強化を図る。
特別支援教育に当たる職員の適正配置に努める。
勤務地の固定化の解消に努める。
広域にわたる人事の交流を推進する。

〔2〕実施方針

年齢、経歴、性別、特性等を考慮して職員組織の適正を図る。中学校の場合は、特に所持免許状の教科（又は得意教科）を十分考慮する。

同一校勤務3年未満の者は、原則として転任させない。

同一校勤務10年以上の者は、努めて転任させる。

同一町村に引き続き10年以上勤務した者及び同一市に引き続き15年以上勤務した者は、他の市町村へ努めて転任させる。

校長、教頭等については、全県的な視野で交流を図る。

校長の新規採用及び教頭の昇任に当たっては、原則として他の市町村に配置する。

新規採用者の配置については、初任者研修の実施等を考慮し、必要な調整を行う。また、特別の事情がある場合のほか、努めて出身地を避ける。

計画的他管交流により転出した者については、他管交流者名簿を作成し、原則として3年勤務したのちに、特に意を用いて異動させる。

へき地学校に相当期間勤務した者については特に意を用い、へき地学校勤務者名簿を作成し、希望地又はへき地学校以外の学校との交流を図る。

特別支援学級担当者については特に意を用い、特別支援教育の専門性を有する教員を適正に配置するように努める。

特別の事情がある場合のほか、近親者の同一校勤務を避ける。

2 人事異動の結果

令和6年度の人事異動は、学校及び地域の特性を勘案し、活力ある教育活動が展開されるよう、校長、教頭については、充実した学校経営を期して、人格、識見、指導力のある人材を適所に配置することに努めた。一般教職員については、勤務校固定化の解消、職員組織の活性化を図るとともに、職員個々の能力・適性を生かす配置をすることに努めた。

校長については、退職者が小学校35人、中学校19人、役職定年者が小学校19人、中学校12人、教育行政機関等への転出者12人、計97人に対し、校長採用者は、小学校70人、中学校27人、計97

人となった。

この97人の内訳は、小・中学校教頭から新たに登用された者77人、教育行政機関等から採用された者20人であった。

また、校長の転任者は52人（前年度52人）であった。

教頭については、小・中学校教諭から新たに登用された者66人（前年度34人）、教育行政機関等から採用された者が36人、また、転任が71人（前年度76人）であった。

一般職員の転任については、小・中学校合わせて935人となり、前年度1,039人を104人下回る数となった。

これらの異動のうち、へき地交流者数は111人（前年度111人）、他管交流者は73人（前年度66人）である。また、同一校10年以上勤務者については、小学校54人（解消率90.0%）、中学校35人（解消率87.5%）の異動を行った。

小・中学校全体の異動総数（退職・採用・昇任・転任の計）は2,034人となり、前年度の2,261人を227人下回る異動となった。

令和6年度 小・中学校異動集計表

		校長	教頭	教諭	養護教諭	事務職員	栄養教諭 栄養職員	計	5年度
退 職	定年								308
	勸奨	3	2	55	4	2		66	54
	普通	51	7	81	6	5		150	31
小計		54	9	136	10	7		216	393
退 職 等	他県へ			1	1			2	11
	弘大附属へ			8	2			10	9
	高等学校へ			1				1	
	特別支援学校へ			5				5	7
	教育庁へ	4	5	18		6		33	26
	市町村へ	8	7	20				35	42
	三本木高附属中へ			3				3	3
	知事部局へ			1				1	1
	弘大教育学部へ(教職大学院)								1
	暫定再任用終了			95	5	12		112	79
	役職定年(教諭へ)	31	3					34	
	その他(栄養教諭等へ)						1	1	1
合計		97	24	288	18	25	1	453	573
転任・免職採用		52	71	835	51	48	1	1,058	1,164
採 用 等	他県から			13				13	19
	弘大附属から		1	7	2			10	8
	高等学校から			1				1	2
	特別支援学校から			5				5	6
	教育庁から	9	16	2		2		29	28
	市町村から	11	18	1				30	38
	三本木高附属中から			3				3	1
	知事部局から		1					1	1
	弘大教育学部から(教職大学院)								1
	暫定再任用へ								124
新 規	役職定年から			34				34	
	定年前再任用へ			14		1		15	
	新規学卒			95	7	12		114	100
	講師から			109	4			113	105
	その他	77	66	5		6	1	155	91
	小計	77	66	209	11	18	1	382	296
合計		97	102	289	13	21	1	523	524
総計		246	197	1,412	82	94	3	2,034	2,261

2節 県立学校

1 異動方針

職員の適正配置と人事の刷新を図り、本県教育の振興を期すため、次の方針によって県立学校職員の異動を行う。

(1) 基本方針

教育効果の向上を図るための異動を積極的に推進する。

地域及び学校の特性を勘案のうえ、職員組織の適正化に努める。

郡部と市部、高等学校と特別支援学校、高等学校の各課程間の相互の交流を図る。

市町村教育委員会との連携を密にして、市町村立学校職員との交流を考慮する。

勤務校の固定化の解消に努める。

広域にわたる人事の交流を推進する。

(2) 実施方針

年齢、経歴、性別、特性、所持免許状の教科等を考慮して、職員組織の適正を図る。

教頭及び事務長については、特に意を用い、適任者の配置に努める。

同一校（全日制・定時制・通信制の各課程はそれぞれ1校と見なす。以下同じ。）勤務3年未満の者は、原則として転任させない。

同一校勤務10年以上の者は、原則として転任させる。

定時制課程又は通信制課程に相当期間勤務した者は、特に意を用いて異動させる。

校長の新規採用に当たっては、原則として他の地域に配属する。

新規採用者の配置については、特別の事情がある場合のほか、出身地を避ける。

特別の事情がある場合のほか、近親者の同一校勤務を避ける。

関係学校長の意見を聞いて異動の適正を期する。

2 人事異動の結果

令和6年度県立学校職員の人事異動に当たって特に意を用いたことは、前年度に引き続き、学校及び地域の特性を勘案し、活力ある教育活動が展開されるよう、校長、教頭については、充実した学校経営を期して、人格、識見、指導力のある人材を適所に配置したこと、併せて女性の管理職への登用にも意を用いたこと、一般職員については、勤務校固定化の解消、職員組織の活性化を図るとともに、職員個々の能力・適性を生かす配置に努めたことなどであった。

校長については、退職者等15人、校長採用者は教頭から新たに登用された者が10人、教育行政機関からの採用が5人、転任者数が15人の併せて45人の異動となった。

教頭については、退職者3人、教育行政機関への転出者4人、校長への採用者10人、教頭採用・昇任者は、教諭から新たに登用された者が17人、教育行政機関等からの採用が3人であった。また、転任者は22人であった。

一般教職員については、退職者164人、採用者121人、転任者348人の異動となった。

これらの異動のうち、全日制同一校勤務10年以上の解消者数は33人、定・通同一校勤務5年以上の解消者数は12人、特別支援学校同一校勤務10年以上の解消者数は17人となった。

全・定交流については、全日制から定時制・通信制へ13人、定時制・通信制から全日制へ24人

であった。

この結果、県立学校の異動総数（退職・採用・昇任・転任の合計）は、749人となり、前年度の985人を236人下回った。

令和6年度 県立学校教職員異動集計表

（高等学校、特別支援学校（盲・聾・養護学校）、県立中学校）

		校 長		教 頭		教 諭		養護教諭		実習助・寄宿		事務・単労・栄養		計	
		前年度	前年度	前年度	前年度	前年度	前年度	前年度	前年度	前年度	前年度	前年度	前年度	前年度	
退	定 年	14		15		70		1		6		16		122	
	勸 奨					6	12			1		2		9	
職	普 通	6		3		16	3	2	1	2	1	6	4	35	
	小 計	6	14	3	15	22	85	2	2	3	7	8	20	44	
退	他県公立学校へ					2			1					2	
	弘大附属へ				1	5	3							5	
職	県内小中学校へ					9	6		2			1		9	
	教育庁へ	1	2	4	4	19	18	1				7	5	32	
等	市町村へ						1						1	2	
	知事部局へ					5	2			1			1	6	
等	独立行政法人等へ				1	2	2							2	
	暫定再任用終了					57	45		1	6	3	12	6	75	
等	役職定年(教諭へ)	8		5								3		16	
	その他(栄養教諭等へ)														
合 計		15	16	12	21	121	162	3	6	10	10	30	34	191	
転	全日制 全日制	10	9	7	13	147	222	1	11	8	25	14	42	187	
	全日制 定通制				3	9	18	2	4		1	2	2	13	
任	定通制 全日制			4	3	13	9	2	3	2	2	3	4	24	
	定通制 定通制			1	1	2	4	1				1		5	
任	特支 高校			2	1		4			1		4	1	7	
	高校 特支		1			1	1	1	1		1	2		4	
等	高校 特支	5	5	8	8	104	96	5		13	16	10	9	145	
	高校 県立中														
等	県立中 高校														
	合 計	15	15	22	29	276	354	12	19	24	45	36	58	385	
採	新規学卒					6	8		1			10	2	16	
	講師から					46	41	1		2	1			49	
用	昇任・その他	10	7	17	17	9	6			3	4	9	8	48	
	小 計	10	7	17	17	61	55	1	1	5	5	19	10	113	
等	他県公立学校から					5	4							5	
	弘大附属・民間人から			1	1	3	2							4	
等	県内小中学校から					9	9					1		9	
	教育庁から	5	3	1	5	10	15	1	1			4	2	21	
等	知事部局から			1		1	1							2	
	独立行政法人等から		1			2	2							2	
等	暫定再任用へ						60			3		11		74	
	役職定年から					13						3		16	
等	定年前再任用へ					1								1	
	合 計	15	11	20	23	91	148	2	2	5	8	23	24	173	
総 計		45	42	54	73	488	664	17	27	39	63	89	116	749	

3章 採用・昇任・退職

1節 採用・昇任

1 小・中学校校長

公立小・中学校の校長の採用候補者の選考制度は、昭和40年度から実施してきた。

選考は、校長の職務の重要性にかんがみ、教育に関する理念や識見を有し、リーダーシップを発揮し、組織的・機動的な学校運営を行うことができる資質を持つ優れた人材を確保するため実施するものとした。

選考の対象は、下記に該当する者である。

教職経験年数が10年以上の者。

教頭等経験年数は2年以上とする。教頭等経験年数には、国立学校にあつては、公立学校の教頭に準ずる職にあつた期間を含む。

年齢は40歳以上、58歳未満とする。

原則として小・中・高教諭又は養護教諭の専修免許状又は一種（一級）免許状所持者。

選考方法は、調書を提出させ、その者について面接を行った。

（面接は、令和5年12月9日（土）、12月10日（日）の2日間、青森工業高校で実施）

教育事務所管内別出願・採用状況

項目	教育事務所名								計
	東 青	西 北	中 南	上 北	下 北	三 八	国 立		
出 願 者 数	67	41	62	57	24	79	0	330	
受 験 者 数	67	41	61	56	24	77	0	326	
採 用 者 数	19	17	17	21	5	18	0	97	

年 齢 別 受 験 ・ 採 用 状 況

項目	年 齢				計
	40～44	45～49	50～54	55～	
受 験 者 数	0	18	195	113	326
採 用 者 数	0	0	34	63	97

2 小・中学校教頭

公立小・中学校の教頭候補者選考は、従来、市町村教育委員会教育長から推せんされた者の中から選考してきたが、昭和54年から出願制度に改めた。

選考は、教頭の職務の重要性にかんがみ、教育に関する理念や識見及び優れた資質能力を有する人材を広く求めるため実施するものとした。

選考の対象は、下記に該当する者である。

教職経験年数が10年以上の者。

年齢は38歳以上とする。

原則として小・中学校の教諭又は養護教諭の専修免許又は一種（一級）免許状所持者。

論述試験は、令和5年8月10日（木）、各教育事務所ごとに、青森工業高校（東青）、五所川原工科高校（西北）、弘前工業高校（中南）、十和田工業高校（上北）、むつ工業高校（下北）、八戸中央高校（三八）の6会場で実施した。

面接は、令和5年11月3日（金）、11月4日（土）の2日間、論述試験合格者に調書を提出させ、その者について、県総合学校教育センターで実施した。

教育事務所管内別出願・昇任状況

教育事務所名 項目	東 青	西 北	中 南	上 北	下 北	三 八	県立・ 国立等	計
出 願 者 数	119	50	96	124	30	124	21	564
受 験 者 数	115	47	94	120	28	118	21	543
面 接 者 数	56	25	39	52	15	54	9	250
昇 任 者 数	23	16	17	19	5	21	1	102

年 齢 別 受 験 ・ 昇 任 状 況

年 齢 項目	38～39	40～44	45～49	50～54	55～	計
受 験 者 数	13	111	201	185	33	543
昇 任 者 数	0	0	44	56	2	102

3 県立学校校長

県立学校の校長候補者選考は、平成17年度から出願制度とした。

選考は人物、勤務実績等を十分に考慮して、単に管理職にある者に必要とされる知識のみならず、県立学校の校長としての職務の重要性に鑑み、教育に関する理念や識見を有し、リーダーシップを発揮し、組織的・機動的な学校運営を行うことができる資質を持つ優れた人材を確保するため実施した。

選考対象者

県立学校に勤務する教頭で、令和6年3月31日に次の、のいずれも満たす者とする。

年齢が57歳以下の者

教頭の職に2年以上ある者（充て指導主事（教頭）を含む）

選考方法

出願者全員を対象に、「論述試験 - 実践レポート - 」を提出させ、令和5年10月7日（土）総合学校教育センターにおいて、「面接」を行った。

出願状況

項目	年齢					計
	49～50	51～52	53～54	55～56	57～58	
出願者数	1人	2人	18人	18人	10人	49人
採用者数	0	0	3	4	3	10

4 県立学校教頭

県立学校の教頭候補者選考は、平成15年度から出願制度とした。

選考は、人物、勤務実績等を十分に考慮して、単に管理職にある者に必要とされる知識のみならず、県立学校の教頭としての職務の重要性に鑑み、教育に関する理念や識見及び優れた資質能力を有する人材を広く求めるために実施した。

選考対象者

県内の国・公立学校に勤務する職員で、令和6年3月31日に次の、のいずれも満たす者とする。

教育に関する職に10年以上ある者

年齢が40歳以上の者

小学校・中学校の教諭の専修免許状若しくは一種（一級）免許状、高等学校の教諭の専修（一級）免許状若しくは一種（二級）免許状、養護教諭の専修免許状若しくは一種（一級）免許状、特別支援学校の自立教科教諭の一種免許状を所持している者

選考方法

第1次選考

出願者全員に「論述試験 - 実践レポート - 」を提出させた。

第2次選考

第1次選考結果により、令和5年10月28日（土）県総合社会教育センターにおいて、「小論文」及び「面接」を行った。

出願状況

項目 \ 年齢	40～44	45～49	50～54	55～59	計
第1次選考対象者数	2人	37人	62人	4人	105人
第2次選考対象者数	1	22	30	1	54
昇任者数	0	4	13	1	18

5 教 員

令和6年度教員採用候補者選考の第一次試験は、令和5年7月22日（土）、青森工業高等学校、青森商業高等学校、青森東高等学校及び都道府県会館（東京都）の4会場において、筆記試験（一般・教職教養及び教科専門（小学校は全教科））を実施した。

第二次試験は、第一次試験通過者を対象に、令和5年9月23日（土）、24日（日）、青森高等学校及び青森西高等学校において小論文、面接（集団討論・個人面接）、適性検査、実技試験を実施した。実技試験は、中学校及び高等学校については音楽、美術、書道、保健体育、家庭、英語を行った。

また、昨年度に引き続き、スポーツの分野において特に優秀な実績を有する者を対象とした「スポーツ特別選考」、障害がある者がより受験しやすいよう障害の種類や程度に応じて必要な配慮をする「障害者特別選考」及び民間企業等の勤務経験があり、優れた知識・技能を有する人材を学校教育に積極的に活用していくため、「社会人特別選考」を実施した。

令和6年度青森県公立学校教員採用候補者選考試験総括表

区分 校種等	応募者数 (一般選考+特別選考)			総受験者数 (入水特面按通過者を含む)			採用候補者合計 (一般選考+特別選考)			辞退者数 (採用延期者を含む)			本採用者数			
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
小学校	(6) 61	(16) 100	(22) 161	(6) 58	(16) 98	(22) 156	(3) 45	(10) 90	(13) 135	2	(1) 14	(1) 16	(3) 44	(9) 79	(12) 123	
中学校	国語	8	(2) 16	(2) 24	8	(2) 16	(2) 24	3	(1) 5	(1) 8	(1)	(1)	3	5	8	
	社会	(13) 60	(11) 16	(24) 76	(12) 59	(11) 16	(23) 75	16	(2) 2	(4) 18	1		(2) 15	(2) 2	(4) 17	
	数学	(1) 32	13	(1) 45	(1) 32	13	(1) 45	14	6	20		1	1	14	6	20
	理科	(1) 14	(3) 5	(4) 19	(1) 13	(3) 4	(4) 17	7	(2) 2	(2) 9			7	(2) 2	(2) 9	
	音楽	(1) 2	(2) 28	(3) 30	(1) 2	(2) 28	(3) 30		7	8			1	7	8	
	美術		3	3		3	3		2	2				3	3	
	保健体育	(11) 63	(12) 33	(23) 96	(10) 60	(12) 31	(22) 91	(2) 9	(2) 5	(4) 14			(2) 9	(2) 5	(4) 14	
	技術	8		8	8		8	3		3			3		3	
	家庭		6	6		6	6		1	1				1	1	
	英語	(1) 15	(4) 32	(5) 47	(1) 15	(4) 28	(5) 43	7	9	16				7	(1) 9	(1) 16
小計	(28) 202	(34) 152	(62) 354	(26) 197	(34) 145	(60) 342	(4) 60	(8) 39	(12) 99	1	(1) 1	(1) 2	(4) 59	(7) 40	(11) 99	
高等学校	国語	11	12	23	11	11	22		3	4			(1) 1	3	(1) 4	
	公民	(3) 19	(2) 5	(5) 24	(3) 16	(2) 2	(5) 18	(1) 1		(1) 1			(1) 1		(1) 1	
	地理歴史	(2) 23	8	(2) 31	(2) 22	8	(2) 30	(1) 1		(1) 2			(1) 1	1	(1) 2	
	数学	23	(1) 3	(1) 26	23	(1) 2	(1) 25	(1) 1		(1) 1			(1) 1		(1) 1	
	物理	9	2	11	9	2	11	1		1			(1) 1		(1) 1	
	化学	8	1	9	8	1	9	2		2			2		2	
	生物	7	(1) 5	(1) 12	6	(1) 4	(1) 10		1	(1) 2			1	(1) 1	(1) 2	
	地学	2		2	2		2									
	音楽	2	5	7	1	4	5		1	1				1	1	
	美術		7	7	0	7	7		1	1				1	1	
	書道	3	4	7	3	4	7		1	1				1	1	
	保健体育	(12) 67	(5) 18	(17) 85	(12) 65	(5) 17	(17) 82	(4) 2	(2)	(6) 4			(4) 2	(2) 2	(6) 4	
	家庭	4	9	13	4	9	13		1	1				1	1	
	英語	9	12	21	9	11	20		2	2		1	1		1	
	商業	11	4	15	11	4	15	1		1				1	1	
	農業	(1) 10	3	(1) 13	(1) 10	3	(1) 13	(1) 1		(1) 1			(1) 1		(1) 1	
	工業(薬)	4	1	5	3	1	4	1		2			1	1	2	
工業(薬)	8		8	7		7	1		1			1		1		
水産(水産)	1		1	1		1										
水産(水産)	2		2	2		2	1		1			1		1		
情報	(5) 14	(1) 2	(6) 16	(5) 14	(1) 2	(6) 16						(2)	(1)	(3)		
小計	(23) 237	(10) 101	(33) 338	(23) 227	(10) 92	(33) 319	(12) 15	(4) 14	(16) 29		1	1	(12) 15	(4) 13	(16) 28	
特別支援学校	(57)	(60)	(117)	(55)	(60)	(115)	(19)	(22)	(41)		(2)	(2)	(19)	(20)	(39)	
養護教諭		89	89		87	87		11	11					12	12	
栄養教諭	1	17	18	1	17	18		1	1				1	1		
合計	558	519	1,077	538	499	1,037	(139)	(177)	316	3	18	21	137	165	302	

()は特別支援学校で外数

「辞退者数」には、教職大学院進学予定者及び在学中の採用候補者における次年度以降への採用延期者(小学校5名、中学校2名)を含む。

2節 退職勸奨

1 学校職員の退職勸奨基準

学校職員(県立学校の職員及び市町村立学校の県費負担教職員をいう。以下「職員」という。) に係る退職の勸奨については、公務能率の維持向上を図ること等を目的とし、毎年度この基準の定めるところにより行うものとする。

各年度における退職の勸奨は、満年齢が50歳以上で、かつ、退職日における勤続期間が20年以上の職員のうち、退職の勸奨を行うことを適当と認める職員について行う。

退職の勸奨を受けて退職する職員の退職日は、原則として勸奨を受けた年度の末日(以下「原則退職日」という。) とする。ただし、特別の事情が認められる場合は、原則退職日の前日までに退職させることができる。

退職の勸奨の実施に関し必要な事項は、教育長が定める。

令和5年度末勸奨退職者数

校種 職種 教育 事務所	小学校				中学校				県立学校 (高校・特別支援)				計			
	校 長	教 員	その 他の 職員	計	校 長	教 員	その 他の 職員	計	校 長	教 員	その 他の 職員	計	校 長	教 員	その 他の 職員	計
	東 青	1	12	-	13	-	1	-	1	-	-	-	-	1	13	-
西 北	-	13	-	13	-	2	-	2	-	-	-	-	0	15	-	15
中 南	1	10	-	11	-	2	-	2	-	-	-	-	1	12	-	13
上 北	-	5	1	6	-	2	1	3	-	-	-	-	-	7	2	9
下 北	1	2	-	3	-	0	-	0	-	-	-	-	1	2	-	3
三 八	-	8	-	8	-	4	-	4	-	-	-	-	-	12	-	14
県 立	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	3	9	-	12	-	12
計	3	50	1	54	-	11	1	12	-	6	3	9	3	73	2	80

4章 給 与 等

1 令和5年度における人事委員会勧告

令和5年10月6日、人事委員会は、県議会及び知事に対して職員の給与等に関する報告を行い、併せて、地方公務員法に定める給与決定の原則により、生計費、国及び他の地方公共団体の職員の給与、民間事業の従事者の給与、その他の事情を考慮し、総合的に判断して、次のとおり勧告した。

「勧告の概要」

本年の給与の改定

給 料 表

- ・職員給与が民間給与を3,907円（1.14%）下回る
- ・人事院勧告の内容に準じ、初任給をはじめ若年層に重点を置いて給料表を引上げ改定
期末手当・勤勉手当
- ・民間の支給割合との均衡を図るため4.30月分 4.40月分に引上げ
- ・引上げ分は期末手当及び勤勉手当に0.05月分ずつ均等に配分

実 施 時 期

- ・給料表：令和5年4月1日
- ・期末手当・勤勉手当：令和5年12月1日

2 給 与 改 定

令和5年11月の定例県議会において給与改定に係る給与条例が改正され、公布の日（令和5年12月15日）から施行され、令和5年4月1日から適用された。

5章 免 許

令和5年度教員免許状授与件数

(幼・小・中・特別支援学校、養護教諭、栄養教諭)

校種 種別	幼稚園	小学校	中 学 校													特別支援学校	特別支援学校 (<small>自立教科(理療)</small>)	養護教諭	栄養教諭	
			国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	保健	技術	家庭	職業	外国語	宗教					計
専修		9	2	1	3	6	1		3	1	1			3		21			1	
1種	57	132	32	35	23	47	7	4	38	24	4	11		34		259	25		40	5
2種	265	15		2		1					1			1		5	63		10	3
特別																				
臨時	1	116	1	4	7	7		7	1	2	5	3		6		43	22		2	
計	323	272	35	42	33	61	8	11	42	27	11	14		44		328	110		53	8

(高等学校)

教科 種別	国語	地理歴史	公民	数学	理科	音楽	美術	工書	保健体育	保健	看護	家庭	家庭学習	情報	情報実習	農業	農業実習	工業	商業	水産	福祉	外国語	合計
専修	1		1	6	9	1			3	1								1				3	26
1種	35	24	43	40	68	7	2		44	24	6	11		15	13			7	22	1		36	398
特別																		1					1
臨時		1	1	1	2	1			4	2	2	5	3	1				1			7	2	33
計	36	25	45	47	79	9	2		4	49	27	11	14	16	13			10	22	1	7	41	458

令和5年度免許法認定講習受講者

会 場	免許状の種類	科目区分	開設科目	受講者数	合格者数
青 森 市	特支一・二種	特別支援教育	知的障害教育総論	54	54
			病弱教育総論	62	62
			重複・LD等の教育	83	83
			聴覚障害教育の 教育課程・指導法	74	74
			肢体不自由教育総論	67	67
			特別支援教育概論	76	76
			視覚障害児の 心理・生理・病理	102	102
小 計			7科目	518	518
弘 前 市	小 二 種	教科及び教職 に関する科目	図画工作教育法A	34	34
			理科教育法A	30	30
			国語教育法A	32	32
			生徒指導・教育相談・ 進路指導A	33	32
			社会教育法A	18	18
			道徳教育概論	13	13
			算数教育法A	49	49
小 計			7科目	209	208
合 計			14科目	727	726

6章 教職員研修・教育研究

1節 教職員研修

教職員の資質向上を図るため、次のとおり研修及び研修への派遣を実施した。

1 幼稚園

名 称	人 員	期 間	場 所	内 容
幼稚園等新規採用教員研修	7	5月22日	県総合学校教育センター	青森県の幼児教育 特別な配慮を要する幼児との関わり方 健やかな成長のための環境と習慣づくり 図画工作科における指導と評価の一体化 「造形的な見方・考え方」を働かせて資質・能力を育成する造形遊び 「音楽的な見方・考え方」を働かせて資質・能力を育成する表現活動 造形と音楽のコラボレーション これからの図工と音楽の授業づくり
	3	8月17日～18日		保護者理解と信頼関係を築くための対応 本人・保護者の思いによりそう 教育相談 学校における教育相談の実際 保護者との面談
	2	9月20日		素材に親しみ工夫して遊ぶためのつくる活動 幼児期における発達の理解と幼小連携
	2	7月14日		保育の展開と援助の在り方 保育活動の実際 医師の視点からかかわり方を見直す
	4	9月29日		
	4	11月10日		
幼稚園教育課程青森県研究協議会	89	8月21日	県総合学校教育センター	研究実践発表（幼小接続、「幼保小架け橋プログラム」について） 協議（「指導計画の作成、保育の展開」について） 講演（「指導の過程の評価、改善」について）

2 小 学 校

名 称	人 員	期 間	場 所	内 容
初任者研修 (実地研修)	62	4月～3月 (180～240時間)	勤務校	教職教養 教育目標と実践計画 学級経営 授業研修等
初任者研修 (校外研修) 学級経営基礎講座	62	4月～3月(12日間)		
	62	5月11日～12日	県総合学校教育センター	信頼関係を築き上げる学級経営 への取組等
学習指導基礎講座	62	6月18日	県総合学校教育センター	授業づくりの基礎・基本等
学級経営基礎講座	62	9月7日	県総合学校教育センター	生徒指導・教員のメンタルヘル ス等
学習指導基礎講座	62	11月2日	県総合学校教育センター	情報モラルの指導・道徳科の展 開等
学級経営基礎講座	62	12月7日	県総合学校教育センター	学級経営の評価と改善
赴任時研修	62	4月1日	5 教育事務所	教師としての心構え・福利厚生 と服務等
示範授業研修	62	5月～6月(1日)	5 教育事務所	示範授業参観、授業の在り方
一般授業研修	62	8月(1日)	5 教育事務所	学習指導案等作成
特別活動研修	62	9月～11月(1日)	5 教育事務所	特別活動の進め方
一般授業研修	62	1月(1日)	5 教育事務所	授業の評価、授業実践の結果と 課題
まとめ研修	62	1月～2月(1日)	5 教育事務所	初任者研修の成果と課題等
フォローアップ (2年次) 研修	52	5月31日 12月15日	県総合学校教育 センター	キャリア教育の実際 学習指導 カリキュラム・マネジメントの 実際
中堅教諭等 資質向上研 修(前期)	70	7月4日～5日 (ほか選択講座2日)	県総合学校教 育センター	児童生徒の理解と指導について “児童生徒が育つ”働きかけ 特別の教科道徳の授業づくり等
中堅教諭等 資質向上研 修(後期)	19	7月6日～7日 12月14日～15日 (ほか選択講座4日)	県総合学校教 育センター	中堅教諭に必要なマネジメント 意識 協働で取り組む特別支援教育等 PDCAサイクルを基にした授業 の自己評価 中堅後期研修後に向けたキャリ アデザイン等
教育課程研 究集会(オン デマンド型)	1,450	7月～8月(1日)	6 教育事務所	小学校教育課程の諸問題の解明 を図るための授業実践発表及び 指導助言
教職員等中 央研修	16	6月～3月	(オンライン・ 集合)	校長研修 副校長・教頭等研修 中堅教員研修 リーダー教員育成研修

初任者研修、フォローアップ研修、中堅教諭等資質向上研修(前期・後期)には、中核市を含んでいない。

3 中 学 校

名 称	人 員	期 間	場 所	内 容
初任者研修 (実地研修)	46	4月～3月 (180～240時間)	勤務校	教職教養 教育目標と実践計画 学級経営 授業研修等
初任者研修 (校外研修)	46	4月～3月(12日間)		
学級経営基礎講座	46	5月18日	県総合学校教育センター	学級経営の意義とねらい・教員のメンタルヘルス等
教科等教育基礎講座	46	6月1日～2日	県総合学校教育センター	子どもが主体的・対話的で深い学びに向かう授業づくり等
学級経営基礎講座	46	8月31日	県総合学校教育センター	生徒指導の進め方等
教科等教育基礎講座	46	10月12日	県総合学校教育センター	教科指導におけるICT活用等
教科等教育基礎講座	46	11月16日	県総合学校教育センター	情報モラルの指導、授業実践を振り返って等
赴任時研修	46	4月1日	5 教育事務所	教師としての心構え・福利厚生と服務等
示範授業研修	46	5月～6月(1日)	5 教育事務所	示範授業参観、授業の在り方
一般授業研修	46	8月(1日)	5 教育事務所	学習指導案等作成
特別活動研修	46	9月～11月(1日)	5 教育事務所	特別活動の進め方
一般授業研修	46	1月(1日)	5 教育事務所	授業の評価、授業実践の結果と課題
まとめ研修	46	1月～2月(1日)	5 教育事務所	初任者研修の成果と課題等
フォローアップ (2年次) 研修	29	5月31日 12月15日	県総合学校教育センター	キャリア教育の実際 学習指導 カリキュラム・マネジメントの実践
中堅教諭等 資質向上研 修(前期)	33	7月4日～5日 (ほか選択講座2日)	県総合学校教育センター	児童生徒の理解と指導について “児童生徒が育つ”働きかけ 特別の教科道徳の授業づくり等
中堅教諭等 資質向上研 修(後期)	21	7月6日～7日 12月14日～15日 (ほか選択講座4日)	県総合学校教育センター	中堅教諭に必要なマネジメント意識 協働で取り組む特別支援教育等 PDCAサイクルを基にした授業の自己評価 中堅後期研修後にかけたキャリアデザイン等
教育課程研究 集会(資料研修)	2,441	7月～8月(1日)	6 教育事務所	中学校教育課程の実施に向けた 資料による研修
道徳教育推進 研修(行政法人 教職員支援機構)	1	11月8日～10日 (3日間)	(オンライン)	道徳教育のマネジメント 実践活動や体験活動を通じた道徳教育 特別の教科道徳の指導と評価 特別な支援を要する児童・生徒に対する道徳教育
全国キャリア教育・ 進路指導担当者 等研究協議会	2	11月14日	(オンライン)	職業に関する体験活動について キャリアパスポートの展開
教職員等中央 研修	15	6月～3月	(オンライン・集合)	校長研修 副校長・教頭等研修 中堅教員研修 リーダー教員育成研修

初任者研修、フォローアップ研修、中堅教諭等資質向上研修(前期・後期)には、中核市を含んでいない。

4 高等学校

名 称	人 員	期 間	場 所	内 容
初任者研修 (実地研修) 180時間以上	17	4月～3月	各勤務校	教職教養 教育目標と教育課程 学習指導、特別活動 生徒指導、進路指導
初任者研修 (校外研修) 12日	17	4月～3月	県総合学校教育センター等	教職員の服務規律、社会人としてのマナー 生徒理解への取組 特別な配慮を要する生徒への対応 授業で身に付けさせる資質・能力 授業実践の基礎 ホームルーム経営 協力校の授業参観と研究協議 1年間の振り返り
フォローアップ (2年次) 研修	27	5月23日～24日	県総合学校教育センター	学校安全と危機管理 教科指導 ホームルーム経営
中堅教諭等 資質向上研 修(前期)	37	5月16日 9月12日	県総合学校教育センター等	前期中堅教諭に期待すること いじめ・不登校のない学校づくり 主体的・対話的で深い学びの視 点で行う授業改善
中堅教諭等 資質向上研 修(後期)	38	6月27日～28日 8月25日 12月8日	県総合学校教育センター等	温かい人間関係づくり 資質・能力を育む授業づくりに 向けて 後期中堅教諭に期待すること
教務主任連 絡協議会	80	4月16日	県総合学校教育センター	令和6年度学校教育指導の方針 と重点の趣旨 関係事業説明、分掌事務遂行の 留意点の周知徹底
教務主任研 究協議会	74	10月21日	県総合学校教育センター	指導と評価の一体化のための学 習評価 ワークショップ
県立学校長 研究協議会	65	7月11日	県総合学校教育センター	講演・ワークショップ 研究協議、情報交換
県立学校教 頭研究協議 会	89	6月23日	県総合学校教育センター	講演・ワークショップ 研究協議、情報交換
教職員等中 央研修	22	5月～1月	(オンライン)	教育指導と学校管理 教育課程の編成と管理 学校指導の原理と方法 生徒指導・進路指導の原理と方法

名 称	人 員	期 間	場 所	内 容
進路指導主事 研究協議会	75	4月19日	県総合学校教育センター	講演 研究協議、情報交換
生徒指導主事 研究協議会		6月8日 (資料配付)		県内の生徒指導等の状況について 生徒指導上の諸課題における多 機関連携に関する講演 各学校の生徒指導に係る取組に 関する協議
全国キャリア教育・進路指導担当者等研究協議会	3	11月	(オンライン)	これからのキャリア教育の在り方 や具体的な手法・実践等につ いての研究協議・情報交換
キャリア教育 指導者養成 研修	2	6月20日～23日	パレプラン高志 会館(富山市)	発達段階に応じたキャリア教育 の在り方、校内外の連携を踏ま えたキャリア教育推進のための 具体的な手立て
産業・情報 技術等指導 者養成研修	農業 3 家庭 1	7月24日～7月28日 8月21日～8月23日	アクトシティ浜松 研修交流センター 全国高等学校長協会 家庭部会事務局 文化服装学院	各教科における授業改善及び評 価に関する講義と演習
学校農業クラ ブ・学校家庭 クラブ指導者 養成講座	家庭 1 農業 2	7月25日～7月26日 8月7日～8月9日	国立オリンピック 記念青少年総合 センター	家庭クラブ指導者の資質の向上 農業クラブ指導者の資質の向上
学校教育の情報 化指導者養成 研修	2	9月20日～9月22日	(オンライン)	各学校における学校教育の情報 化を組織的に推進する指導者として 必要な知識等の習得

5 特別支援学校

名 称	人 員	期 間	場 所	内 容
初任者研修 (実地研修) 240時間以上	36	4月～3月	各勤務校	教職教養 教育目標と実践計画 授業研究 生徒指導と進路指導
初任者研修 (校外研修) 21日	36	4月～3月	県総合学校教育センター等	教職員の服務・福利厚生 特別支援教育の概要 一人一人のニーズに応じた指導 学級経営の基礎・基本 小学校の授業参観・協議 生徒指導上の課題への対応 救急法 福祉施設等見学 研修の意義・まとめ
フォローアップ (2年次) 研修	32	9月21日～22日	県総合学校教育センター	授業改善 授業検討
中堅教諭等資質 向上研修(前期) (校内研修) 5日	26	4月～3月	各勤務校	授業研究・教材研究 研修のまとめ
中堅教諭等資質 向上研修(前期) (校外研修) 4日	26	4月～3月	県総合学校教育センター等	関係機関との連携 効果的なT T 授業改善 キャリア教育
中堅教諭等資質 向上研修(後期) (校内研修) 7日	31	4月～3月	各勤務校	授業研究・教材研究 研修のまとめ
中堅教諭等資質 向上研修(後期) (校外研修) 8日	31	4月～3月	県総合学校教育センター等	関係機関との連携 学校課題とその対応 授業の課題分析 思考法の活用
教務主任連 絡協議会・ 研究協議会	21	4月18日 10月4日	県総合学校教育センター	講話 研究協議
県立学校長 研究協議会	19	7月11日	県総合学校教育センター	関係事業等説明
県立学校教頭 研究協議会	24	6月23日	県総合学校教育センター	関係事業等説明

名 称	人 員	期 間	場 所	内 容
教職員等中央研修	7	6月～1月	オンライン又はつくば中央研修センター	講義 研究協議
進路指導主事研究協議会	21	4月19日	県総合学校教育センター	講義 研究協議
研究主任研究協議会	21	5月2日 1月12日	県総合学校教育センター (オンライン)	講義 研究協議
生徒指導主事研究協議会	21	4月25日	県総合学校教育センター	情報提供 講演 研究協議
特別支援教育新担当教員研修会	190	6月～9月	各教育事務所管内	情報提供
特別支援教育専門研修	6	5月～7月 9月～11月 令和6年 1月～3月	独立行政法人国立特別支援教育総合研究所(オンライン及び集合・宿泊型研修)	講義 研究協議
特別研究員(地域連携型)	1	4月17日～ 令和6年3月15日	独立行政法人国立特別支援教育総合研究所	研究
交流及び共同学習推進指導者研究協議会	1	11月22日	(オンライン)	講義 研究協議
I C T活用に関わる指導者研究協議会	3	7月27日～28日		講義 研究協議

6 生徒指導等

名 称	人 員	期 間	場 所	内 容
生徒指導基幹研修	5	8月1日～8月31日 期間中の3日間	Zoomミーティングによるオンライン	生徒指導に関する現状と課題 生徒指導における事例研究及び演習 不登校、いじめ、自殺問題への対応
今日から始めるいじめ対策研修講座	43	5月19日	県総合学校教育センター	いじめについての認識と理解 いじめの理解といじめ防止のための取組 不登校児童生徒の理解・対応とチーム連携
今日から始める不登校対策研修講座	35	7月3日	県総合学校教育センター	

7 大学院教員派遣

大 学 院 派 遣

県内の公立小学校、中学校、高等学校、特別支援学校に勤務する教員を大学院に派遣し、その資質の向上を図る。

派 遣 先	人 員	研修期間	専攻 / コース
上越教育大学院	小 学 校 1	令和5年 4月1日～ 令和7年 3月31日	教育実践高度化 / 学校教育実践研究
弘前大学大学院	高 等 学 校 1		人文社会科学 / 文化芸術

教職大学院派遣

県内の公立小学校、中学校、高等学校又は特別支援学校に勤務する教員を弘前大学大学院教育学研究科教職実践専攻(教職大学院)に派遣し、教育実践力を身に付けたミドルリーダーの育成を図る。

派 遣 先	人 員	研修期間	専攻 / コース
弘前大学教職大学院	小 学 校 2 中 学 校 3 高 等 学 校 2 特 別 支 援 学 校 1	令和5年 4月1日～ 令和7年 3月31日	教育実践 / ミドルリーダー養成

8 指導改善研修

本県では、平成15年度から、児童等への指導が不適切な教員を「研修措置教員」に認定し、県総合学校教育センターや所属校等において研修を行う「研修措置制度」を実施してきた。

一方、指導が不適切な教員に対する人事管理について、各都道府県教育委員会の制度の内容や運用にばらつきがあったため、全国的な教育水準の確保を図る観点から、平成19年6月に教育公務員特例法が改正された。

同法の改正により、本県では、平成20年度より、研修措置制度に代えて、児童等に対する指導が不適切であると認定した教諭等に対し、その能力、適性等に応じて、指導の改善を図るために必要な事項に関する研修（指導改善研修）を実施した。

なお、指導改善研修と研修措置制度とは、研修期間（指導改善研修は最長2年、研修措置制度の研修は最長3年）以外に、大きな違いはない。

対象教員

県教育委員会の任命に係る教諭、養護教諭、栄養教諭、助教諭、養護助教諭、講師、実習助手及び寄宿舎指導員（条件付採用期間中の職員、臨時的任用職員、会計年度任用職員及び暫定再任用職員を除く。）

指導改善研修対象教員の定義

教員に求められる資質能力に課題があり、児童等を適切に指導できないため、教育活動に支障をきたし、児童等に対しての責任が果たせないことから、指導改善研修を受講させる必要のある教員をいう。ただし、疾病により児童等を適切に指導できない者を除く。

指導改善研修対象教員の認定までの対応

学校における対応	<ul style="list-style-type: none">・指導が不適切な教員の実態把握・校内での指導又は研修と「指導・観察記録簿」等の作成・指導の改善が見られない教員について教育委員会へ報告
市町村教育委員会における対応	<ul style="list-style-type: none">・報告内容の精査・確認・県教育委員会への指導改善研修対象教員の認定申請
県教育委員会における対応	<ul style="list-style-type: none">・申請（県立学校の場合は、報告）内容の精査・確認・指導改善研修対象教員審査会への審査依頼・指導改善研修対象教員の認定

研修の実施

指導改善研修対象教員ごとに個別の研修プログラムを作成し、原則として1年間、学校、県総合学校教育センター等において、研修を実施する。

研修後の措置

当該教員の指導の改善の程度	研修後の措置
指導が改善し、児童等に対して適切に指導を行える程度	本来の職務への復帰
児童等に対する指導が不適切であるが、更に指導改善研修を行えば、適切に指導を行える程度までの改善が見込まれる程度	研修期間の延長
児童等に対する指導が不適切であり、適切に指導を行える程度まで改善する余地がない程度	職種変更
	退職の勧奨
	分限免職

指導改善研修対象教員の状況

対象教員なし

2節 教育研究

1 研究指定校

文部科学省指定校

道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業

学 校 名	研 究 内 容
外ヶ浜町立蟹田小学校 外ヶ浜町立蟹田中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の道徳教育に係る指導力向上 ・小・中学校の連携を意識した道徳教育の推進 ・道徳科の授業公開の実施

スーパーサイエンスハイスクール

学 校 名	研 究 内 容
県立弘前南高等学校	科学教育プロジェクト～地域に学び社会に貢献する科学技術人材の育成～
県立青森高等学校	学際的研究により新たな価値を創出できる国際的な科学技術系人材の育成

青森県教育委員会指定校
ドリカム人づくり推進事業

学 校 名	研 究 主 題
七 戸 養 護 学 校	造形活動 生きることへの自信と豊かな心の育成
三本木農業高等学校 三本木農業恵拓高等学校	しあわせプロジェクト 3rd ～志+支=幸 地域活性をここから～
百 石 高 等 学 校	地産地消レシピコンテスト開催（百高カップ2022）
八 戸 商 業 高 等 学 校	I T × 八 商 × 地 域 で、地 域 の 魅 力 発 信 ！
八 戸 東 高 等 学 校	「表現科20年目の挑戦」
む つ 工 業 高 等 学 校	「心を継ぐ、ものづくり・ひとづくり」
柏 木 農 業 高 等 学 校	「地域の稀少生物の復活・地域農業と特産品の活性化をめざして」
む つ 養 護 学 校	アックスパワーではばたけ未来へ～ときめき きらめけ 地域 とともに～
十和田工業高等学校	地域産業の未来づくりに貢献！ものづくり、ひとづくり 育成プラン
青 森 工 業 高 等 学 校	「ものづくりコンテスト」挑戦の経験を通した「地域とのものづ くり交流」！！
木 造 高 等 学 校	木造（きづくり）・人づくり・地域づくり～「MAP（Mokko Asumiru Project）」～
青 森 中 央 高 等 学 校	青森から発信！世界に届け平和のメッセージ
弘 前 第 一 養 護 学 校	地域とつながろう！弘一養SDGsプロジェクト
青 森 聾 学 校	共生～青聾の過去・現在・未来～
名久井農業高等学校	ガラスの七変化～廃棄ガラスの有効活用を目指して～
八 戸 工 業 高 等 学 校	地域に発信！！SDGs （連携校：十和田工業高等学校）
八 戸 高 等 学 校	三八地区連携プロジェクト （連携校：八戸北高等学校 八戸東高等学校 八戸西高等学校）
青 森 南 高 等 学 校	青い森高校生読み聞かせ推進事業 （連携校：青森中央高等学校）
三沢高等学校定時制の課程	わくわくハイスクール 地域産業や郷土の文化を学ぶ （連携校：八戸中央高等学校）

持続可能な地域づくり「あおもり創造学」プロジェクト事業

学 校 名	研 究 主 題
青 森 高 等 学 校	Infitelligence Research Program
青 森 西 高 等 学 校	「あおもり創造学」青森セレクトプロジェクト～観光資源研究と成果の還元～
青 森 東 高 等 学 校	「あおもり創造学」青東高バージョン「E-pro地域探究」
青 森 北 高 等 学 校	KITAプロジェクト～地域の課題解決に向けて～
青 森 南 高 等 学 校	南高のバトン
青 森 中 央 高 等 学 校	あすなろ学 「あおもり探究」
浪 岡 高 等 学 校	「あおもり創造学」空き缶でつながる、浪高と地域と循環型社会
青 森 工 業 高 等 学 校	「あおもり創造学」～地元の特徴ある産業に気づく機会を創出する～
青 森 商 業 高 等 学 校	「あおもり創造学」青商生プロデュース！地域活性化プロジェクト
北 斗 高 等 学 校 (定 時 制)	「あおもり創造学」～北斗「空に描こうあなたの夢(みらい)を」(校歌の歌詞より)～
北 斗 高 等 学 校 (通 信 制)	「あおもり創造学」～あなたにできる地域貢献～
青 森 工 業 高 等 学 校 (定 時 制)	青森だよ、全員集合！～後継者不足の実態を掌握、後継者を目指そう！～
弘 前 高 等 学 校	「あおもり創造学」弘前高校バージョン～地域に根差したアイデンティティの形成～
弘 前 中 央 高 等 学 校	「Sakura Time」
弘 前 南 高 等 学 校	南陵タイム「あおもり創造学」～身近なところからあおもりを考える～
黒 石 高 等 学 校	「黒石の魅力の種を育てる ～地域探究から見つめる黒石市～」
柏 木 農 業 高 等 学 校	柏農あおもり創造学～地域農業振興と郷土愛の醸成をめざして～
弘 前 工 業 高 等 学 校	「あおもり創造学」～地域に愛される工業人を目指して～
弘 前 実 業 高 等 学 校	各科の特徴を活かした「地域課題の掘り起こしと解決法の提案」(商・家・体のチャレンジ)
尾 上 総 合 高 等 学 校 (定 時 制)	「あおもり創造学」地域の魅力再発見～地域とともに目指す自己実現～
尾 上 総 合 高 等 学 校 (通 信 制)	「O ₂ プロジェクト」(オーツープロジェクト)

学 校 名	研 究 主 題
弘前工業高等学校(定時制)	弘前もの作り探究
八 戸 高 等 学 校	八戸発見学～地元の「強み」を見てみよう～
八 戸 東 高 等 学 校	はちのへ創造学～地元のこれからを考える
八 戸 北 高 等 学 校	「あおもり創造学」 in 八北～きざはしから見る八戸の未来～
八 戸 西 高 等 学 校	「あおもり創造学」～八西から始まる地域課題解決ソリューション
三 戸 高 等 学 校	「三戸みらい創生プロジェクト」
名久井農業高等学校	課題発見力の強化～広い視野と豊富な選択肢の支援～
八 戸 工 業 高 等 学 校	「あおもり創造学」地元ファンづくりプロジェクト～技術継承で地域社会をつくる～
八 戸 水 産 高 等 学 校	八水マリンタイム～「海を知る 地域を知る 創造する」～
八 戸 商 業 高 等 学 校	「あおもり創造学」八商発！郷土愛～地域と共に～
八戸中央高等学校(定時制)	地域連携と防災意識の向上
八戸中央高等学校(通信制)	郷土についてより深く知る
八戸工業高等学校(定時制)	「あおもり創造学」地域を知る、発信する、持続可能な地域づくりのために～
木 造 高 等 学 校	木造(きづくり)・人づくり・地域づくり～「MAP (Mokko Asumiru Project)」～
鱒ヶ沢高等学校	「鱒ヶ沢みらい探究」～鱒高生プロデュース 鱒ヶ沢町の課題解決への挑戦～
五所川原高等学校	力行タイム「SD探究」
五所川原農林高等学校	地域課題解決への挑戦～農業から考える地域課題～
五所川原理工科高等学校	「地域のSDGs」～持続可能な地域を目指して～
五所川原高等学校(定時制)	五高(定)バージョン～五所川原魅力再発見～
野 辺 地 高 等 学 校	「野高コンパス」自分らしく考える(オリジナリティ)力の育成を目指して～地域の探究や防災の知識を生かした地域活性化に向けて～
七 戸 高 等 学 校	七戸を遊ぼう&楽しもう！～ナナラボと創る新たな七戸町～

学 校 名	研 究 主 題
百 石 高 等 学 校	総合的な探究の時間「ステップアップタイム」 / 課題研究
六ヶ所高等学校	「あおもり創造学」～ROHS [ROkkasho High School & ROkkasho Our Heritage Studies] 私たちの六ヶ所を受け継ごうプロジェクト2023～
三 本 木 高 等 学 校	「あおもり創造学」三本木高校×地域研究×SDGs
三 沢 高 等 学 校	「あおもり創造学」～モスプロでみさわを輝かせよう～
三本木農業恵拓高等学校	三農課題研究 + 総合的な探究の時間
十和田工業高等学校	「県内企業の魅力発見」 - 地域への貢献意欲の醸成、県内企業への 定着促進 -
三 沢 商 業 高 等 学 校	三沢市周辺地区の魅力大発信！～青森県の人口減少・少子化に歯 止めをかけよう～
三沢高等学校(定時制)	「あおもり創造学」三沢高(定時制)
田 名 部 高 等 学 校	「探究理解」～あおもり創造学～
大 湊 高 等 学 校	「あおもり創造学」下北HEROES～地域で働くヒーローを探せ～
大 間 高 等 学 校	「あおもり創造学」下北の底ヅカラ発見隊 ～北通り3町村編～
むつ工業高等学校	ジオパークって何だ!?～下北ジオパークからはじめる地域理解～
田名部高等学校(定時制)	「あおもり創造学」まさかりの魅力を発見～下北を持続可能な社 会に～

いきいき青森っ子健康づくり事業（健康教育実践研究校）

学 校 名	趣 旨
聖 アルバン 幼稚園 十和田カトリック幼稚園 蓬田村立蓬田小学校 中泊町立武田小学校 階上町立石鉢小学校 藤崎町立明德中学校 東北町立東北中学校 むつ市立大畑中学校 県立弘前高等学校 県立三沢高等学校 県立八戸高等支援学校	健康課題解決のため、学校、家庭及び地域と連携しながら、 発達の段階に応じた具体的な指導内容、指導方法についての研 究を行い、主体的に健康づくりに取り組む児童、生徒の育成に 資する。

青森県交通安全推進地区

学 校 名	趣 旨
平内町立東小学校	児童生徒等の交通安全行動の定着化を図るため、学校を中心とする地域全体の交通安全意識の高揚に努める。

命を守る！防災教育推進事業（令和3年度～令和4年度）

学 校 名	趣 旨
外ヶ浜町立三臈中学校 深浦町立修道小学校 弘前市立石川小学校 三沢市立第三中学校 むつ市立川内小学校 八戸市立三条中学校	子どもたちが防災に係る正しい知識を身に付け、自然災害発生時に適切に対応できる資質・能力の向上を図るための防災教育モデルを構築し、広く普及させるため、地域と連携した防災教育や教科等横断的な防災教育の在り方について研究する。

LD、ADHD等の児童生徒に対する通級による指導の在り方に関する研究事業

学 校 名	趣 旨
青森市立浪打小学校 青森市立長島小学校 青森市立浪打中学校 青森市立浦町中学校 平内町立小湊小学校 外ヶ浜町立蟹田小学校 つがる市立向陽小学校 弘前市立大成小学校 弘前市立岩木小学校 弘前市立福村小学校 弘前市立東中学校 弘前市立津軽中学校 黒石市立黒石小学校 平川市立金田小学校 十和田市立三本木小学校 十和田市立三本木中学校 三沢市立上久保小学校 三沢市立第一中学校 野辺地町立若葉小学校 七戸町立七戸小学校 むつ市立第二田名部小学校 八戸市立城下小学校 八戸市立湊小学校 八戸市立根岸小学校 八戸市立第二中学校 八戸市立第三中学校 三戸町立三戸小学校 三戸町立三戸中学校 五戸町立五戸小学校 階上町立赤保内小学校	LD、ADHD等の児童生徒を対象とした通級による指導の在り方

特別支援学校技能検定事業

区 分	学 校 名	趣 旨
高等部を設置する県立特別支援学校（技能検定の対象となる特別支援学校）	県立盲学校	地域の企業等との連携・協働により「夢や志」をもち、チャレンジする心をはぐくむための青森県版「特別支援学校技能検定」を開発・実施するなど、生徒の進路実現のための体制整備を進めることによって特別支援学校におけるキャリア教育及び職業教育の充実を図る。
	県立青森聾学校	
	県立青森第二養護学校	
	県立青森若葉養護学校	
	県立青森第一高等養護学校	
	県立青森第二高等養護学校	
	県立弘前第一養護学校	
	県立弘前第二養護学校	
	県立八戸第一養護学校	
	県立八戸高等支援学校	
	県立森田養護学校	
	県立黒石養護学校	
	県立浪岡養護学校	
県立七戸養護学校		
県立むつ養護学校		
高等部を設置していない県立特別支援学校	県立八戸盲学校	
	県立弘前聾学校	
	県立八戸聾学校	
	県立青森第一養護学校	
	県立八戸第二養護学校	

その他の公的団体からの指定校

「生きる力をはぐくむ歯・口の健康づくり推進事業

～望ましい生活習慣の形成を目指して～」（一般社団法人日本学校歯科医会）

学 校 名	趣 旨
八戸市立町畑小学校	健康な生活を営むために必要な基本的な生活習慣を身に付け、よりよい生活を築こうとする実践的な態度の育成

7章 教職員の福利厚生

1節 福利厚生の概要

1 組合員、会員

公立学校共済組合青森支部

令和5年度末における組合員数は、12,737人で前年度と比較し287人の減となった。

組合員数と被扶養者数

(5.3.31現在)

種 別	組 合 員 数	被 扶 養 者 数	組合員1人当たり 被 扶 養 者 数
一 般 組 合 員	10,754人	7,889人	0.73人
船 員 組 合 員	20	27	1.35
短 期 組 合 員	1,658	422	0.25
任 意 継 続 組 合 員	305	143	0.47
計	12,737	8,481	0.67

(一財)青森県教職員互助会

教職員互助会の令和5年度末における会員数は、11,543人で前年度より375人の減となり、加入率は92.6%となった。

会員数、給料、掛金

(5.3.31現在)

会 員 数	会員1人当たりの 平均給料の月額	会員1人当たりの 平均掛金の月額
11,543人	356,143円	2,493円

5年度中の加入及び退会状況

(5.3.31現在)

区 分	4 年 度 末 現 在	5 年 度			5 年 度 末 現 在
		加 入	退 職・退 会	増 減	
会 員	11,918人	616人	991人	375人	11,543人

2 給 付 等

公立学校共済組合青森支部

掛金、負担金収入

短期の掛金、負担金収入は、前年度と比較すると159,706千円増となった。

また、長期関係の掛金、負担金収入は、前年度と比較すると1,688,474千円減となった。

収入状況

(単位：千円)

種 別	掛 金	負 担 金	計
短 期	4,322,125	4,183,608	8,505,733
厚 生 年 金 保 険	6,422,913	10,148,266	16,571,179
退 職 等 年 金	526,593	526,602	1,053,195
経 過 的 長 期	-	113,898	113,898

短期給付

短期給付（法定給付及び附加給付等）の支出総額は、3,932,774千円でその主なものは、医療費で全体の89%を占め3,517,822千円となった。

法定給付

種 別	件 数	日 数	金 額	1 件当たり	
				日数	金 額
本 人 医 療 費	195,179件	281,285日	1,956,086,046円	1.4日	10,022円
家 族 医 療 費	128,648	205,987	1,174,529,311	1.6	9,130
高 額 医 療 費	2,683		303,937,695		113,283
出 産 費	138		67,873,179		491,835
家 族 出 産 費	38		18,347,033		482,817
埋 葬 料	10		500,000		50,000
家 族 埋 葬 料	8		400,000		50,000
傷 病 手 当 金	253	5,040	50,743,181	19.9	200,566
出 産 手 当 金	2	41	347,967	20.5	173,984
休 業 手 当 金	2	10	67,573	5.0	33,787
育 児 休 業 手 当 金	1,486	29,207	257,010,295	19.7	172,954
介 護 休 業 手 当 金	33	535	5,802,072	16.2	175,820
災 害 見 舞 金	2		940,000		470,000
計	328,482	522,105	3,836,584,352		

附加給付

種 別	件 数	金 額	種 別	件 数	金 額
本 人 医 療 費	2,289件	58,511,500円	埋 葬 料	10件	250,000円
家 族 医 療 費	892	24,757,400	家 族 埋 葬 料	8	200,000
出 産 費	134	6,700,000	傷 病 手 当 金	18	3,771,196
家 族 出 産 費	40	2,000,000			
			計	3,391	96,190,096

(一財)青森県教職員互助会

令和5年度の収支は、収入376,138千円に対し、支出は421,634千円で当期収支差額は45,496千円となった。

収入状況

種 別	金 額
基本財産運用収入	基本財産利息収入 60円
掛金収入	掛金収入 345,280,790
事業収入	生活資金貸付償還金収入 16,470,000
	生活資金貸付手数料収入 277,330
	つなぎ融資貸付償還金収入 11,927,303
	つなぎ融資貸付手数料収入 7,705
負担金収入	芸術鑑賞補助負担金収入 1,969,200
雑収入	受取利息収入 2,352
その他	203,464
計	376,138,204

支出状況

種 別	件 数	金 額	備 考
医療費補助金	60,728件	211,209,151円	1件当たりの平均 3,478円
入院見舞金	1,637	7,644,500	本人 500円 (931件) 被扶養者 500円 (706件)
死亡弔慰金	15	2,600,000	本人 250,000円 (8件) 配偶者 100,000円 (5件) 家族 50,000円 (2件)
災害見舞金	1	150,000	150,000円
結婚祝金	160	8,000,000	50,000円
出産祝金・見舞金	175	6,125,000	本人 35,000円(136件) 被扶養者 35,000円 (39件)
入学・卒業祝金	1,213	12,130,000	被扶養者である子 10,000円(769件) 被扶養者でない子 10,000円(444件)
無給付者褒賞金	1,901	9,505,000	5,000円

種 別	件 数	金 額	備 考
退 職 慰 労 金	557件	25,850,000円	在会10年以上20年未満 30,000円 (54件) 在会20年以上30年未満 40,000円 (92件) 在会30年以上 50,000円(411件)
妊 婦 支 援 補 助	167	5,010,000	本 人 30,000円(133件) 被扶養者 30,000円 (34件)
リ フ レ ッ シ ュ 助 成	614	10,410,000	在会20年 10,000円(187件) 在会30年 20,000円(427件)
遺 児 給 付 金	1	250,000	250,000円
育 児 支 援 金	159	3,180,000	20,000円
施 設 利 用 補 助	5,205	5,205,000	1泊につき 1,000円
芸 術 鑑 賞 補 助 事 業	613	3,558,400	
ス ポ ー ツ 観 戦 補 助 事 業	332	488,610	
ド ッ ク 負 担 金 補 助 事 業	2,152	8,374,000	宿 泊 10,000円 (274件) 一 日 3,000円(1,878件)
予 防 接 種 負 担 金 補 助 事 業	1,949	1,949,000	1,000円
生 活 資 金 貸 付	36	17,700,000	
つ な ぎ 融 資 貸 付	9	10,056,663	
厚 生 文 化 事 業 補 助 金		1,320,940	
図 書 館 図 書 贈 呈 費		2,999,762	
芸 術 文 化 奨 励 費		1,000,000	
学 校 図 書 贈 呈 費		20,850,000	県内の公立小中学校及び県立 特別支援学校の小・中学部 1校当たり 50,000円 417校
教 育 振 興 事 業 補 助 金		60,000	
職 員 給 与 ・ 事 務 費 等		43,464,546	
特 定 資 産 取 得 支 出		2,542,155	
そ の 他		1,520	
計		421,634,247	

2 節 福利厚生事業

1 貸付事業

公立学校共済組合青森支部

貸付状況

(単位：千円)

貸付種別	令和4年度		令和5年度		比較増減	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
一般	38	50,900	40	55,700	2	4,800
住宅	4	29,500	6	49,900	2	20,400
教育	8	15,600	9	18,820	1	3,220
結婚	0	0	0	0	0	0
医療	1	1,200	0	0	1	1,200
葬祭	0	0	2	3,000	2	3,000
災害	0	0	0	0	0	0
介護構造	0	0	0	0	0	0
高額医療	0	0	0	0	0	0
出産	0	0	0	0	0	0
計	51	97,200	57	127,420	6	30,220

(一財)青森県教職員互助会

貸付状況

(単位：千円)

貸付種別	令和4年度		令和5年度		比較増減	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額
生活資金貸付	42	19,900	36	17,700	6	2,200
つなぎ融資貸付	6	4,047	9	10,057	3	6,010

2 教職員の健康管理

令和5年度は、以下の事業を実施した。

健康管理事業

(単位：千円)

事業名	場所	対象	人数	金額
特定健康診査	指定医療機関	1	951	7,804
特定保健指導	指定医療機関	2	451	7,374
宿泊ドック	東北中央病院	47歳、54歳、60歳の組合員	275	20,445
一日ドック	県内17健診機関	27歳、32歳、37歳、41歳、44歳、47歳、50歳、52歳、54歳、56歳、58歳、60歳、62歳、64歳の組合員	2,013	63,475
ヤングヘルスチェック	県内14検診機関	24歳、27歳、30歳、32歳、34歳、37歳、39歳の組合員	420	5,672
脳検診	県内11検診機関	40歳、46歳、51歳、55歳、59歳の組合員	747	16,002
乳がん検診	県内16検診機関	30歳以上の女性組合員	2,688	14,502
子宮がん検診	県内13検診機関	女性組合員	2,750	13,229
大腸がん検診	県内13検診機関	30歳以上の組合員	3,067	5,823
歯科健診	県内医療機関	25歳、30歳、35歳、40歳、45歳、50歳、55歳、60歳、65歳の組合員	442	2,077
被扶養者一日ドック	県内17健診機関	30歳、35歳、40歳、45歳、50歳、55歳、60歳、65歳、70歳の被扶養者	113	2,600
へるすあっぷセミナー	学習動画配信	組合員とその家族	204	553
こころの健康相談	県内4医療機関	組合員と被扶養者	8	63
管理監督者のメンタルヘルス研修会	学習動画配信	組合員	58	243
トータルヘルスチェックWEB事業	パソコン・携帯電話等	組合員と被扶養者	29,699	157
歩こう歩けばコンペ2023	-	組合員	3,603	5,788
がん検診コール・リコール事業	-	組合員	134	96
QOL健診(モデル実施)	モデル校	組合員	158	2,200
復職支援プログラム[職場復帰編]	-	組合員	14	937
復職支援プログラム[休養編]	-	組合員	16	65
職場の健康教育支援事業	県内22か所	組合員	480	373
職場で取り組む教職員のストレスチェック事業	27所属所	希望する所属所	493	1,135
産業カウンセラー派遣事業	県内15か所	組合員	133	744
ヘルスリテラシー普及事業	-	組合員	437	800
生活習慣病重症化予防事業	-	組合員	1,444	255
健康ポイント付与事業	-	組合員	2,500	2,227
トータルライフサポート事業(健康づくり編)	-	組合員	-	4,097
計			-	178,736

- 40歳以上75歳未満の被扶養者、任意継続組合員とその被扶養者
- 特定健康診査の結果により動機付け支援又は積極的支援に該当した者

3 その他の厚生事業等

令和5年度は、以下の事業を実施した。

一般事業

(単位：千円)

事業名	実施内容	人数等	金額
ライフデザインセミナー (退職準備型)	55歳以上の組合員とその家族を対象に、退職後を見通した生活設計セミナーをオンライン開催	108	41
ライフデザインセミナー (生活充実型)	組合員とその家族を対象に、生涯生活設計を支援するためのセミナーをオンライン開催	34	26
退職手続きガイドブック の配付	退職予定の組合員に「退職前後の手続きガイドブック」を配付	130	137
しおり等の発行	「福利厚生としおり」・「福利厚生ハンドブック」の配付	2,000	1,468
健康づくり情報誌配付	「健康相談ポスター」を各所属所に配付	1,020	77
育児情報誌配付	出産した組合員及び被扶養者に対し、育児情報誌を配付	857	1,413
育児セミナー	育児中の組合員に対して、育児情報を提供するセミナーをオンラインで開催	25	147
認知症予防教室	組合員及びその家族を対象に、認知症に対する正しい理解と知識を持つための教室をオンライン開催	20	264
トータルライフサポート 事業(一般事業編)	組合員の多様なニーズに対応するため、福利厚生代行業者に一般事業を委託し実施	-	9,589
復職支援に係る 傷害保険負担事業	精神性疾患により休職している組合員の職場復帰に向けた訓練(試し出勤)中に発生した災害の補償を行うための傷害保険料を負担	30	62
災害対策事業資金	災害救助法等適用区域での被災組合員に見舞金として現金を支給	2	60
計		-	13,284

8章 教職員の人事評価制度

1 導入経緯

平成26年5月14日の地方公務員法の一部改正により、勤務成績の評定制度が廃止され、平成28年4月1日から新たに人事評価制度を導入するとともに、その人事評価の結果を任用、給与、分限その他の人事管理の基礎として活用することとされた。

このことから、平成20年度から実施してきた教職員の人材育成・評価制度の目的を踏まえて、教職員の能力と業績を適正に評価し、支援することにより、本県の教育力を充実させ、郷土に誇りを持ち、多様性を尊重し、創造力豊かで、新しい時代を主体的に切り拓く児童生徒を育成するため、教職員の人事評価制度を導入した。

2 制度の目的

教職員の人事評価制度においては、能力評価及び業績評価を通して、教職員の資質能力の向上及び学校組織の活性化を図ることを主な目的とする。

- ・ 能力評価では、教職員が、経験や職制に応じて発揮することが求められる能力について理解し、評価者との面談や自己評価等を通して、自己の長所・短所、特性、課題等を自覚するとともに、評価者が勤務状況を把握し、教職員にきめ細かな指導・助言を行う。
- ・ 業績評価では、学校目標を踏まえた自己目標を設定することにより、学校目標・経営方針や教科・学年・分掌等の目標と自己目標とのつながりが明確となり、また、達成すべき目標を学校全体で共有することで、組織の一員としての自覚を高める。

3 制度の概要

能力評価及び業績評価の内容

評価の構成	評価の内容
能力評価	職員が職務遂行の過程で発揮した意欲及び能力を標準職務遂行能力及び評価基準に基づき評価する。
	「意欲」：職務遂行の根幹にある取組姿勢 「能力」：職務遂行の中で発揮された能力（行動力）等
業績評価	職員が職務遂行上の目標（以下「自己目標」という。）を設定した職務等の業績を評価基準に基づき評価する。 評価は、目標管理の手法を用いて評価する。
	「業績」：職務遂行の中で自己目標の達成状況や自己目標以外で成果を上げた取組等

評価期間及び評価基準日

職員区分	評価の内容	評価期間	評価基準日
教育職	能力評価	4月1日から翌年の3月31日まで	2月1日
	業績評価	4月1日から翌年の3月31日まで	2月1日
行政職等	能力評価	10月1日から翌年の9月30日まで	9月1日
	業績評価（前期）	4月1日から9月30日まで	9月1日
	業績評価（後期）	10月1日から翌年の3月31日まで	2月1日

会計年度任用職員については、任用期間に応じた評価期間・評価基準日により、能力評価及び業績評価を実施。

第3部 学 校 教 育

第3部 学校教育

1章 学校教育指導の方針と重点

1 方針

郷土に誇りを持ち、多様性を尊重し、創造力豊かで、新しい時代を主体的に切り拓く幼児児童生徒を育成するため、教育は人づくりという視点に立って、学校運営に創意工夫をこらし、夢や志の実現に向け、知・徳・体を育む学校教育の推進に努める。

2 重点

授業の充実

一人一人の子どもが、各教科及び総合的な学習の時間等において、主体的・対話的で深い学びを通して確かな学力を身に付けることができるよう、言語活動の充実を図りながら、一人一人の能力・適性に応じた指導と学習習慣の育成に努める。

ア 主体的・対話的で深い学びの実現を図る指導計画等の整備

イ 知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力等の育成に向けた教材研究の深化

ウ 一人一人の学習の過程や成果の的確な把握と指導の改善につながる評価の工夫

エ 各教科等の特質に応じた体験活動や問題解決的な学習を重視した指導の工夫

オ 学校図書館やICTなどを活用した子どもの学びを支援する学習環境の充実

道徳教育の充実

一人一人の子どもが、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を家庭、学校、その他社会における具体的な生活の中に生かし、豊かな心をもつことができるよう、教育活動全体を通じて道徳性の育成に努める。

ア 道徳教育を推進する指導体制と全体計画の整備・充実

イ 道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる指導の工夫

ウ 郷土を愛する心を育む指導の充実

エ 道徳科における学習状況及び道徳性に係る成長の様子の継続的な把握と、評価を生かした指導の工夫

特別活動の充実

一人一人の子どもが、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく築いていくことができるよう、必要な資質・能力の育成に努める。

ア 自主的な態度を育てる学級活動・ホームルーム活動の工夫

イ 自治的な意識を高める児童会活動・生徒会活動の工夫

ウ 児童の個性の伸長を図り、触れ合いを深めるクラブ活動の工夫

エ 集団への所属感や連帯感を深める学校行事の工夫

体育・健康教育の充実

一人一人の子どもが、生涯にわたって自ら進んで運動に親しみ、健康で安全な生活と豊かなスポーツライフを送ることができるよう、家庭や地域社会との連携を図りながら、心と体を一体として捉え、健やかな体を育む教育の推進に努める。

ア 運動に親しむ資質や能力の育成及び体力の向上を図る指導の充実

イ 健康に関する知識を身に付け、積極的に健康な生活を実践できる指導の充実

ウ 食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることができる指導の充実

エ 安全に関する情報を正しく判断し、安全を確保することができる指導の充実
生徒指導の充実

一人一人の子どもが、豊かな生活を送ることができるよう、家庭や地域社会及び関係機関等との連携を図りながら、心の結びつきを基調とした指導を行うとともに、問題行動・不登校等の未然防止、早期発見・早期対応に努める。

ア 基本的な生活習慣や自己指導能力を育成する協働的な指導体制の充実

イ 生徒指導の機能を生かした学年・学級・ホームルーム経営の充実

ウ 児童理解・生徒理解に基づいた教育相談の充実

エ 児童生徒が主体となるいじめ防止活動の推進と組織的な対応の徹底
キャリア教育の充実

一人一人の子どもが、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立ができるよう、必要な基盤となる資質・能力の育成に努める。

ア キャリア教育指導体制の整備・充実

イ 現在及び将来の生き方を考える指導・進路指導の充実

ウ 児童生徒の発達の段階に応じた勤労観・職業観の育成
特別支援教育の充実

発達障害を含む障害のある子どもなど特別な配慮を必要とする子どもが、障害等による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するとともに、そのもてる力を最大限に発揮して自立や社会参加ができるよう、一人一人の教育的ニーズを把握し、適切な指導及び必要な支援に努める。

ア 校内支援体制の充実

イ 個別的教育支援計画の作成と活用による関係機関と連携した支援の充実

ウ 個別の指導計画の作成と活用による指導の充実

エ 交流及び共同学習による相互理解の促進

環境教育の推進

一人一人の子どもが、環境と人間とのかかわりについて関心と理解を深め、環境に対する豊かな感受性を養うことができるよう、環境保全に主体的に取り組む態度の育成に努める。

ア 教科等間の関連を踏まえた指導の工夫

イ 地域の環境の実態に即した指導の工夫

ウ 環境にかかわる体験活動の充実

国際化に対応する教育の推進

一人一人の子どもが、我が国や諸外国の文化と伝統について関心と理解を深めるとともに、国際社会に貢献できるよう、国際理解教育の推進に努める。

ア 郷土に対する愛着と誇りを涵養する教育の推進

イ 外国語教育の充実による、外国語を通じたコミュニケーション能力の育成

ウ 異なった文化や習慣をもつ人々との交流の推進

情報化に対応する教育の推進

一人一人の子どもが、情報モラルを含む情報活用能力を身に付けることができるよう、系統的・体系的な情報教育の推進に努める。

ア 情報教育を推進する指導体制の整備・充実

イ 学習指導におけるＩＣＴの適切な活用の推進

ウ 情報通信ネットワーク等を適切に活用した教育の推進

エ 家庭や地域社会と連携した情報モラルに関する指導の充実

研修の充実

教員等の資質を高め、教育活動の充実を図るため、計画的・実践的な研修の充実に努める。

ア 教員等の資質の向上に関する指標を踏まえた研修の推進

イ 日常的に学び合い、指導力を高め合う校内研修体制の整備・充実

ウ 教育要領・学習指導要領に基づく実践的研究の充実

エ 学校の教育課題解決のための実践的研究の充実

2章 幼稚園教育

1節 幼稚園の概況

1 幼稚園の設置・廃止

(公立)

異動種別	名 称	異動年月日	
-	-	-	

(私立)

異動種別	名 称	異動年月日	
廃 止	富士幼稚園	R5.3.31	幼保連携型認定こども園として新設
"	平賀幼稚園	R5.8.21	

2 幼稚園数・園児数

(R5.5.1)

幼 稚 園 数		園児数	年 齢 数		
			3 歳	4 歳	5 歳
国・公立	3	55	15	15	25
私 立	82	3,349	964	1,150	1,235
計	85	3,404	979	1,165	1,260

2 節 幼保連携型認定こども園の概況

1 幼保連携型認定こども園の設置及び園数・園児数

(R5.5.1)

幼保連携型 認定こども園数		園児数	年 齢 数			
			0～2歳	3歳	4歳	5歳
公 立	1	147	64	24	25	34
私 立	246	17,861	6,470	3,672	3,771	3,948
計	247	18,008	6,534	3,696	3,796	3,982

3 節 教育課程・保育指導

幼稚園教育課程青森県研究協議会

8月21日

3章 小・中学校教育

1節 学校の概況

1 学校の設置・廃止

異動種別	名 称	異動年月日	備考（統廃合）
設 置	十和田市立大深内小学校	R5.4.1	
”	南部町立名川小学校	”	
”	南部町立南部小学校	”	
”	南部町立福地小学校	”	
”	平内町立平内中学校	”	

2 学校数、児童・生徒数

(R5.5.1)

区 分	小 学 校				中 学 校			
	学 校 数			児童数	学 校 数			生徒数
	本 校	分 校	計		本 校	分 校	計	
青 森 市	42		42	11,695	19		19	6,348
弘 前 市	32		32	6,559	16		16	3,359
八 戸 市	41		41	10,418	24		24	5,376
黒 石 市	4		4	1,298	2		2	638
五所川原市	11		11	2,037	6		6	1,078
十 和 田 市	14		14	2,603	8		8	1,298
三 沢 市	7		7	1,907	5		5	993
む つ 市	12		12	2,267	9		9	1,277
つ が る 市	7		7	1,129	5		5	622
平 川 市	9		9	1,381	4		4	666
東 津 軽 郡	7		7	610	5		5	350
西 津 軽 郡	5		5	434	3		3	281
中 津 軽 郡	1		1	70	0		0	0
南 津 軽 郡	5		5	1,285	4		4	637
北 津 軽 郡	9		9	1,275	4		4	738
上 北 郡	21		21	4,235	14		14	2,156
下 北 郡	6		6	515	4		4	325
三 戸 郡	15		15	2,246	11		11	1,216
県 立					1		1	237
合 計	248		248	51,964	144		144	27,595

へき地等指定学校数

区 分	へ き 地 等 指 定 学 校 数								
	計	へ き 地						準へき地	特 別 地
		計	5級地	4級地	3級地	2級地	1級地		
(小 学 校)									
総 計	26	23	-	1	1	4	17	2	1
本 分 校	26	23	-	1	1	4	17	2	1
市 郡 計	10	8	-	-	1	1	6	1	1
青 森 市	16	15	-	1	-	3	11	1	-
弘 前 市	-	-	-	-	-	-	-	-	-
八 戸 市	2	1	-	-	-	-	1	1	-
黒 石 市	-	-	-	-	-	-	-	-	-
五 所 川 原 市	1	1	-	-	-	-	1	-	-
十 三 和 田 市	2	1	-	-	1	-	-	-	1
三 沢 市	1	1	-	-	-	-	1	-	-
む つ が り 市	3	3	-	-	-	1	2	-	-
つ がる 市	1	1	-	-	-	-	1	-	-
平 川 市	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東 津 軽 郡	2	2	-	-	-	1	1	-	-
西 津 軽 郡	3	3	-	-	-	1	2	-	-
中 津 軽 郡	-	-	-	-	-	-	-	-	-
南 津 軽 郡	-	-	-	-	-	-	-	-	-
北 津 軽 郡	1	1	-	-	-	-	1	-	-
上 北 郡	5	5	-	-	-	1	4	-	-
下 北 郡	5	4	-	1	-	-	3	1	-
三 戸 郡	-	-	-	-	-	-	-	-	-
教 育 事 務 所									
東 青 北	2	2	-	-	-	1	1	-	-
西 中 南	6	6	-	-	-	1	5	-	-
上 下 北	2	1	-	-	-	-	1	1	-
八 北 北 北	8	7	-	-	1	1	5	-	1
三 八	8	7	-	1	-	1	5	1	-
	-	-	-	-	-	-	-	-	-
(中 学 校)									
総 計	23	20	-	1	2	2	15	2	1
本 分 校	23	20	-	1	2	2	15	2	1
立 校	-	-	-	-	-	-	-	-	-
市 郡 計	10	8	-	-	1	1	6	1	1
青 森 市	13	12	-	1	1	1	9	1	-
弘 前 市	-	-	-	-	-	-	-	-	-
八 戸 市	2	1	-	-	-	-	1	1	-
黒 石 市	-	-	-	-	-	-	-	-	-
五 所 川 原 市	1	1	-	-	-	-	1	-	-
十 三 和 田 市	2	1	-	-	1	-	-	-	1
三 沢 市	1	1	-	-	-	-	1	-	-
む つ が り 市	3	3	-	-	-	1	2	-	-
つ がる 市	1	1	-	-	-	-	1	-	-
平 川 市	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東 津 軽 郡	2	2	-	-	1	-	1	-	-
西 津 軽 郡	2	2	-	-	-	-	2	-	-
中 津 軽 郡	-	-	-	-	-	-	-	-	-
南 津 軽 郡	-	-	-	-	-	-	-	-	-
北 津 軽 郡	1	1	-	-	-	-	1	-	-
上 北 郡	3	3	-	-	-	1	2	-	-
下 北 郡	4	3	-	1	-	-	2	1	-
三 戸 郡	1	1	-	-	-	-	1	-	-
教 育 事 務 所									
東 青 北	2	2	-	-	1	-	1	-	-
西 中 南	5	5	-	-	-	-	5	-	-
上 下 北	2	1	-	-	-	-	1	1	-
八 北 北 北	6	5	-	-	1	1	3	-	1
三 八	7	6	-	1	-	1	4	1	-
	1	1	-	-	-	-	1	-	-

へき地等指定学校児童・生徒数及び本務教員数

区分	児童・生徒数								本務教員数									
	計	へき地					準へき地	特別地	計	へき地					準へき地	特別地		
		計	5級地	4級地	3級地	2級地				1級地	計	5級地	4級地	3級地			2級地	1級地
(小学校)																		
総計	1,542	1,285	-	2	6	143	1,134	224	33	276	240	-	4	5	36	195	28	8
本分校	1,542	1,285	-	2	6	143	1,134	224	33	276	240	-	4	5	36	195	28	8
市計	492	400	-	-	6	10	384	59	33	98	77	-	-	5	7	65	13	8
郡計	1,050	885	-	2	-	133	750	165	-	178	163	-	4	-	29	130	15	-
青森市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
弘前市	76	17	-	-	-	-	17	59	-	19	6	-	-	-	-	6	13	-
八戸市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
黒石市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
五所川原市	48	48	-	-	-	-	48	-	-	11	11	-	-	-	-	11	-	-
十和田市	39	6	-	-	6	-	-	-	33	13	5	-	-	5	-	-	-	8
三沢市	98	98	-	-	-	-	98	-	-	12	12	-	-	-	-	12	-	-
むつ市	100	100	-	-	-	10	90	-	-	30	30	-	-	-	7	23	-	-
つがる市	131	131	-	-	-	-	131	-	-	13	13	-	-	-	-	13	-	-
平川市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東津軽郡	59	59	-	-	-	17	42	-	-	18	18	-	-	-	7	11	-	-
西津軽郡	176	176	-	-	-	28	148	-	-	32	32	-	-	-	8	24	-	-
中津軽郡	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
南津軽郡	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
北津軽郡	59	59	-	-	-	-	59	-	-	13	13	-	-	-	-	13	-	-
上北郡	480	480	-	-	-	88	392	-	-	69	69	-	-	-	14	55	-	-
下北郡	276	111	-	2	-	-	109	165	-	46	31	-	4	-	-	27	15	-
三戸郡	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
教育事務所																		
東西青森市	59	59	-	-	-	17	42	-	-	18	18	-	-	-	7	11	-	-
中北南青森市	414	414	-	-	-	28	386	-	-	69	69	-	-	-	8	61	-	-
上下北八戸市	76	17	-	-	-	-	17	59	-	19	6	-	-	-	6	13	-	-
北北北八戸市	617	584	-	-	6	88	490	-	33	94	86	-	-	5	14	67	-	8
三北八戸市	376	211	-	2	-	-	199	165	-	76	61	-	4	-	7	50	15	-
(中学校)																		
総計	912	726	-	-	14	71	641	163	23	226	190	-	-	9	16	165	26	10
本分校	912	726	-	-	14	71	641	163	23	226	190	-	-	9	16	165	26	10
県立	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
市計	292	234	-	-	-	6	228	35	23	86	67	-	-	-	4	63	9	10
郡計	620	492	-	-	14	65	413	128	-	140	123	-	-	9	12	102	17	-
青森市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
弘前市	43	8	-	-	-	-	8	35	-	14	5	-	-	-	-	5	9	-
八戸市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
黒石市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
五所川原市	29	29	-	-	-	-	29	-	-	12	12	-	-	-	-	12	-	-
十和田市	23	-	-	-	-	-	-	-	23	10	-	-	-	-	-	-	-	10
三沢市	36	36	-	-	-	-	36	-	-	13	13	-	-	-	-	13	-	-
むつ市	90	90	-	-	-	6	84	-	-	27	27	-	-	-	4	23	-	-
つがる市	71	71	-	-	-	-	71	-	-	10	10	-	-	-	-	10	-	-
平川市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
東津軽郡	30	30	-	-	14	-	16	-	-	16	16	-	-	9	-	7	-	-
西津軽郡	104	104	-	-	-	-	104	-	-	27	27	-	-	-	-	27	-	-
中津軽郡	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
南津軽郡	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
北津軽郡	41	41	-	-	-	-	41	-	-	10	10	-	-	-	-	10	-	-
上北郡	217	217	-	-	-	65	152	-	-	36	36	-	-	-	12	24	-	-
下北郡	184	56	-	-	-	-	56	128	-	39	22	-	-	-	-	22	17	-
三戸郡	44	44	-	-	-	-	44	-	-	12	12	-	-	-	-	12	-	-
教育事務所																		
東西青森市	30	30	-	-	14	-	16	-	-	16	16	-	-	9	-	7	-	-
中北南青森市	245	245	-	-	-	-	245	-	-	59	59	-	-	-	-	59	-	-
上下北八戸市	43	8	-	-	-	-	8	35	-	14	5	-	-	-	-	5	9	-
北北北八戸市	276	253	-	-	-	65	188	-	23	59	49	-	-	-	12	37	-	10
三北八戸市	274	146	-	-	-	6	140	128	-	66	49	-	-	-	4	45	17	-
上下北八戸市	44	44	-	-	-	-	44	-	-	12	12	-	-	-	-	12	-	-

2節 施設・設備

1 建物保有状況

令和5年5月1日現在における小・中学校建物保有面積は、校舎で対前年度比1.9% (32,202㎡)減の1,700,337㎡、屋内運動場で1.5% (6,926㎡)減の452,329㎡となり、整備資格面積は、校舎で対前年度比3.1% (2,258㎡)減の70,293㎡、屋内運動場は46,255㎡で変化なしとなっている。

また、建物の保有状況を構造別にみると、鉄筋・鉄骨造等の非木造構造は校舎で97.6%、屋内運動場で99.1%となっている。

整備資格面積

項目 区分	校 舎				屋 内 運 動 場			
	必要面積	保有面積	整備資格 面 積	/	必要面積	保有面積	整備資格 面 積	/
小学校	㎡ 917,285	㎡ 1,017,683	㎡ 54,979	% 6.0	㎡ 265,749	㎡ 260,777	㎡ 29,931	% 11.3
中学校	548,300	682,654	15,314	2.8	178,114	191,552	16,324	9.2
計	1,465,585	1,700,337	70,293	4.8	443,863	452,329	46,255	10.4

構造別保有面積の比較

(単位: ㎡)

区 分 項 目		校 舎			
		鉄筋コンクリート	鉄骨・その他造	木造	計
県	小学校	(96.2) 978,675	(1.4) 13,804	(2.4) 25,204	(100.0) 1,017,683
	中学校	(96.1) 656,343	(1.5) 10,040	(2.4) 16,271	(100.0) 682,654
全国	小学校	(95.9) 78,484,828	(2.8) 2,313,473	(1.3) 1,027,289	(100.0) 81,825,590
	中学校	(96.0) 46,416,185	(3.1) 1,505,033	(0.9) 424,795	(100.0) 48,346,013

()は構成比(%)

(単位：m²)

区 分		屋 内 運 動 場			
		鉄筋コンクリート	鉄骨・その他造	木造	計
県	小学校	(31.7) 82,742	(66.9) 174,361	(1.4) 3,674	(100.0) 260,777
	中学校	(32.6) 62,428	(67.1) 128,510	(0.3) 614	(100.0) 191,552
全国	小学校	(54.2) 8,832,791	(44.7) 7,285,620	(1.1) 178,681	(100.0) 16,297,092
	中学校	(60.8) 6,747,782	(38.2) 4,241,366	(1.0) 100,109	(100.0) 11,089,257

()は構成比(%)

	校舎	屋内運動場
小・中学校非木造 の比率	97.6%	99.1%
	98.9%	99.0%

2 耐震化の状況

学校施設は、子供たちの学習・生活の場であるとともに、災害時には地域住民の避難所としての役割も果たすことから、その安全性の確保は極めて重要である。

本県の公立小・中学校における構造体(梁、柱、床など)の耐震化率は、令和4年4月1日現在で100%を達成し、耐震化が完了した。

耐震化の状況(小・中学校)

		H31.4.1現在	R2.4.1現在	R3.4.1現在	R4.4.1現在	R5.4.1現在
耐震化率	県	99.5%	99.9%	99.9%	100.0%	100.0%
	全国	99.2%	99.4%	99.6%	99.7%	99.8%

3節 生徒指導

1 現状（公立学校）

不登校の状況

本県における令和4年度の30日以上欠席した不登校児童生徒数は、小学校で610人、中学校で1,616人となっており、小・中学校あわせた人数は2,226人となっている。

いじめの状況

本県における令和4年度のいじめの認知件数は、小学校で4,598件、中学校で1,394件である。1,000人当たりの認知件数は、小学校で86.5件、中学校で49.7件である。

暴力行為の状況

本県における令和4年度の暴力行為の件数は、小学校で1,372件、中学校で480件である。小・中学校あわせた暴力行為の件数のうち、79.5%が生徒間暴力、9.7%が器物損壊である。

2 対 策

生徒指導の推進について

各学校においては、生徒指導推進要綱に基づいて、次のような取組を推進し、生徒指導の充実に努めた。

自校の生徒指導上の課題を明確にし、指導方針や実践すべき内容について、学級、学年、生徒指導部等で共通理解を図り、全教職員が協力して生徒指導に取り組むとともに、生徒指導に関する校内研修等を計画的、継続的に実施し、教職員の指導力の向上に努めた。

教育相談体制を整え、児童生徒一人一人の置かれている状況や心情を、児童生徒の立場に立てて理解するとともに、他教職員との情報交換を密にし、児童生徒一人一人を多面的、総合的に理解するとともに、共通理解のもと個に応じた適切な指導ができるようにした。

児童生徒一人一人が学ぶ喜びや成就感を味わえるよう授業の充実に努めるとともに、教師と児童生徒の信頼関係や児童生徒相互の好ましい人間関係に支えられた、心のよりどころとなる学級づくりに取り組んだ。

また、児童生徒が自主的によりよい学校生活を築いていけるよう児童会・生徒会活動の充実に努めるとともに、自然との触れ合いや勤労体験、奉仕活動などの体験的活動の充実に努めた。

学級、学年、学校通信の発行や家庭訪問、保護者会や学校開放等を通して、学校と家庭の連携強化に努めるとともに、老人施設等への訪問や地域行事等への児童生徒の参加、青少年の健全育成に関する会議等への参加を通して、地域や関係機関・団体との連携強化に努めた。

いじめに関しては、いじめ防止対策推進法の施行に伴って策定・設置された、「学校いじめ防止基本方針」及び「学校におけるいじめの防止等の対策のための組織」の下、未然防止に努めるとともに、発生した場合には解消に向けて組織的に対応した。

県教育委員会の施策

先行きが不透明な変化の激しい社会の中であって、児童生徒が抱える問題は年々複雑化・多様化してきている。県教育委員会では、こうした問題を児童生徒一人一人が自らの力で主体的に解決していくことができるよう、次のような施策をもとに生徒指導の充実に努めた。

学校・家庭・地域、関係機関・団体との連携・協力の推進

・地区健全育成推進会議（昭和57年度～）平成20年度からは「問題行動への対応に関する総合推進会議」として継続

県内を6地区に分け、学校、PTA、関係機関・団体等の代表が一堂に会し、それぞれ

- の立場から子どもの健全育成について協議し、協力体制の強化を図った。
- ・不登校児童生徒支援連絡協議会（平成30年度～）
県内の主な相談機関が一堂に会して、不登校等に関する事例発表や研究協議・情報交換などを行い、各相談機関のネットワークづくりに努めた。
 - ・いじめ問題対策連絡協議会を設置し、関係機関及び団体が連携していじめに対応する。
 - ・青森県市町村いじめ問題対策情報交換会を設置し、県内の市町村教育委員会が、いじめ問題に対応するため、情報交換をする。
教育相談体制の充実
 - ・適応指導室「こころの教育相談センター」の開設（平成4年度～）
不登校児童生徒やその保護者を対象にしたカウンセリング、自立性や社会性を高めるための陶芸等の創作活動やキャンプ等の野外活動、教科の補充学習などを行った。
 - ・「スクールカウンセラー」の配置・派遣（平成7年度～）
心理の専門家であるスクールカウンセラーを県内全ての公立小・中学校に配置・派遣し、児童生徒のカウンセリングや保護者及び教職員に対する指導・助言を行った。
 - ・県内教育事務所や県立高校に、「スクールソーシャルワーカー」を配置し、不登校や問題行動等への対応に関する相談・訪問や学校と関係機関等とのネットワークの構築を行っている。
 - ・学校教育課に「ソーシャルメディア等監視員」を配置し、インターネット上のいじめに関する事案を監視する。
 - ・ハートケアアドバイザー配置（平成8年度～）
各教育事務所に配置した「いじめ対応アドバイザー」（平成8年～）からはじまり、平成16年度には教育相談の経験が豊かな「ハートケアアドバイザー」を東青教育事務所に配置し、電話相談や学校、家庭等を訪問して助言、援助を行った。平成19年度からは学校教育課に2人配置している。
 - ・24時間子供SOSダイヤル（平成27年度から名称変更）
ハートケアアドバイザー等が24時間体制でいじめや不登校などの電話相談に応じる。
 - ・不登校、暴力行為、いじめ、児童虐待、高校中退の課題について、未然防止、早期発見・早期対応など、児童生徒の支援に効果的な取組について調査研究を行った。
資料の作成や教員研修の実施
生徒指導に関する各種啓発・指導資料の作成や生徒指導に関する研修講座を開設し、生徒指導に対する教職員の問題意識の高揚や指導力の向上を図った。
 - ・学校不適應への適切な対応を図る不登校対策講座の実施（平成2年度～）
 - ・カウンセリングの技法を身に付ける研修講座の実施（平成30年度～）
 - ・「初任者、中堅教諭等資質向上研修（前・後期）」における生徒指導分野の充実
 - ・県内全公立小・中学校生徒指導主任・主事研究協議会を実施（平成19年度～）
 - ・いじめの未然防止、早期発見・早期対応に向けたポスターを作成、県内小・中・高等学校及び特別支援学校に配布
 - ・いじめの早期発見・早期対応のため、相談窓口周知カードを作成し、小・中・高等学校及び特別支援学校の新1年生に配布。平成30年度からは中・高校生にネットいじめ等に関する情報提供・相談窓口サイトの案内を加えて掲載。
 - ・安心できる学校づくり推進事業（令和2年度～）
いじめの早期発見、適切な事案対処に係る学校の組織的対応力や教員の指導力向上を図るため、教員の研修を行った。

いじめの認知件数の推移（国公立）

小学校

(件)

年度	本 県		全 国	
	認知 件数	1校 あたり	認知 件数	1校 あたり
22	271	0.8	36,909	1.7
23	270	0.8	33,124	1.5
24	414	1.3	117,384	5.5
25	344	1.1	118,748	5.6
26	596	1.9	122,734	5.9
27	614	2.0	151,692	7.4
28	3,853	13.2	237,256	11.7
29	5,658	19.6	317,121	15.7
30	5,670	19.8	425,844	21.3
元	4,840	17.2	484,545	24.4
2	3,804	14.1	420,897	21.4
3	3,879	14.7	500,562	25.7
4	4,162	16.1	551,944	28.5

中学校

(件)

年度	本 県		全 国	
	認知 件数	1校 あたり	認知 件数	1校 あたり
22	467	2.7	33,323	3.1
23	454	2.7	30,749	2.8
24	652	3.8	63,634	5.9
25	548	3.2	55,248	5.2
26	517	3.1	52,971	5.0
27	486	2.9	59,502	5.6
28	1,214	7.4	71,309	6.8
29	1,171	7.3	80,424	7.7
30	1,319	8.1	97,704	9.4
元	1,246	8.1	106,524	10.3
2	921	5.8	80,877	7.8
3	1,176	7.5	97,937	9.5
4	1,418	9.1	111,404	10.9

高等学校

(件)

年度	本 県		全 国	
	認知 件数	1校 あたり	認知 件数	1校 あたり
22	73	0.7	7,018	1.2
23	62	0.6	6,020	1.1
24	112	1.1	16,274	2.9
25	73	0.8	11,039	1.9
26	111	1.2	11,404	2.0
27	120	1.3	12,664	2.2
28	163	1.8	12,874	2.3
29	219	2.4	14,789	2.6
30	241	2.7	17,709	3.5
元	204	2.3	18,352	3.2
2	156	1.8	13,126	2.3
3	140	1.6	14,157	2.5
4	208	2.9	15,568	3.1

特別支援

(件)

年度	本 県		全 国	
	認知 件数	1校 あたり	認知 件数	1校 あたり
22	7	0.4	380	0.4
23	5	0.3	338	0.3
24	3	0.2	817	0.8
25	3	0.2	768	0.7
26	1	0.1	963	0.9
27	4	0.2	1,274	1.1
28	7	0.4	1,704	1.5
29	17	0.8	2,044	0.1
30	36	1.7	2,676	2.3
元	30	1.4	3,075	2.7
2	29	1.4	2,263	2.0
3	19	0.9	2,695	2.3
4	12	0.6	3,032	2.6

平成18年度から：「いじめ」とは、当該児童生徒が、一定の人間関係のある者から、心理的、物理的な攻撃を受けたことにより、精神的な苦痛を感じているものをいう。

平成25年度から：「いじめ」とは、児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等当該児童等と一定の人的関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているものをいう。なお、起こった場所は学校の内外を問わない。

平成28年度から：けんかやふざけ合ひであっても、見えない所で被害が発生している場合もあるため、背景にある事情の調査を行い、児童生徒の感じる被害性に着目し、いじめに該当するか否かを判断するものとする。

不登校児童生徒数の推移（国公立）

小学校

（人）

中学校

（人）

年度	本 県		全 国	
	不登校児童数	在籍比	不登校児童数	在籍比
22	200	0.27	22,463	0.32
23	187	0.26	22,622	0.33
24	180	0.26	21,243	0.31
25	197	0.29	24,175	0.36
26	214	0.33	25,864	0.39
27	218	0.35	27,583	0.42
28	252	0.42	30,448	0.47
29	281	0.47	35,032	0.54
30	323	0.55	44,841	0.70
元	358	0.63	53,350	0.83
2	357	0.64	63,350	1.00
3	500	0.92	81,498	1.30
4	611	1.14	105,112	1.70

年度	本 県		全 国	
	不登校生徒数	在籍比	不登校生徒数	在籍比
22	1,181	2.87	97,428	2.73
23	1,090	2.69	94,836	2.64
24	1,041	2.64	91,446	2.56
25	985	2.56	95,442	2.69
26	975	2.60	97,033	2.76
27	991	2.70	98,408	2.83
28	1,029	2.90	103,235	3.01
29	1,015	2.99	108,999	3.25
30	1,003	3.12	119,687	3.65
元	998	3.21	127,922	3.94
2	1,130	3.74	132,777	4.09
3	1,410	4.71	163,442	5.00
4	1,638	5.64	193,936	5.98

不登校児童生徒とは、「何らかの心理的、情緒的、身体的、あるいは社会的要因・背景により、児童生徒が登校しないあるいはしたくともできない状況にある者（ただし、『病気』や『経済的理由』による者を除く。）で、30日以上欠席した者」をいう。

4節 道 徳 教 育

1 道徳教育の指導の方針と事業

一人一人の子どもが、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を家庭、学校、その他社会における具体的な生活の中に生かし、豊かな心をもつことができるよう、「道徳教育を推進する指導体制と全体計画の整備・充実」、「道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる指導の工夫」、「郷土を愛する心を育む指導の充実」等について、学校訪問での指導と下記の事業を実施して徹底を図った。

学校・家庭・地域が連携を図り、豊かな体験活動の場を児童生徒に提供し、子どもの道徳的実践力の向上を図るため、文部科学省の委託を受け「道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業」を計画し、指定校として外ヶ浜町立蟹田小学校・外ヶ浜町立蟹田中学校を定め、特色ある道徳教育の実践、研究を行った。年2回、道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業の研究計画について協議・評価を行う道徳教育推進協議会を開催し、本県児童生徒に命を大切にすの心や他人を思いやる心など、豊かな心を育成するための諸対策について検討を行い、また、道徳教育パワーアップ協議会において、全県から参加者を募り（81名参加）、研究の成果を広く周知した。

教育事務所ごとに、管内の小・中学校教員及び保護者や地域の方々を対象とした「道徳教育研究協議会」を、1日または半日日程を2日間にわたって開催した。研究協議会では、指導案づくりや道徳の授業参観、道徳教育における指導上の諸問題についての協議を行い、これらの問題の解明と教員の資質・能力向上及び家庭や地域との連携に努めた。

郷土の先人の伝記や逸話、自然、伝統と文化、スポーツなどを題材に取り上げた『郷土資料にかかわる実践事例集【小学校編】・【中学校編】』を活用するよう、各学校を指導した。

5節 へき地教育

1 主な事業

複式学級担任者研修会

趣旨

複式学級担任者に、複式学級の学習指導及び学級経営等について研修させ、指導力の向上を図る。

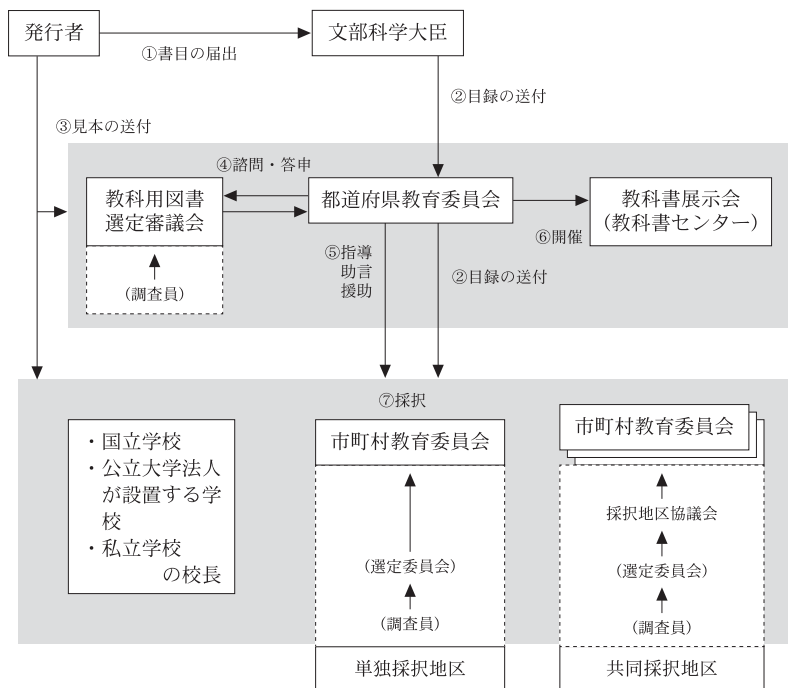
教育事務所	期 日	会 場
東 青	6月2日(金)	外ヶ浜町立三隼小学校
西 北	6月23日(金)	弘前市立三省小学校 西北・中南教育事務所の合同開催
中 南		
上 北	6月27日(火)	十和田市立深持小学校
下 北	6月16日(金)	大間町立奥戸小学校
三 八	6月13日(火)	階上町立階上小学校

研修内容

- ・授業参観と授業研究会
 - ・複式学習指導における指導法及び用語等について
 - ・複式学級の学習指導及び学級経営について
 - ・教育機器の活用等について
- 外国語科の実践例やICT機器を活用した実践例を紹介

6節 教科書採択

1 義務教育諸学校用教科書採択の仕組み



2 採択の権限

教科書を採択する権限は、公立学校では、その学校を設置する市町村や都道府県の教育委員会に、また国立学校、公立大学法人が設置する学校及び私立学校では、その学校の校長にある。

3 義務教育諸学校の教科書採択

小学校、中学校及び特別支援学校（小・中学部）の教科書は、学校教育法附則第9条に規定する教科用図書を除き、4年間は同一の教科書を使用することになっている。

令和5年度は、令和6年度に使用する小学校用及び学校教育法附則第9条に規定する教科用図書について採択を行った。

採択に当たっては、諮問機関としての「青森県教科用図書選定審議会」が設置され、教科用図書の採択基準や選定に必要な資料等についての審議がなされ、県教育委員会が答申を受けた。

県教育委員会は、この答申に基づいて市町村の教育委員会並びに国立及び私立の義務教育諸学校の校長の行う教科書採択についての指導、助言及び援助を行った。

（小・中学校の教科書検定・採択の周期）

学校種別等区別		年度																													
		H10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	R元	2	3	4	5	6	7	8	
小学校	検定																														
	採択																														
	使用開始																														
中学校	検定																														
	採択																														
	使用開始																														

検定 採択 使用開始 は道徳科

4 教科書展示会

県教育委員会では、翌年度使用する教科書の適正な採択を図るため、県内15の教科書センターで毎年教科書展示会を開催している。令和5年度は、6月1日から土曜日及び日曜日を除いた14日間開催した。

4章 高等学校教育

1節 学校の概況

1 学校数・生徒数

(R.5.5.1)

区分		学校数			生徒数			
					本 科			専攻科
		本校 (中心校)	分校	計	男	女	計	
全 日 制	県立	43	-	43	9,919	9,679	19,598	107
	私立	17	-	17	3,978	3,639	7,617	134
	計	60	-	60	13,897	13,318	27,215	241
定 時 制	県立	9	-	9	427	403	830	-
	市立	-	-	-	-	-	-	-
	計	9	-	9	427	403	830	-
合 計		69	-	69	14,324	13,721	28,045	241

2節 施設・設備

1 建物保有状況

令和5年5月1日現在における建物保有面積は、校舎で対前年度比4.84% (22,215㎡) 減の436,596㎡、屋内運動場で対前年度比8.83% (9,725㎡) 減の100,399㎡となり、また、建物の保有状況を構造別にみると、鉄筋コンクリート・鉄骨造の不燃化構造が校舎で97.2%、屋内運動場で99.7%となっている。

校 舎

学校種別	学校数	面積 ㎡	構 造 別 面 積		
			鉄 筋	鉄骨・その他	木 造
県立高校	46	436,596	379,445	44,821	12,330

屋 内 運 動 場

学校種別	学校数	面積 ㎡	構 造 別 面 積		
			鉄 筋	鉄骨・その他	木 造
県立高校	46	100,399	7,600	92,470	329

2 施設整備状況

令和5年度における高等学校の施設整備は、次の方針に基づいて進めた。

安全・安心な教育環境の確保のため、老朽化の解消等に努めるとともに、教育内容の変化に伴う施設の整備等、教育環境の改善を図る。

計画的な大規模改修による整備を図る。

(R6.3.31)

区 分	学 校 名
校舎等建築調査設計	下北地区統合校9校
校舎等建築	三沢高校等5校
長寿命化改修等	野辺地高校等2校
大規模改修	青森北高校等34校

3 産業教育施設・設備の整備

県立学校の産業教育施設・設備の整備については、科学技術の進歩や産業構造の変化及びそれらに対応した各学校の教育内容に応じて、逐年、整備を進めてきているが、令和4年度末の投資率は施設47.5%、設備74.6%となっている。令和5年度は、次のとおり整備した。

産業教育設備

特別装置	287,515千円
情報処理教育設備	9,806千円
産業教育設備リニューアル事業	79,774千円

4 教育用コンピュータ

- ・整備校 46校
- ・設備費 134,461千円

5 県立学校校内LAN整備

情報化に対応した学校教育を実現するため、平成12年度より整備を進めており、令和5年度末の整備率は100%となっている。

3節 教育課程

1 令和5年度の教育課程

平成11年3月に改訂された高等学校学習指導要領は、完全学校週5日制の下、各学校が「ゆとり」の中で特色ある教育を展開し、生徒に豊かな人間性や自ら学び自ら考える力などの「生きる力」の育成を図ることを基本的なねらいとして、卒業に必要な修得総単位数を従来の80単位以上から74単位以上に改め、必修科目の設定に当たっては、複数の科目の中から選択的に履修できるようにする選択必修の考え方を基本とし、普通科における必修科目の最低合計単位数を38単位から31単位に縮減した。また、専門学科における専門科目の必修単位数を30単位以上から25単位以上に縮減した。

文部科学省は平成15年12月に「確かな学力」を育成し、「生きる力」をはぐくむという学習指導要領の更なる定着を進め、そのねらいの一層の実現を図るために、学習指導要領の一部改正を行った。そこで、各学校では生徒の多様な興味・関心、進路希望などに応じた教育課程編成に努めた。

なお、平成21年3月9日に現行の高等学校学習指導要領が告示され、教育基本法・学校教育法改正後の新しい教育課程の基準が示された。

「生きる力」をはぐくむという前学習指導要領の基本理念は、現行の学習指導要領においても変わらない。平成21年の改訂は、この「生きる力」の理念の実現のために、これまでの学校現場等での課題を踏まえ、指導面などでの具体的な手立てを確立することを目指すものである。

また、平成30年3月30日に告示された新しい高等学校学習指導要領は、令和4年度から年次進行で実施することとし、令和元年度から従来の「総合的な学習の時間」を「総合的な探究の時間」に改めるなど、一部を移行措置として実施している。

2 総履修単位数（特別活動を除く）の設定

全日制の課程における週あたりの授業時数については、引き続き30時間を標準とした上で、これを超えて授業を行うことができることを明確化した。

本県では、全日制高等学校43校中18校（41.9%）が総履修単位数を87単位に設定した。最も多い総履修単位数としては100単位で、弘前南高等学校で設定した。

定時制高等学校においては、尾上総合高等学校が84単位設定し、9校中6校（66.7%）が76単位を設定した。

通信制高等学校においては、北斗高等学校が74単位から86単位を、その他2校が74単位から90単位を設定した。

全日制

総履修単位数	87	88～90	91～93	94～96	97～99	100～102	103～105	計
普通	6	1	1	4	11	1	0	24校
総合	2	1	0	0	1	0	0	4校
農業	0	0	3	1	0	0	0	4校
工業	5	1	0	0	0	0	0	6校
水産	1	0	0	0	0	0	0	1校
商業	4	0	0	0	0	0	0	4校
計	18	3	4	5	12	1	0	43校

* 学年によって異なる履修単位数を設定している高等学校については、令和5年度入学生の単位数で分類している。

定 時 制

総 履 修 単 位 数	75	76	77	84	計
普 通	1	3	1	0	5校
総 合	0	0	0	1	1校
専 門	0	3	0	0	3校
計	1	6	1	1	9校

* 3 修制等によって異なる履修単位数を設定している高等学校については、最小単位数で分類している。

通 信 制

北斗高等学校では74～86単位、尾上総合高等学校及び八戸中央高等学校では74～90単位設定した。

3 総合的な探究（学習）の時間

平成21年度3月の改訂で、「総合的な学習の時間」の教育課程における位置付けを明確にし、各学校における指導の充実を図るため、「総合的な学習の時間」の趣旨等について、総則から取り出し新たに章立てをし、目標が新たに設定された。目標は次の五つの要素から構成されている。

横断的・総合的な学習や探究的な学習を通すこと

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成すること

学び方やものの考え方を身に付けること

問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育てること

自己の在り方生き方を考えることができるようにすること

各学校の総合的な学習の時間の目標は、この から の五つの要素をすべて含み、この時間全体を通して、各学校が育てたいと願う生徒像や育てようとする資質や能力及び態度、学習活動の在り方などを表現したものになることが求められる。

また、平成30年3月の改訂で実施されている「総合的な探究の時間」の目標は、大きく二つの要素で構成されている。一つは、総合的な探究の時間に固有な見方・考え方を働かせて、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を育成するという、総合的な探究の時間の特質を踏まえた学習過程の在り方である。もう一つは、次の 、 、 として示している、総合的な探究の時間を通して育成することを目指す資質・能力である。

探究の過程において、課題の発見と解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究の意義や価値を理解するようにする。

実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。

探究に主体的・協同的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、新たな価値を創造し、よりよい社会を実現しようとする態度を養う。

各学校においては、この目標を踏まえ、各学校の総合的な探究の時間の目標を定め、その実現を目指すことが求められている。

各校の「総合的な探究（学習）の時間」では、インターンシップ、ボランティア活動、キャリア教育などを積極的に取り入れることによって生徒が問題の解決や探究的な活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、将来の生き方を考えさせる学習の充実を図ったことがうかがえる。

全 日 制

すべての生徒が「総合的な探究(学習)の時間」を履修する学校	24校
普通科の生徒は「総合的な探究(学習)の時間」を履修するが、専門学科の生徒は「課題研究」で代替する学校	4校
すべての生徒が「総合的な探究(学習)の時間」を「課題研究」で代替する学校	10校
「総合的な探究(学習)の時間」を1・2単位のみ履修し、不足分を「課題研究」で代替する学校	2校
その他*	3校
計	43校

* 青森高等学校では、文系においては「総合的な探究(学習)の時間」を3単位履修している。理系においては「総合的な探究(学習)の時間」を3単位履修し、うち2単位をSS(スーパーサイエンス)科目で代替している。

* 弘前実業高等学校ではスポーツ科学科のみ「総合的な探究(学習)の時間」を履修し、他の学科は「課題研究」で代替している。

定 時 制

すべての生徒が「総合的な探究(学習)の時間」を履修する学校	5校
すべての生徒が「総合的な探究(学習)の時間」を「課題研究」で代替する学校	3校
その他	1校
計	9校

通 信 制

すべての生徒が「総合的な探究(学習)の時間」を履修する学校	3校
計	3校

4 学校設定科目

学習指導要領では、各学校において、特色ある教育課程の編成に資するよう、学習指導要領で定める教科・科目以外にも、各学校で独自に学校設定教科・科目を開設できるとしている。

令和5年度は、全日制高等学校43校中40校(93.0%)が、定時制高等学校においては9校中5校(55.6%)が学校設定科目を導入して特色ある教育課程の編成に取り組んでいる。

学校設定科目を最も多く設定した学校は青森東高等学校(6教科21科目)、青森中央高等学校(9教科21科目)、八戸北高等学校(8教科21科目)であった。

学校設定科目を(1科目以上)設定した学校数

	令和5年度
全 日 制	46校
定 時 制	5校
通 信 制	1校
計	52校

5 普通高等学校における専門科目の設定

学習指導要領では、普通科において職業科目の開設を増やし、生徒の選択の幅を拡大するなど、それぞれの学校や生徒の実態に一層対応した教育課程の編成を求めている。

令和5年度全日制普通高等学校(24校)の普通科において専門教育に関する教科・科目を開設した学校は8校(33.3%)で、定時制普通高等学校(5校)の普通科においては4校の学校が開設した。また、通信制高等学校はすべての学校が専門科目を設定した。

全 日 制 *専門科目を設定した12校の科目内訳

設 定 科 目	商業科目	家庭科目	情報科目	福祉科目
校 数	8	6	1	1

定 時 制 *専門科目を設定した4校の科目内訳

設 定 科 目	商業科目	家庭科目
校 数	2	3

通 信 制 *専門科目を設定した3校の科目内訳

設 定 科 目	商業科目	家庭科目
校 数	3	3

6 2 学 期 制

完全学校週5日制のもと、授業時数の確保のため2学期制を実施する学校がほぼ半数を超えたこともあったが、近年では生徒や地域の実情から3学期制へ戻す学校が増加した。

令和5年度に2学期制を実施した学校

	令和5年度	昨 年 比
全 日 制	6 校	0 校
定 時 制	5 校	0 校
通 信 制	3 校	0 校
計	14 校	0 校

7 単位時間の設定

令和5年度は、全日制高等学校43校中42校(97.7%)が1単位時間50分を設定した。

定時制高等学校においては、すべての学校が45分を設定した。

全 日 制

1単位時間	45分	50分
校 数	1	42
(昨年度比)	0	-6

定 時 制

1単位時間	45分
校 数	9
(昨年度比)	0

4節 学 習 指 導

1 学習習熟度別指導

能力・適性・進路等の多様化した生徒に対し、一人一人を尊重して個性の伸張を図るため、各教科・科目の指導にあたって、その学習内容の習熟の程度などに応じて、弾力的な学級の編成を工夫して行った。

特に学習習熟度の差が大きくなりやすい数学、英語等の教科・科目において、全日制普通高等学校29校中18校で習熟度別学級編成で指導した。

* 学習習熟度別指導を行っている学校数（全日制）

教科・科目	国語	地歴公民	数学	理科	英語	簿記	会計・原簿計算	情報処理等	その他
普通	4	1	15	3	11	0	1	0	1
総合	0	0	2	1	2	1	1	0	0
農業	1	0	0	0	0	0	0	0	0
工業	0	0	4	0	3	0	0	0	1
水産	0	0	0	0	0	0	0	0	0
商業	0	0	2	0	1	3	3	2	2
計	5	1	23	4	17	4	5	2	4

2 「評価規準」・「シラバス」の作成

各学校が生徒の実態に即した観点別評価規準の整備に努めた。

また、能力・適性・進路等の多様化した生徒に対し、一人一人の生徒が中学校の学習内容及び学習活動から高等学校の学習内容及び学習活動にスムーズに移行できるように、各学校ではシラバスを作成して活用した。

シラバスは、全日制高等学校では45校(91.8%)が作成し、定時制高等学校では8校(88.9%)で作成し、活用した。

	令和4年度まで作成済み	令和5年度作成予定	なし	計
全 日 制	40	0	3	43
定 時 制	8	0	1	9
通 信 制	3	0	0	3
計	51	0	4	55

5 節 生 徒 指 導

1 現 状

中途退学の状況

令和4年度に本県公立高等学校を中途退学した生徒は、228名（前年度から7名減少）であった。在籍者数に対する比率は1.1%であった。

本県公立・私立高等学校について、中途退学にいたった理由としては、「進路変更」が最も多く、次いで「学校生活・学業不適応」となっている。

いじめの状況

公立高等学校におけるいじめの認知件数は、令和4年度は126件となっており、前年度より21件増加している。高等学校入学後の適応指導や人間関係を育む取組など、いじめが起きない環境づくりが今後とも必要である。

暴力行為の状況

公立高等学校における暴力行為の発生件数は、令和4年度は29件で、前年度より7件増加している。

2 対 策

生徒指導の推進について

生徒指導推進要綱に基づき、各校においては次のような取組を推進している。

それぞれ自校の生徒指導上の課題を明確にし、ホームルーム、学年、生徒指導部等において、実践事項について共通理解をもって指導にあたっている。

生徒一人一人について、その状況の把握に努めながら内面の理解を進めるとともに、個に応じた適切な指導を行っている。

教員との信頼関係や生徒相互の好ましい人間関係を基盤としたホームルーム作りに取り組んでいる。

また、生徒がよりよい学校生活を築いていけるよう生徒会活動の充実を図るとともに、勤労体験、奉仕活動などの体験的活動の導入に積極的に取組んでいる。

家庭訪問や地区PTAの開催などを通して、保護者との連携強化に努めるとともに、地域の関係機関との連携を深めるよう取り組んでいる。

県教育委員会の施策

学校間及び関係機関・団体との連携・協力の推進

高等学校及び特別支援学校生徒指導主事研究協議会（昭和49年度～）

高等学校及び特別支援学校における生徒指導上の諸課題とその対策について各校生徒指導担当者による研究協議を行い、各校の生徒指導の充実に資する。

教育相談体制の充実

高等学校へのスクールカウンセラー派遣事業

生徒の臨床心理に関して高度で専門的な知識や経験を有するスクールカウンセラーを、学校の要請に応じて派遣し、教員では対応しきれない複雑な事例等に関して、生徒及びその保護者に対してカウンセリングやアドバイスを行う。

教員研修の実施

学校不応への適切な対応を図る不登校対策研修講座の実施（平成2年度～）

カウンセリングの技法を身に付ける研修講座の実施（平成30年度～）

「初任者研修、中堅教諭等資質向上研修（前・後期）」における生徒指導分野の充実
その他

ネット安全利用啓発リーフレット「インターネットでキズつけない！キズつかない！」
の活用

6節 道徳教育

1 学校の取組

各学校では、学校教育全体を通して道徳教育を進めているが、とりわけ人間としての在り方生き方に関する指導に深く関わる、公民科などの教科・科目、及びホームルーム活動をはじめとする特別活動において、生徒の道徳的実践力の育成を図っている。

また、地域におけるボランティア活動や社会奉仕体験活動を、生徒の道徳的実践の機会としてとらえ、生徒の参加について積極的に推進している。

2 安心できる学校づくり研修会

いじめの早期発見、事案対処に係る学校の組織的対応力や教員の指導力の向上を図るとともに、児童生徒が主体となったいじめ防止活動が継続的に行われる環境づくりを推進すること等を目的として、県内の高等学校及び特別支援学校の教員を対象とする研修会を企画した。いじめ防止等の取組やSOSの出し方に関する教育に係る取組等、各学校において道徳教育が推進されるよう働きかけを行った。

3 道徳教育パワーアップ協議会

県内の小中学校及び県立高等学校の教員を対象とした協議会を実施し、道徳教育の抜本的改善・充実に向けて、学習指導要領の趣旨等を周知し、道徳教育に係る指導内容・方法等の改善に関する協議を行った。

7節 進路指導

1 高等学校進路指導主事研究協議会

高等学校における進路指導の諸課題について研究協議を行い、本県高等学校のキャリア教育・進路指導の充実を図るため、次のとおり高等学校進路指導主事研究協議会を開催した。

参加者 73名（県立高等学校 55名、私立高等学校 18名）

内 容

- A 説 明 ・所管事業について
・令和5年3月卒業生の大学等進学状況等について
- B 講 演 「STEAM教育の教科等横断的な学習の推進について」
- C 研究協議 「進路指導におけるICTを活用した取組」及び「自校における進路指導上の課題（令和7年度大学入学共通テスト新科目「情報」に向けた指導等を含む）」

2 仕事力養成推進事業

目 的

自立した社会人・職業人の育成や就職した後に職場で活躍できる実力（仕事力）を養成するため、3年間の高校教育を見通した系統的ななづくり教育を推進する。

内 容

啓発的体験活動であるインターンシップ等を核に、望ましい職業観・勤労観の育成にむけた取組やビジネスマナーの向上など、各学校が現在取り組んでいる活動を再構築した企画を支援した。

体験（インターンシップ等）

A 実 績 13校 926人

B 助成内容 体験記録集の作成経費補助、受入事務所との通信連絡費補助

演習（ビジネスマナー講習会等）

A 実 績 11校 のべ1,235人

B 助成内容 講師謝金及び講師旅費

3 長期企業等派遣研修

目 的

- ・企業が求める人材を学校全体で共有し、学校経営にいかす。
- ・企業が求める人材や企業の人材活用の視点を取り入れた学校経営を他校へ波及させる。

内 容

県立高等学校の教諭1名を、弘前商工会議所に派遣した。

4 長期企業研修出前講座

目 的

高校生が将来、社会人・職業人として自立できるような職業観・勤労観を育成する。

実 績

県立高等学校において、実施した。

内 容

平成27～令和4年度長期企業等派遣研修派遣教員や受入企業担当者等が、高校生に直接語りかける授業やパネルディスカッション等により、企業の実情を高校生へ伝える。

5 高校生の就職総合支援プロジェクト事業「キャリア形成講座・研修会」

目的

高校生が職業人として必要な能力を身に付けるとともに、就職に対する意識を高めることにより、就職内定率の向上を図る。

概要

危険物取扱者、簿記などの就職に有利となる資格取得対策のための講座実施の支援や、コミュニケーション能力、ビジネスマナー等の社会人基礎力向上等に係る研修会実施の支援。

実績

- ・講座 25校53講座 1,438名
- ・研修会 9校9講座 503名

6 高校生の就職総合支援プロジェクト事業「介護員養成講習会」

目的

介護員養成講習会を実施し、介護・福祉分野への就職を支援する。

内容

「介護職員初任者研修課程」講習会を業務委託により青森、弘前、八戸、三沢、むつの県内5地区で開催した。

実績

40名が資格取得

7 高校生の就職総合支援プロジェクト事業「先進技能習得研修」

目的

専門学科（農業、水産、工業、商業、家庭、看護、福祉）の生徒のより高度な資格取得や先進技能習得に向けた指導に対応できるよう、教員の研修等を支援する。

内容

高度な資格（プログラミング学習、プレス機械作業）取得の指導や先進技能習得の指導に向けた研究機関等の研修機関へ教員を派遣する。

実績

- ・先進技能習得研修 9校の教員が9研修会に参加

8 高校生の就職総合支援プロジェクト事業「県内企業理解促進プログラム」

目的

県内の高校の生徒、教員及び保護者が県内企業の訪問や企業採用担当者等との交流会等として、高校と県内企業の相互理解をし、県内で働き生活することへの理解を深める。

内容

各地区において高校生、教員、保護者対象の「企業見学会」の実施。

実績

- ・企業見学会 県内6地区で計9回実施した。

9 進学力パワーアッププログラム

目 的

高等学校教員の進学指導力の向上と保護者の意識啓発を図るために各校が実施する事業を支援する。

実 績

学校から提出された事業計画書を審査の上、20校程度の実施校を決定し、実施。

内 容

入試問題研究、高校と大学の連携を深めるための大学模擬講義・小論文の指導法の研究・大学見学等。

令和5年度進学力を高める高校支援事業「進学力パワーアッププログラム」実施内容

	学 校 名	事 業 名
1	青森西高校	2023年度 全学年合同大学研究
2	青森北高校	進学力パワーアップ春期講習
3	八戸東高校	新たな時代を創造し力強く生きるための学びの土台作り
4	八戸北高校	大学講師による模擬講義
5	八戸西高校	生徒が大学について学ぶためのオープンキャンパス参加
6	五所川原高校	課題研究の充実による理数科生徒の進学力向上事業
7	木造高校	木高キャリア向上プログラム～大学魅力発見プロジェクト～
8	野辺地高校	令和5年度 野辺地高校 大学・専門学校研究プログラム
9	七戸高校	地域の大学等の魅力を再発見 RALU事業
10	百石高校	生徒・保護者・地域と目指す進路達成プロジェクト
11	六ヶ所高校	大学生とカタル！カタリバ！
12	三本木高校	英語指導法研究協議会
13	田名部高校	教科指導力向上事業 育てる視点 - 教え方のコツ -
14	大湊高校	小論文指導者講習
15	三本木農業高校	大学の魅力を知って進学意欲を高めよう
16	五所川原工科高校	わくわく進学プロジェクト
17	十和田工業高校	県内上級学校現地説明会
18	青森商業高校	小論文講座
19	青森高校	最難関大学志望者合同進学合宿
	弘前高校	
	八戸高校	

10 医師を志す高校生支援事業

目 的

本県の医師不足を解消するために、高校生に医師への志を育てるとともに、高い志望を持続させ、医学部医学科に合格するための実力を養成し、受験者層の拡大を図り、合格者の増加を目的とする。

内 容

医師を目指す本県高校生に対して、県内3地区（青森・弘前・八戸）に拠点校を設置し、地区ごとに学校が主体となり、学力向上セミナー・教員対象プログラムを実施する。

ア 生徒対象セミナー

対 象：高校1～3年生及び教員

講 師：予備校講師等

実施回数：各地区各学年で年2回程度（1回あたり2日間日程）実施

参加人数：1回あたり各学年生徒約100名 教員約10人

イ 教員対象プログラム

対 象：教員

内 容：県内教員40名を研修セミナーに派遣する。

県健康福祉部医療薬務課と連携事業

ア 医療施設見学及び医療体験（医療チュートリアル体験事業）

医療施設を訪問して医師と交流し、医療体験をする見学会を開催。

実施回数：4回

対 象：県内の高校生

イ 医師による講演会（ドクタートーク）

県内で活躍する医師による講演の開催。

実施回数：2回

対 象：県内の高校生

8節 産 業 教 育

県産業教育審議会は県教育委員会に平成元年5月30日「本県の県立高等学校における水産に関する教育の在り方について」答申し、水産業の動向や高度技術化、情報化などの進展に対応しうる人材の養成を目指す水産教育の推進について提言した。

県教育委員会では、この答申を受けて、水産に関する教育の充実について検討を進め、平成元年11月に平成2年度から3年間で行う学科再編計画を決定した。これに対応するため、施設・設備の充実を図るとともに、コンピュータ等を利用した航海技術、栽培漁業技術及び水産食品製造技術等の指導者養成のため、内地留学生派遣、産業教育技術研修などを実施している。

また、同審議会は、県教育委員会に平成元年11月7日「本県の県立高等学校における商業、家庭及び看護に関する教育の在り方について」答申し、経済生活全般にわたるサービス経済化、国際化や情報化の進展に対応しうる商業技術者の育成と、核家族化や女性の職場動向及び高齢化、情報化、国際化などの進展に対応しうる人材の養成を目指す家庭、看護教育の推進についても提言した。

県教育委員会では、この答申を受けて、平成3年度から3年間で学科再編などを実施するとともに、施設・設備の充実を図り、サービス経済化、国際化や情報化に対応する指導者の養成のため、内地留学生派遣、産業教育技術研修などを行った。

平成6年11月29日に、新たに「本県の県立高等学校における農業、工業及び看護教育の在り方について」諮問を行い、平成8年7月24日に同審議会より答申を受け、各教育施策を展開してきた。

その後、県教育委員会では、県立高等学校教育改革第1次実施計画、第2次実施計画、第3次実施計画(平成21～29年度)を策定し、この計画のもと、特色ある学科・コース等の整備・充実等を図った。

また、平成29年7月には「青森県立高等学校教育改革推進計画第1期実施計画」を策定し、各地区の産業構造や今後の産業振興の方向性を踏まえ、農業科、工業科、商業科等の各学科における高度な知識・技能を身に付けた専門的職業人の育成に積極的に取り組むことができるよう県立高等学校の適正な学校規模・配置や学科・コース等の改編・整備等を進めた。

さらに、令和3年11月には「青森県立高等学校教育改革推進計画第2期実施計画」を策定し、基礎的・基本的な知識・技術に加え、職業の多様化に対応できる資質・能力を育むとともに高度な知識・技能を身に付け、社会の発展に貢献できる人材の育成に向け、大学等との接続を視野に入れた取組や地域・企業等と連携・協力した取組を推進している。

9節 定 時 制 ・ 通 信 制 教 育

1 定時制教育の現状

令和5年3月中学校新規卒業者のうち、定時制高等学校への進学者は257人で、昨年度から7人の減少となった。これを県内・県外別にみると、県内においては5人の減少、県外においては2人の減少となっている。

また、県内定時制高等学校への令和5年度における入学人数は276人で、昨年度より27人増加した。

県内中学校卒業者のうち定時制進学者の推移

区分	25・3	26・3	27・3	28・3	29・3	30・3	31・3	R2・3	R3・3	R4・3	R5・3
県内	337	332	303	283	279	234	247	258	242	262	257
県外	7	4	1	3	3	3	4	1	1	2	0
計	344	336	304	286	282	237	251	259	243	264	257

県内定時制高等学校入学者の推移

25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
364(357)	370(367)	325(316)	303(303)	305(305)	265(265)	270(270)	279(279)	271(271)	298(298)	276(276)

()内は、単位制高等学校への進学者数である。

2 定時制教育の振興

平成4年度に北斗高等学校及び八戸中央高等学校に単位制を導入し、平成6年度には両校に昼間部を設置、さらに、平成9年度からは、単位制以外の定時制高等学校の修業年限を「4年」から「3年以上」に弾力化した。

また、平成11年度には尾上総合高等学校定時制課程を設置するなど、定時制教育の活性化に努めてきた。

このほか、本県定時制教育の振興策として、次の事項に努力している。

施設・設備などの教育環境整備はもとより、魅力ある教育内容を取り入れるとともに、定時制高等学校の適正配置についても見直しを図り、定時制教育の振興に努力する。

中学校における定時制高等学校への進学を含めたきめ細かな進路指導の徹底を図るとともに、県内産業・経済界に対し、定時制教育への理解を得られるよう働きかける。

3 通信制教育の現状と振興

令和5年度入学者は284人で、前年度比38人増となっている。

また、令和4年度中(令和5年3月まで)の卒業者は、261人である。

生徒の多様なニーズに対応し、学習条件のより一層の充実を図るため、平成25年度から北斗高等学校、尾上総合高等学校、八戸中央高等学校に通信制の課程を設置している。

入 学 生 徒 数

年度 学校名	30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
北 斗 高 等 学 校	13	38	9	31	15	22	19	33	22	34	15	23
八戸中央高等学校	11	23	24	42	18	25	25	34	29	24	13	16
尾上総合高等学校	14	13	13	24	18	25	13	26	25	31	33	37
青森山田高等学校	23	34	23	32	25	34	14	10	10	16	29	44
東興学園高等学校	4	9	7	5	8	11	5	9	6	18	10	17
五所川原第一高等学校	10	11	9	7	8	13	13	19	12	19	16	31
計	75	128	85	141	92	130	89	131	104	142	116	168

卒 業 者 数

年度 学校名	29年度		30年度		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
北 斗 高 等 学 校	16	29	14	20	11	34	7	24	14	30	16	23
八戸中央高等学校	13	27	12	17	13	29	10	20	21	28	12	24
尾上総合高等学校	8	17	3	9	8	9	12	15	10	17	8	16
青森山田高等学校	53	55	49	64	35	46	28	58	38	31	36	45
東興学園高等学校	10	16	11	7	10	10	10	12	10	8	6	22
五所川原第一高等学校	13	24	19	18	6	29	21	27	23	29	21	32
計	113	168	108	135	83	157	88	156	116	143	99	162

10節 文化活動支援

1 青森県高等学校総合文化祭

県内高等学校の文化部活動の総合的な発表の場である第44回青森県高等学校総合文化祭が、「開こう 明日への扉 築こう 未来のカタチ」をテーマに、三八・上北地区を中心に行われ、延べ3,421人の高校生が参加した。

主催：青森県高等学校文化連盟、青森県教育委員会

令和5年度 第44回青森県高等学校総合文化祭日程及び会場

会場		期日(日程)	10月6日(金)	10月7日(土)	10月8日(日)
八戸市	八戸市公会堂 八戸市内丸一丁目1-1 0178-44-7171	大ホール	総合開会式 13:00～14:50	吹奏楽部門 10:00～18:00	合唱部門 12:30～15:15
			マーチングバンド・ パントワリング部門 吹奏楽部門 17:00～18:00		
八戸市	八戸市美術館 八戸市番町10-4 0178-45-8338	ホワイトキューブ・ ギャラリー1・2 スタジオ	美術部門 13:00～17:00	美術部門 10:00～17:00	美術部門 10:00～15:00
八戸市	ユートリー(VISITはちのへ) 八戸市一番町一丁目9-22 0178-27-2227	視聴覚室	-	囲碁部門 10:00～16:00	囲碁部門 10:00～13:00
八戸市街地			記念パレード 11:30～12:00	-	-

会場		期日(日程)	10月13日(金)	10月14日(土)	10月15日(日)
八戸市	八戸市美術館 八戸市番町10-4 0178-45-8338	ホワイトキューブ・ ギャラリー1・2 スタジオ	書道部門 11:00～17:00	書道部門 10:00～17:00	書道部門 10:00～15:00
			八戸ポータルミュージアムはっち 八戸市三日町11-1 0178-22-8228	シアター1・ ギャラリー1・2	文芸部門 9:00～16:45
八戸市	八戸市水産会館 八戸市白銀町三島下95 0178-31-3001	大研修室	写真部門 11:00～17:00	写真部門 10:00～17:00	写真部門 10:00～15:00
青森市	青森県立八戸北高等学校 八戸市大字久保字町道8-3 0178-33-0810	生徒会館	-	弁論部門 10:00～12:00	-
弘前市	弘前市市民会館 弘前市下白銀町1-6 0172-32-3374	大ホール	-	演劇部門 9:20～17:20	演劇部門 9:40～17:40

会場		期日(日程)	10月21日(土)	10月22日(日)
八戸市	青森県立八戸東高等学校 八戸市類家一丁目4-47 0178-43-0262	体育館	自然科学部門 9:30～17:30	自然科学部門 8:50～12:20 一般公開なし
			八戸聖ウルスラ学院高等学校 八戸市田面木上野平53-2 0178-27-2245	第1体育館
青森市	青森明の星中学・高等学校 青森市浪打2-6-32 017-741-0121	明の星ホール	-	郷土芸能部門 10:15～11:40 日本音楽部門 13:00～14:15 器楽・管弦楽部門 14:15～15:15
おいらせ町	おいらせ町みなくる館 上北郡おいらせ町下前田145-1 0178-52-3900	みなくるホール	将棋部門 10:30～17:00	将棋部門 10:30～13:00

会場		期日(日程)	10月28日(土)	10月29日(日)
八戸市	八戸市公民館 八戸市内丸一丁目1-1 0178-45-1511	公民館ホール、 会議室、講義室 他	放送部門 9:20～17:50	放送部門 9:30～14:10
			八戸市福祉公民館 八戸市類家四丁目3-1 0178-43-0635	研修室1・2、 いこい室
青森市	青森県立八戸西高等学校 八戸市大字尻内町字中根市14 0178-27-5365	第1・2体育館、 多目的教室	青少年赤十字部門 9:30～16:00	-

2 文化芸術による子供育成総合事業

小学校・中学校等において一流の文化芸術団体による公演を行い、優れた舞台芸術を鑑賞する機会を提供することにより、子供たちの発想力やコミュニケーション能力の育成を図り、将来の芸術家の育成や国民の芸術鑑賞能力の向上につなげる。

主催：文化庁

巡回公演事業

小学校・中学校等において一流の文化芸術団体による巡回公演を行い、優れた舞台芸術を鑑賞する機会を提供することにより、子供たちの発想力やコミュニケーション能力の育成を図り、将来の芸術家の育成や国民の芸術鑑賞能力の向上につなげることを目的とした事業。

分野	公演団体名	実施日	実施校
オーケストラ等	仙台フィルハーモニー管弦楽団	令和5年6月27日	十和田市立南小学校
オーケストラ等	仙台フィルハーモニー管弦楽団	令和5年6月28日	八戸市立田面木小学校
音楽劇	堺ソテオペラ 一般社団法人	令和5年12月12日	県立浪岡養護学校
演劇・児童劇	有限会社劇団かかし座	令和5年9月15日	八戸市立白銀小学校
演劇・児童劇	有限会社劇団角笛	令和5年9月22日	八戸市立高館小学校
演劇・児童劇	劇団トマト座	令和5年12月11日	十和田市立西小学校
演劇	秋田雨雀・土方与志記念青年劇場	令和5年6月20日	弘前市立船沢中学校
演劇	秋田雨雀・土方与志記念青年劇場	令和5年6月23日	田舎館村立田舎館中学校
歌舞伎・能楽	一般社団法人 三宅狂言会	令和5年11月20日	青森市立南中学校
歌舞伎・能楽	一般社団法人 三宅狂言会	令和5年11月27日	八戸市立島守中学校
邦楽	一般社団法人 長唄協会	令和5年11月21日	階上町立階上小学校
演芸	公益社団法人 落語芸術協会	令和5年11月17日	五所川原市立いずみ小学校
演芸	落語と紙切り	令和5年9月13日	県立弘前第二養護学校
演芸	落語と紙切り	令和5年9月14日	五所川原市立市浦小学校
演芸	落語と紙切り	令和5年9月15日	むつ市立奥内小学校
バレエ	スターダンサーズ・バレエ団	令和5年10月26日	平川市立竹館小学校
歌舞伎・能楽	公益社団法人 鎌倉能舞台	令和5年11月6日	青森市立三内中学校
歌舞伎・能楽	公益社団法人 鎌倉能舞台	令和5年11月7日	南部町立南部中学校
歌舞伎・能楽	公益社団法人 鎌倉能舞台	令和5年11月15日	五戸町立倉石中学校
歌舞伎・能楽	公益社団法人 鎌倉能舞台	令和5年11月16日	三沢市立上久保小学校

芸術家の派遣事業

小学校・中学校等に個人又は少人数の芸術家を派遣し、講話、実技披露、実技指導（以下「講話等」という。）を実施することにより、子供たちの豊かな創造力・想像力や、思考力、コミュニケーション能力などを養うとともに、将来の芸術家や観客層を育成し、優れた文化芸術の創造に資することを目的とした事業。

分野	講師名	実施日	実施校
音楽・弦楽器	沖澤直子	令和5年7月11日	青森市立荒川中学校
音楽・弦楽器	沖澤直子	令和5年7月11日	青森市立油川中学校
音楽・弦楽器	沖澤直子	令和5年7月12日	青森市立三内中学校
音楽・弦楽器	佐藤嘉則	令和5年6月26日	八戸市立膠小学校
音楽・弦楽器	佐藤嘉則	令和5年6月27日	八戸市立明治小学校
音楽・弦楽器	佐藤嘉則	令和5年6月28日	八戸市立函南小学校
音楽・弦楽器	佐藤嘉則	令和5年6月29日	八戸市立西園小学校

3 県域文化団体への助成

団体名	補助金額(千円)	補助対象事業の内容
青森県高等学校文化連盟	841	全国・東北大会派遣費等

4 子供のための文化芸術鑑賞・体験再興事業

新型コロナウイルス感染症の影響下において、学校内外で子供たちが文化芸術の鑑賞や体験・修得をする機会が多く失われているため、学校等において実演芸術等をはじめとする多様な文化芸術の鑑賞・体験が享受できる機会を提供する。

学校による提案型

学校が希望するアーティストや芸術団体等による鑑賞・体験教室の開催

分野	団体名	実施日	実施校
伝統芸能・能楽	株式会社影向舎	令和4年6月30日	県立木造高等学校
音楽・弦楽器	有限会社ムジカトウキョウ	令和4年6月28日	八戸市立南郷小学校
音楽・弦楽器	有限会社ムジカトウキョウ	令和4年6月30日	八戸市立高館小学校
演劇・現代劇	柿食う客	令和4年12月6日	県立八戸東高等学校
演劇・その他	株式会社劇団影法師	令和4年9月20日	八戸市立膠小学校
音楽・声楽	藤原歌劇団合唱部	令和5年2月20日	十和田市立三本木中学校

11節 高等学校入学者選抜

令和6年度高等学校入学者の選抜は、次のように実施した。

区分：全日制及び定時制

選抜の名称	期 日	選抜の内容	時 間
入学者選抜	3月5日 (追検査：3月13日)	学力検査 (国語・英語・数学・社会・理科)	国語、英語は50分 その他の教科は45分 追検査については国語、英語は45分、その他の教科は40分
再 募 集	3月19日	学力検査 (国語・英語・数学・社会・理科)	学力検査は5教科をまとめて50分 その他は学校独自に定める

令和6年度 県立高等学校入学者選抜まとめ

1 全日制の課程

大 学 科	募 集 人 員	併設型進学		入学者選抜			再 募 集			合 格 者 数 計
		希 望 者 数	進 学 者 数	出 願 者 数	受 検 者 数	合 格 者 数	出 願 者 数	受 検 者 数	合 格 者 数	
普 通	3,920	73	73	3,908	3,806	3,594	27	27	15	3,689
普通・理数	200	-	-	174	169	171	6	6	6	177
農 業	455	-	-	311	297	300	7	7	5	305
工 業	980	-	-	882	857	865	13	13	13	878
商 業	600	-	-	512	500	486	15	15	15	501
水 産	105	-	-	66	59	62	0	0	0	62
家 庭	120	-	-	120	118	103	0	0	0	103
看 護	40	-	-	52	52	40	0	0	0	40
グローバル探究	40	-	-	43	43	40	0	0	0	40
体 育	120	-	-	114	109	106	10	10	10	116
表 現	30	-	-	29	28	30	0	0	0	30
総 合	600	-	-	522	515	504	2	2	2	506
総 計	7,210	73	73	6,733	6,553	6,301	80	80	66	6,447

2 定時制の課程

大 学 科	募 集 人 員	併設型進学		入学者選抜			再 募 集			合 格 者 数 計
		希 望 者 数	進 学 者 数	出 願 者 数	受 検 者 数	合 格 者 数	出 願 者 数	受 検 者 数	合 格 者 数	
定 普 通	360	-	-	248	223	217	8	7	4	221
定 工 業	0	-	-	0	0	0	0	0	0	0
定 総 合	120	-	-	74	61	64	2	2	2	66
定 時 制 計	480	-	-	322	284	281	10	9	6	287

令和6年度青森県立高等学校入学者選抜学力検査教科別得点一覧表（全受検者）

得点区分	国 語		社 会		数 学		理 科		英 語	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
100	1	0.0	10	0.1	10	0.1	57	0.8	14	0.2
90～99	155	2.3	304	4.4	185	2.7	527	7.7	484	7.1
80～89	1000	14.6	686	10.0	788	11.5	759	11.1	703	10.3
70～79	1773	25.9	942	13.8	993	14.5	857	12.5	805	11.8
60～69	1700	24.9	1202	17.6	1059	15.5	1083	15.8	918	13.4
50～59	1119	16.4	1245	18.2	1075	15.7	1218	17.8	902	13.2
40～49	605	8.9	1089	15.9	872	12.8	1017	14.9	967	14.1
30～39	289	4.2	720	10.5	733	10.7	705	10.3	854	12.5
20～29	132	1.9	425	6.2	565	8.3	417	6.1	785	11.5
10～19	51	0.7	195	2.9	398	5.8	175	2.6	357	5.2
0～9	9	0.1	16	0.2	156	2.3	19	0.3	45	0.7
0（再掲）	1	0.0	0	0.0	1	0.0	0	0.0	0	0.0
受 験 者 数	6834	100.0	6834	100.0	6834	100.0	6834	100.0	6834	100.0
平 均 点	64.8	-	57.1	-	54.3	-	58.9	-	54.5	-
標 準 偏 差	15.5	-	19.7	-	22.4	-	20.9	-	23.0	-
最 高 点	100	-	100	-	100	-	100	-	100	-
最 低 点	0	-	2	-	0	-	4	-	5	-
前年度平均点	65.9	-	55.7	-	53.6	-	50.6	-	50.6	-

令和6年度青森県立高等学校入学者選抜(再募集)学力検査教科別得点一覧表（全受検者）

得点区分	得 点	
	人数	%
100	0	0.0
90～99	3	3.4
80～89	14	15.7
70～79	8	9.0
60～69	6	6.7
50～59	8	9.0
40～49	19	21.3
30～39	12	13.5
20～29	7	7.9
10～19	7	7.9
0～9	5	5.6
0（再掲）	0	0.0
受 験 者 数	89	100.0
平 均 点	50.2	-
標 準 偏 差	25.4	-
最 高 点	92	-
最 低 点	3	-
前年度平均点	51.6	-

12節 ドリカム人づくり推進事業

この事業は、「人づくり」を目指した活力あふれる学校づくりを推進するため、児童生徒の夢実現に向け、児童生徒のアイデアを取り入れ、向上心や学ぶ意欲などチャレンジする心をはぐくむ事業を企画・展開する県立学校を、「ドリカム人づくり推進事業」推進校に指定するものである。

1 事業の概要

各学校が、生徒や地域の実態、学校の課題等を踏まえ、生徒のアイデアを取り入れプランを企画・立案し、書類審査とプレゼンテーションにより推進校を決定する。

1校あたりの経費については、50万円以内とする。

2 令和5年度事業実績

校種	学校数
高等学校	14校
特別支援学校	4校
計	18校

3 主な事業例

- ・各科の特性を生かし、生徒の創造的な発想から地域社会に貢献できるオリジナル商品の開発
- ・計画立案、準備、調査、情報収集を生徒自らが行き、地域生活と社会体験を深めていく活動の実施
- ・演劇、芸術、ものづくり、各校の特色を生かした取組

13節 持続可能な地域づくり「あおり創造学」プロジェクト事業

この事業は、意欲的に郷土学習等を行い、教科横断的で協働的な体験を通して、青森県への誇りと意欲的な学びの姿勢、積極的に小・中学校及び地域に情報発信する力を育むとともに、県内定着を促進し、持続可能な青森県を創造できる人財の育成を図るものである。

「あおり創造学」による魅力発信・地域課題解決プログラム

1 事業の概要

県立高校全校の全生徒が、高校生活の中で、地域資源や人財を活用して、総合的な探究の時間等において、高校の所在地域及び自身の居住地域等について理解を深める学習「あおり創造学」に取り組む。

地域と協力しながら、生徒一人一人が「ふるさとあおり」への愛着や誇り、夢を抱き未来に向かって挑戦する意欲の醸成に取り組み、その成果を小・中学校及び地域に発信する。

1校あたりの経費は65万円以内とする。

「あおり創造学及び総合的な探究の時間」教員研修協議会を年4回開催し、各校で中心となる教員への支援及び情報共有を図る。

「あおもり創造学」公式ホームページ及び各校のホームページの作成、成果発表会の実施等により、成果を地域等に発信する。

- 2 令和5年度事業実績
全高等学校 46校

3 主な取組例

- ・絶滅危惧種の保護を目的とした校外のボランティア活動への参加や、動物の虐待、殺処分課題解決に関する考察など、動物保護に関する探究活動に取り組んだ。
- ・農産加工品の開発・販売や、あおもり新三代米の魅力に関する考察、平板測量技術やドローン操作技術の向上に取り組み、青森県の農業について幅広い視点から探究した。
- ・地元への集客や移住、地元自治体の子育て政策や伝統芸能における後継者不足について、フィールドワーク等で情報収集し、人口減少問題を身近な視点から探究した。

県内定着に向けた就職支援員配置プログラム

1 事業の概要

県内就職を希望する生徒の雇用を確保し、県内就職に関する情報提供や進路相談及び学校と企業の相互理解のためにコーディネートを年間をとおして行うことにより、生徒の進路志望を達成するとともに県内の就職率の向上を図るものである。

県立高等学校に就職支援員を配置する。

- 2 令和5年度事業実績
配置校 高等学校 12校

3 主な業務

- ・進路指導部との連携による県内就職に向けた就職支援
- ・生徒の希望に応じた県内求人の開拓や相談
- ・生徒、保護者、教員への求人情報の提供、進路相談
- ・県内定着に関する県の就職支援事業の推進
- ・県内企業との相互理解促進企画の実施
- ・外部の視点による支援等を積極的に提案（学校間で共有）
- ・大学等卒業後のUターンを見据えた情報提供

14節 高等学校教育改革

1 第1次実施計画

「青森県高等学校教育改革推進検討会議」からの報告（平成11年2月25日）を具現化するため、庁内に「青森県高等学校教育改革推進検討委員会」を設置して検討を進め、12年10月、第1次素案として取りまとめ、公表した。

その内容は、学校間連携の導入など教育内容・方法の充実・改善に関する事項や、総合学科の県内未設置学区への設置、全日制単位制高等学校、中高一貫教育校、新たな特色ある学科の設置など学校・学科の設置に関する事項、さらには生徒減少期に応じた学校規模・配置の適正化に関する事項と、大きく3項目になっている。

実施計画は、生徒数の減少傾向から中長期的な検討を要する事項もあることから、実施期間を平成20年度までの計画とすることとし、平成12年度から16年度までを計画期間とする第1次実施計画を策定したものである。

16年度は、青森東高等学校を県内で初めての全日制単位制高等学校とした。

学校規模・配置の適正化については、生徒減少に対応し学級減を行うとともに、一部の工業高校について学級定員を40人から35人に引き下げることとし、順次実施した。

2 第2次実施計画

第1次実施計画の実績・成果を踏まえ、さらに社会の変化や生徒の多様化に対応した学校づくりや、中学校卒業業者数の減少に対応した適正かつ計画的な学校規模・配置について、「青森県高等学校教育改革推進検討委員会」において検討を行い、平成17年度から平成20年度までを実施期間とする実施計画案を作成し平成16年7月21日に公表した。

この実施計画案について、50日間のパブリック・コメントを実施するとともに、募集停止や校舎制移行を予定している学校の関係者に対する説明会を開催した上で、県立高等学校教育改革第2次実施計画として取りまとめた。

17年度は、この第2次実施計画により今別高等学校、深浦高等学校、五所川原東高等学校、大鱧高等学校及び八甲田高等学校を校舎制に向けた1学級募集とした。また、野辺地高等学校横浜分校を募集停止とした。

18年度は、八戸北高等学校を全日制単位制高等学校とした。また、定時制課程においては北斗高等学校及び八戸中央高等学校に3部制を導入するとともに、青森工業高等学校、弘前工業高等学校及び八戸工業高等学校において、学科統合を行った。

この他、藤崎園芸高等学校、川内高等学校及び大畑高等学校を校舎制に向けた1学級募集とした。

19年度は、三本木高等学校に併設型中高一貫教育を導入し、三本木高等学校附属中学校を開校した。また、今別高等学校、深浦高等学校、五所川原東高等学校、大鱧高等学校及び八甲田高等学校に校舎制を導入し、それぞれ、青森北高等学校今別校舎、木造高等学校深浦校舎、五所川原高等学校東校舎、弘前南高等学校大鱧校舎及び七戸高等学校八甲田校舎とした。

20年度は、弘前南高等学校を全日制単位制高等学校とした。また、藤崎園芸高等学校、川内高等学校及び大畑高等学校に校舎制を導入し、それぞれ弘前実業高等学校藤崎校舎、大湊高等学校川内校舎及び田名部高等学校大畑校舎とするとともに、平内高等学校及び南郷高等学校を校舎制に向けた1学級募集、木造高等学校稲垣分校及び五所川原高等学校東校舎を募集停止とした。

22年度は、平内高等学校及び南郷高等学校に校舎制を導入し、それぞれ青森東高等学校平内校舎及び八戸北高等学校南郷校舎とした。

*校舎制

校舎制では、本校舎から教員を派遣したり、スポーツ大会や文化祭などの学校行事を合同で開催するなどの、本校舎と連携した取組を行い、教育活動の充実を図る。

3 第3次実施計画【前期】

平成21年度以降における県立高等学校の在り方について検討を行った「高等学校グランドデザイン会議」（平成18年5月設置）の答申（平成19年10月10日）を具現化するため、庁内に「高校教育改革推進庁内検討委員会」を設置して検討を進め、平成20年1月、県立高等学校教育改革第3次実施計画素案として取りまとめ、公表するとともに、平成20年3月、第3次実施計画案として取りまとめ、公表した。

この実施計画案について50日間のパブリック・コメントを実施するとともに、県内6地区における説明会などを通じ、広く県民から意見を聴取し、必要な修正を加え、平成20年8月6日

に県立高等学校教育改革第3次実施計画として公表した。

第3次実施計画は、平成21年度以降の10年間を見通した高等学校教育改革の基本的な考え方と、平成21年度から平成25年度までの具体的な実施計画【前期】について取りまとめたものである。

21年度は、七戸高等学校八甲田校舎を募集停止とした。

また、第3次実施計画により、平成23年度に募集停止とする青森戸山高等学校及び八戸南高等学校については、募集停止となる学校の教育活動の充実や統合先となる学校との円滑な連携を図るため、それぞれの統合先となる青森東高等学校及び八戸北高等学校との間で「統合準備委員会」を設置した。この他、平成25年度に名久井農業高等学校へ農学科の中で工業に関する科目や経営に必要な科目を学ぶことができる学科を設置するため、その具体的な教育内容等について検討を行う「新学科設置検討委員会」を設置した。

22年度は、第3次実施計画により、平成25年度に募集停止とする南部工業高等学校と統合先となる八戸工業高等学校との間で「統合準備委員会」を設置した。前年度に設置した青森戸山高等学校及び八戸南高等学校の統合準備委員会は、引き続き協議を行うとともに、名久井農業高等学校の新学科設置検討委員会においても、引き続き検討を行い、それぞれの委員会から協議結果及び検討結果を教育長に報告した。

23年度は、青森戸山高等学校、弘前南高等学校大鱒校舎、尾上総合高等学校全日制課程及び八戸南高等学校を募集停止とした。

また、前年度に設置した南部工業高等学校及び八戸工業高等学校の統合準備委員会は、引き続き協議を行い、協議結果を教育長に報告した。

25年度は、田名部高等学校大畑校舎及び南部工業高等学校を募集停止とした。また、定時制課程においては、尾上総合高等学校定時制課程に3部制を導入するとともに、弘前中央高等学校及び黒石高等学校を募集停止とした。

また、生徒の多様な学習ニーズに対応するとともに、緊急時の対応や指導をより一層充実させるため、北斗高等学校の通信制分室を尾上総合高等学校及び八戸中央高等学校それぞれの通信制の課程として設置した。

4 第3次実施計画【後期】

第3次実施計画の後半部分となる平成26年度以降の具体的な実施計画【後期】の策定に向け、庁内に「高校教育改革推進庁内検討委員会」を設置して検討を進めるとともに、県内6地区における2度の説明会や意見募集を実施した。

24年度は、7月に第3次実施計画【後期】案を公表し、50日間のパブリック・コメントを実施するとともに、県内6地区における説明会などを通じ、広く県民から意見を聴取し、必要な修正を加え、平成24年11月19日に第3次実施計画【後期】として公表した。

なお、第3次実施計画期間の最終年度である平成30年度から中学校卒業予定者数の急激な減少が見込まれるため、次期計画を1年早め、平成30年度からの計画として策定することとし、第3次実施計画【後期】の期間は、平成26年度から平成29年度までの4年間とした。

25年度は、第3次実施計画【後期】により、平成27年度に募集停止とする岩木高等学校と統合先となる弘前中央高等学校との間で「統合準備委員会」を設置した。

また、平成29年度に募集停止とする弘前実業高等学校藤崎校舎りんご科で実施している特色ある教育内容を柏木農業高等学校へ引き継ぐため、有識者及び両校の関係者の意見を確認しながら教育内容を検討する「中南地区のりんご栽培教育等の充実に関する検討会議」を設置し、検討結果を教育長に報告した。

26年度は、前年度に設置した岩木高等学校及び弘前中央高等学校の統合準備委員会において引き続き協議を行い、協議結果を教育長に報告した。

27年度は、岩木高等学校及び八戸北高等学校南郷校舎を募集停止とした。

29年度は、弘前実業高等学校藤崎校舎を募集停止とした。

5 青森県立高等学校教育改革推進計画

平成30年度以降における県立高等学校の在り方について検討を行った「青森県立高等学校将来構想検討会議」（平成26年6月設置）の答申（平成28年1月25日）を踏まえながら、青森県立高等学校教育改革推進計画策定に向けた検討を進めた。

28年度は、5月に青森県立高等学校教育改革推進計画基本方針案を公表し、30日間のパブリック・コメントを実施するとともに、県内6地区における地区懇談会などを通し、広く県民から意見を聴取し、必要な修正を加え、平成28年8月3日に青森県立高等学校教育改革推進計画基本方針として公表した。

また、第1期実施計画の策定に当たり、あらかじめ地域の学校教育関係者等から意見を伺うため、「青森県立高等学校教育改革推進計画に関する地区意見交換会」を県内6地区に設置し各3回の意見交換を経て、平成29年2月13日に各地区意見交換会における主な意見を教育長に報告した。

29年度は、4月に青森県立高等学校教育改革推進計画第1期実施計画案を公表し、40日間のパブリック・コメントを実施するとともに、県内6地区における地区懇談会などを通し、広く県民から意見を聴取し、必要な修正を加え、平成29年7月20日に青森県立高等学校教育改革推進計画第1期実施計画として公表した。

30年度は、第1期実施計画により、令和2年度に募集停止とする黒石高等学校及び黒石商業高等学校の統合による中南地区統合校の開設に必要な準備を進めるため、「開設準備委員会」を開催し、協議結果を教育長に報告した。

令和元年度は、第1期実施計画により、令和3年度に募集停止とする金木高等学校、板柳高等学校、鶴田高等学校及び五所川原工業高等学校の統合による西北地区統合校、十和田西高等学校、六戸高等学校及び三本木農業高等学校の統合による上北地区統合校の開設に必要な準備を進めるため「開設準備委員会」をそれぞれ開催し、協議結果を教育長に報告した。

また、田名部高等学校を全日制課程単位制高等学校とするとともに、青森東高等学校校内校舎及び大湊高等学校川内校舎を募集停止とした。

令和2年度は、第1期実施計画により、黒石高等学校及び黒石商業高等学校の統合による黒石高等学校（中南地区統合校）を新設し、青森北高等学校今別校舎、中里高等学校、五戸高等学校及び田子高等学校を募集停止とした。

また、6月に青森県立高等学校教育改革推進計画基本方針改定案を公表し、30日間のパブリック・コメントを実施するとともに、県内6地区における地区懇談会などを通し、広く県民から意見を聴取し、必要な修正を加え、令和2年8月5日に青森県立高等学校教育改革推進計画基本方針を改定した。

さらに、第2期実施計画の策定に当たり、あらかじめ地域の学校教育関係者等から意見を伺うため、「青森県立高等学校教育改革推進計画に関する地区意見交換会」を県内6地区に設置し各3回の意見交換を経て、令和3年3月9日に各地区意見交換会における主な意見を教育長に報告した。

令和3年度は、第1期実施計画により、金木高等学校、板柳高等学校、鶴田高等学校及び五所川原工業高校の統合による五所川原工科高等学校（西北地区統合校）を、十和田西高等学校、六戸高等学校及び三本木農業高等学校の統合による三本木農業恵拓高等学校（上北地区統合校）をそれぞれ新設し、木造高等学校深浦校舎を募集停止とした。

また、7月に第2期実施計画案を公表し、40日間のパブリック・コメントを実施するとともに、県内6地区における地区懇談会などを通し、広く県民から意見を聴取し、必要な修正を加え、令和3年11月12日に第2期実施計画として公表した。

令和4年度は、第2期実施計画の推進に向けた取組として、主に地域校の活性化に係る取組や全国からの生徒募集に係る取組等を行った。

令和5年度は、第2期実施計画の推進に係る取組として、主に県立高等学校の情報を発信するホームページを開設した。

5章 特別支援教育

1節 学校の概況

1 学校数、幼児・児童・生徒数

視覚障がいを対象とする特別支援学校

聴覚障がいを対象とする特別支援学校

(R5.5.1現在)

区分 学校名		幼稚部		小学部		中学部		高等部		計	
		学級数	在校数	学級数	在校数	学級数	在校数	学級数	在校数	学級数	在校数
視 覚 障 が い	県立盲学校	1	1	1	2	0	0	8	13	10	16
	八戸盲学校	-	-	4	8	2	3	-	-	6	11
	計(2校)	1	1	5	10	2	3	8	13	16	27
聴 覚 障 が い	青森豊学校	2	2	4	7	1	2	4	5	11	16
	弘前豊学校	1	4	2	3	1	2	-	-	4	9
	八戸豊学校	2	4	6	11	1	2	-	-	9	17
	計(3校)	5	10	12	21	3	6	4	5	24	42

県立盲学校の高等部には、専攻科を含む。

知的障がいを対象とする特別支援学校

肢体不自由を対象とする特別支援学校

病弱・身体虚弱を対象とする特別支援学校

(R5.5.1現在)

区分 学校名		幼稚部		小学部		中学部		高等部		計	
		学級数	在校数	学級数	在校数	学級数	在校数	学級数	在校数	学級数	在校数
知 的 障 が い	弘大附属特別支援学校	-	-	3	16	3	16	3	20	9	52
	青森第二養護学校	-	-	31	112	13	53	7	57	51	222
	弘前第一養護学校	-	-	25	91	13	46	7	53	45	190
	八戸第二養護学校	-	-	37	123	21	71	-	-	58	194
	黒石養護学校	-	-	7	23	4	14	4	15	15	52
	青森第二高等養護学校	-	-	-	-	-	-	12	90	12	90
	八戸高等支援学校	-	-	-	-	-	-	19	170	19	170
	計(7校)	-	-	103	365	54	200	52	405	209	970

学校名		区分		幼稚部		小学部		中学部		高等部		計	
		学級数	在校数	学級数	在校数	学級数	在校数	学級数	在校数	学級数	在校数		
肢体不自由	青森第一養護学校	-	-	11	27	5	10	-	-	16	37		
	弘前第二養護学校	-	-	6	14	4	9	2	4	12	27		
	八戸第一養護学校 (八病重心棟学級除く)	-	-	14	35	10	25	7	20	31	80		
知肢	青森第一高等養護学校	-	-	-	-	-	-	12	53	12	53		
	森田養護学校	-	-	14	33	7	23	6	42	27	98		
	七戸養護学校	-	-	27	74	15	49	8	74	50	197		
	むつ養護学校	-	-	12	30	7	17	6	38	25	85		
	計 (7校)	-	-	84	213	48	133	41	231	173	577		
病弱	青森若葉養護学校	-	-	4	4	3	8	4	9	11	21		
	八戸第一養護学校 (八病重心棟学級)	-	-	0	0	1	2	0	0	1	2		
	浪岡養護学校	-	-	8	14	8	20	8	23	24	57		
	計 (2校)	-	-	12	18	12	30	12	32	36	80		

学校数は肢体不自由に含む。

2節 障がいのある子どもの早期からの一貫した支援

各市町村教育委員会は、障がいのある子どもの適切な就学を図るため、就学に際し、保護者の意見を聴取するとともに、個々の障がいの種類、程度、能力及び適性等について、専門的立場から調査・審議するために設置している教育支援委員会等からの意見を聴取した上で、総合的に判断し、最も適する教育の場を選定し、指導を行っている。

令和5年度において、市町村教育委員会が、判断に当たった件数は次のとおりである。

判断件数	市町村教育委員会数
100件以上	5委員会
50件～100件未満	6委員会
30件～50件未満	7委員会
20件～30件未満	5委員会
10件～20件未満	6委員会
1件～10件未満	9委員会
なし	2委員会
合計	40委員会

なお、就学前における教育相談は、県総合学校教育センター、特別支援学校及び小・中学校特別支援学級で実施しているほか、地区就学相談・教育相談会を5教育事務所管内(8会場)で、延べ6日間実施し、28件の相談に応じた。

3節 施設・設備

1 建物保有状況

令和5年5月1日現在における特別支援学校の建物保有面積は、校舎で対前年度比増減なしの88,714㎡、屋内運動場で対前年度比増減なしの15,020㎡となっており、また、建物の保有状況を構造別にみると、鉄筋コンクリート・鉄骨造の不燃化構造が校舎で98.1%、屋内運動場で99.8%となっている。

校 舎

障がい種別	学校数	面積 ㎡	構造別面積		
			鉄筋	鉄骨・その他	木造
視覚障がい	2	4,684	2,841	1,777	66
聴覚障がい	3	8,361	8,100	53	208
知的障がい、肢体不自由、病弱・身体虚弱、肢体不自由及び知的障がい	15	75,669	69,481	4,800	1,388
計	20	88,714	80,422	6,630	1,662

屋内運動場

障がい種別	学校数	面積 ㎡	構造別面積		
			鉄筋	鉄骨・その他	木造
視覚障がい	2	440	50	390	0
聴覚障がい	3	2,113	0	2,080	33
知的障がい、肢体不自由、病弱・身体虚弱、肢体不自由及び知的障がい	15	12,467	477	11,990	0
計	20	15,020	527	14,460	33

2 施設整備状況

令和5年度における特別支援学校の施設整備は、次の方針に基づいて進めた。

安全・安心な教育環境の確保のため、老朽化の解消等に努めるとともに、障害の種別や程度に応じた教育内容の充実や、教室不足を解消するための校舎の増築等、教育環境の改善を図る。

計画的な大規模改修による整備を図る。

(6.3.31)

区 分	学 校 名
校舎等建築調査設計	県立盲学校等3校
校舎等建築	むつ養護学校等4校
長寿命化改修等	黒石養護学校
大規模改修	青森第二養護学校等11校

4節 教育課程

1 特別支援学校の教育課程

特別支援学校では、視覚障がい者、聴覚障がい者、知的障がい者、肢体不自由者又は病弱者（身体虚弱者を含む。以下同じ。）に対して小・中学校等に準ずる教育を行うとともに、障がいによる学習上又は生活上の困難を克服し自立を図るために必要な知識技能を授けることを目的とし、教育が行われている。

教育課程の編成に当たっては、小・中学校等に準ずる教科を取扱うこととなっているほか、知的障がいのある児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科の目標及び内容が別に示されている。

また、健康の保持、心理的な安定、人間関係の形成、環境の把握、身体の動き、コミュニケーションの6区分に示された27項目により、障がいによる学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達を基盤を培うことを目標とする、指導領域である「自立活動」を取扱うこととなっている。具体的には、視覚障がい者を対象とする特別支援学校の歩行指導、聴覚障がい者を対象とする特別支援学校の聴覚の活用・言語指導、肢体不自由者を対象とする特別支援学校の姿勢保持・変換、歩行に関する指導などを行っている。

なお、障がいの状態により特に必要がある場合の教育課程の取扱いが示されており、障がいのため通学して教育を受けることが困難な児童生徒に対して教員を派遣して行う訪問教育も含まれている。

2 特別支援学級・通級による指導の教育課程

小・中学校における特別支援学級は、知的障がい者、肢体不自由者、身体虚弱者、弱視者、難聴者及びその他障がいのある者で、特別支援学級において教育を行うことが適当な者を対象として教育を行っている。

特別支援学級の教育課程は、障がいによる学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服し自立を図るため特別支援学校の指導領域である「自立活動」を取り入れている。また、通常の学級の教育課程をそのまま適用することが必ずしも適当でない場合において、各教科の目標・内容を下学年の目標・内容に替えたり、知的障がい者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科に替えるなど、特別の教育課程を編成することができる。

小・中学校等における通級による指導は、主として各教科等の指導を通常の学級で行いながら当該児童生徒の障がいに応じた特別の指導を特別の場で行う教育の形態であり、特別の教育課程を編成して行うものである。

具体的には、特別支援学校の「自立活動」の内容を参考とし、個々の障がいの状態に応じた具体的な目標や内容を定めた学習を行うほか、障がいの状態に応じて「各教科の内容を取り扱いつつながら行う」ことができる。なお、在籍校以外の学校において受けた指導について、在籍校の特別の教育課程に係る授業と見なすことができる。高等学校における通級による指導については学校教育法施行規則の一部改正により、平成30年度から実施可能となったことを受け、令和3年度より北斗高等学校、八戸中央高等学校及び尾上総合高等学校の3校で実施している。

また、通級による指導の対象となる者は、言語障がい者、自閉症者、情緒障がい者、弱視者、難聴者、学習障がい者、注意欠陥多動性障がい者などである。

5節 学 習 指 導

特別支援学校・特別支援学級に在籍する幼児児童生徒及び通級による指導を受けている児童生徒については、個別の教育支援計画及び個別の指導計画に基づきP D C A（計画、実践、評価、改善）サイクルにより指導を進めている。

一方、通常の学級に在籍する特別な支援を必要とする児童生徒の指導に当たっては、特別支援学校等の助言又は援助の活用や、個別の教育支援計画及び個別の指導計画の作成と活用に努めるなど、適切な指導や必要な支援の充実を図っている。

障がいのある幼児児童生徒への指導は、特別支援学校間の専門性の活用、校内の教師間の協力による指導、医療、福祉、労働、教育等関係諸機関の外部人材の専門性の活用・連携、保護者の協力などにより、学習効果を高め、授業の充実に努めている。

また、障がいのある児童生徒と障がいのない児童生徒との交流及び共同学習を計画的・組織的に実施している。なお、特別支援学校の小・中学部に在籍する児童生徒については居住する地域とのつながりの維持・継続を図るため、令和4年度から居住する地域の小・中学校に副次的な学籍を置いて交流及び共同学習を実施している。

6節 生 徒 指 導

児童生徒理解や指導方針について共通理解を図るため、ほとんどの学校で全校教職員による定期的な会議を行っている。また、個別面談や参観日等を設け、児童生徒に関してのケース会議を関係する施設・病院と合同で定期的に開いたり、職員間及び家庭と緊密な連携を図ったりしている。

寄宿舎においては、寄宿舎指導員や舎監が寄宿舎生の日常行動を記録し、定例的な打ち合わせをもって、緊密な連携を取り合いながら、生徒指導に当たっている。

また、障がいの克服、人との関わり、進路選択等で悩んでいる児童生徒に対しては早期に対応するよう努めている。

7節 道 徳 教 育

特別支援学校では、各校とも基本的な生活習慣の確立など社会適応力を育てることを重点指導事項として教育課程に位置づけ、学校におけるあらゆる教育活動の中で反復・継続して指導している。

児童生徒の知的障がいの状態により、「特別の教科道徳」の時間を特設せずに、各教科、道徳科、外国語活動、特別活動及び自立活動の一部又は全部を合わせて指導を行う場合もある。

また、自己の障がいを正しく理解し、障がいによる学習上又は生活上の困難を改善・克服して、強く生きようとする意欲を高め、明るい生活態度を養うとともに、健全な人生観の育成を図るために、各校では、道徳教育の全体計画に基づいて指導している。

8節 進路指導

各学校では、教育課程の編成に当たって指導内容に検討を加えているほか、進路指導年間計画を作成し実施している。

また、実際の指導の場として、職場見学や産業現場等における実習を行っている学校が多い。

なお、令和5年度卒業生の進路状況は次のとおりである。

特別支援学校（国立を除く）

中 学 部

区 分	卒業者数	進 学 等				就職	就労移行 支 援 等	福祉施設 等 利 用	その他
		高校	高等部	訓練校等	計				
視覚障がい	2	1	1	0	2	0	0	0	0
聴覚障がい	3	1	2	0	3	0	0	0	0
知的障がい	77	0	76	0	76	0	0	0	1
肢体不自由	10	0	9	0	9	0	0	0	1
病弱・身体虚弱	10	1	8	0	9	0	0	0	1
計	102	3	96	0	99	0	0	0	3

高 等 部

区 分	卒業者数	進 学 等				就職	就労移行 支 援 等	福祉施設 等 利 用	その他
		大学・短大	専攻科	訓練校等	計				
視覚障がい	4	0	1	0	1	1	0	2	0
聴覚障がい	1	1	0	0	1	0	0	0	0
知的障がい	180	0	0	2	2	44	93	37	4
肢体不自由	16	0	0	0	0	1	5	8	2
病弱・身体虚弱	12	0	0	0	0	1	5	1	5
計	213	1	1	2	4	47	103	48	11

令和4年度中学校特別支援学級卒業生

卒業者数	進 学 等			就 職	その他
	高 校	高等部	訓練校等		
320	190	116	2	1	11

（令和5年5月1日現在）

6章 情報教育

学習指導要領において、児童生徒の発達の段階を考慮した学習の基盤となる資質の能力としての情報活用能力が位置付けられ、情報教育は、学校教育においてますます重要となってきている。

本県では、それに係わるコンピュータ等の情報機器の計画的整備や教員の指導力向上のために、県総合学校教育センター等を中心とした研修の充実が図られている。

これらのことについて、県内の各学校の状況は以下のとおりである。

(令和5年3月現在)

1 県内の状況(令和4年度学校における教育の情報化の実態等に関する調査結果より)

学校におけるICT環境の整備状況

	本県平均	全国平均
教育用コンピュータ1台当たりの児童生徒数(人/台)	0.8	0.9
無線LANまたは移动通信システム(LTE等)によりインターネット接続を行う普通教室の割合(%)	96.1	95.7
インターネット接続率〔100Mbps以上〕(%)	97.5	98.0
普通教室の大型提示装置整備率(%)	78.1	88.6
統合型校務支援システム整備率(%)	49.2	86.8
教員のICT活用指導力(%)	76.6	78.1

教員のICT活用指導力状況

(%)

	小学校		中学校		高等学校		特別支援学校	
	本県	全国	本県	全国	本県	全国	本県	全国
教材研究・指導の準備・評価・校務などにICTを活用する能力	89.6	89.1	88.8	87.1	90.7	90.1	81.9	85.7
授業中にICTを活用して指導する能力	80.4	81.1	73.8	75.3	78.4	78.0	65.5	71.2
児童生徒のICT活用を指導する能力	81.6	81.8	77.9	78.0	81.3	81.0	65.7	70.2
情報活用の基盤となる知識や態度について指導する能力	88.8	90.1	82.9	85.3	86.7	86.1	71.2	77.7

「ICT」とは、「Information(情報) and Communication(通信) Technology(技術)」の略。

7章 国際理解教育

1節 日本語指導が必要な児童生徒等の受入

日本語指導が必要な児童生徒等の受入状況（令和3年8月現在）

（単位：人、校）

区 分	小学校		中学校		高等学校		特別支援学校		合 計	
	児童数	学校数	生徒数	学校数	生徒数	学校数	児 童 生徒数	学校数	児 童 生徒数	学校数
日本語指導が必要な 外国籍児童生徒 （留学生は含まない）	23	15	13	7	5	3	0	0	41	25
日本語指導が必要な 日本国籍児童生徒 （帰国児童生徒等）	16	6	4	3	0	0	0	0	20	9

隔年調査であり、令和3年度に調査実施。

2節 外国語教育

1 外国語指導助手

県教育委員会は、英語教員と生徒の英語力向上のため、昭和62年度から、県内各教育事務所等に外国語指導助手を配置している。なお、令和5年度は、アメリカ、ロシア国籍の外国語指導助手を28名配置し、配置先は、教育庁学校教育課、県総合学校教育センター、高等学校25校である。

外国語指導助手は、高等学校及び特別支援学校を訪問し、英語担当教員の助手として、主にコミュニケーション能力の向上を図るため、直接生徒の指導に当たるほか、県総合学校教育センターが開設している高等学校英語科言語活動実践講座等の講師として、英語担当教員の研修等の補助に当たる。

令和5年度外国語指導助手配置先一覧

(高等学校・総合学校教育センター・学校教育課)

番号	配 置 先	外国語指導助手名(姓・名)	性別	国籍
1	青 森 高 等 学 校	エルヴィスフエレーラ ラファエラ	女	アメリカ
2	青 森 西 高 等 学 校	スカーゼンスキ アーロン	男	アメリカ
3	青 森 東 高 等 学 校	ウィーバー ダニカ	女	アメリカ
4	青 森 北 高 等 学 校	ブランスタッドグッド マシュー	男	アメリカ
5	青 森 南 高 等 学 校	モリアーチー ザッカーリ	男	アメリカ
6	青 森 南 高 等 学 校	ヤシェンコワ アンナ	女	ロシア
7	弘 前 高 等 学 校	ブラウン ジャスミン	女	アメリカ
8	弘前中央高等学校	レオン ヨセリン	女	アメリカ
9	弘前南高等学校	シャッカ アレクサンダー	男	イギリス
10	八 戸 高 等 学 校	サルダナ アリッサ	女	アメリカ
11	八 戸 東 高 等 学 校	アントゥネス アイビー	女	アメリカ
12	八 戸 北 高 等 学 校	セルマン マッケンジー	女	アメリカ
13	八 戸 西 高 等 学 校	テイラーガルブズ ラヒ	男	アメリカ
14	木 造 高 等 学 校	ベセル アリソン	女	アメリカ
15	五所川原高等学校	スティーヴンス キャサリン	女	アメリカ
16	黒 石 高 等 学 校	ハリソン ローラ	女	イギリス
17	野 辺 地 高 等 学 校	キネ マシュー	男	アメリカ
18	七 戸 高 等 学 校	ムーア ジョシュア	男	アメリカ
19	三 本 木 高 等 学 校	マケイン ラナルド	男	アメリカ
20	三 沢 高 等 学 校	デンプシー ケイトリン	女	アメリカ
21	田 名 部 高 等 学 校	アン レイチェル	女	アメリカ
22	大 湊 高 等 学 校	ディゾン イアンジェイソン	男	アメリカ
23	大 間 高 等 学 校	グレイ デビン	男	アメリカ
24	五所川原工科高等学校	オーチャード アレクサンダー	男	イギリス
25	八 戸 商 業 高 等 学 校	ボルジング スーザン	女	アメリカ
26	三 沢 商 業 高 等 学 校	ジョンソン クリストファー	男	アメリカ
27	県総合学校教育センター	ダンカシ シェイエンニトリーズ	女	アメリカ
28	学 校 教 育 課	ブラウン モーガン	女	アメリカ

3節 在外教育施設への教員派遣

県教育委員会は、昭和51年度から在外教育施設（日本人学校：海外在留邦人子女のため義務教育段階の教育を行うことを目的とする全日制の教育施設。補習授業校：現地校に進学している在留邦人子女に対し、日本語による教育の機会を提供し、やがて帰国し国内の学校に編入学する際の基礎学力を補うことを目的として、一部の教科について補習授業を行う定時制の教育施設。）に教員を派遣している。

令和5年4月までに派遣された教員は、49か国232名（校長17名、教頭22名、教諭193名）である。

令和4・5年度在外教育施設教員派遣応募状況

	令和4年度の応募状況		令和5年度の新規派遣者		
	本県からの推薦枠	応募者	令和3年度応募者	令和4年度応募者	計
校長	1	2	0	1	1
教頭	1	2	0	1	1
教諭	3	9	1	2	3

在外教育施設教員派遣状況

番号	派遣年月日	帰国年月日	職名	派遣先の学校名	国名
1	3.4.1	6.3.31	教諭	広州日本人学校	中国
2	"	"	教諭	テヘラン日本人学校	イラン
3	"	"	教諭	パリ日本人学校	フランス
4	"	"	教諭	上海日本人学校浦東校	中国
5	4.4.1	"	教諭	シンガポール日本人学校チャンギ校	シンガポール
6	"	"	教諭	アスンシオン日本人学校	パラグアイ
7	"	"	教諭	ブノンベン日本人学校	カンボジア
8	"	"	教諭	リオデジャネイロ日本人学校	ブラジル
9	"	"	教諭	ジャカルタ日本人学校	インドネシア
10	5.4.1	7.3.31	教諭	上海日本人学校浦東校	中国
11	"	"	校長	天津日本人学校	中国
12	"	"	教頭	アムステルダム日本人学校	オランダ
13	"	"	教諭	クアラルンプール日本人学校	マレーシア
14	"	"	教諭	マニラ日本人学校	フィリピン

8章 私学教育

1節 私学教育の現状

本県の私立学校は、幼稚園から大学、専修学校・各種学校までを含め149校で22,429人が在学しており、それぞれの建学の精神に基づく特色ある教育を行い、本県教育の振興に大きく寄与している。

1 幼稚園

本県の私立幼稚園を設置者別にみると、学校法人立が81園、宗教法人立が1園、計82園で在園児は3,349人となっている。これは、国立1園41人、公立2園14人を大きく上回っており、幼稚園在園児の98.4%を私立幼稚園が占めている。

2 小学校

私立小学校は設置されていない。

3 中学校

私立中学校は青森山田中学校、青森明の星中学校、弘前学院聖愛中学校、八戸聖ウルスラ学院中学校、八戸工業大学第二高等学校附属中学校及び東奥義塾中学校の6校で、生徒数は567人となっている。

4 高等学校

私立高等学校は17校、全日制課程の生徒数7,617人(専攻科含む)、通信制課程の生徒数474人で、普通教育のほか職業教育の面で特色ある教育を行っている。また、部活動でも全国的にめざましい活躍をしている。

高等学校(全日制)入学者に占める私立高等学校の比率(専攻科は含まない)

区分	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5
私立高等学校 収容比	24.4%	24.5%	25.4%	25.5%	26.6%	26.6%	27.3%	25.9%	26.1%	26.2%	26.7%	29.5%	27.7%

5 大学・短期大学

私立大学は8校、学生数7,301人、私立短期大学は5校、学生数904人で、工業、商業、福祉、家政及び幼児教育など専門教育の面で特色ある教育を行っている。

6 専修学校・各種学校

私立専修学校は21校、生徒数1,946人、私立各種学校10校、生徒数137人で、医療、社会福祉、衛生、商業実務、家政など、職業や实际生活に必要な技能又は教養の向上のための教育を行っている。

学校種別学校数・生徒数・教員数

(R5.5.1現在)

区 分	学 校 数	幼児・児童・生徒・学生数			本務教員数
		男	女	計	
大 学	8	3,972	3,329	7,301	502
短期大学	5	190	714	904	111
高等学校	17	4,204	4,021	8,225	637
中 学 校	6	327	240	567	53
小 学 校	0	-	-	-	-
幼 稚 園	82 (2)	1,701	1,648	3,349	618
専修学校	21 (3)	597	1,349	1,946	180
各種学校	10 (4)	35	102	137	24
計	149 (9)	11,026	11,403	22,429	2,125

()内は休校中の学校で内数とし、高等学校は専攻科及び通信制課程を含む。

2 節 私立学校に対する助成

令和5年度の私立学校に対する助成の主な内容は次のとおりである。

1 私立学校経常費補助金

私立の幼稚園、中学校、高等学校、専修学校及び各種学校に対して、教育条件の維持向上及び生徒等の修学上の経済的負担の軽減を図り、学校経営の健全性を高めるため、経常費補助金3,072,408千円を交付した。

2 私立学校教職員退職金財団経営基盤改善支援事業費補助金

公益財団法人青森県私立学校教職員退職金財団が行う経営安定化対策に伴う加入学校法人の負担増を緩和することにより、財団の経営安定化対策の円滑かつ着実な実施を支援するとともに、財団の経営安定化及び経営基盤強化を図るため、同財団に対し45,000千円を交付した。

3 特色教育支援経費補助金

私立学校における社会の変化に対応した教育の改革を推進するため、教育改革事業を行った高等学校11校、中学校3校、幼稚園及び幼保連携型認定こども園70園に対して、77,320千円を交付した。

4 私立幼稚園等特別支援教育費補助金

障がい児が在園している幼稚園及び幼保連携型認定こども園54園(対象人員200人)に対して、教育内容の充実を図るため、148,966千円を交付した。

5 私立高等学校等就学支援金交付金

家庭の教育費負担軽減のため、私立高等学校(通信制を含む。)17校及び各種学校2校に通う生徒の授業料に対する支援として、2,181,506千円を交付した。

- 6 私立高等学校等学び直しへの支援金
高等学校等を中途退学した者が再び学び直す場合の授業料負担軽減のために、高等学校1校に対して387千円を交付した。
- 7 私立高等学校等就学支援費補助金
家庭の教育費負担のより一層の軽減を図るため、授業料等軽減を行った私立高等学校17校に対して124,126千円を交付した。
- 8 私立高等学校専攻科修学支援金
家庭の教育費負担軽減のため、私立の高等学校専攻科3校に通う生徒の授業料に対する支援として、16,910千円を交付した。
- 9 奨学のための給付金
私立の高等学校等に在学する高校生等の保護者等の授業料以外の教育に必要な経費の負担軽減を図るため、1,531人に対して188,161千円を給付した。
- 10 私立学校振興活動費補助金
私立学校の振興を図るため、私立学校振興活動事業を行う公益社団法人青森県私学協会に対し、1,100千円を交付した。
- 11 私立幼稚園教職員等研修事業費補助金
子ども・子育て支援新制度が目的とする質の高い幼児期の学校教育・保育の総合的な提供に関する取組及び少子化に対応した適正な運営を推進・支援するため、研修事業を実施する私立幼稚園連合会に対して、800千円を交付した。
- 12 特定教育方法支援事業補助金（国庫）
高等学校1校に対して、2,456千円を交付した。
- 13 私立学校外国語指導助手招致事業費補助
外国語指導助手の招致・活用により英語教育の質の向上・国際化を促進するため、外国語指導助手を任用した2学校法人に対し、3,134千円を交付した。
- 14 保育教諭確保推進事業費補助金
保育教諭となるための幼稚園教諭免許状取得及び単位取得する際の代替職員配置のため、4園に対して107千円を交付した。
- 15 幼児教育緊急環境整備費補助金
質の高い環境で、子どもを安心して育てることができる体制整備を推進するため、幼児教育の質の向上のための環境の緊急整備を行った私立幼稚園等延べ71園に対し、11,877千円を交付した。

- 16 園務改善ICT化事業費補助金
幼稚園、幼稚園型認定こども園における園務を改善するため、園務のICT化を行った5園に対し、1,377千円を交付した。
- 17 幼児教育の質の向上ICT化事業費補助金
幼児教育の質の向上を図るため、教育に係る資料の電子化に必要なICT環境の整備を行った幼稚園等8園に対し、2,064千円を交付した。
- 18 私立学校物価高騰対策事業費補助金
物価高騰による負担の軽減を図るため、光熱費の高騰相当分に係る経費について、私立の幼稚園、中学校、高等学校、専修学校及び各種学校計104校に対し、31,453千円を交付した。
- 19 理科教育設備整備費補助金（国庫）
中学校1校及び高等学校1校に対して1,024千円を交付した。
- 20 学校保健特別対策事業費補助金（感染症流行下における学校教育活動体制整備事業）（国庫）
中学校5校及び高等学校12校に対して13,197千円を交付した。
- 21 私立大学等研究設備整備費等補助金（私立高等学校等ICT教育設備整備推進事業費）（国庫）
高等学校1校に対して4,158千円を交付した。
- 22 私立幼稚園食材料費高騰対策事業費補助
物価高騰による負担の軽減を図るため、食材価格の高騰相当分に係る経費について幼稚園52園に対し、2,748千円を交付した。

3節 私立学校審議会

青森県私立学校審議会委員名簿

(R6.3.31現在)

	氏名	役職名	任期等
会長	伊藤成治	国立大学法人弘前大学教育学教授	R4.7.28 ~ R8.7.27
副会長	下山美智子	学校法人下山学園理事長 五所川原商業高等学校長	R2.7.27 ~ R6.7.26
委員	鈴木裕子	元三沢カトリック幼稚園長	R4.7.28 ~ R8.7.27
委員	川守田道治	あかね幼稚園長	R4.7.28 ~ R8.7.27
委員	日景弥生	国立大学法人弘前大学名誉教授	R4.7.28 ~ R8.7.27
委員	村田秀俊	元弘前東高等学校長 元青森県私立中学高等学校長協会長	R2.7.27 ~ R6.7.26
委員	油川育子	認定こども園八戸文化幼稚園長	R2.7.27 ~ R6.7.26
委員	石田憲久	学校法人青森田中学園理事長 青森中央経理専門学校長	R5.7.28 ~ R9.7.27
委員	福井武久	青森県専修学校各種学校連合会副会長	R4.7.28 ~ R8.7.27
委員	中村充	元青森県教育委員会教育長	R4.11.8 ~ R6.7.26

(会議)

令和5年7月31日に第307回、令和5年11月16日に第308回、令和6年2月22日に第309回の審議会が開催され、私立学校の学則変更等の知事の諮問事項について答申を行った。

9章 育英・奨学

1節 青森県育英奨学会

1 目的

この法人は、青森県人の子弟のうち、学業、人物が優れているにもかかわらず、経済的理由により修学困難な者に対し学費を貸与し、及び学生寮を利用させる等必要な援助を行い、本県及び国家社会の発展に貢献しうる人材の育成に寄与することを目的とする。

2 事業概要

青森県学生寮

所在地	東京都小平市鈴木町一丁目103 - 1
入寮費	年額 30,000円
寮費	月額 30,000円
食費	月額 約10,000円（日曜日、祭日を除く平日の夕食のみ）
電気料	実費
インターネット	月額1,700円又は1,760円（入寮生が希望する事業者を選択）
入寮定員	男子100名
施設設備	

洋室100室（各室定員1名）、1室の広さ9.0㎡（6畳程度）、ベッド、洋服ダンス、収納棚、学習机、椅子、照明器具、冷暖房機、TV端子、インターネット回線

食堂、図書室、談話室、自治会室、WC、浴室、洗面所（洗濯機）、事務室、応接室、職員住宅等

入寮状況 (6.3.31現在)

学 年	出 願 者 数	入 寮 者 数	継 続 入 寮 者 数	計
1	8人	7人	0人	7人
2	0人	0人	9人	9人
3	0人	0人	6人	6人
4	0人	0人	10人	10人
大 学 院	0人	0人	1人	1人
計	8人	7人	26人	33人

大学奨学金

応募資格

保護者が青森県の住民であること

大学の第1学年に入学見込みの者

学業、人物ともに優秀で、かつ健康であること

学資の支弁が困難であること

原則として日本学生支援機構その他の団体から学資の貸与又は給付を受けていない者

貸与月額 44,000円

採用人員 90人

返還利息 無利息

貸 与 状 況

出 願 者 数	貸 付 者 数	継続貸与者数	計
36人	35人	80人	115人

高校等奨学金

応 募 資 格

- 保護者が青森県の住民であること
- 高等学校又は専修学校高等課程に入学し、現在在学している者
- 学業・人物ともに優秀で、かつ健康であること
- 学資の支弁が困難であると認められること

貸 与 月 額

次のうち、奨学生が必要に応じて希望する金額

ア：18,000円 イ：23,000円 ウ：30,000円 エ：35,000円

採 用 形 態

- 予約採用 中学3年生を対象に募集・決定
- 定期採用 毎年4月に高校等に在学している者を対象に募集・決定
- 緊急採用 家計が急変した在学生を対象に随時募集・決定

返 還 利 息 無利息

貸 与 状 況

予約採用	定期採用	緊急採用	継続貸与者数	計
41人	70人	2人	229人	342人

高等学校奨学金通学費等免除制度

ア 対 象 者

- 本会の高等学校奨学生のうち、次の全てに該当する者
 - 奨学生の属する世帯が市町村民税所得割非課税世帯（生活保護法による生業扶助を受給している世帯を除く。）であること
 - 通学費が1月当たり1万円、下宿費（寮含む。）が1月当たり1万2千円のいずれか超える額を負担していること

イ 対象経費等 通学費、下宿費（寮費）の1月当たりの実費相当額

ウ 返還免除額

奨学金の貸与月額又は通学費等の1月当たりの実費相当額（千円未満の端数切捨て）のいずれか低い方の額から通学費が1月当たり1万円、下宿費（寮含む。）が1月当たり1万2千円を差し引いた額

エ 返還免除の状況

返還免除者数	返還免除額
14人	4,577,000円

大学入学時奨学金

応募資格

保護者が青森県の住民であること

高等学校又は高等専門学校に在学している者

大学（通信制・短期大学を除く。）の第1学年に入学見込みであること

学業、人物ともに優秀で、かつ健康であること

生活保護受給世帯若しくは市町村民税所得割非課税世帯又は児童養護施設等入所者であること

貸与額 10万円を単位とし、60万円以内の必要な金額

採用人員 100人

返還利息 無利息

貸与状況

採用者数	貸与者数	貸与金額
9人	6人	3,600,000円

第4部 社 会 教 育

第4部 社会教育

1章 社会教育行政の方針と重点

1 方針

県民が、自己の向上を目指して生きがいのある充実した生活を送るとともに、豊かで住みよい地域社会を形成することができるよう、学びを生かしつながりをつくり出す社会教育の推進に努める。

2 重点

学校・家庭・地域の協働による未来を担う人財の育成

ア 地域学校協働活動の促進

イ 地域が支えるキャリア教育の充実

ウ 子どもの読書活動の充実

エ 家庭教育支援の充実

オ 青少年の体験活動の充実

活力ある持続可能な地域づくりに向けた人財の育成

ア 地域活動の実践者、コーディネーターの養成

イ 次代の地域を担う若者の育成

ウ 地域活動に関わる人財のネットワーク形成の支援

エ 多様な働き方を可能にする学び直しの機会の充実

生涯を通じた学びと社会参加の推進

ア 高齢者や障害者を始めとする多様なニーズに応じた学びの機会の充実

イ 学習成果を生かした社会参加活動の支援

社会教育推進のための基盤整備

ア 社会教育推進体制の充実

イ 社会教育施設の機能の充実と活用の促進

ウ 社会教育関係職員養成と資質の向上

エ 社会教育関係団体等の活動の支援

人は青森県にとって「財(たから)」であるという基本的な考え方から、ここでは「人材」を「人財」と表しています。

2章 事業の概要

1節 学校・家庭・地域の協働による未来を担う人財の育成

- ア 地域学校協働活動の促進
- イ 地域が支えるキャリア教育の充実
- ウ 子どもの読書活動の充実
- エ 家庭教育支援の充実
- オ 青少年の体験活動の充実

社会教育を核とする地域ネットワーク活用促進事業

[趣旨]

様々な立場から社会教育活動を支援していく人財を育成し、地域の活性化を図り、市町村の社会教育主事等の資質・能力の向上を図るため、首長部局、企業、NPO法人、地域づくり団体等の地域ネットワークを活用した事業の企画・実践を支援するとともに、地元企業等と学校のネットワーク会議等を実施する事業である。

[概要]

社会教育主事の資質・能力向上と地域課題の解決【2地区 主管：東青教育事務所・下北教育事務所】

社会教育主事等が中心となり、首長部局、NPO法人、地域づくり団体等とともに、多面的な視点で、地域に関わる課題を解決したり、地域の良さを生かしたりするための事業を企画・実践した。

ア 東青地区（蓬田村）

<地域課題解決スタートアップ研修会>

期日：6/27(火) 会場：蓬田村ふるさと総合センター 参加者数：10名

内容：事業説明、ワークショップ形式による協議

<第1回実行委員会>

期日：7/14(金) 会場：蓬田村ふるさと総合センター 参加者数：11名

内容：本事業の説明、目的の共有、村が抱える課題の明確化についての情報交換

<第2回実行委員会>

期日：9/20(水) 会場：蓬田村ふるさと総合センター ○参加者数：11名

内容：蓬田中学校 第2回避難訓練での第1回実践活動について、今後のスケジュールについて、その他について

<第3回実行委員会>

期日：12/19(火) 会場：蓬田村ふるさと総合センター 参加者数：11名

内容：蓬田中学校・中沢自治会との第2回実践活動について、今後の活動予定、スケジュールについて（地域課題解決フォローアップ研修会及び会計監査等について）

<事業の実践1>

イベント「避難所設営・運営（災害に備えて）」の開催

期日：9/28(木) 会場：蓬田村立蓬田中学校 参加者数：132名

内容：蓬田中学校避難訓練と同日に実施し、避難訓練終了後、NPO法人県防災士会 三浦一郎事務局長の講演を聞いた後、避難所スペースの設営体験（防災テント

の設営及び段ボールパーティションの設置)を行った。

< 事業の実践2 >

イベント「避難所設営・運営(避難所運営体験)」の開催

期日：1/23(火) 会場：中沢公民館(蓬田村) 参加者数：45名

内容：中沢自治会住民と蓬田中学校1年生が合同で実施した。前回に引き続き、NPO法人県防災士会三浦一郎事務局長の講演を聞いた後、災害時の避難所における避難者の受付体験及び防災テントの設営並びに段ボールパーティションの設置を共同で行った。

< 地域課題解決フォローアップ研修会 >

期日：2/26(月) 会場：蓬田村ふるさと総合センター

内容：東青地区実行委員会による実践報告及び質疑応答を行った。

イ 下北地区(大間町)

< 地域課題解決スタートアップ研修会 >

期日：6/30(金) 会場：大間町開発センター 参加者数19名

内容：事業説明、ワークショップ形式による協議

< 第1回実行委員会 >

期日：7/18(火) 会場：大間町役場 参加者数8名

内容：実行委員長、副委員長の決定、活動内容及び計画について

< 第2回実行委員会 >

期日：8/2(水) 会場：大間町役場 参加者数7名

内容：実行委員会の名称、会則の確認、各ブースでの活動内容について、今後の活動予定について、次回開催日時について

< 第3回実行委員会 >

期日：8/30(水) 会場：大間町役場 参加者数7名

内容：実行委員会の名称及び開催名の決定、申請書の確認、各ブース活動内容の進捗状況、今後の活動予定について、次回開催日時について

< 第4回実行委員会 >

期日：11/14(火) 会場：大間町役場 参加者数7名

内容：各ブース活動内容の進捗状況、大間高校へのボランティア依頼について、その他について

< 第5回実行委員会 >

期日：12/4(月) 会場：大間町役場 参加者数8名

内容：「よりっとこ」イベントの成果及び反省・課題について、次年度の開催時期、課題改善、予算確保等について、その他について

< 第6回実行委員会 >

期日：1/18(木) 会場：大間町役場 参加者数8名

内容：フォローアップ研修会の発表資料の検討について、その他について

随時SNSによる意見交換を行った。

< 事業の実践 >

期日：1/26(金) 会場：大間町開発センター 参加者数：151名

内容：「より良い郷土にしたい」という想いを共有する地域人財や企業・団体等が開催するイベントを企画し、実施した。

電源開発(株)大間現地本部：工作コーナー、エネルギー展示コーナーの運営を行った。

明治安田生命相互保険会社むつ大間営業所：骨密度測定や野菜摂取量測定、脳年齢チャレンジ測定を行った。

大間町地域づくり団体ツナグ：エアー遊具4台による子どもの遊び場の提供と絵本の読み聞かせを行った。

大間町地域包括支援センターくろまつ：Salon ano ano(マッサージ)の運営を行った。

大間不動産合同会社：フリーマーケットの開催と大間町食生活改善推進協議会による軽食の提供(塩おにぎりと豚汁)、大間高校ボランティアによる軽食の提供(アゲ魚っこを使った料理)を行った。

< 地域課題解決フォローアップ研修会 >

期日：2/28(水) ○会場：大間町役場

内容：下北地区実行委員会「大間郷土活性化委員会よりっとこ」による実践報告及び質疑応答を行った。

キャリア教育の推進【6地区 青森県教育支援プラットフォーム各地区実行委員会への事業委託】

ア 地元企業と学校のネットワーク会議の開催

内容：学校、企業、教育支援プラットフォーム、地域学校協働本部等の関係者同士がお互いに「顔の見える関係」を築き、地域の未来を担う人財像を共有するため、各地区において会議を開催し、学校が求める支援の内容や企業ができる支援内容をマッチングすることを目的に、関係者同士による意見・情報交換を行った。

< 東青地区 >

期日：11/22(水)

場所：青森市立金沢小学校

内容：職業講話で協力していただいた企業に、青森の未来を担うこどもたちにどういったキャリア教育を行ってあげればよいか、将来の仕事への職業観を考え、何が求められているか等を地域、企業、実行委員のメンバーで話し合った。

< 西北地区 >

期日：11/7(火)

場所：鱒ヶ沢町立鱒ヶ沢中学校

内容：働く人との対話集会の第2部で参加企業、教職員、学校運営協議会委員、行政関係者等約20名で話し合いを行い、ネットワークの構築を図った。

< 中南地区 >

期日：8/25(金)

場所：弘前パークホテル

内容：地区内高等学校卒業予定者の地元就労についての情報交換を行うとともに、早期から健全な職業観・勤労観を育成するために、「今こそチャンス！！地元で仕事する魅力！」をテーマに講演とワークショップを実施した。

講師：特定非営利活動法人スポネット弘前 理事長、一般社団法人権利擁護あい森ねっと 理事、一般社団法人みらいねっと弘前 代表理事 鹿内 葵 氏

< 上北地区 >

期日：2/16(金)

場所：十和田市商工会館1階大ホール

内容：十和田地区雇用対策協議会と共催で開催し、「若者の地元定着・離職率の改善の方法」をテーマに講演とワークショップを実施した。

講師：特定非営利活動法人プラットフォームあおもり 理事長 米田 大吉 氏

< 下北地区 >

期日：7/12(水)

場所：むつグリーンホテル

内容：むつ商工会議所と連携して、「むつ下北地区高卒者雇用対策協議会」の第2部で、県立大湊高校キャリアデザイン部の担当教諭2名が、自校のキャリア教育、就職指導について情報提供した。

< 三八地区 >

期日：9/25(月)

場所：八戸市スポーツ研修センター

内容：県生涯学習課が主催した「学校と地域のネットワークづくり」と同時開催し、企業、学校関係者、行政関係者等との話し合いを通して、ネットワークの構築を図った。

講師：特定非営利活動法人まなびのたねネットワーク 代表理事 伊勢 みゆき 氏
「我が社は学校教育サポーター」への新規登録及び登録企業の周知

各実行委員会とも関係機関と連携して情報収集しながら、新たに「我が社は学校教育サポーター」に登録する企業の新規開拓を行った。また、「我が社は学校教育サポーター」に登録されている企業について、さらなる活用を促進するために、登録企業の周知を学校等に対して行い、企業による教育支援活動の一層の充実を図った。

我が社は学校教育サポーター：新規登録企業 12社（登録予定も含む。）

< 東青地区 >

各校の職業講話の依頼時に説明した。

< 西北地区 >

学校に対しては登録企業の紹介を行い、学校・企業との連携を図った。また、企業に対しては訪問し、新規登録をお願いした。また、職業講話に参加した地元企業に対し、チラシ配布した上で登録を依頼した。

< 中南地区 >

期日：6月～1月

内容：学校6校、企業13社訪問

・新規登録企業の開拓をした。 3社

・企業周知の通信「キャリア教育ニュースレター第8号」を発行した。

< 上北地区 >

期日：随時

内容：訪問先小中学校にて「我が社は学校教育サポーター」登録企業を周知した。

< 下北地区 >

内容：教育支援活動展示会にてポスターを展示して、「我が社は学校教育サポーター」のPRを行った。また体験出前授業（ユメココ教室）の新規の講師依頼の際に「我が社は学校教育サポーター」の説明を行うとともに、職業講話を依頼する際に登録を依頼した。

< 三八地区 >

期日：10/7(土)～10/8(日)

内容：八戸市立小中野公民館まつりで、「我が社は学校教育サポーター」登録企業及び活動内容を展示した。

ウ 教育支援活動展示会の開催

企業による教育支援活動を県民に広く周知することを目的とした「教育支援活動展示会」を実施した。

< 東青地区 >

期日：1/12(金)～1/14(日)

場所：アウガ1 階駅前スクエア

内容：東青地区16企業の活動をパネルで展示した。

< 西北地区 >

期日：1/16(火)～1/26(金)

場所：五所川原市役所「市民の土間」

内容：地域で教育支援を行っている企業5社前後を紹介したものを掲示板に掲示した。

< 中南地区 >

期日：9/26(火)

場所：弘前市総合学習センター 2階大会議室

内容：県教育委員会主催の「学校と地域のネットワークづくり(中南地区)」と同時開催し、研修会参加者(学校関係者、企業及び地域活動団体関係者、教育委員会関係者等)を対象に、企業紹介のパネル展示をした。

参加企業等：12社

< 上北地区 >

期日：7/27(木)

場所：東北町未来館

内容：県教育委員会主催の「地域学校協働活動研修会(上北地区)」において「我が社は学校教育サポーター」登録企業紹介パネルと上北管内企業による教育支援活動の紹介、上北地区実行委員会の取り組み事例紹介のパネルを展示した。

< 下北地区 >

日時：7/5(水)～7/6(木)

場所：むつ来さまい館 イベントホールA

内容：11の事業所・団体が出展、下北教育事務所からの助言で地区小中学校教員対象の研修が開かれる開催日に合わせて同じ建物内で開催し、教員の方々に地域の事業所、団体による児童生徒への支援活動の周知を図った(むつ市教育委員会 むつ来さまい館が後援)。

< 三八地区 >

期日：9/25(月)

場所：八戸市スポーツ研修センター

内容：県教育委員会主催の「学校と地域のネットワークづくり(三八地区)」と同時開催し、参加企業等5社によるパネル展示を行った。

子どもの読書活動推進事業

[趣 旨]

「青森県子ども読書活動推進計画(第四次)」に基づき、読書に親しみ自主的に読書活動をする子どもたちを育成するため、子どもが読書に親しむ機会の充実、環境の整備・充実、理解と関心の普及・啓発を進める取組を展開する事業である。

[概 要]

あおもりの中学生・高校生による『大切なあなたへ薦める青春の一冊』

中学生・高校生の読書意欲の向上を図り、自主的な読書活動を促すため、県内の中学生・高校生を対象に仲間や友だちなどに薦めたい一冊の本の紹介文を募集し、優秀作品を表彰した。

また、優秀作品集（紹介文集）を32,000部、優秀作品周知ポスターを360部作成し、中学校、高等学校（特別支援学校中等部及び高等部を含む。）、図書館等に配付した。

募集期間：7/3(月)～9/15(金)

応募数：3,305点（中学生の部：33校981点、高校生の部：25校2,324点）

優秀作品受賞者一覧

<中学生の部>

最優秀賞	八戸市立市川中学校 1年 木村 結実 『風に恋う』(額賀 漣/著)
優秀賞	八戸市立立陽中学校 1年 石村 心乃佳 『1リットルの涙 難病と闘い続ける少女亜也の日記』(木藤 亜也/著) 県立三本木高等学校附属中学校 3年 村井 嵐 『水を縫う』(寺地 はるな/著) 八戸市立立陽中学校 3年 大島 穂音 『木曜日にはココアを』(青山 美智子/著) 八戸市立立陽中学校 2年 音喜多 亜子 『全力疾走するバカになれ～明るく、楽しく生きたい人に贈る75の言葉～』(勝俣 州和/著) 青森市立新城中学校 3年 元木 晴陽 『あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。』(汐見 夏衛/著)

<高校生の部>

最優秀賞	県立柏木農業高等学校 3年 齊藤 龍太郎 『生きてさえいれば』(小坂 流加/著)
優秀賞	県立三沢高等学校 3年 駒沢 伶奈 『勿忘草の咲く町で 安曇野診療記』(夏川 草介/著) 県立八戸商業高等学校 2年 川畑 悠 『水を縫う』(寺地 はるな/著) 県立黒石高等学校 3年 浅利 夕蘭 『コーヒーが冷めないうちに』(川口 俊和/著) 県立鯉ヶ沢高等学校 3年 勝野 紫音 『やりたいことが見つからない君へ』(坪田 信貴/著) 県立青森西高等学校 2年 佐藤 美早希 『君たちはどう生きるか』(吉野 源三郎/著)

子どもの読書活動推進大会

広く県民がこどもの自主的な読書活動の意義や重要性について理解と関心を深め、家庭・地域・学校を通じた社会全体でこどもの読書活動を推進する機運の醸成を図るため、子どもの読書活動推進大会を開催した。

日時：12/3(日) 13:00～16:00

場所：県総合社会教育センター

参加者数：116名

内容

ア 表彰式

令和5年度あおもりの中学生・高校生による『大切なあなたへ薦める青春の一冊』

・中学生の部及び高校生の部の最優秀賞及び優秀賞受賞者への表彰

・最優秀賞及び優秀賞受賞者による本の紹介

イ 講演

演題演題『本のある生活～私がこれまでに会った本～』

講師：作家 森 絵都 氏 進行：フリーアナウンサー 境 香織 氏

青森県子ども読書活動推進計画

「青森県子ども読書活動推進計画(第四次)」に基づき、読書に親しみ、自主的に読書活動をするこどもたちを育てるため、各教育事務所の協力の下、こどもの読書活動推進計画の未策定市町村等に対し、計画策定が進むように働きかけを行った。

また、啓発小冊子「絵本で豊かな親子の時間」第7版を発行し、希望する団体等へ提供を行った。

いじめ防止キャンペーン推進事業

[趣 旨]

いじめ問題への理解と認識を深めるため、いじめ防止を内容とした標語を募集し、その優秀作品をテレビを通じて視聴者へ語りかけることにより、広く県民のいじめ防止に向けた意識の啓発を行う事業である。

[概 要]

いじめ防止標語コンクール

小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校に在籍する児童生徒並びに一般県民から、いじめ防止を訴える標語を募集し、優秀賞6作品、審査員特別賞4作品を選定した。

募集期間：6/5(月)～8/31(木)

応募数：11,573作品(小学校7,562作品、中学校3,477作品、高等学校442作品、特別支援学校88作品、一般4作品)

受賞作品

優 秀 賞	けなすより いいとこみつけて みなえがお	青森市立新城小学校 1年 近村 欣真
	傷ついた 君の心に 気づきたい	中泊町立中里中学校 2年 成田 開
	教えてよ 君の苦しさ 半分んこ	弘前市立相馬小学校 6年 大畑 真樹
	「とめない」と そんな気持ちを 行動に	十和田市立東中学校 1年 三浦 莉子
	けしゴムで けせない ことばも あるんだよ	むつ市立奥内小学校 1年 立花 奏楽
	誰かがじゃない 君がやらなきゃ 変わらない	県立八戸中央高等学校 1年 島守 陽菜
審 査 員 特 別 賞	人叩く リアルでネットで やっちゃ駄目	つがる市立森田小学校 6年 須藤 乃愛
	耳すませ 心にひびが 入る音	弘前市立新和中学校 3年 葛西 妃莉
	目に見えぬ 心の悲鳴に 耳をすませて	県立五所川原農林高等学校 2年 青山 桃子
	考えて 言葉の重さ 相手の思い	県立八戸第一養護学校高等部 1年 二川目 心寿

テレビCMの制作・放送

ア 令和4年度制作「いじめ防止キャンペーンテレビCM」を県内民放3局で放送(4/6～4/7、5/8～5/10、8/24～8/25、8/28～9/1、9/4～9/5、1/15～1/19)。

イ 令和5年度いじめ防止標語コンクール優秀賞作品を活用したテレビCMを制作し、県内民放3局で放送(3/19、3/21～3/22)。

特別支援学校における家庭教育支援事業

[趣 旨]

障がいのある児童生徒の保護者等が、こどもの健やかな成長のために、障がいのある児童生徒の心理や行動について理解を深め、家庭における教育や卒業後の就労などについて必要な知識を習得するとともに、同じ悩みを持つ保護者同士の交流や地域住民との交流を深める機会を提供する事業である。

[概 要]

開設校	回数	時間	参加者数	主な内容
県立青森第一養護学校	5	10	36名	パン作り体験、事業所見学、ピラティス&ヨガ体験、講話(息子の「できる」を信じて～様々な取り組みで広がる世界～)
県立青森第二養護学校	3	6	27名	こぎん刺し教室、果物狩り、先輩保護者を囲んでの談話会
県立青森若葉養護学校	3	6	37名	施設見学、体験活動「バステルシャインアート」「布小物作り」
県立青森第一高等養護学校	2	4	8名	福祉に関する勉強会「障害福祉サービスの利用等について」
県立青森第二高等養護学校	4	9	43名	花植え、環境整備、茶話会、木製のカラトリー作り体験、二高養祭の準備、エアロビクスとリラクゼーション
県立盲学校	7	16	32名	花植え、地域の清掃活動参加、進路指導講話、盲導犬体験研修会、学校祭参加、点字ブロック理解啓発活動、iPad操作研修会
県立青森豊学校	3	5	61名	グラウンド整備、家族レクリエーション、コサージュ作り
県立浪岡養護学校	5	7	125名	陶芸体験「ランタン作り」、学校祭参加、ワークショップ「HSCって何だろう？」
県立弘前第一養護学校	2	7	38名	P T A施設見学会(卒業後の進路先の見学)、レジンのアクセサリー作り
県立弘前第二養護学校	8	23	130名	運動会観賞、公共施設見学、親子レクリエーション、進路講演会、こけしの絵付け体験、弘二養祭参加、福祉施設見学、クリスマスプレゼント贈呈
県立弘前豊学校	7	12	83名	親子レクリエーション、なかまの集い、地区研修会「こころとからだ元気になるピラティス」、陶芸体験「ランタン作り」、手話学習会、進路懇話会
県立八戸第一養護学校	4	11	36名	視線入力に関する研修会、美術館見学、心と体をリフレッシュ 楽しいヨガ教室、合同研修会「～親なきあとの自立に向けて～今、大切な“備え”とは」
県立八戸第二養護学校	4	10.5	120名	普通救命救急講習会、給食試食会、障害基礎年金についての学習会、卒業生の保護者との座談会

開設校	回数	時間	参加者数	主な内容
県立八戸盲学校	3	6	9名	保護者交流会(学校行事への協力)、アロマクラフト作り体験
県立八戸聾学校	5	6	58名	P T A 奉仕作業(運動会装飾、清掃、扇風機清掃)、手話・南部せんべい焼き教室
県立森田養護学校	3	10	21名	近隣地域公共施設における体験学習、ヨガ教室、お菓子の包装作業学習会
県立黒石養護学校	4	7	55名	黒石よされ講習会、こけしの絵付け体験、黒養祭準備、コサージュ作り
県立七戸養護学校	4	10	214名	福祉施設見学会、陶芸教室、県地区P連研修会「ヨガ教室」、県知P連研修会「防災教室」
県立むつ養護学校	5	8	115名	園芸教室、親子レクリエーション、父母学習会(障がい者の福祉に関する懇話会)
県立八戸高等支援学校	1	2	56名	進路学習会「卒業生の進路先について」
合計	延べ回数 82回 延べ時間 175.5時間 参加者数合計 1,304名			

地域と学校とのパートナーシップ強化事業 [重点]

[趣 旨]

県域における地域学校協働活動の更なる充実を目的として、これまでの事業により形成された人財とのつながりを活かした研修会等の開催や、地域学校協働活動推進員の配置促進を図ることなどにより、地域と学校のパートナーシップを強めるための取組を行う事業である。

[概 要]

地域と学校の交流会

ア 地域活動者・企業が学ぶ場と情報交換会

「学校が望む地域との連携・協働」をテーマに、地域学校協働活動の先進事例等について学び、またそれぞれの取組などを情報交換して、学校との連携の在り方を模索した。

地区	期 日	場 所	参加者数
三八	7/18(火)	友の会福祉会館(八戸市)	12名
中南	7/19(水)	弘前市総合学習センター	20名

対象：地域活動者・企業等

講師：特定非営利活動法人まなびのたねネットワーク 代表理事 伊勢 みゆき 氏

イ 学校と地域のネットワークづくり

学校関係者と、学校への協力を申し出ている企業や学校との連携を希望する地域活動者が一堂に会し、交流を深めながら互いの理解を促進した。(ワークショップ等で交流を図った。)

地区	期 日	場 所	参加者数
三八	9/25(月)	八戸市スポーツ研修センター	49名
中南	9/26(火)	弘前市総合学習センター	40名

対象：地域活動者・企業等、小・中・高・特別支援学校教職員・地域学校協働活動推進員、市町村教育委員会職員等

講師：特定非営利活動法人まなびのたねネットワーク 代表理事 伊勢 みゆき 氏

市町村地域学校協働活動支援

ア 地域学校協働活動研修

地域学校協働活動推進員の委嘱等について中心的な役割をする市町村教育委員会担当者及び教職員の理解を深めるため、教育委員会担当者や教職員等を対象とし、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進に係る文科省の動向、県内外の先進事例等を学ぶ研修会を開催した。

地区	期 日	場 所	参加者数
東青	8 / 9 (水)	県総合社会教育センター	64名 (10名)
西北	8 / 22 (火)	つがる市生涯学習交流センター「松の館」	58名 (2名)
中南	7 / 4 (火)	弘前市立中央公民館相馬館長慶閣	73名 (15名)
上北	7 / 27 (木)	東北町コミュニティセンター未来館	73名 (7名)
下北	7 / 5 (水)	むつ来さまい館	25名 (8名)
三八	9 / 5 (火)	南部町総合保健福祉センターゆとりあ	65名 (11名)

参加者数の()は、オンラインによる参加者数(内数)

対象：市町村教育委員会職員(地域学校協働活動担当者、コミュニティ・スクール担当者等)、小・中・高・特別支援学校教職員、地域学校協働活動推進員等

講師：スクール・コミュニティ研究会 代表 岸 裕司 氏(東青・西北)

ゆめ まなびネット 代表 大谷 裕美子 氏(中南・上北・下北)

ふくしま学校と地域の未来研究所 代表 安齋 宏之 氏(三八)

イ 市町村地域学校協働活動相談支援

安定的な地域学校協働活動推進のために、市町村の本部整備や推進員配置、これらの有効な活用について、課員や統括的な役割を担う地域学校協働活動推進員(地域学校協働活動コーディネートアドバイザー)が相談対応するほか、先行市町村等を仲介するなどして、課題解決のためのサポートを行った。

○内容：地域学校協働本部の整備及び地域学校協働活動の推進に向けた相談対応、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進に向けた先進事例等の紹介等

○実績

5 / 18 (木) 第1回平内町地域学校協働本部運営委員会

対象：平内町立学校職員、社会教育関係者、PTA関係者、地域・ボランティア等関係者、地域学校協働活動推進員

5 / 23 (火) 五所川原市教育委員会地域学校協働活動研修情報交換会

対象：地域学校協働活動推進員

8 / 2 (水) 弘前市教育自立圏研修会

対象：学校運営協議会委員、地域コーディネーター

10 / 12 (木) 学区まなびい講座運営担当者研修会(弘前市)

対象：各学区まなびい講座運営委員長、関係小学校長、中央公民館職員

11 / 29 (水) 第2回地域学校協働活動に係る事務連絡会議(青森市)

対象：教頭または地域連携担当教員、地域学校協働活動推進員、協働活動サポーター

12 / 8 (金) 弘前市立松原小学校第3回学校運営協議会

対象：学校運営協議会委員、担当教職員

2 / 8 (木) 第2回平内町地域学校協働本部運営委員会

対象：平内町立学校職員、社会教育関係者、PTA関係者、地域・ボランティア

等関係者、地域学校協働活動推進員

ウ C Sマイスター派遣事業（文部科学省）プッシュ型派遣への対応

文部科学省の事業により、青森市、八戸市、平内町、鶴田町、藤崎町の5市町と、西北管内の高等学校を対象とした研修会にC Sマイスターを派遣した。

○研修会の概要

9/20(水) 青森市教育委員会主催研修会

講師：出口 寿久 氏（北海道科学大学教授）

対象：教育委員会担当者、小中学校の管理職、C Sディレクター

内容：C Sの概要（法的根拠、必要性など）紹介とワークショップ体験（熟議の実際。ファシリテートの方法等）、質疑応答等

9/21(木) 平内町教育委員会主催研修会

講師：出口 寿久 氏（北海道科学大学教授）

対象：C S設立準備委員、教育委員会担当者

内容：C Sの概要（法的根拠、必要性など）紹介とワークショップ体験（熟議の実際。ファシリテートの方法等）、質疑応答等

10/11(水) 八戸市教育委員会主催研修会

講師：高野 睦 氏（秋田県由利本荘市立本荘東中学校教諭）

対象：教育委員会教育長、職員（指導主事他）

内容：C Sの概要（法的根拠、必要性、「任用に関する意見」等について）紹介とワークショップ体験（熟議の実際。ファシリテートの方法等）、質疑応答等

10/24(火) 鶴田町教育委員会主催研修会

講師：高野 睦 氏（秋田県由利本荘市立本荘東中学校教諭）

対象：教育委員会教育長、職員（指導主事他）

内容：「特性を活かした学校づくりと地域住民との連携」C Sの概要（法的根拠、必要性など）紹介とワークショップ体験（熟議の実際。ファシリテートの方法等）、質疑応答等

10/25(水) 藤崎町教育委員会主催研修会

講師：高野 睦 氏（秋田県由利本荘市立本荘東中学校教諭）

対象：教育委員会教育長並びに担当者と学校評議員

内容：C Sの概要（法的根拠、必要性など）紹介とワークショップ体験（熟議の実際。ファシリテートの方法等）、質疑応答等

11/15(水) 県教育庁生涯学習課主催研修会

講師：出口 寿久 氏（北海道科学大学教授）

対象：西北地区県立学校の校長、教頭他

内容：C Sの概要（法的根拠、必要性など）紹介と質疑応答等

モデル県立学校への地域学校協働活動推進員配置

学校運営協議会を設置している県立学校のうち3校にモデル校として推進員を配置し、県立学校におけるコミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進と、教職員の働き方改革への効果等について、令和7年度に検証を行う。

○モデル校：県立黒石高等学校、県立森田養護学校、県立八戸高等支援学校
（学校運営協議会制度導入済みの県立学校より3校）

学校・家庭・地域連携協働推進事業

1 地域学校協働活動推進事業（県事業）

[趣 旨]

地域全体で未来を担うこどもたちの成長を支え、地域を創生する地域学校協働活動を継続的・安定的に実施する体制づくりを支援する事業である。

[概 要]

会議の開催

県内における地域学校協働活動の総合的な在り方や、児童の放課後対策の諸問題について協議するとともに、市町村担当者を対象とした連絡会議を開催し、地域学校協働活動及び放課後子ども総合プランの推進を図った。

ア 地域学校協働活動推進委員会

期日：2/9(金)

場所：県立図書館4階 集会室

委員

	氏 名	所属等	備考
1	松浦 淳	青森中央短期大学幼児保育学科 非常勤講師	委員長
2	桐村 豪文	弘前大学大学院教育学研究科 准教授	
3	會津 隆史	五所川原市立三輪小学校 校長	副委員長
4	富樫 克輝	八戸市立膠中学校 校長	
5	横岡千和子	県PTA連合会 会長	
6	工藤知久子	青森市浦町中学校区学校運営協議会 CSディレクター	
7	沢田真由美	鶴田町 地域学校協働活動推進員	
8	木村 繁春	青森県立森田養護学校 地域学校協働活動推進員	
9	百川 弘通	青森県立黒石高等学校 地域学校協働活動推進員	
10	島脇 一夫	青森県立八戸高等支援学校 地域学校協働活動推進員	
11	秋庭 誠一	鶴田町教育委員会社会教育班 班長	
12	境 真宏	五戸町教育委員会教育課社会教育班 主事	
13	蒔苗 元	弘前市健康こども部こども家庭課 課長	
14	大塚 靖子	青森市福祉部子育て支援課 放課後児童支援員	
15	横山 栄子	名川なかよクラブ 放課後児童支援員	

イ 放課後子ども総合プラン市町村担当者連絡会議

期日：6/21(水)

場所：県総合社会教育センター 第1研修室及び第5研修室

対象：市町村放課後子ども総合プラン担当者（社会教育主管課及び福祉部局）

参加者数：65名

研修の実施

ア 地域学校協働活動推進のための研修【主管：県総合社会教育センター】

地域学校協働活動の推進に向けて、地域と学校が協働する仕組みづくりに関わる市町村教育委員会担当者や地域学校協働活動推進員等の資質向上を図った。

期日：6/2(金)

場所：県総合社会教育センター 第1研修室

対象：市町村教育委員会担当者、地域学校協働活動推進員、地域コーディネーター等

参加者数：67名（会場41名、オンライン26名）

内容：講義 「地域と学校の連携・協働の推進について」

講師 檜葉町地域学校協働センター長

檜葉町教育委員会 指導主事 猿渡 智衛 氏

事例報告 「子どもたちの輝く未来応援団」～地域全体での子育てを目指して～

今別町教育委員会 主幹 大馬 義明 氏

今別町教育委員会

統括的地域学校協働活動推進員 工藤 清子 氏

「五戸町地域学校協働活動の取組について」

五戸町教育委員会社会教育班 主事 境 真宏 氏

「学校運営協議会と地域学校協働活動」

三沢市教育委員会生涯学習課

課長補佐兼生涯学習係長 柿崎 竜平 氏

イ 放課後子ども総合プラン支援員等研修会【主管：各教育事務所】

放課後対策等に関わる地域人財を対象に、学習・体験活動等の企画・実施方策、安全管理方策等の資質向上を図るための講義や、他の事業関係者等との情報交換・情報共有を図るため、合同の研修会を開催した。

回数：12回

対象：地域学校協働活動推進員等、協働活動支援員、協働活動サポーター、特別支援・共生社会サポーター、放課後児童支援員等

参加者数：計1,082名

東青	前期	<p>【期日】6/13(火)、14(水) 【会場】県総合社会教育センター</p> <p>【参加者数】137名</p> <p>【内容】講義・演習「子どもに起きやすいけがや事故への手当てと予防」</p> <p>日本赤十字社青森県支部 事業推進課長 山野内 博見 氏</p>
	後期	<p>【期日】9/12(火)、13(水) 【会場】県総合社会教育センター</p> <p>【参加者数】104名</p> <p>【内容】実技研修「レッツエンジョイ 自然大好き」</p> <p>青森県立梵珠少年自然の家 研修課長 新山 隆男 氏</p> <p>社会教育主事 土岐 正純 氏</p>
西北	前期	<p>【期日】6/2(金)</p> <p>【会場】柏ふるさと交流センター「ハーモニー未来館」</p> <p>【参加者数】105名</p> <p>【内容】講義・演習「子どもの捉え方や気持ちの理解と支援」</p> <p>青森明の星短期大学 子ども福祉未来学科 准教授 高橋 多恵子 氏</p>
	後期	<p>【期日】10/5(木)</p> <p>【会場】柏ふるさと交流センター「ハーモニー未来館」</p> <p>【参加者数】82名</p> <p>【内容】講義・実技研修「運動で子どもたちを元気に！」</p> <p>一般社団法人BLUE ties Impression 代表理事 川戸 元貴 氏</p>

中 南	前期	【期日】7/11(火) 【会場】青森県武道館補助競技場 【参加者数】46名 【内容】実技研修「コーディネーショントレーニングで体を動かそう」 NPO法人日本コーディネーショントレーニング 認定普及員 乗田 俊子 氏
	後期	【期日】9/13(水) 【会場】弘前市中央公民館相馬館長慶閣 【参加者数】35名 【内容】講義・演習「放課後の子どもたちの居場所づくりのために ～放課後子ども総合プランの意義と支援員の役割～」 岩手大学教育学部 准教授 深作 拓郎 氏
上 北	前期	【期日】6/7(水) 【会場】六戸町文化ホール 【参加者数】184名 【内容】講義・演習「特別な支援を必要とする子どもの自主性・社会性を伸ばす支援 のあり方～生きづらさを軽減しオーダーメイドの支援を～」 青森県発達障害者支援センターDoors(県南地域) センター長 社会福祉士・公認心理師 分枝 篤史 氏
	後期	【期日】10/30(月) 【会場】小川原湖青年の家 【参加者数】78名 【内容】講義・演習「今日の『楽しい』がその子の10年後の未来につながると 信じて～日常の延長線上に遊びのヒントがある～」 岩手県立児童館 いわて子どもの森 チーフプレーリーダー 長崎 由紀 氏
下 北	前期	【期日】6/13(火) 【会場】むつ市中央公民館 【参加者数】84名 【内容】講義・演習「子供の姿からはじめるよりよい支援」 青森明の星短期大学 子ども福祉未来学科 准教授 高橋 多恵子 氏
	後期	【期日】10/18(水) 【会場】むつマエダアリーナ 【参加者数】73名 【内容】講義「地域学校協働活動を支える支援員の役割、存在意義」 県教育庁生涯学習課 地域連携推進GM・主任社会教育主事 工藤 健夫 氏 実技研修「レッツ エンジョイ 運動遊び」 むつ市ウェルネスパーク インストラクター 黒田 英知 氏
三 八	前期	【期日】6/8(木) 【会場】八戸市福祉公民館 【参加者数】83名 【内容】講義・演習「子どもたちの居場所づくりのために ～放課後子ども総合プランの意義と支援員の役割～」 岩手大学教育学部 准教授 深作 拓郎 氏
	後期	【期日】10/17(火) 【会場】八戸市福祉公民館 【参加者数】71名 【内容】実技研修「遊びのマイスターから学ぼう ～身近なものを使って楽しむ遊び講座～」 NPO法人子どもネットワーク・すてっぷ 代表理事 奈良 陽子 氏

統括的な役割を担う地域学校協働活動推進員の配置

県内の地域学校協働活動を推進するため、統括的な役割を担う地域学校協働活動推進員(地域学校協働活動コーディネートアドバイザー)を配置し、市町村教育委員会との連絡調整、地域学校協働活動の理解促進、情報提供等を行った。

< 主な活動実績 >

○情報提供等

- ・平内町地域学校協働本部運営委員会（R5.5.18、R6.2.8）
- ・五所川原市教育委員会地域学校協働活動研修情報交換会（R5.5.23）
- ・弘前市教育自立圏研修会（R5.8.2）
- ・学区まなびい講座運営担当者研修会（弘前市）（R5.10.12）
- ・第2回地域学校協働活動に係る事務連絡会議（青森市）（R5.11.29）
- ・弘前市立松原小学校第3回学校運営協議会（R5.12.8）

○情報発信

「みんながつながる 地域学校協働活動便り」を発行し、市町村教委、県立学校等へ配付した。

第7号（R5.6.13）、第8号（R5.9.1）、第9号（R5.10.24）、第10号（R6.1.10）、第11号（R6.3.5）

○情報収集

「全国コミュニティ・スクール研究大会（鳥取県）」や「第2回CSタウンミーティング（鱒ヶ沢町）」等に参加し、全国の先進事例や自治体の現況等の情報収集にあたった。

2 学校・家庭・地域連携協力推進事業費補助

[趣 旨]

市町村が行う地域学校協働活動の推進に要する経費について、県が補助を行う事業である。

[事業内容]

未来を担う子どもたちの成長を支え、「社会に開かれた教育課程」を実現するためには、地域と学校が連携・協働し社会総掛かりで教育を行う体制を構築することが必要であることから、市町村が行う学校、家庭及び地域住民相互の連携・協働の推進に要する経費について、県が補助金を交付した。

【国庫補助1/3、県補助1/3、市町村負担1/3】

20市町村、地域学校協働本部39本部、放課後子供教室70教室

平内町 今別町 外ヶ浜町 五所川原市 つがる市 鱒ヶ沢町 鶴田町 中泊町

弘前市 平川市 大鰐町 十和田市 三沢市 六戸町 おいらせ町 むつ市

風間浦村 佐井村 三戸町 五戸町

[概 要]

地域学校協働本部及び地域の実情に応じた仕組みの下で、地域の方々の参画を得て、多様な活動が展開されている。その中でも、放課後子ども教室は、中核市の八戸市、藤崎町、七戸町、横浜町、大間町において単独費で実施している教室数を含めると21市町村81教室が開設され、地域の特性を生かしたスポーツ・文化活動等の体験活動、地域住民との交流等が実施されている。

引き続き、市町村での地域学校協働活動の取組促進が図られるよう、経費の一部を補助し、支援していく必要がある。

あおもり家庭教育支援総合事業

[趣 旨]

社会や家庭を取り巻く状況の変化に伴い、家庭教育が一層困難になっていることを踏まえ、全ての親が安心して家庭教育を行うために、今日的課題に対応した家庭教育の取組を推進するための協議を行い、地域全体で家庭教育を支援していく機運を高めるとともに、親の育ちを応援する

学びの機会の充実や支援のネットワークづくり等を行う事業である。

[概 要]

青森県家庭教育支援推進協議会の開催

今日の課題に対応した家庭教育の取組を推進するため、本県の家庭教育支援事業（学習機会の提供や支援者の活動を推進する研修等）について協議した。

構成：有識者、家庭教育支援者など 10名

回数：年2回

家庭教育学習テキスト「あおり親楽プログラム」の作成・周知

家庭教育の学習を推進するため、「あおり家庭教育アドバイザー」が活用する家庭教育の学習テキストを作成する。また、「あおり親楽プログラム」の活用促進を図るためのリーフレットを関係各所へ配布した。

体裁：A4判小冊子「改訂版あおり親楽プログラム」1・2・3の増刷 900部

家庭を支える連携・協働セミナーの開催

家庭教育支援に携わる方が、予防的・早期対応型の家庭教育支援の体制構築の必要性、家庭教育の今日的な課題等について学習するとともに、互いのつながりを深める研修会を県内2地区で開催し、地域における家庭教育支援の充実を図った。

地区	期日	場所	参加者数	内容
東青	8/31(木)	県総合社会教育センター	23名	講義：「今必要な家庭教育支援～子どもが育つために『私』ができること」 講師：八戸学院大学短期大学部 幼児保育学科
中南	9/8(金)	県武道館	24名	教授 差波 直樹 氏 情報交換会

青森県家庭教育支援ネットワーク形成研修会の開催

社会全体で家庭教育を支援するため、家庭教育支援に関わる方々が一堂に会し、家庭教育の今日的な課題等について学習するとともに、市町村職員及び家庭教育支援関係者等のつながりを深める研修会を開催した。

期日：12/15(金)

場所：八戸市福祉公民館

参加者数：27名

内容：講義・演習「ベアレントトレーニングで学ぶ 親と子の幸せなかかわり方」

講師 郡山家庭教育を支援する会 圓谷 円 氏

あおり家庭教育応援フォーラムの開催

地域が一体となって子どもたちを育むことについて学びを深める講演会及び様々な家庭教育支援に関する情報提供等を通して、家庭教育についての理解と認識を深め、地域全体で家庭教育を支援する意義や必要性についての普及・啓発を行った。

期日：10/22(日)

場所：県総合社会教育センター

参加者数：73名

内容：ア 講演「ママ先生が伝える 幸せ子育てのコツ」

イ 質問コーナー「教えてママ先生 子育てQ&A」

講師 玉川大学教育学部 教授 大豆生田 啓友 氏

祖父母向け孫育て研修会の開催（県地域婦人団体連合会へ委託）

家庭教育をサポートする祖父母を対象として、祖父母だからこそできる孫との関わり方、家庭教育の今日的課題等に関する研修会を開催した。

地区	期日	場所	参加者数	内容
中南	11/28(火)	黒石公民館	68名	講演：「『祖父母向け孫育て』 ～今時の孫育て～」 講師：（一社）青森県助産師会 孫育てチーム
三八	12/3(日)	田子町中央公民館	51名	蛭名 えり子 氏 宮本 由美子 氏

読み聞かせの大切さを伝える「親子ふれあい読書アドバイザー」の養成（県読書団体連絡協議会へ委託）

県読書団体連絡協議会への委託により、読み聞かせの効果や家庭での読み聞かせの大切さを伝える「親子ふれあい読書アドバイザー」の養成と、読み聞かせ実践者のスキルアップを図る研修会を県内6地区で開催し、合計181名が受講した。そのうち、親子ふれあい読書アドバイザーとして新たに12名を登録した。（累計登録者数：525名）

地区	期日	場所	参加者数	内容
東青	10/28(土)	海峡の家「ほろづき」	11名	親子ふれあい読書アドバイザー 千葉 敦子 氏 今別町読み聞かせ団体 こでまりの会
西北	11/1(水)	日本海拠点館	27名	青森大学社会学部 教授 秋田 敏博 氏
中南	10/13(金)	平川市文化センター	43名	弘前市おはなしるんるん代表 齋藤 真琴 氏 工藤 光子 氏 青森大学社会学部 教授 秋田 敏博 氏
上北	9/23(土)	十和田市民図書館	48名	語りの会「こま草」 阿部 智留恵 氏 菊池 佳子 氏 佐々木 しん 氏 高橋 芳子 氏 他 3名
下北	9/9(土)	むつ市中央公民館	10名	青森大学社会学部 教授 秋田 敏博 氏
三八	11/21(火)	八戸市福祉公民館	42名	八戸市読書団体連合会 読書部会 前田 敏子 氏 青森県読書団体連絡協議会 副会長 西村 恵美子 氏

大学生とカタル！キャリア形成サポート事業 <社セ> (p.249)

高校生スキルアッププログラム推進事業 <社セ> (p.250)

青森で生きる未来人材育成事業 <社セ> (p.248)

青少年社会参加活動・創作活動モデル団体研究事業 <社セ> (p.251)

教員のためのチーム「学校・家庭・地域」連携講座 <社セ> (p.252)

あおもり家庭教育力向上事業 <社セ> (p.252)

家庭教育支援動画制作普及事業 <社セ> (p.254)

家庭教育相談事業 <社セ> (p.255)

子どもの読書活動推進のための図書セット貸出事業 <図書> (p.228)

県立梵珠少年自然の家主催事業 <梵珠> (p.235)

種差少年自然の家主催事業(自然と遊ぼう、子どもの祭典) <種差> (p.240)

自然体験活動支援事業 <種差> (p.241)

在学少年宿泊指導者研修 <種差> (p.241)

親子で学ぶ防災キャンプ事業 <種差> (p.241)

2 節 活力ある持続可能な地域づくりに向けた人財の育成

- ア 地域活動の実践者、コーディネーターの養成
- イ 次代の地域を担う若者の育成
- ウ 地域活動に関わる人財のネットワーク形成の支援
- エ 多様な働き方を可能にする学び直しの機会の充実

若者の社会参加促進事業

[趣 旨]

ひきこもりやニート等の課題を抱える若者の社会参加を促進することを目的として、就労体験や自然体験活動を実施する事業である。

また、若者の社会参加を促進することを目的に、地域の青年組織、または新たに活動を始めようとする若者団体（以下、「若者団体等」）が企画立案する地域の課題等を踏まえたモデル事業を実施する事業である。

[概 要]

困難を抱えるこども・若者支援

不登校が続いている高校生やひきこもり・ニート等の課題を抱える状況にあり、社会とのつながりへのきっかけを求めている16歳～概ね40歳の若者を対象に、自然体験・交流塾を種差少年自然の家、梵珠少年自然の家等にて、それぞれ3回ずつ実施した。

< 梵珠会場 >

第1回自然体験・交流塾

期日：7/8(土) 会場：梵珠少年自然の家 参加者数：6名
内容：ニュースポーツ、野外炊事、創作活動 他

第2回自然体験・交流塾

期日：9/16(土) 会場：梵珠少年自然の家 参加者数：5名
内容：梵珠ふれあいハイク、野外炊事、ニュースポーツ 他

第3回自然体験・交流塾

期日：1/27(土) 会場：種差少年自然の家 参加者数：8名
内容：就労体験・ボランティア活動、創作活動 他

< 種差会場 >

第1回自然体験・交流塾

期日：7/22(土) 会場：種差少年自然の家 参加者数：24名
内容：せんべい焼き、創作活動、ニュースポーツ 他

第2回自然体験・交流塾

期日：9/30(土) 会場：種差少年自然の家等 参加者数：25名
内容：磯の生物観察、創作活動 他

第3回自然体験・交流塾

期日：2/17(土) 会場：種差少年自然の家 参加者数：22名
内容：就労体験・ボランティア活動、創作活動 他

< 自然体験・交流塾協力団体等連絡会議 >

第1回自然体験・交流塾協力団体等連絡会議（梵珠会場）

期日：6/20(火) 会場：梵珠少年自然の家 参加者数：5名

内容：事業説明、第1回自然体験・交流塾の詳細確認、各支援機構との個別打合せ

第1回自然体験・交流塾協力団体等連絡会議（種差会場）

期日：7/10(月) 会場：種差少年自然の家 参加者数：7名

内容：事業説明、第1回自然体験・交流塾の詳細確認、各支援機構との個別打合せ

第2回自然体験・交流塾協力団体等連絡会議（梵珠会場）

期日：3/1(金) 会場：梵珠少年自然の家 参加者数：7名

内容：参加者の成長と成果、運営における成果や検討すべき課題等について

第2回自然体験・交流塾協力団体等連絡会議（種差会場）

期日：3/8(金) 会場：種差少年自然の家 参加者数：9名

内容：参加者の成長と成果、運営における成果や検討すべき課題等について

若者の社会参加促進事業プランの実践

若者団体等の地域活動への参加や若者団体同士のつながり、地域とのつながりを形成するモデル事業プランを実施した。

< 研修会の開催 > 【サンノエールへ委託】

(下北地区)

第1回研修会

期日：8/23(水) 会場：オンラインにて実施 参加者数：4名

内容：事業内容・実践活動内容についての説明、メンバーの参集方法・団体の立ち上げ方について

第2回研修会

期日：9/28(木) 会場：オンラインにて実施 参加者数：4名

内容：団体の組織について、会則・活動計画・実施計画書の作成について

(中北地区)

第1回研修会

期日：9/2(土) 会場：estowa 参加者数：7名

内容：事業内容・実践活動内容についての説明、メンバーの参集方法・団体の立ち上げ方について

第2回研修会

期日：10/4(水) 会場：estowa 参加者数：7名

内容：団体の組織について、会則・活動計画・実施計画書の作成について

両地区合同プランの企画・実践発表会

○若者団体が1団体となったため、合同プランの企画・実践発表会は中止。

< 企画事業の実践 >

(下北地区) 【大間町地域づくり団体ツナグへ委託】

期日：12/17(日) 会場：大間町勤労青少年ホーム 参加者数：110名

内容：地域に子育て世代が室内で自由に過ごせる場所が少ないため、親子で楽しめるイベント「ふわふわ広場～MAX～」を若者団体が企画し、実施した。

エア―遊具5台によるトンネル&トランポリン、滑り台を活用した遊び場の提供

ビニールボール遊びができる場所の提供及びビニールボールの貸し出し

館内で自由に遊びができる場所の提供

ゲーム大会の開催（玉入れ、大玉ボール運び、的入れ）

協力団体による手作りクッキーの配布

（中南地区）【「Glänz」へ委託】

平川市「Glänz」へ委託し、当初事業を実施していたが、事業継続が困難となった旨の連絡が委託期間内にあり、実施状況を確認した結果、委託要項に基づき「Glänz」との委託契約を解除したため、事業は実施されなかった。

社会教育を核とする地域ネットワーク活用促進事業（再掲）

（P 学校・家庭・地域の協働による未来を担う人材の育成に掲載）

パワフルAOMORI！創造塾 <社セ> （p.247）

地域の今と未来をつなぐキャリア教育推進事業 <社セ> （p.255）

生涯学習・社会教育関係職員研修講座 <社セ> （p.256）

3節 生涯を通じた学びと社会参加の推進

- ア 高齢者や障害者を始めとする多様なニーズに応じた学びの機会の充実
イ 学習成果を生かした社会参加活動の支援

特別支援学校を活用した生涯学習講座開設事業

[趣 旨]

県民の生涯学習推進と開かれた学校づくりの促進を目的として、県立学校（特別支援学校）の有する専門性の高い教育機能を開放する事業である。

[概 要]

学校名	期間	日数 (回数)	内 容	受講者数 (延数)
県立青森 聾学校	6～9月	7日 (7回)	手話講座	22名 (124名)
県立盲学校	7月	1日 (2回)	視覚障害者への支援と点字入門	11名 (18名)

障害者の生涯学習支援事業

[趣 旨]

特別支援学校卒業生の自立と社会参加を支援し社会性の向上を目指すことを目的として、集団学習や趣味の講座、障がい者スポーツを通して他の卒業生や在校生、地域住民等と交流する機会を提供する事業である。

[概 要]

社会参加学習

開設校	回数	時間	参加者数	主な内容
県立青森第二養護学校	5	16	230名	情報交換、レクリエーション、ボウリング教室、スポーツ体験、会報の発行
県立青森若葉養護学校	1	6	15名	体験を広げる校外学習（入級生、職員、地域の方との交流）
県立青森第一 高等養護学校	1	2.5	72名	めいせい祭参加（在校生、卒業生、保護者、職員との交流）
県立青森第二 高等養護学校	3	15	166名	情報交換、レクリエーション、学校祭参加（展示及び模擬店見学、作業体験）、ボウリング
県立盲学校	1	4	2名	学校祭参加（発表の観賞、運営の手伝い）
県立浪岡養護学校	2	4	19名	同窓会、二十歳を祝う会
県立弘前第一養護学校	3	6.5	85名	会員相互の近況報告、動画鑑賞
県立弘前第二養護学校	1	3	32名	フラワーアレンジメント教室
県立八戸第一養護学校	1	3	11名	高等部祭見学
県立八戸第二養護学校	1	3	117名	卒業生スポーツ交流
県立八戸盲学校	2	8	20名	箏教室、スポーツ体験活動（卓球バレー体験）
県立森田養護学校	3	9	118名	金魚ねぶた作り、社会参加学習、森養祭参加
県立黒石養護学校	3	9	115名	レクリエーションスポーツ、映画観賞、学習発表会
県立七戸養護学校	2	9	55名	同窓会レクリエーション、成人を祝う会
県立むつ養護学校	4	10	170名	卒業生のお知らせ、卒業生スポーツ交流会
県立八戸高等支援学校	1	4	50名	同窓会、近況報告
合 計		延べ回数	34回	延べ時間 112時間 参加者数合計 1,277名

スポーツ体験交流

実施日	開催場所	参加者数	内 容
7/9(日)	県立黒石養護学校	33名	レクリエーション的な運動
7/30(日)	県立青森第一高等養護学校	30名	ボッチャ教室
11/25(土)	県立青森若葉養護学校	22名	スポーツ交流会
12/16(土)	県立青森第二養護学校	34名	スポーツ体験会
合 計	開催回数 4回		参加者数合計119名

元気青森人を創造するeラーニング推進事業 <社セ> (p.248)

学習情報の収集・提供事業 <社セ> (p.258)

ボランティア関係機関職員養成講座 <社セ> (p.257)

青森県視聴覚ライブラリー運営事業 <社セ> (p.258)

あおもり県民カレッジ運営業務 <社セ> (p.259)

インフォメーションプラザありすの運営 <社セ> (p.261)

読書パリアフリー推進事業 <図書> (p.228)

近代文学館 特別展開催事業 <図書> (p.228)

近代文学館 企画展開催事業 <図書> (p.229)

アウトリーチサービス推進事業 <図書> (p.230)

4 節 社会教育推進のための基盤整備

- ア 社会教育推進体制の充実
- イ 社会教育施設の機能の充実と活用の促進
- ウ 社会教育関係職員の養成と資質の向上
- エ 社会教育関係団体等の活動の支援

生涯学習推進基盤整備事業（生涯学習推進本部、青森県生涯学習審議会）

[趣 旨]

生涯学習振興法（生涯学習の振興のための施策の推進体制等の整備に関する法律）の趣旨を踏まえ、本県の生涯学習推進体制を整備していくため、生涯学習推進本部等を運営する。また、生涯学習推進に資する施策の総合的な推進に関する重要事項について調査、審議するため、生涯学習審議会を運営する。

[事業内容及び結果]

生涯学習推進本部

生涯学習に関する関係部局相互の連携、協力を図り、生涯学習関連施策を一体的、効果的に進めるため、県の関係各課、出先機関等が実施する生涯学習関連事業について調査を行い、結果を取りまとめる。

青森県生涯学習審議会

第16期青森県生涯学習審議会

委員：15名

任期：2年（R4/10/19～R6/10/18）

諮問：「障害者の生涯学習の推進方策について」

審議事項：1「障害者の多様な学習活動の充実」

2「障害の有無にかかわらず共に学ぶ場づくり」

3「障害者の学びを推進するための基盤の整備」

会議等の概要

第3回審議会 5/25(木) 総合調査研究の結果報告、実地調査について

実地調査 6月下旬～8月中旬

- ・一般社団法人HachinoheClub（八戸市） 6/24(土)
- ・はまなす青年教室（青森市中央市民センター） 6/25(日)
- ・NPO法人TetoCompanyみんなのいえカラフル（大分県） 7/3(月) オンライン
- ・青森アール・ブリュットサポートセンター（五所川原市） 7/6(木)
- ・俊文書道会（八戸市） 7/8(土)
- ・障がい者支援WEBポータルサイト（三沢市障害福祉課） 7/13(木)
- ・認定NPO法人トラソス（東京都） 7/14(金)
- ・NPO法人「難病障がい児者を支えるみんなの会」（弘前市） 7/19(水)
- ・NPO法人のらんど「見沼たんぼ福祉農園」（埼玉県） 7/21(金)
- ・しょうがいしゃ青年教室&喫茶わいがや（東京都国立市公民館） 7/21(金)～7/22(土)
- ・障害者の生涯学習推進事業（秋田県大館市生涯学習課） 8/20(日)

第4回審議会	9/19(火)	実地調査の結果報告、答申骨子案について
第5回審議会	12/14(木)	答申骨子案の構成、方向性について

生涯学習・社会教育総合調査研究事業

[趣旨]

本県における生涯学習・社会教育の推進を図るための基礎資料を得ることを目的として、生涯学習・社会教育支援体制に関する調査を行う。

[概要]

県内の子どもの読書活動の状況及び小・中・高等学校及び特別支援学校における読書活動推進に関する現状を把握し、今後の施策の企画立案に資することを目的として調査を実施する。

調査テーマ：「子どもの読書活動推進に関する実態調査」

調査対象： 県内の小学校5年生、中学校2年生、高校2年生 約3,000人
県内すべての小学校、中学校、高等学校、特別支援学校 484校

有効回答： 小学校5年生 1,133人、中学校2年生 1,035人、高校2年生 943人
県内の小学校、中学校、高等学校、特別支援学校435校（回収率：89.9%）

顧問の委嘱：調査研究に係る指導助言のため、大学教授等に研究顧問を委嘱する。

青森大学社会学部 教授 秋田 敏博 氏

青森中央短期大学食物栄養学科 講師 本間 維 氏

報告書：130部を印刷し関係機関に配付した。

青森県社会教育委員の会議の運営

[趣旨]

社会教育法第17条に基づき、本県社会教育の振興方策について審議及び調査研究を行い、県教育委員会に答申、建議を行う。

[概要]

青森県社会教育委員の会議

第36期青森県社会教育委員

委員：8名 青森県生涯学習審議会委員との兼務

任期：2年（R4/10/19～R6/10/18）

調査研究テーマ：「障害者の生涯学習の推進方策について」

青森県生涯学習審議会の審議テーマに基づき、必要に応じて調査研究を行う。

会議等の概要

第2回青森県社会教育委員の会議 11/2(木) 重点審議事項に係る答申骨子案について

市町村の社会教育に関する現状調査及び「青森県の社会教育行政」の作成

[趣旨]

本県社会教育施策の企画・立案の資料作成を目的として、各市町村における社会教育事業実施状況及び社会教育施設・社会教育関係職員・生涯学習推進体制の状況等について調査する事業である。

[概要]

市町村の社会教育行政調査

市町村の生涯学習推進体制等の状況に関する調査
「令和5年度青森県の社会教育行政」の作成配付（550部作成予定）

社会教育主事有資格者育成派遣事業

[趣旨]

社会教育指導体制の充実を図り、社会教育主事有資格者を育成することを目的として、教育事務所等の指導主事、小・中学校の教員を社会教育主事講習に派遣する事業である。

[概要]

派遣研修：社会教育主事講習（秋田大学）
研修期間：7/24(月)～8/18(金)
派遣者数：小学校教員2名、県教育委員会指導主事1名

生涯学習専門講座派遣事業

[趣旨]

生涯学習の振興において中核的な役割を果たす専門的職員を育成することを目的として、関係職員を中央研修に派遣する事業である。

[概要]

社会教育主事専門講座
研修期間：10/12(木)～10/13(金)、10/16(月)～10/17(火)
派遣者数：県生涯学習課 社会教育主事1名
地域教育力を高めるボランティアセミナー
受講者なし
、ともに国立教育政策研究所社会教育実践研究センター主催

社会教育主事等一般研修

[趣旨]

県社会教育関係職員が一堂に会し、県の社会教育行政の方針と重点について研修と情報交換を行い、職務遂行能力のスキルアップを図る。

[概要]

研修会の開催：第1回 4/26 県総合社会教育センター
第2回 11/27 県総合社会教育センター
第3回 2/29 県総合社会教育センター

在学青少年育成費補助事業

〔趣 旨〕

青少年教育の機会拡充をより一層図ることを目的として、県内の在学青少年（高校生）を対象とした講演会事業に対して助成を行う事業である。

〔概 要〕

主に東京及びその近郊に在住する青森県出身者並びに青森県にゆかりのある方々を講師として県内高校に派遣する講演会事業に対する助成。

期日	場 所	参加生徒数	内 容
10/5(木)	県立十和田工業高等学校	360名	演題 「原始時代から原子時代へ ～青森県で文明の歴史を考えよう～」 講師 星槎大学 特任教授 山脇 直司 氏
	県立三本木農業恵拓高等学校	572名	
10/30(月)	県立弘前工業高等学校	616名	演題 「夢を持って高校生活を」 講師 落語家 桂 歌若 氏
	県立尾上総合高等学校	168名	
11/1(水)	県立青森北高等学校	578名	演題 「生活と金融と経済」 講師 株式会社オープンハウス顧問、プロ クレーアホールディングス社外取締 役、東京経済大学非常勤理事 三國谷 勝範 氏
	県立青森中央高等学校	573名	

社会教育を核とする地域ネットワーク活用促進事業（再掲）

（P176 活力ある地域コミュニティの形成に向けた人財の育成に掲載）

生涯学習・社会教育関係職員研修講座（再掲） <社セ> （p.256）

（P176 活力ある持続可能な地域づくりに向けた人財の育成に掲載）

ボランティア関係機関職員養成講座（再掲） <社セ> （p.257）

（P178 生涯を通じた学びと社会参加の推進に掲載）

県立図書館資料整備 <図書> （p.230）

市町村立図書館等職員研修事業 <図書> （p.231）

3章 施設と職員の状況

1節 社会教育施設の状況

1 公民館

公民館の設置状況

令和5年4月1日現在

区分	本館			分館
	中央館	地区館	計	
市計(10)	13	79	92	51
町村計(30)	25	54	79	48
合計	38	133	171	99

2 図書館

公立図書館の設置・蔵書の状況

令和5年4月1日現在

	施設名	蔵書冊数 (冊)		施設名	蔵書冊数 (冊)
1	青森県立図書館	997,875	18	つがる市立図書館	109,543
2	青森市民図書館	1,049,142	19	平川市平賀図書館	101,246
3	弘前市立弘前図書館	559,563	20	平川市尾上図書館	47,223
4	弘前市立岩木図書館	本館に含む	21	平内町立図書館	46,038
5	八戸市立図書館	449,935	22	藤崎町図書館大夢	69,824
6	八戸市図書情報センター	6,136	23	板柳町民図書館	30,790
7	八戸市立南郷図書館	62,937	24	中泊町図書館	58,896
8	黒石市立図書館	60,309	25	野辺地町立図書館	91,707
9	五所川原市立図書館	122,201	26	七戸中央図書館	32,015
10	五所川原市立図書館金木分館	6,668	27	六戸町立図書館	30,446
11	五所川原市立図書館市浦分館	2,405	28	横浜町民図書館	17,627
12	十和田市民図書館	192,646	29	東北町立図書館	54,839
13	三沢市立図書館	131,725	30	六ヶ所村民図書館	48,275
14	むつ市立図書館	157,187	31	おいらせ町立図書館	71,858
15	むつ市立図書館川内分館	5,168	32	三戸町立図書館	47,587
16	むつ市立図書館大畑分館	7,840	33	五戸町図書館	119,651
17	むつ市立図書館脇野沢分館	4,294	34	田子町立図書館	36,857

3 青少年教育施設

令和5年4月1日現在

	施設名	所在地			
		〒	住所	TEL	FAX
1	青森県立 梵珠少年自然の家	037-0611	五所川原市神山字殊ノ峰 117 - 602	0173 - 29 - 3303	0173 - 29 - 3306
2	青森県立 種差少年自然の家	031-0841	八戸市膠町字膳並平 2 - 26	0178 - 38 - 2131	0178 - 38 - 2727
3	むつ市 下北自然の家	039-4401	むつ市大畑町佐助川399	0175 - 34 - 6151	0175 - 34 - 6152
4	公立小川原湖 青年の家	039-2402	上北郡東北町大浦字道ノ下 104 - 6	0176 - 56 - 2393	0176 - 56 - 5042
5	公益財団法人青森県スポーツ協会 岩木青少年スポーツセンター	036-1345	弘前市常盤野字湯段范 1 - 2	0172 - 83 - 2338	0172 - 83 - 2732
6	青森市 浪岡細野山の家	038-1322	青森市浪岡大字細野字沢井 37 - 3	0172 - 62 - 3129	同左
7	平内町 勤労青少年ホーム	039-3321	東津軽郡平内町大字小湊字 小湊79 - 3	017 - 755 - 3945	-
8	深浦町 ふれあいと創造の館	038-2202	西津軽郡深浦町大字岩崎字 松原51 - 7	0173 - 77 - 2111	-
9	黒石市 スポーツ交流センター	036-0306	黒石市大字内町24 - 1	0172 - 53 - 1612	-
10	野辺地町 勤労青少年ホーム	039-3112	上北郡野辺地町字中道 20 - 1	0175 - 64 - 9657	-
11	横浜町 烏帽子平自然の家	039-4154	上北郡横浜町字明神平138	0175 - 78 - 2084	-
12	大間町 勤労青少年ホーム	039-4601	下北郡大間町大字大間字 大間平41 - 7	0175 - 37 - 4346	-
13	三戸町 勤労青少年ホーム	039-0141	三戸郡三戸町大字川守田字 関根 4 - 1	0179 - 22 - 0173	0179 - 20 - 1085

2節 社会教育関係職員の状況

1 社会教育関係職員

社会教育委員の委嘱状況

令和5年4月1日現在

区 分	定員数 (人)	現 員 数 (人)			委員委嘱数 (人)			
		計	男	女	学校教育 関係者	社会教育 関係者	家庭教育 の向上に 資する活 動を行う 者	学 識 経 験 あ る の 者
県	12	8	5	3	1	4	1	2
市 計 (10)	116	109	70	39	17	48	18	26
町村計 (30)	280	223	137	83	38	84	27	74
合計	408	340	212	125	56	136	46	102

教育委員会事務局の社会教育関係職員数 (人)

令和5年4月1日現在

区 分	課 長		社会教育主事		派遣社 会教育 主 事	社会教育主事補		社 会 教 育 指 導 員	計
	専任	兼任	専任	兼任		専任	兼任		
県	1	0	21	5	-	0	0	0	27
市 計 (10)	8	4	2	9	0	0	0	1	24
町村計 (30)	4	25	6	16	0	0	0	4	55
合計	13	29	29	30	0	0	0	5	106

2 公 民 館

公民館職員数(人)

令和5年4月1日現在

区 分		市(10)計	町村(30)計	合 計		
本 館	中央館	館 数	13	25	38	
		館 長	専 任	3	2	5
			兼 任	9	21	30
			非常勤	1	0	1
		主 事	専 任	12	1	13
			兼 任	9	10	19
			非常勤	12	0	12
		その他	専 任	27	17	44
			兼 任	18	59	77
	非常勤		40	19	59	
	地区館	館 数	79	54	133	
		館 長	専 任	1	2	3
			兼 任	3	23	26
			非常勤	75	16	91
		主 事	専 任	1	0	1
			兼 任	0	0	0
			非常勤	125	0	125
		その他	専 任	26	5	31
兼 任			19	24	43	
非常勤	43		11	54		
分 館	館 数	51	48	99		
	館 長	専 任	0	15	15	
		兼 任	4	3	7	
		非常勤	47	30	77	
	主 事	専 任	0	0	0	
		兼 任	12	0	12	
		非常勤	0	19	19	
	その他	専 任	0	0	0	
		兼 任	0	1	1	
非常勤		31	11	42		

公立図書館等職員数の状況

令和5年4月1日現在

	施設名	職員数						
		専任	うち 司書	兼任	うち 司書	非常勤 職員	臨時 職員	委託派遣 職員
1	青森県立図書館	22	10			12		
2	青森市民図書館	26	6				4	46
3	弘前市立弘前図書館	3		3		16		22
4	弘前市立岩木図書館							2
5	八戸市立図書館	14	7			21.1		
6	八戸市図書情報センター							7
7	八戸市立南郷図書館							7.7
8	黒石市立図書館			5		2		
9	五所川原市立図書館	8	3				1	
10	五所川原市立図書館金木分館(本館を含む)							
11	五所川原市立図書館市浦分館			3				
12	十和田市民図書館	8	2			1.5		0.7
13	三沢市立図書館							12.3
14	むつ市立図書館	5	1			17		0.4
15	むつ市立図書館川内分館			1		3.2		
16	むつ市立図書館大畑分館			1		4.2		
17	むつ市立図書館脇野沢分館			2		2.1		
18	つがる市立図書館							10.2
19	平川市平賀図書館	2		2		4		
20	平川市尾上図書館	1	1	2		2		
21	平内町立図書館			1		2		
22	藤崎町図書館大夢							6.4
23	板柳町民図書館			2			1	
24	中泊町図書館			5	1	1		
25	野辺地町立図書館	1	1	2		4.4		
26	七戸中央図書館	1	1	1		1	1	
27	六戸町立図書館			3				3
28	横浜町民図書館			6			1.8	
29	東北町立図書館	1	1			4		
30	六ヶ所村民図書館							5
31	おいらせ町立図書館							7
32	三戸町立図書館	1		1				4
33	五戸町図書館							7.1
34	田子町立図書館	1	1	4		1		

第5部 体育・スポーツ

第5部 体育・スポーツ

1章 体育・健康・スポーツ行政の方針と重点

1 方針

県民一人一人が、生涯にわたり健やかで活力に満ちた生活を送ることができるよう、学校における体育・健康教育の充実、生涯スポーツ及び競技スポーツの推進に努める。

2 重点

学校における体育・スポーツの充実

児童生徒が、豊かなスポーツライフの実現を目指し、自ら進んで運動に親しむ資質・能力を身に付け、健康の保持増進と体力の向上を図ることができるよう、学校における体育・スポーツの充実に努める。

ア 教科体育（保健体育）における学習指導の充実

イ 体力の向上を図る指導の充実

ウ 体育（保健体育）担当教員等の研修の充実

エ 運動部活動の充実

健康教育の充実

児童生徒が、心身ともに健康で安全な生活について理解し実践できるよう、学校、家庭、地域社会の連携を図り、学校保健、学校における食育及び学校安全を総合的に推進し、健康教育の充実に努める。

ア 学校保健の充実

イ 学校における食育の充実

ウ 学校安全の充実

エ 健康教育担当教員等の研修の充実

スポーツの推進

県民が生涯にわたり豊かなスポーツライフを実現できるよう、スポーツに親しむ環境づくりと競技力を向上させる環境づくりの充実に努め、スポーツの推進に努める。

ア 県民のスポーツ参画人口の拡大

イ スポーツを通じた活力ある社会の実現

ウ 本県の競技力向上と次世代アスリートの発掘・育成・強化

第80回国民スポーツ大会に向けた競技力向上の推進

2026年に本県で開催される第80回国民スポーツ大会での天皇杯・皇后杯の獲得に向けた総合的な競技力向上に努める。

2章 体 育

1節 学 校 体 育

1 児童生徒の体格、体力、運動能力

児童生徒の体格

令和5年度本県児童生徒の性別・年齢別体格

区分	年齢	項目	男 子		女 子	
			(参考) R 4 県平均値 県学校保健調査	県平均値 県学校保健調査	(参考) R 4 県平均値 県学校保健調査	県平均値 県学校保健調査
			平均値	平均値	平均値	平均値
小 学 校	6	身長	117.5	117.5	116.7	116.8
		体重	22.5	22.4	22.1	22.1
	7	身長	123.6	123.6	123.0	122.9
		体重	25.6	25.5	25.0	24.8
	8	身長	129.2	129.3	128.9	129.1
		体重	29.5	29.3	28.6	28.4
	9	身長	134.9	134.8	135.8	135.6
		体重	33.6	33.3	32.7	32.5
	10	身長	140.3	140.7	142.6	142.8
		体重	37.4	37.5	37.3	37.3
	11	身長	147.4	147.2	148.8	148.9
		体重	42.7	41.9	42.2	42.3
中 学 校	12	身長	155.3	155.5	153.0	153.1
		体重	48.2	48.2	46.2	46.2
	13	身長	162.0	162.4	155.5	155.5
		体重	53.3	52.9	49.5	49.1
	14	身長	166.6	166.7	156.8	156.9
		体重	57.6	57.3	51.5	51.3
高 等 学 校	15	身長	169.2	168.0	157.7	157.3
		体重	61.4	60.9	52.6	52.3
	16	身長	170.5	170.5	157.9	158.0
		体重	63.5	63.1	53.4	53.4
	17	身長	171.1	171.1	158.2	158.2
		体重	65.7	65.2	54.0	54.0

令和5年度青森県学校保健調査による（主管：県教育庁スポーツ健康課）

児童生徒の体力

令和5年度本県児童生徒の体力・運動能力

(男子)

学年	年齢	区分	握力(kg)	上体起こし (回)	長座体前屈 (cm)	反復横とび (回)	持久走 (秒)	20mシャトル ラン(回)	50m走 (秒)	立ち幅とび (cm)	ハンドボー ル投げ(m)	合計点 (点)	
			平均値	平均値	平均値	平均値		平均値	平均値	平均値	平均値		
小1	6	全国	9.13	11.82	26.56	27.36		18.11	11.47	116.98	8.27	30.73	
		県	8.89	11.85	25.69	28.14		19.50	11.87	113.46	8.14	30.21	
小2	7	全国	10.76	14.45	28.15	31.10		27.70	10.59	127.41	11.38	37.99	
		県	10.66	14.19	27.19	32.61		28.84	10.98	124.44	10.98	37.14	
小3	8	全国	12.46	16.05	29.91	34.64		35.17	10.13	136.59	14.98	43.41	
		県	12.31	16.10	28.86	35.81		35.88	10.50	133.79	14.34	42.53	
小4	9	全国	14.31	17.96	31.97	38.30		42.79	9.70	145.25	18.17	48.98	
		県	14.26	17.74	30.77	39.56		42.98	10.12	141.49	17.37	47.66	
小5	10	全国	16.73	20.01	34.35	42.73		51.19	9.30	156.04	21.88	55.36	
		県	16.40	19.40	32.69	42.61		50.30	9.68	151.23	20.74	52.93	
小6	11	全国	19.48	21.63	36.61	45.51		57.46	8.94	166.14	25.39	60.26	
		県	19.39	20.96	34.44	45.48		58.81	9.25	161.71	24.19	58.24	
中1	12	全国	24.69	23.68	40.67	50.14		418.49	67.24	8.37	186.11	17.98	35.47
		県	24.47	22.64	40.54	48.27		457.85	64.43	8.66	179.40	16.77	33.79
中2	13	全国	30.21	26.59	45.14	52.95		396.52	83.08	7.83	203.79	21.03	44.11
		県	30.10	25.88	45.75	52.14		422.06	77.94	7.96	199.51	20.33	42.71
中3	14	全国	34.53	28.63	49.23	56.01		378.05	90.80	7.49	217.30	23.80	50.55
		県	34.87	28.59	49.25	54.76		407.01	86.26	7.51	213.06	22.85	49.55
高1	15	全国	36.54	27.63	47.41	54.86		386.80	77.56	7.54	217.42	23.17	48.61
		県	37.17	28.32	49.15	55.85		413.68	79.93	7.44	216.19	23.17	50.20
高2	16	全国	38.58	29.22	48.56	56.35	372.73	84.87	7.34	223.91	24.65	52.48	
		県	39.54	30.18	51.44	57.33	412.35	85.92	7.32	224.22	24.86	54.14	
高3	17	全国	40.66	30.38	50.65	57.50	371.95	86.26	7.27	227.52	25.63	55.03	
		県	40.93	31.39	52.49	57.57	403.51	86.22	7.21	226.14	25.96	56.07	

(女子)

学年	年齢	区分	握力(kg)	上体起こし (回)	長座体前屈 (cm)	反復横とび (回)	持久走 (秒)	20mシャトル ラン(回)	50m走 (秒)	立ち幅とび (cm)	ハンドボー ル投げ(m)	合計点 (点)	
			平均値	平均値	平均値	平均値		平均値	平均値	平均値	平均値		
小1	6	全国	8.52	11.77	28.49	26.88		15.60	11.77	108.42	5.63	30.90	
		県	8.44	11.37	28.32	27.38		16.83	12.08	105.73	5.68	30.73	
小2	7	全国	10.09	13.63	30.64	29.88		21.59	10.95	119.62	7.37	38.04	
		県	10.01	13.91	30.24	31.98		23.86	11.18	116.58	7.44	38.30	
小3	8	全国	11.76	15.70	33.08	33.34		27.77	10.42	128.26	9.33	44.20	
		県	11.77	15.78	32.17	35.11		29.36	10.66	126.53	9.48	44.21	
小4	9	全国	13.88	17.27	35.68	36.89		33.98	10.00	137.98	11.53	50.06	
		県	13.93	17.40	34.40	38.38		35.89	10.23	135.20	11.51	49.90	
小5	10	全国	16.45	18.50	37.81	39.93		40.44	9.57	148.68	13.42	55.65	
		県	16.53	18.68	37.33	41.46		42.84	9.78	145.12	13.81	55.77	
小6	11	全国	18.66	19.48	41.14	42.15		45.08	9.26	154.71	15.22	60.23	
		県	19.24	19.44	38.95	43.31		46.69	9.48	151.12	15.55	59.58	
中1	12	全国	21.38	19.93	44.40	45.20		308.69	49.37	9.02	167.06	11.58	44.62
		県	21.37	19.46	43.69	44.94		323.67	47.37	9.20	160.68	10.95	42.98
中2	13	全国	23.99	22.54	47.30	47.86		289.74	56.25	8.76	172.96	13.32	51.04
		県	23.33	21.66	47.04	46.57		309.51	51.23	8.96	166.85	12.39	48.15
中3	14	全国	25.24	24.00	49.39	48.59		294.17	56.21	8.68	176.01	14.05	53.39
		県	24.86	22.81	49.84	47.14		315.02	51.19	8.83	168.38	13.26	50.90
高1	15	全国	25.27	21.84	47.32	47.12		304.92	45.69	9.00	170.46	13.39	48.88
		県	25.09	22.61	49.28	47.90		331.18	47.20	8.90	169.60	13.18	50.08
高2	16	全国	26.18	23.21	48.99	48.05	304.75	47.81	8.89	173.21	14.20	52.00	
		県	26.07	23.70	50.46	48.53	337.93	47.97	8.88	171.06	13.60	51.78	
高3	17	全国	26.40	23.68	49.82	48.09	305.61	47.22	8.95	171.63	14.26	52.07	
		県	26.65	24.08	51.52	47.85	335.49	47.19	8.90	169.97	14.07	52.33	

全国の数値：令和4年度スポーツ庁体力・運動能力調査報告書による(主管：スポーツ庁)

県の数値：令和5年度体格、体力、ライフスタイル調査による(主管：県教育庁スポーツ健康課)

2 体育担当教員の研修

体育担当職員の指導力の向上を図るため、各種講習会、研修会を実施した。

名 称	期 日	場 所	対 象 (人 員)	内 容
冬季学校体育実技講習会	1月9日～10日 1月5日 1月5日 1月9日 1月9日 12月26日	東 青 西 北 中 南 上 北 下 北 三 八	小・中・高・特別支援学校 東青（76人） 西北（8人） 中南（中止） 上北（中止） 下北（12人） 三八（28人）	小・中・高等学校及び特別支援学校の教員を対象に、スキー・スケートの指導法及び実技の研修を行う。
中学校保健体育担当者育成研修会	11月7日	弘前市	中南・東青・上北管内中学校保健体育担当教員が対象 中南（11人） 東青（10人） 上北（12人）	本県生徒の体力を向上させ、生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフの実現に資することができるよう、課題の把握及び発達段階を踏まえた体力向上と健康な生活習慣の在り方について、実践的な指導の充実と保健体育担当教員の資質向上を図る。
高等学校保健体育科担当者研修会	10月18日	青森市	県立高校保健体育科教員（48人） 県立特別支援学校保健体育科教員（13人） 私立高校保健体育科教員（3人）	高等学校等保健体育担当者に対し、学習指導の工夫・改善及び教員の資質向上を図るための講義・演習を行う。

3 学校体育団体の育成

派遣費の助成

高等学校体育連盟関係

全国大会 派遣人員 766人 7,574,000円

中学校体育連盟関係

全国大会 派遣人員 344人 2,401,000円

2節 学校保健

1 学校保健調査

児童・生徒の疾病・異常被患率を調査し、実態把握に努めた。

令和5年度小・中・高等学校疾病・異常被患率等の県平均値

(単位：%)

区分	計	裸眼視力			難聴		眼疾患者	蛋白検出の者	尿糖検出の者	歯・口腔							結核	心臓の疾病・異常	心電図異常	
		1.0未満 0.7以上	0.7未満 0.3以上	0.3未満	聴	患				う歯		未処置歯の者	列・膝合	顎関節	歯垢の状態	歯肉の状態				その他の歯疾
		計	処置完了の者	未処置歯の者																
小学校	計	45.6	15.9	15.8	13.9	0.5	4.0	0.9	0.1	47.0	20.6	26.3	4.2	0.0	2.1	1.6	9.8	0.0	0.3	1.6
	計男女	43.4	15.7	14.9	12.8	0.4	4.2	0.6	0.1	48.6	21.2	27.5	3.9	0.0	2.5	1.9	9.6	0.0	0.3	1.9
	計男女	47.8	16.1	16.6	15.1	0.7	3.7	1.1	0.1	45.2	20.0	25.2	4.4	0.0	1.7	1.4	10.1	0.0	0.2	1.3
中学校	計	61.9	11.5	17.7	32.7	0.3	3.5	2.3	0.2	36.2	20.3	15.9	4.1	0.3	3.8	3.5	4.9	0.0	0.3	2.8
	計男女	59.8	11.6	17.9	30.2	0.2	4.1	2.6	0.2	34.6	19.0	15.6	4.2	0.2	4.6	4.3	5.2	0.0	0.3	3.2
	計男女	64.3	11.4	17.4	35.4	0.3	2.8	2.0	0.2	37.9	21.7	16.2	4.0	0.4	2.9	2.6	4.6	0.0	0.3	2.4
高等学校	計	62.4	10.6	16.9	34.9	0.3	2.6	1.9	0.3	45.0	27.6	17.4	3.4	0.5	3.6	4.0	2.1	0.1	0.6	2.0
	計男女	60.8	11.2	18.2	31.4	0.3	3.0	2.1	0.3	44.4	25.6	18.8	3.0	0.4	4.5	5.1	2.6	0.1	0.7	2.6
	計男女	64.5	9.9	15.5	39.2	0.2	2.3	1.6	0.3	45.5	29.6	15.9	3.7	0.6	2.6	2.8	1.6	0.0	0.5	1.4

区分	栄養状態	脊柱・胸郭・四肢		皮膚疾患		耳鼻咽喉			その他の疾病・異常					検査の対象者に 関する検数	永久歯の一人当たり平均歯等数		う歯			
		脊柱の疾病・異常	胸郭の疾病・異常	四肢の疾病・異常	アトピー性皮膚炎	その他の皮膚疾患	耳疾患者	鼻疾・副鼻腔患	口腔患・咽喉頭異常	ぜん息	腎臓疾患	言語障害	その他の疾病・異常		検査の精密者	計(本)	喪失歯数(本)	計(本)	処置歯(本)	未処置歯(本)
		計	男女	計	男女	計	男女	計	男女	計	男女	計	男女							
小学校	計	3.9	1.5	0.1	0.3	1.3	0.5	5.9	17.2	0.4	1.0	0.1	0.2	1.7	0.0	0.3	0.0	0.3	0.2	0.1
	計男女	4.5	1.4	0.1	0.4	1.5	0.6	6.1	21.0	0.4	1.2	0.1	0.4	2.0	0.0	0.3	0.0	0.3	0.1	0.1
	計男女	3.3	1.6	0.0	0.2	1.2	0.5	5.6	13.2	0.3	0.8	0.1	0.1	1.4	0.0	0.3	0.0	0.3	0.2	0.1
中学校	計	3.1	2.5	0.1	0.6	0.8	0.3	4.3	15.2	0.2	0.8	0.1	0.1	2.2	0.0	1.1	0.0	1.1	0.7	0.4
	計男女	3.3	2.1	0.1	0.8	0.8	0.3	5.2	16.4	0.2	0.8	0.1	0.1	2.2	0.0	1.0	0.0	1.0	0.6	0.4
	計男女	2.8	3.0	0.0	0.4	0.8	0.2	3.4	13.9	0.1	0.8	0.1	0.0	2.2	0.0	1.2	0.0	1.2	0.8	0.4
高等学校	計	0.5	0.7	0.0	0.0	1.0	0.2	3.9	14.8	0.2	0.8	0.1	0.1	3.0	検査の精密者	1.8	0.0	1.7	1.3	0.5
	計男女	0.6	0.5	0.1	0.1	1.0	0.1	5.2	16.9	0.3	0.8	0.1	0.2	2.8		1.7	0.0	1.6	1.1	0.5
	計男女	0.5	0.9	0.0	0.0	1.0	0.2	2.6	12.8	0.1	0.7	0.1	0.1	3.3		1.9	0.1	1.8	1.4	0.4

令和5年度青森県学校保健調査による(主管：県教育庁スポーツ健康課)

2 研修会等開催

学校保健指導者の資質の向上を図るため、各種講習会を開催した。

令和5年度新規採用養護教諭研修

赴任時 令和5年4月3日(月)

新型コロナウイルス感染症の影響により各所属で実施

校外研修 会場 県総合学校教育センター

期 令和5年5月25日(木)～5月26日(金) 参加者7人

期 令和5年7月27日(木)～7月28日(金) 参加者7人

期 令和5年12月19日(火)～12月20日(水) 参加者7人

養護教諭中堅教諭等資質向上前期・後期研修

校外研修 会場 県総合学校教育センター

期 令和5年6月22日(木)～6月23日(金) 参加者21人

期 令和5年11月21日(火)～11月22日(水) 参加者7人

健康教育指導者研修会

Zoomによるオンライン研修

令和6年1月17日(水) 参加者69人

受講対象 中学校・高等学校及び特別支援学校の教職員

市町村教育委員会の健康教育を担当する指導主事等の職員

性に関するセミナー

Zoomによるオンライン開催

令和5年7月6日(木) 参加者81名

受講対象者 小・中・高等学校及び特別支援学校の教職員並びに学校医及び地域保健関係者等

養護教諭研修講座

期 日 令和5年9月6日(水)

会 場 県総合学校教育センター

参加者 14人(うち聴講4人)

健康教育実践研究校連絡協議会

期 日 令和5年5月24日(水)

会 場 県総合学校教育センター

参加者 34人

性に関する教育指導者研修会

期 日 令和5年11月24日(金)

会 場 県総合学校教育センター

参加者 40人

養護教諭フォローアップ（2年次）研修講座

期 日 令和5年10月31日（火）

会 場 県総合学校教育センター

参加者 10人

3節 学 校 安 全

1 交通安全プロモーション事業

交通安全推進地区指定

推進機関 平内町（東小地区）

対象学校 平内町立東小学校

2 研 修 会 等

学校防災リーダー養成研修会（西北・上北）

期 日 （西北）令和5年7月11日（火）

（上北）令和5年7月12日（水）

会 場 （西北・上北ともに）青森県総合学校教育センター

対 象 西北及び上北管内の公立・私立学校の管理職

西北及び上北管内の教育委員会の学校安全担当者

参 加 者 （西北）28名 （上北）51名

学校安全指導者研修会（交通安全・災害安全・生活安全）

【交通安全】

期 日 令和5年9月5日（火）

会 場 青森県総合学校教育センター

対 象 高等学校及び特別支援学校の教職員（公立・私立）

市町村教育委員会の学校安全担当者

参 加 者 50名

【災害安全】

期 日 令和5年10月3日（火）

会 場 青森県総合学校教育センター

対 象 中学校の教職員（公立・私立）

市町村教育委員会の学校安全担当者

参 加 者 55名

【生活安全】

期 日 令和5年10月12日（木）

会 場 青森県総合学校教育センター

対 象 小学校の教職員

市町村教育委員会の学校安全担当者

参 加 者 69名

4節 学校における食育・学校給食

1 学校給食実施状況

(5.5.1 現在)

区 分	児 童 生 徒 数 比			
	小 学 校		中 学 校	
総 数	51,964		27,358	
完全給食	51,520	99.2%	26,400	96.5%
補食給食	108	0.2%	63	0.20%
ミルク給食	262	0.5%	727	2.7%
合 計	51,890	99.9%	27,190	99.4%

食物アレルギー等により、給食を実施していない児童生徒を除く。

2 研 修 会 等

新規採用学校栄養職員研修

対象者 なし

栄養教諭・学校栄養職員中堅教諭等資質向上前期・後期研修

期 期 日 令和5年6月22日(木)～令和5年6月23日(金)

会 場 県総合学校教育センター

参加者 5人(後期4人)

期 期 日 令和5年10月5日(木)～令和5年10月6日(金)

会 場 県総合学校教育センター

参加者 5人(後期4人)

食育研修講座

期 日 令和5年7月28日(金)

会 場 県総合学校教育センター

参加者 13人

学校給食レシピコンテスト学校栄養職員研修講座

第1次審査 令和5年10月23日(月) 学校給食会 643通応募

第2次審査 令和5年11月10日(金) 学校給食会

【小学校の部】 110通応募 最優秀賞1 優秀賞2

【中学校の部】 529通応募 最優秀賞1 優秀賞4

【特別支援学校の部】 4通応募 最優秀賞1 優秀賞1

学校給食の衛生管理等に関する調査研究

令和5年11月24日(金) 県立八戸第二養護学校

令和5年12月1日(金) 三戸町立学校給食共同調理場

令和5年12月8日(金) つがる市立森田学校給食共同調理場

令和5年12月15日(金) 黒石市立六郷小学校

衛生管理研修会

期 日 令和5年5月18日(木)

会 場 県総合社会教育センター

参加者 85人

学校給食調理従事員衛生管理講習会

期 日 令和5年8月1日(火)

会 場 県総合社会教育センター

参加者 249人

3章 スポーツ

1節 スポーツ活動の拡充

スポーツは、人々の「こころ」と「からだ」の健全な発達を促すとともに、明るく豊かで活力に満ちた生きがいのある社会の形成に寄与するものであり、県民が生涯の各時期にわたって、それぞれの体力や年齢、目的に応じて、いつでも、どこでもスポーツに親しむことができるよう諸条件の整備を図ることが求められている。

このため、県民の生涯にわたるスポーツライフの実現を目指し、「スポーツに親しむ環境づくり」と「競技力を向上させる環境づくり」の両面からの諸施策を実施してきた。

1 地域におけるスポーツ活動の推進

青森県民スポーツ・レクリエーション祭を開催した。

第16回青森県民スポーツ・レクリエーション祭 7,469千円

青森県民駅伝競走大会を開催した。

第31回青森県民駅伝競走大会 14,174千円

各種大会の開催に要する経費の一部を下記のとおり助成した。

その他県内開催の各種大会（21大会） 4,000千円

第76回市町村対抗青森県民体育大会 800千円

2 スポーツ指導者

スポーツ推進委員

スポーツ推進委員は、スポーツ推進のための事業実施に係る連絡調整、スポーツの実技指導及びスポーツに関する指導助言を行うことを主な職務としている。

各市町村におかれているスポーツ推進委員は、令和6年3月現在532人（男性368人、女性164人）である。

指導者養成事業

県民の多様なスポーツニーズに対応できる指導者の確保と資質向上のため、令和5年度は次の養成事業を行った。

名称	期日	場所	対象（人員）	内容
第64回全国スポーツ推進委員研究協議会青森大会	11月16日～ 11月17日	青森市	全国のスポーツ推進委員、市町村生涯スポーツ担当者等 （2,846人） 青森県257人	全国のスポーツ推進委員等を対象に、スポーツ推進委員の目指す方向性や地域スポーツの今日的な課題について研究協議し、スポーツ推進委員の資質向上を図るとともに、生涯スポーツの振興に資するための研修会を開催する。

名 称	期 日	場 所	対象（人員）	内 容
スポーツ推進委員地区研修会	10月7日 7月5日 6月25日 6月24日 6月24日 5月13日	東 青 西 北 中 南 上 北 下 北 三 八	スポーツ推進委員、地域関係団体指導者 (11人) (37人) (42人) (28人) (23人) (62人)	市町村におけるスポーツ指導者の資質の向上を図るため、地域スポーツに関する諸問題についての研究協議及び実技研修を開催する。
スーパーバイザー配置事業 (青森県競技力向上対策本部事業)	各競技団体が設定した期日・場所		国体正式競技41団体(活用競技団体数34競技)	各競技団体の指導体制の充実・競技力の向上を図るため、競技団体が全国的に優秀な指導者及び審判員等を定期的に招聘し、より高度な技術や試合時の戦術、育成計画及び成年種別における有力選手の獲得等について継続的に指導・助言を受けるための講習会等の開催を支援する。
有望指導者研修派遣事業(青森県競技力向上対策本部事業)	(公財)日本スポーツ協会、中央競技団体等が設定した期日・場所		国体正式競技41団体(活用競技団体数28競技)	将来、各競技団体の核となって活躍することが見込まれる有望指導者の資質向上や、中央競技団体と指導者の関係性の構築のため、(公財)青森県スポーツ協会を介して、(公財)日本スポーツ協会や中央競技団体が実施する各種研修会への参加を支援(参加に要する経費を補助)する。
トップレベルコーチ招聘事業(青森県競技力向上対策本部事業)	各競技団体が設定した期日・場所		国体正式競技41団体(活用競技団体数35競技)	各競技団体における指導体制の基盤整備のため、競技団体が全国的に優秀な指導者を招聘し、各競技団体における選手の育成や指導方法について助言を受けるための講習会等の開催を支援する。
公認指導者(コーチ)資格の取得支援事業(青森県競技力向上対策本部事業)	(公財)日本スポーツ協会が設定した期日・場所		国体正式競技41団体(活用競技団体数17競技)	(公財)日本スポーツ協会・中央競技団体が示す国体監督基準に基づき、日本スポーツ協会の公認スポーツ指導者資格の取得を促進するため、(公財)青森県スポーツ協会を介して、資格取得を支援(取得に要する経費を補助)する。

3 スポーツ情報

県民のスポーツに対する興味や関心を高めるため、本県選手の活躍等をデータベース化して今後のスポーツ振興に役立てるための資料を作成するとともに、現在、県が実施している各種大会、イベント、県営施設の紹介を、ホームページに掲載しインターネットを通じて情報提供を行った。

4 第80回国民スポーツ大会に向けた競技力向上

令和8（2026）年の第80回国民スポーツ大会の開催に向け、本県の競技力向上を総合的かつ計画的に図るため、青森県競技力向上対策本部において各種取組を行った。

年 月 日	内 容
令和5年	
5月30日	第11回本部委員会を開催
6月30日	第15回強化対策委員会を開催
9月7日	第13回医・科学ネットワーク専門委員会を開催
9月16日～10月17日	鹿児島特別国体視察
12月11日	第12回女性指導者ネットワーク専門委員会を開催
令和6年	
1月28日～2月3日	苫小牧国スポ視察（スケート・アイスホッケー競技）
2月6日	第14回医・科学ネットワーク専門委員会を開催
2月15日	第16回強化対策委員会を開催
2月21日～2月24日	山形国スポ視察（スキー競技）
3月26日	第12回本部委員会を開催

2節 スポーツ団体

1 公益財団法人青森県スポーツ協会

県内各競技団体及び市町村体育・スポーツ協会を統括し、「県民スポーツ振興事業」、「競技力向上事業」等を行っている公益財団法人青森県スポーツ協会に対し、下記のとおり運営費等の助成を行った。

・青森県スポーツ協会運営費等補助	29,925千円
・国民体育大会等派遣費補助	104,767千円
・競技力向上事業費補助	105,217千円
・スポーツ振興事業費補助	18,000千円
・スポーツ科学センター運営管理費	56,996千円
・コーチスキルアップ事業費補助	19,386千円

2 スポーツ少年団

スポーツ少年団は、スポーツを通じて心身の健全な青少年を育成するため、昭和38年に組織され現在に至っているが、令和5年度における登録状況は下記のとおりである。

令和5年度スポーツ少年団登録状況

設置市町村数	38市町村
登録団体数	388団体
登録団員数	8,602人
指導者数	2,142人

3節 体育・スポーツ施設

1 公共的スポーツ施設

設置者別施設

県内の公共的スポーツ施設の総数は、779箇所であり、その内訳は次のとおりである。

県営施設	4箇所	42施設
市町村立等施設	40市町村	737施設

県営施設については、「新青森県総合運動公園（マエダアリーナ（総合体育館）、カクヒログループアスレチックスタジアム（陸上競技場）等）」、「青森県総合運動公園」、「盛運輸アリーナ（青森県営スケート場）」、「青森県武道館」の4箇所に設置されている。

市町村立等施設とは、市町村立の施設又は旧雇用促進事業団・B & G財団・健康保険組合等の民間団体が設置し、地方公共団体が管理運営をしている施設を含むものである。

施設種別ごとの施設数

県内の公共スポーツ施設を施設種別ごとに比較したのが表1である。

（表1の施設数は、文部科学省の「体育・スポーツ施設現況調査」（おおむね6年に一度実施）によるもので、令和3年10月1日現在の数である。この調査における公共スポーツ施設とは、公立社会教育施設等に付帯するスポーツ施設及び「社会教育調査」（おおむね3年に一度実施）における社会体育施設を合わせたものである。）

(表1)

施設種別ごとの公共スポーツ施設数

令和3年10月1日現在

	種別	公共スポーツ施設		
		計	公立社会教育施設に付帯するスポーツ施設	社会体育施設
1	陸上競技場	30	3	27
2	野球場・ソフトボール場	81	9	72
3	球技場	18	1	17
4	多目的運動場	80	9	71
5	水泳プール(屋内)	27	4	23
6	水泳プール(屋外)	34	4	30
7	レジャープール	7	0	7
8	ダイビングプール	0	0	0
9	体育館	130	28	102
10	柔道場	12	2	10
11	剣道場	7	1	6
12	柔剣道場(武道場)	16	4	12
13	空手・合気道場	0	0	0
14	バレーボール場(屋外)	0	0	0
15	庭球場(屋外)	70	7	63
16	庭球場(屋内)	0	0	0
17	バスケットボール場(屋外)	4	0	4
18	すもう場(屋外)	14	1	13
19	すもう場(屋内)	9	1	8
20	卓球場	2	0	2
21	弓道場	10	0	10
22	アーチェリー場	3	0	3
23	馬場	0	0	0
24	アイススケート場(屋内)	5	0	5
25	アイススケート場(屋外)	1	0	1
26	ローラスケート・インラインスケート場(屋外)	2	0	2
27	ローラスケート・インラインスケート場(屋内)	2	0	2
28	山の家	0	0	0
29	トレーニング場	39	4	35
30	レスリング場	3	0	3
31	ボクシング場	0	0	0

	種 別	公共スポーツ施設		
		計	公立社会教育施設に付帯するスポーツ施設	社会体育施設
32	ダンス場	0	0	0
33	射撃場	2	1	1
34	ゴルフ場	5	0	5
35	ゴルフ練習場	0	0	0
36	ボウリング場	0	0	0
37	漕艇場	0	0	0
38	ゲートボール・クロッケー場	40	2	38
39	スカッシュ・ラケットボール場	0	0	0
40	ヨット場	1	0	1
41	スキー・スノーボード場	17	0	17
42	キャンプ場	43	0	43
43	ハイキングコース	4	0	4
44	サイクリングコース	0	0	0
45	オリエンテーリングコース	0	0	0
46	ランニングコース	2	0	2
47	冒険遊具コース	2	0	2
48	海の家・海水浴場等の施設	19	0	19
49	河川・湖沼等の遊泳場	5	0	5
50	スカイスポーツ施設	0	0	0
51	体操競技場	0	0	0
52	その他	33	1	32
	計	779	82	697

第6部 文 化

第6部 文 化

1章 文化財保護行政の方針と重点

1 方 針

郷土への愛着と誇りを培い、うるおいと活力のある県民生活を実現するため、次代へ伝える、かけがえのない文化財の保存・活用に努める。

2 重 点

文化財の保護・保存

かけがえのない文化財を次代に伝えるため、適切に管理し、保護・保存に努める。

ア 文化財を大切にし、守り伝えようとする意識の啓発

イ 文化財の調査や記録作成の実施

ウ 国や県の文化財指定等の推進

エ 文化財の保存・修理等の支援

オ 「北海道・北東北の縄文遺跡群」を未来に継承する取組の推進

文化財の公開・活用

県民が文化財に興味・関心を持ち、親しめるよう、公開・活用と情報発信に努める。

ア 文化財の公開・活用の促進と情報発信

イ 史跡等の公有化や整備の支援

伝統芸能・技術の継承

地域で生まれ、保存・伝承されてきた伝統芸能や技術の継承に努める。

ア 伝統芸能・技術の後継者の育成支援と発表機会の充実

イ こどもの伝統芸能伝承活動の推進

博物館等施設の機能の充実

県民が文化財に触れ、体験・体感できる機会の充実と情報発信に努める。

ア 県立郷土館の資料の収集・保管、展示・調査研究・教育普及活動の充実と情報発信

イ 三内丸山遺跡センターの遺跡及び遺跡の出土品の保存、遺跡に関する調査研究・展示・教育普及活動の充実と情報発信

ウ 埋蔵文化財調査センターの発掘調査・研究活動と収蔵機能の充実及び情報発信

2章 文 化 財

1節 文化財の指定等

1 文化財の指定等状況

令和5年度に指定された文化財は次のとおりである。

国指定等

重要文化財

種 別	名 称 等	所 在 地	指定年月日	所 有 者
考古資料	青森県櫛引遺跡出土品	八戸市大字根城字東構35-1(八戸市博物館)	令和5年6月27日	八戸市

県指定

県重宝

種 別	名 称 等	所 在 地	指定年月日	所 有 者
絵画	絹本着色阿弥陀如来像	弘前市大字新寺町165	令和5年4月12日	宗教法人法源寺
書跡・典籍	刊本「自然真営道」	八戸市大字糠塚字下道2-1(八戸市立図書館)	令和5年4月12日	八戸市

県技芸(追加認定)

種 別	名 称 等	保持者住所	認定年月日	保 持 者
	根笹派大音笹流錦風流尺八	弘前市	令和5年4月12日	ベランド ジョンニコラス

県有形民俗文化財

種 別	名 称 等	所 在 地	指定年月日	所 有 者
	熊野本地絵巻 附 模写	下北郡東通村大字田屋字家ノ上29-2(東通村歴史民俗資料館)	令和5年4月12日	東通村

2 審議会の開催状況

県文化財保護審議会

令和5年度は3回開催した。指定等案件4件の審議等を行った。

銃砲刀剣類登録審査会

令和5年度は4回開催した。その結果、新たに64件の銃砲刀剣類を登録した。

国・県・市町村指定文化財件数

[指定]

(R6.3.31現在)

の文化 種類	国指定	県指定	市町村指定
有形 文化 財	国宝	3	
	[内訳]工芸品	2	
	考古資料	1	
	重要文化財	57	県重宝 162
	[内訳]建造物	34	[内訳]建造物 46
	絵画	0	絵画 8
	彫刻	2	彫刻 31
	工芸品	7	工芸品 30
	書跡	0	書跡 4
	考古資料	14	考古資料 31
歴史資料(史料)	0	歴史資料(史料) 12	
計	60	計 162	計 600
文無 化 財形	重要無形文化財	1	
	[内訳]工芸技術	1	県技芸 2
	計	1	計 5
文民 化 財俗	重要有形民俗文化財	8	県有形民俗文化財 13
	重要無形民俗文化財	8	県無形民俗文化財 56
	計	16	計 69
記 念 物	特別史跡	1	
	史跡	22	
	特別名勝及び天然記念物	1	県史跡 20
	名勝及び天然記念物	1	県名勝 1
	名勝	8	県天然記念物 40
	特別天然記念物	2	
	天然記念物	16	
計	51	計 61	計 270
合計	128	合計 294	合計 1,097

[国の選定、登録等]

選定	重要伝統的建造物群 保 存 地 区	2
	選 定 保 存 技 術	1
登 録	登 録 有 形 文 化 財	101
	登 録 有 形 民 俗 文 化 財	1
	登 録 記 念 物	4
記 録 選 択	記録作成等の措置を講ずべき 無 形 文 化 財	1
	記録作成等の措置を講ずべき 無 形 の 民 俗 文 化 財	15
重 要 美 術 品	書 跡	4
	考 古 資 料	1

国の指定、選定等の総計 258

2 節 文化財の調査

1 文化財パトロール

県内に所在する国指定の重要文化財、重要有形民俗文化財、史跡、名勝、天然記念物及び重要な埋蔵文化財包蔵地の保存・管理等の実態を把握し、適切な処置及び指導助言を行うため、文化財保護指導員78名を委嘱して、県内40市町村のパトロールを実施した。

2 記念物の調査

特別天然記念物カモシカの保護のため、下北半島保護地域の通常調査及び北奥羽山系保護地域の通常調査を実施した。

3 埋蔵文化財の調査

遺跡分布・範囲確認調査

[目 的]

開発予定地域で遺跡の所在・性格・範囲を確認し、埋蔵文化財の保護と各種開発事業との調整を有効に行うための資料を得る。

[調査年度]

昭和63年度から実施

[対象事業及び地区]

・遺跡分布調査

県道建設関連事業（青森市、弘前市、三沢市、つがる市、六戸町）

高規格道路建設関連事業（横浜町）

農業整備関連事業（青森市、弘前市、五所川原市、つがる市、平川市、藤崎町、おい

らせ町)

国道建設関連事業(むつ市)

河川砂防関連事業(青森市、弘前市、八戸市、むつ市、外ヶ浜町、鱒ヶ沢町、深浦町、

大鱈町)

その他

・範囲確認調査

八戸階上線交通安全対策事業予定地(八戸市)

県営下北北部地区中山間地域総合整備事業予定地(風間浦村)

内童子渡沢外通常砂防事業予定地(平内町)

名久井岳公園線道路改良事業予定地(南部町)

県道五所川原岩木線交通安全施設整備事業予定地(弘前市)

国道279号横浜北バイパス道路改築事業予定地(横浜町)

県営野沢3期地区畑地帯整備事業予定地(青森市)

常海橋銀線道路改築事業予定地(青森市)

国道338号大湊 期バイパス道路改築事業予定地(むつ市)

弘前柏線道路改築事業予定地(弘前市)

造成工事予定地(大間町)

県営白神2期地区中山間地域総合整備事業予定地(西目屋村)

目時登坂車線整備事業予定地(三戸町)

稲盛千代町山田線道路改築事業予定地(つがる市)

榊地区交差点改良事業予定地(藤崎町)

アグリタブコピア地区中山間地域総合整備事業予定地(田子町)

[事業内容]

遺跡の所在地の確認、現状を把握する。

遺物の散布状況の確認及び遺跡の範囲を把握する。

遺構数、遺物出土量、遺物包含層等を確認し、調査費用の基礎資料を得る。

[成果]

調査の結果、新たに4箇所の遺跡を登録し、3箇所の遺跡の範囲を変更した。また、範囲確認調査の結果、上記、、、は発掘調査が必要と判断した。

重要遺跡の調査

中世城館の適切な保護のため、市町村と連携して資料調査、分布調査等を行った。

刊行物

青森県遺跡詳細分布調査報告書36(青森県埋蔵文化財調査報告書第646集)

3節 文化財の公開・文化財保護思想の普及等

1 民俗芸能大会

北海道・東北地区の民俗芸能を一堂に集め広く一般に公開し、その保存伝承を図るため、各道県持ち回りで開催される北海道・東北ブロック民俗芸能大会が北海道で開催された。

日 程 令和5年10月29日
場 所 恵庭市民会館
出演団体 嘉瀬奴踊保存会（五所川原市）

2 こども民俗芸能大会

先人から受け継いだ貴重な文化遺産である民俗芸能の保存・継承を図るため、学校や地域における活動成果の発表会を開催し、後継者の育成や郷土愛の醸成を推進するとともに、子どもの健全育成に努めた。

日 程 令和5年10月1日
場 所 十和田市民文化センター

3 埋蔵文化財担当者等研修会

埋蔵文化財保護行政の一層の推進を図るため、市町村教育委員会の埋蔵文化財担当者、市町村文化財保護審議会委員等を対象に研修会を実施した。

期 日 令和5年9月12日、12月20日
会 場 青森県埋蔵文化財調査センター（青森市）、青森県庁（青森市又はオンライン）

4 文化財保護団体への助成

青森県文化財保護協会

文化財の保存と活用を図るため、青森県文化財保護協会の行う歴史的文献資料の刊行に対し助成した。

刊行資料名 みちのく双書第67集
「野辺地町立歴史民俗資料館所蔵 西村金之丞家関係文書資料続」
補助金額 450千円

5 小学生による縄文遺跡と地域の文化財体験事業

小学生が、縄文遺跡をはじめとする地域の文化財に直接触れ、体験する取組を通じて、縄文文化や地域の文化財に関する理解を深めると共に郷土愛の醸成を図り、将来的に文化財の保存・活用に携わる人財の育成を図った。

令和4～5年度で取組を行った各小学校での活動内容を実践事例として「地域の文化財を活用した学習・体験プログラム集」を作成した。

また、市町村教育委員会職員を対象に、各学校における取組事例の発表、他県の地域計画作成事例の紹介等を行う取組事例報告会を実施した。

各学校における令和5年度の取組

地区	学校名	単元名	概要
西北	つがる市立森田小学校	縄文の「かがやき」、私たちの「かがやき」	内 容：広く県内の縄文遺跡をはじめとする文化財の概要を、現地見学や関係施設見学により学び、まとめの活動として、動画コンテンツの制作、縄文の「食」にフォーカスした調味料づくりを行った。 参加者：5学年児童24名、6学年児童15名 協 力：つがる市教育委員会、弘前市教育委員会
下北	むつ市立大湊小学校	北の防人大湊ジュニアガイドに挑戦	内 容：旧大湊水源地水道施設や水源地公園、下北ジオパーク大湊・芦崎エリアについての学習体験活動を行い、学習のまとめとして、一般の方や海上自衛隊員等を対象に「北の防人大湊ジュニアガイドツアー」を実施した。 参加者：6学年児童15名 協 力：むつ市教育委員会、むつ市企画政策部ジオパーク推進課、北の防人大湊ガイドグループ、海上自衛隊大湊地方総監部、しもきたTABIAアシスト、むつ市地域おこし協力隊
三八	階上町立道仏小学校	つなげていこう道仏子ども神楽	内 容：道仏神楽組の協力のもと、道仏神楽の3つの舞(三番叟・剣舞・権現舞)の伝承活動を行い、練習の成果として、いちご煮祭りや町文化祭、学習発表会で校内外に神楽を披露した。 参加者：1～6学年児童91名 協 力：階上町教育委員会、道仏神楽組、階上町役場産業振興課

4節 文化財の修理・環境整備等

1 修理・環境整備等に対する助成

文化財の修理・環境整備等を行う事業者に対し、次のとおり助成した。

無形民俗文化財等保護費補助

(単位：千円)

補助対象事業名	交付先	補助金額	補助率
八戸三社大祭の山車行事山車人形衣 装修復事業	八戸三社大祭山車祭り行事 保存会	365	8%
大沢獅子(熊)踊用具修理事業	大沢獅子舞保存会	77	50%

文化財修理費補助

(単位：千円)

補助対象事業名	交付先	補助金額	補助率
円明寺本堂保存修理事業	宗教法人円明寺	577	50%

記念物環境整備費補助

(単位：千円)

補助対象事業名	交付先	補助金額	補助率
名勝對馬氏庭園保存修理事業	個人	3,543	6%
県史跡八戸南部家墓所保存修理事業	宗教法人南宗寺	122	50%
県天然記念物燈明杉環境整備事業	大沢町会	108	50%

文化財防災費補助

(単位：千円)

補助対象事業名	交付先	補助金額	補助率
最勝院五重塔防災設備等事業	宗教法人最勝院	206	6%
対泉院山門危険木伐採事業	宗教法人対泉院	825	50%

3章 博物館等

1 県内博物館等施設一覧

(6.3.31現在)

区分	名称	所在地	電話	備考	
登録博物館	青森県立郷土館	〒030-0802 青森市本町2丁目8-14	017-777-1585	昭和48年開館	
	弘前市立博物館	〒036-8356 弘前市大字下白銀町1-6(弘前公園内)	0172-35-0700	昭和52年開館	
	高岡の森弘前藩歴史館	〒036-1344 弘前市大字高岡字獅子沢128-112	0172-83-3110	平成30年開館	
	八戸市博物館	〒039-1166 八戸市根城字東構35-1	0178-44-8111	昭和58年開館	
博物館相当施設	青森県立美術館	〒038-0021 青森市安田字近野185	017-783-3000	平成18年開館	
	弘前れんが倉庫美術館	〒036-8188 弘前市大字吉野町2-1	0172-32-8950	令和2年開館	
	八戸市美術館	〒031-0031 八戸市番町10-4	0178-45-8338	昭和61年開館	
博物館類 似施設	歴史関係	青森市中世の館	〒038-1311 青森市浪岡大字浪岡字岡田43	0172-62-1020	平成4年開館
		あもり北のまほろば歴史館	〒038-0002 青森市沖館2丁目2-1	017-763-5519	平成27年開館
		八甲田山雪中行軍遭難資料館	〒030-0943 青森市幸畑字阿部野163-4	017-728-7063	昭和53年開館
		弘前城情報館	〒036-8356 弘前市大字下白銀町1-1(弘前公園内)	0172-26-5965	平成30年開館
		山車展示館	〒036-8356 弘前市大字下白銀町2-1(追手門広場内)	0172-37-5501	平成6年開館
		津軽藩ねぶた村	〒036-8332 弘前市大字亀甲町61	0172-39-1511	昭和56年開館
		八戸市立民俗資料収蔵庫 (漁撈用具関係)	〒031-0841 八戸市膠町字大作平	0178-44-8111	(八戸市博物館) 昭和52年開館
		八戸市南郷歴史民俗資料館	〒031-0202 八戸市南郷区大字島守字小山田7-1	0178-83-2443	昭和55年開館
		五所川原市市浦歴史民俗資料館	〒037-0403 五所川原市十三土佐1-298(中の島公園内)	0173-62-2775	平成元年開館
		十和田市郷土館	〒034-0301 十和田市大字奥瀬字中平61番地8	0176-72-2340	昭和47年開館
		十和田市称徳館	〒034-0106 十和田市深持字梅山1-1	0176-26-2100	平成12年開館
		十和田市十和田湖民俗資料館	〒034-0301 十和田市大字奥瀬字栃久保80	0176-74-2547	昭和53年開館
		三沢市歴史民俗資料館	〒033-0022 三沢市三沢字淋代平116-2955	0176-59-3670	昭和57年開館
		三沢市先人記念館	〒033-0164 三沢市谷地頭4-298-652	0176-59-3009	平成7年開館
		北洋館	〒035-0093 むつ市大湊町4-1	0175-24-1111 (内線2573)	昭和56年開館
つがる市森田歴史民俗資料館	〒038-2816 つがる市森田町森田月見野340-2	0173-26-2201	昭和50年開館		

区分	名称	所在地	電話	備考
博 史 ・ 民 俗 類 関 係 施 設	平川市郷土資料館	〒036 - 0102 平川市光城2丁目30 - 1	0172 - 44 - 1221	平成6年開館
	平内町歴史民俗資料館	〒039 - 3321 東津軽郡平内町小湊字小湊79 - 3	017 - 755 - 3945	昭和54年開館
	蓬田村文化伝承館	〒030 - 1201 東津軽郡蓬田村大字広瀬字坂元24番地	0174-31-3111 (村教育委員会)	平成14年開館
	大平山元遺跡展示施設むーもん館	〒030 - 1307 東津軽郡外ヶ浜町字蟹田大平沢辺46 - 4	0174 - 22 - 2577	令和6年開館
	鱒ヶ沢町郷土文化保存伝習館 光信公の館	〒038 - 2725 西津軽郡鱒ヶ沢町種里町字大柳90	0173 - 79 - 2535	平成2年開館
	深浦町歴史民俗資料館	〒038 - 2324 西津軽郡深浦町深浦字苗代沢80 - 1	0173 - 74 - 3882	昭和55年開館
	風待ち館	〒038 - 2324 西津軽郡深浦町深浦字浜町272 - 1	0173 - 74 - 3553	平成17年開館
	円覚寺奉納海上信仰 資料収蔵庫(寺宝館)	〒038 - 2324 西津軽郡深浦町深浦字浜町275 - 2	0173 - 74 - 2029	昭和62年開館
	板柳町立郷土資料館	〒038 - 3672 北津軽郡板柳町大字灰沼字岩井70	0172 - 72 - 0330	昭和48年開館
	中泊町博物館	〒037 - 0305 北津軽郡中泊町大字中里字紅葉坂210	0173 - 69 - 1111	平成10年開館
	野辺地町立歴史民俗資料館	〒039 - 3131 上北郡野辺地町字野辺地1 - 3	0175 - 64 - 9494	昭和56年開館
	絵馬館	〒039 - 2501 上北郡七戸町字荒熊内67 - 94	0176 - 62 - 5858	平成6年開館
	六戸町郷土資料館	〒039 - 2371 上北郡六戸町犬落瀬字柴山3 - 9	0176 - 55 - 5511	昭和56年開館
	東北町歴史民俗資料館	〒039 - 2401 上北郡東北町上野字上野191 - 30	0176 - 56 - 5598	平成5年開館
	六ヶ所村立郷土館	〒039 - 3212 上北郡六ヶ所村大字尾駁字野附535	0175 - 72 - 2306	平成3年開館
	おいらせ町民具ふれあい館	〒039 - 2136 上北郡おいらせ町中下田125 - 2	0178 - 56 - 4276	平成13年開館
	東通村歴史民俗資料館	〒035 - 0005 下北郡東通村大字田屋字家ノ上29番地2	0175 - 33 - 2341	平成25年開館
	佐井村海峡ミュージアム	〒039 - 4711 下北郡佐井村字大佐井112	0175 - 38 - 4506	平成2年開館
	三戸町立歴史民俗資料館	〒039 - 0112 三戸郡三戸町梅内字城ノ下34 - 29(城山公園内)	0179 - 22 - 2739	昭和42年開館
	ごのへ郷土館	〒039 - 1524 三戸郡五戸町大字豊間内字五ヶ久保3 - 1	0178 - 62 - 5965	平成30年開館
史跡聖寿寺館跡案内所	〒039 - 0104 三戸郡南部町大字小向字寿寺81 - 2	0179 - 23 - 4711	平成29年開館	
階上町民俗資料収集館	〒039 - 1201 三戸郡階上町大字赤保内字耳ヶ吠6 - 2	0178 - 88 - 2698	昭和58年開館	
考古施設	さんまるミュージアム (三内丸山遺跡センター)	〒038 - 0031 青森市三内丸山305	017 - 781 - 6078	平成22年開館
	青森市小牧野遺跡保護センター (縄文の学び舎・小牧野館)	〒030 - 0152 青森市大字野沢字沢部108 - 3	017 - 757 - 8665	平成27年開館

区 分	名 称	所 在 地	電 話	備 考	
博 物 館 類 似 施 設	考 古	八戸市埋蔵文化財センター 是川縄文館	〒031 - 0023 八戸市大字是川字横山1	0178 - 38 - 9511	平成23年開館
		つがる市縄文住居展示資料館 (カールコ)	〒038 - 3138 つがる市木造若緑59 - 1	0173 - 42 - 6490	昭和61年開館
		つがる市木造亀ヶ岡考古資料室	〒038 - 3283 つがる市木造館岡屏風山195	0173 - 45 - 3450	昭和54年開館
	施 設	田舎館村埋蔵文化財センター	〒038 - 1111 南津軽郡田舎館村大字高樋字大曲63	0172 - 43 - 8555	平成12年開館
		ニッ森貝塚館	〒039 - 2752 上北郡七戸町字鉢森平181 - 26	0176 - 68 - 2612	令和3年開館
	美 術 館 関 係	青森市民美術展示館	〒038 - 0012 青森市柳川一丁目1 - 5	017 - 773 - 1770	昭和54年開館
		国際芸術センター青森	〒030 - 0134 青森市大字合子沢字山崎152 - 6	017 - 764 - 5200	平成13年開館
		鳴海要記念陶房館	〒036 - 1313 弘前市大字賀田字大浦1 - 2	0172 - 82 - 2902	平成15年開館
		榊引八幡宮国宝館	〒039 - 1105 八戸市八幡字八幡丁3	0178 - 27 - 3053	昭和9年開館
		深浦町美術館	〒038 - 2324 西津軽郡深浦町大字深浦字苗代沢80 - 1	0173 - 74 - 3882	平成18年開館
		常盤ふるさと資料館あすか	〒038 - 1204 南津軽郡藤崎町大字水木字村元15 - 1	0172 - 65 - 4567	平成8年開館
		田舎館村博物館	〒038 - 1111 南津軽郡田舎館村大字高樋字大曲63	0172 - 43 - 8555	平成12年開館
		七戸町立鷹山宇一記念美術館	〒039 - 2501 上北郡七戸町字荒熊内67 - 94	0176 - 62 - 5858	平成6年開館
		スペイン民芸資料館	〒039 - 2501 上北郡七戸町字荒熊内67 - 94	0176 - 62 - 5858	平成6年開館
		文 学 館 関 係	青森県近代文学館	〒030 - 0184 青森市荒川字藤戸119 - 7(青森県立図書館内)	017 - 739 - 2575
	弘前市立郷土文学館		〒036 - 8356 弘前市大字下白銀町2 - 1	0172 - 37 - 5505	平成2年開館
	旧藤田家住宅 (太宰治まなびの家)		〒036 - 8185 弘前市大字御幸町9 - 35	0172 - 39 - 1134	平成18年開館
	秋田雨雀記念館		〒036 - 0377 黒石市大字中町5(津軽黒石こみせ駅内)	0172 - 59 - 2080	平成21年開館
	五所川原市太宰治記念館 「斜陽館」		〒037 - 0202 五所川原市金木町朝日山412 - 1	0173 - 53 - 2020	平成10年開館
	寺山修司記念館		〒033 - 0022 三沢市三沢字淋代平116 - 2955	0176 - 59 - 3434	平成9年開館
	「太宰の宿」 ふかうら文学館		〒038 - 2324 西津軽郡深浦町深浦字浜町134	0173 - 84 - 1070	平成16年開館
	小説「津軽」の像記念館		〒037 - 0511 北津軽郡中泊町小泊字紅葉坂1080 - 1	0173 - 64 - 3588	平成8年開館
	そ の 他		東北大学植物園八甲田山分園	〒030 - 0111 青森市荒川字南荒川山1 - 1	017 - 738 - 0621
青森市森林博物館			〒038 - 0012 青森市柳川2 - 4 - 37	017 - 766 - 7800	昭和57年開館

区分	名称	所在地	電話	備考
博物館類の施設	青森県営浅虫水族館	〒039 - 3501 青森市浅虫字馬場山1 - 25	017 - 752 - 3377	昭和58年開館
	弘前大学資料館	〒036 - 8560 弘前市文京町1番地	0172 - 39 - 3432	平成24年開館
	弘前城植物園	〒036 - 8536 弘前市大字下白銀町1 - 1(弘前公園内)	0172 - 33 - 8733	昭和63年開館
	天文台「銀河」	〒036 - 1505 弘前市水木在家字桜井66 - 1	0172 - 84 - 2233	平成元年開館
	青森県立三沢航空科学館	〒033 - 0022 三沢市大字三沢字北山158	0176 - 50 - 7777	平成15年開館
	八戸市水産科学館 (マリエント)	〒031 - 0841 八戸市大字膠町字下松苗場14 - 33	0178 - 33 - 7800	平成元年開館
	八戸植物公園	〒031 - 0012 八戸市大字十日市天摩33 - 2	0178 - 96 - 2932	昭和56年開館
	津軽三味線会館	〒037 - 0202 五所川原市金木町朝日山189 - 3	0173 - 54 - 1616	平成12年開館
	むつ市海と森ふれあい体験館	〒039 - 5201 むつ市川内町川内477	0175 - 42 - 2411	平成17年開館
	夜越山森林公園 (サボテン園・洋ラン園)	〒039 - 3331 東津軽郡平内町大字浜子堀替36 - 1	017 - 755 - 2663	昭和47年開館
	青函トンネル記念館	〒030 - 1700 東津軽郡外ヶ浜町字三臈龍浜99	0174 - 38 - 2303	平成元年開館
	十二湖エコ・ミュージアムセンター 「湖郷館」	〒038 - 2206 西津軽郡深浦町大字松神字松神山1 - 3	0173 - 77 - 3113	平成11年開館
	白神山地ビジターセンター	〒036 - 1411 中津軽郡西目屋村田代字神田61 - 1	0172 - 85 - 2810	平成10年開館
大山将棋記念館	〒039 - 2222 上北郡おいらせ町下前田144 - 1	0178 - 52 - 1411	平成17年開館	

第7部 教育機関等

第7部 教育機関等

1章 青森県立図書館・青森県近代文学館

1 施設・設備

所在地	青森市大字荒川字藤戸119番地7	
敷地面積	23,812.47㎡	
建物延面積	9,886.03㎡	
構造	鉄筋コンクリート造 地上4階建 塔屋1階	
階別主要室名	1階	一般閲覧室、参考・郷土室、児童閲覧室、乳幼児室、エントランスホール、ロッカールーム、休憩コーナー、機械室
	2階	近代文学館（常設展示室、企画展示室、展示ギャラリー、展示ロビー、近代文学ガイドコーナー、AVブース）、書庫（約47万冊収容可）、特殊資料庫
	3階	書庫（約53万冊収容可）
	4階	集会室、研修室、市町村読書振興室、貴重資料庫、館長室、事務室

2 運営方針

青森県立図書館運営方針

青森県立図書館は、図書、記録等の資料及び情報を収集し、保存して、県民の利用に供し、市町村立図書館等を支援し、関係機関との連携・協力を進め、県民の学習活動、調査研究、読書活動等を支援するとともに、地域を支える情報拠点として地域の課題解決を支援し、本県の発展に貢献します。

このため、次の事項を推進し、図書館サービスの充実に努めます。

ア 資料の収集・保存・提供

県民が必要とする資料を計画的、体系的に収集し、整理・保存し、利用に供します。

資料の収集に当たっては、地域の課題解決に資する資料、郷土資料及び本県の行政資料の収集に努めます。

また、視聴覚資料、電子資料の収集等、資料の多様化への対応に努めます。

イ 利用者・県民へのサービス

県民の学習活動等を支援するため、オンライン貸出等の貸出サービス、レファレンスサービス等の情報サービス、地域の課題に対応した資料・情報の提供、多様な利用者へのサービス、学習機会の提供、ボランティア活動の機会の提供等を行います。

ウ 市町村立図書館等への支援

県民が、県内どこに住んでいても、充実した図書館サービスを受けることができるよう、市町村立図書館及び公民館図書室に対し、資料の貸出、図書館職員研修の実施等の支援を行います。

また、県内の公立図書館等の資料の横断検索、相互貸借等を行うための青森県図書館情報

ネットワークシステムを運用するなど、県立図書館、市町村立図書館及び公民館図書室等の相互の連携・協力を進めます。

エ こどもの読書活動の支援

こどもの読書活動を支援するため、おはなし会の開催、読み聞かせ活動の支援、児童生徒用図書セットの貸出、学校図書館の運営の支援等を行います。

オ 関係機関との連携・協力

県民の学習活動等の支援を充実するため、また、地域の課題解決を支援するため、国立国会図書館、他の都道府県立図書館、大学図書館、学校、社会教育施設、行政機関、調査研究施設、民間団体等との連携・協力を進めます。

青森県近代文学館運営方針

青森県近代文学館は、明治時代以降の本県出身及びゆかりの作家の文学資料を幅広く収集し、その保存を図るとともに、広く一般に公開展示し、文学活動の環境づくりを進め、創造性豊かな本県文化の継承と発展に貢献します。

このため、次の事項を推進し、文学館活動の充実に努めます。

ア 資料の収集・保存

明治時代以降の本県出身及びゆかりの作家を中心に、図書、雑誌、原稿、書簡、書画及び遺品等の資料を総合的に収集し、体系的に整備・保存します。

イ 資料の展示

青森県を代表する13人の作家を中心に、本県出身及びゆかりの作家の多様な資料を常設展示するとともに、テーマ別の企画展を開催し、青森県の近代文学に関する県民の理解を深めます。

ウ 文学活動の環境づくり

他の文学館、文学団体及び学校等との連携を深めながら、多様な普及・啓発活動、情報提供活動を展開することで、県民の文学活動の環境づくりを進めます。

3 事業内容

県立図書館

ア 資料の収集・保存・提供

ア 資料の収集・保存

購入及び寄贈により幅広く資料を収集し、整理し、保存した。令和5年度末の所蔵資料数は1,042,046点。

受入数	23,145点	所蔵数	1,042,046点
-----	---------	-----	------------

a 郷土資料の収集・保存

購入、寄贈及び自館作成等により、地方行政資料を含めた郷土関係全般にわたる資料を収集・整理・保存した。令和5年度末の所蔵資料数は171,095点。

受入数	4,603点	所蔵数	171,095点
-----	--------	-----	----------

「ア 資料の収集・保存」内数

b 電子書籍の収集

辞典、図鑑、年鑑などの学術書を中心に電子資料を収集した。令和5年度末の所蔵資料数は2,269点。

受入数	566点	所蔵数	2,269点
-----	------	-----	--------

イ 資料の提供

館内には、一般閲覧室、児童閲覧室、参考・郷土室があり、それぞれ約11万4千冊、約2万8千冊、約1万4千冊の資料を配架しており、利用者は自由に閲覧することができ、書庫内の資料も、請求により利用することができる。

利用者は、館内の検索端末あるいはインターネットを通じて、資料を検索することができる。

希望する資料がない場合は要望を受け、相互貸借のネットワークを活用して、他館から借用し提供するほか、購入により提供した。

- a 一般閲覧室では、日本十進分類法を用い、一般図書を主題別に配架するほか、新聞・雑誌、洋書、大活字本、郷土関係のAV資料、企画展示などのコーナーを設けるなどして、多種多様な資料の中から利用者が目的の資料を探しやすいように工夫している。

また、蔵書検索、インターネット、東奥日報CD-ROM、図書館向けデジタル化資料送信サービス・歴史的音源サービスに対応したパソコン端末を設置しているほか、バリアフリーサービスに対応した、サピエからダウンロードしたデジター図書などを利用できる音声パソコン、拡大読書器、音声読書器等を提供し、県民への資料・情報提供の充実を図った。

- b 児童閲覧室では、調べ学習に対応した児童図書、ノンフィクション、物語、絵本、紙芝居などを自由に利用できるように配架した。

おはなしコーナーでは、毎月第2土曜日に「おはなし会」を、第4土曜日に「おしえて先生！知るしるする探検隊」を開催して、おはなしの楽しさを伝え、本との出会いの機会を提供した。

- c 参考・郷土室では、各種の辞典、年鑑、青森県の自然、歴史、産業、文化等に関する図書や県内で刊行された資料等を配架して、利用者の学習・調査研究の利用に供した。

辞典、官報、新聞など、データベース資料については、専用端末により迅速に検索することができるサービスを提供した。

国立国会図書館蔵書検索・申込システム、国立国会図書館サーチ、国立情報学研究所等のデータベースを利用し、資料や所蔵情報を提供した。

開館日数	総利用者数	総利用資料数
332日	265,614人	277,528点

イ 利用者・県民へのサービス

ア レファレンスサービス

来館、非来館利用者からの様々なアプローチ（口頭、電話、FAX、メール等）による質問や、市町村立図書館等からの依頼を受けた、協力レファレンスに対して、解決に役立つ資料の紹介や情報提供を行った。

レファレンス数	調査・回答 1,350件	文献紹介 11,014件
---------	--------------	--------------

イ オンライン貸出サービス

パソコンや携帯電話で所蔵資料の予約・貸出申込みをすることができる。また、受取館

を県立図書館以外の市町村立図書館等（貸出協力館）に指定することができる。

貸出協力館数	59館	貸出件数	11,783件	貸出点数	22,512点
--------	-----	------	---------	------	---------

ウ 遠隔地返却サービス

県立図書館から貸出しを受けた資料を利用者が希望する市町村立図書館等に返却し、県立図書館が回収した。

返却協力館数	59館	利用件数	2,630件	利用点数	8,015点
--------	-----	------	--------	------	--------

エ アウトリーチサービス

心身に障がいがあるなどの事由により、図書館への来館が困難な者に対して、宅配による図書の貸出を行った。

貸出件数	158件	貸出点数	835点
------	------	------	------

オ ホームページの充実

県立図書館の蔵書を検索し、予約や貸出申し込みができるオンライン貸出サービスを利用することができる。

また、「県内公共図書館・大学図書館横断検索」により23の市町村立図書館等と11の大学図書館、1県立施設の蔵書を検索することができる。

利用者から寄せられた要望等について、当館の対応とともに掲載した。

ホームページアクセス件数	192,659件
--------------	----------

カ デジタルアーカイブの公開

当館が所蔵する貴重資料等の電子画像を営利・非営利を問わず二次利用可能な形で公開するほか、それらの書誌情報についても、新たにオープンデータとして配布している。

また、他機関が公開するデジタルアーカイブや、青森県に関する主な電子資料へのリンク集を作成・公開している。

アクセス件数	10,906件
--------	---------

キ ボランティアの受入

返却された資料の配架及び利用案内について、図書館ボランティアを受け入れ、自主的・自発的な活動を支援・促進した。

登録人数	19人	延べ活動人数	588人
------	-----	--------	------

ク 一般閲覧室企画展示

本県に関する事項、身近な関心ごと、話題の出来事などテーマに沿った本の展示と貸出を行った。

期 間	テ ー マ
3月24日～4月26日	旅行（青森県内編）
4月28日～5月21日	旅行（県外、海外編）

期 間	テ ー マ
5月26日～6月21日	本をおともに出かけよう！～知って、守って、楽しむ自然～第一部「大問題！気候変動」
6月23日～7月26日	本をおともに出かけよう！～知って、守って、楽しむ自然～第二部「だけじゃない、アウトドア」
7月28日～9月27日	手で話そう
9月29日～11月29日	わたしの推し本。
12月7日～12月27日	めえものどっさり！おいしいごちそうめしあがれ！
1月4日～1月24日	県内図書館等一斉展示『ウチの推し本』『武井武雄刊本』
1月26日～3月27日	海の生き物
3月29日～4月24日	新生活（はじまる編）

ウ 市町村立図書館等への支援

ア 青森県図書館情報ネットワークシステム（通称：Applins：アプリンズ）

県内公共図書館等の相互貸借のためのインターネットシステムを管理・運用した。参加館は横断検索機能を用いて、各館の所蔵情報を相互に検索することができるほか、検索した資料について、予約や貸出の申込みから借受、返却までの情報管理を双方向的に行うことができる。また、掲示板機能により、参加館の様々な情報を共有した。

a 参加館

参加館	46館	うちデータ提供館	24館
-----	-----	----------	-----

b アプリンズを利用した相互貸借数

県立図書館からの貸出点数	3,473点	県立図書館の借受点数	84点
--------------	--------	------------	-----

イ 協力用図書の一括貸出

「協力用図書」を約5万冊所蔵し、市町村立図書館等を対象に蔵書を支援する目的で貸出しを行った。（来館型）

貸出件数	52件	貸出点数	29,509点
------	-----	------	---------

ウ 公立図書館長・公民館長会議、担当者会議

a 公立図書館長・公民館長会議を開催し、県立図書館等の事業説明を実施した。

b 図書館相互協力事業等担当者会議を開催し、市町村立図書館・公民館図書室等と県立図書館間の相互協力事業についての説明及び情報交換会を実施した。

エ 市町村立図書館等職員研修

a 図書館勤務概ね2年以内の市町村立図書館・公民館図書室等職員及び学校図書館担当者を対象とし、図書館の役割や基本的なサービス等を理解するための講義と演習を行う市町村立図書館等職員初任者研修を開催した。

b 市町村立図書館・公民館図書室等職員及び学校図書館担当者を対象とし、図書館職員の資質向上のために特に重要なテーマ（レファレンスサービス）について、外部講師による講義と演習を行う市町村立図書館等職員基本研修を開催した。

c 市町村立図書館・公民館図書室等職員及び学校図書館担当者を対象とし、図書館職員

の資質向上のために「誰もが読書ができる社会を目指して」をテーマに、外部講師による講義と実践報告、外部講師と実践報告書によるフリートークを行う市町村立図書館等職員ステップアップ研修を開催した。令和5年度は公共図書館等の学校図書館支援や学校図書館との連携に関する学校図書館支援研修を兼ねて実施した。

オ 市町村立図書館等巡回訪問

- a 市町村立図書館等からの要請により、運営等について指導・助言及び情報提供等を行い、市町村立図書館等の振興と連携強化等を図るため、令和5年度は1回の訪問を行った。
- b 市町村立図書館等について、実態と課題を聴取して、今後の市町村支援の在り方を検討するため、令和5年度は6回の調査訪問を行った。

カ 定期資料搬送

市町村立図書館等及び大学等図書館と資料を貸借するために、宅配便を利用した定期的な資料搬送を行った。

具体的には、市町村立図書館等との相互貸借、オンライン貸出サービスの貸出・回収、遠隔地返却サービスの回収、大学等図書館との相互貸借及び大学等図書館返却サービスの回収を行った。

エ こどもの読書活動の支援

ア こどもと本をつなげる催しの開催

こどもたちが、さまざまなことに興味を持ち、関連した本に触れることによって、読書への興味を持つとともに、図書館の利用促進となるような催しを開催した。

a おはなし会 毎月第2土曜日

絵本の読み聞かせやブック・トークを行った。令和5年度の参加者総数は197人であった。

b おしえて先生！知るしるする探検隊 毎月第4土曜日（12・3月を除く）

科学やいろいろな仕事、スポーツなど、実験や交流体験を行った。令和5年度は10回開催し、参加者総数は187人であった。

イ 児童閲覧室テーマ展示

おはなし会のテーマや読書週間等と連動した本の展示・貸出のほか、年中行事による小展示を行った。

期間	展 示 テ ー マ	小 展 示
3月24日～4月26日	令和4年度 おはなし会・おしえて先生！知るしるする探検隊で紹介した本	びかびか
4月28日～5月21日	図書館でおきにいりの本をみつけよう	おさかな
5月26日～6月21日	は	おてんき
6月23日～7月26日	キラキラおほしさま	みどり
7月1日～9月27日	あおもりのえほん	おでかけ
7月28日～8月23日	おまつりわっしょい！	からだ
9月29日～10月25日	ピカピカおつきさま	ひこうきブーン
10月27日～11月29日	スポーツの秋	うさぎ
12月7日～12月27日	メリークリスマス！	ふゆがやってきた！
1月4日～1月24日	あけましておめでとう！	おやつ
1月26日～2月21日	おに	めんちゆるちゆる

期間	展 示 テ ー マ	小 展 示
2月23日～3月27日	みんなおおきくなったね！	よ～く見えるぞ
3月29日～4月24日	令和5年度 おはなし会・おしえて先生！知るしるする探検隊で紹介した本	くま

ウ セット貸出

a 市町村巡回図書セット

小・中学校の朝の読書活動や幼稚園・保育所等の読み聞かせ活動を支援するため、協力用図書を利用して図書セットを作成し、希望する市町村立図書館等に対し「市町村巡回図書セット」として貸出を行った。借り受けた市町村立図書館等は管内の小学校等に配本した。

図書セットの内容	利用対象	前 期		後 期	
		配本先	配本冊数	配本先	配本冊数
小 学 校	低 学 年	41	3,340	40	2,340
	中 学 年	43	3,480	41	2,300
	高 学 年	40	3,440	40	2,340
中 学 校	中 学 校	15	760	15	660
読 み 聞 かせ 絵 本 等 児 童 書	幼 稚 園 ・ 保 育 所 等	55	6,780	50	3,000
大 型 絵 本	幼 稚 園 ・ 保 育 所 等	58	1,775	48	490

b 学習支援セット

児童生徒の学習支援や読書活動の推進等を支援するため、協力用図書を利用して「学習支援セット」を作成し、希望する小・中学校、高等学校、特別支援学校、市町村立図書館等へ貸出を行った。（小・中学校は市町村立図書館等を経由して貸出。）

利 用 対 象	前 期		後 期	
	配本先	配本冊数	配本先	配本冊数
小・中学校、高等学校、特別支援学校、市町村立図書館等	8	647	7	470

c ミニセット

各図書館等での展示・貸出を支援するため、協力用図書を利用して全国的なイベント等に対応した「ミニセット」を作成し、希望する高等学校、市町村立図書館等へ貸出を行った。

利 用 対 象	前 期		後 期	
	配本先	配本冊数	配本先	配本冊数
市町村立図書館等（一部高等学校・特別支援学校を含む。）	30	872	19	538

エ 学校図書館アシスト事業プラス

小・中学校及び県立学校等を県立図書館職員が訪問し、学校図書館が抱える疑問などを解決するための具体的な助言や情報提供、学校図書館の活動に関する研修を行った。

また、必要に応じて追加の訪問や助言、情報を提供した。

訪問学校数	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	その他	計
	13校	4校	3校	0校	3校	23校

オ 関係機関との連携・協力

ア 図書館向けデジタル化資料送信サービス並びに歴史的音源（れきおん）サービス

国立国会図書館がデジタル化した資料のうち、絶版等の理由で入手が困難な資料を公共図書館等で閲覧・複写できる「図書館向けデジタル化資料送信サービス」並びに、歴史的音盤アーカイブ推進協議会（HiRAC）がデジタル化した、1900年当初から1950年頃までに製作されたSP盤及び金属原盤等に収録された音楽・演説等の音源を公共図書館等で視聴できる「歴史的音源（れきおん）サービス」に参加館として加入。県民への資料提供の充実を図った。

図書館向けデジタル化資料送信サービス並びに歴史的音源（れきおん）サービス	利用者数	65人
--------------------------------------	------	-----

イ 国立国会図書館及び県外公共図書館等との連携

県域を越えた図書館資料資源の共有化及び効率的利用の促進を目的とする、和図書の総合目録ネットワーク「国立国会図書館総合目録ネットワーク（ゆにかねっと）」にデータ提供館・参加館として加入し、全国的な図書館連携に協力するとともに、県民への資料提供の充実を図った。

他都道府県公共図書館との相互貸借	貸出点数	579点	借受点数	156点
------------------	------	------	------	------

ウ 大学等図書館との連携

平成21年度から県内大学等図書館と連携・協力に関する協定（覚書）を締結している。

大学等図書館とは、横断検索システムを活用した相互貸借や県立図書館で借受けた資料を在籍する大学等図書館に返却できるサービスを行った。

大学等図書館との相互貸借	貸出点数	121点	借受点数	30点
--------------	------	------	------	-----

エ 行政支援サービス

県職員を対象に、政策立案や行政サービスの改善に資するため、業務に関するレファレンス（調査・相談）や資料及び関連図書リストの提供を行った。また、県が主催する様々なセミナー等の会場において、参加者を対象に関連図書の展示・貸出を行った。

レファレンスサービス件数	88件
業務に関する図書貸出点数	187点
セミナー等における図書貸出点数	246点
県立図書館施設利用人数	1,833人

オ 産業支援サービス

県民を対象に、幅広く産業やビジネスを支援するため、創業・起業や経営改善に関する情報、農林水産資源を活用した商品開発などに関する情報等をデータベースで提供した。

また、創業・起業に関する相談会場等で、関連図書リストの提供を行った。

データベース情報検索件数	291件
相談会等におけるオーダーメイドリスト提供件数	1件

近代文学館

ア 資料の収集・保存

収集方針に基づき、佐藤紅緑・秋田雨雀・葛西善蔵・福土幸次郎・石坂洋次郎・北村小松・北畠八穂・高木恭造・太宰治・今官一・三浦哲郎・長部日出雄・寺山修司の13人の重点作家を中心とした本県ゆかりの作家の文学資料について、継続的に収集・整理・保存を行った。

令和5年度は、特別展「あおもりのえほん」、企画展「あおもり文学食堂」の開催を契機に、関連する資料の収集に力を注いだ。

受 入 数	9,283点	所 蔵 数	176,230点
-------	--------	-------	----------

イ 資料の展示

常設展示、企画展等の観覧者は13,575名であった。

開 館 日 数	332日	観 覧 者 数	13,575人
---------	------	---------	---------

ア 常設展示

常設展示室では、青森県を代表する13人の作家の図書、雑誌、原稿、書簡、書画、遺品等の資料を展示し、その作品と生涯を紹介しているほか、青森県ゆかりの作家33人をジャンルごとに紹介した。

令和5年度は、常設展示室の中央スペースを利用し、平成及び令和の時代に活躍する青森県ゆかりの作家たちからピックアップして拡大展示する「平成・令和の作家」を開催した。

イ 特別展・企画展の開催

企画展示室では、特定のテーマを設けて特別展・企画展を開催しており、開館以来、令和5年度までに計112回の特別展と企画展を開催した。

a 特別展「あおもりのえほん」

三戸町出身の漫画家・馬場のぼるによる絵本「11ぴきのねこ」シリーズをはじめとして、作家や児童文学者、漫画家、芸術家など、様々な分野で活躍する青森県出身者が絵本を作成している。そのような「青森に関わりのある絵本」を紹介した。

b 企画展「あおもり文学食堂」

いつの時代も生活の中に必ず存在するのが「食」であり、文学作品にも少なからず食事に關わる場面が登場する。「食」という観点から作品や作家を捉えることで、その作品や作家の背景となっている「生活」や「郷土」、「食文化」といった、本質的な部分を垣間見ることができる。「食」という切り口から、青森に關わる作品、作家が好きだった食べ物や行きつけの店、作家や作品をモチーフにした食品などを紹介した。

ウ 各種展示・コーナーの設置

「近代文学ガイドコーナー」では、DVD(約18分)で、明治以降の青森県の文学の流れを解説しており、AVブースでは、青森県ゆかりの作家の業績や作品の世界、分野、地域、時代等特定のテーマで、1本15分~20分のDVD計38作品を鑑賞することができる。

また、展示ギャラリーには、13人の作家が青森県について語った文章と風景写真を組み合わせ「文学ギャラリー 作家が語る青森」パネルを展示した。

エ パネル展の開催

特別展・企画展の内容を再構成したパネル展を、文化施設や作家にゆかりの地域の高等

学校など、延べ13回開催し、若い世代や遠隔地の県民に観覧の機会を提供した。

ウ 文学活動の環境づくり

ア 特別展関連イベント

特別展を記念して、絵本の講演会、劇場アニメ「11ぴきのねこ」上映会、「あおもりのえほん」おはなし会を実施し、参加者は177人であった。

イ 文学ゼミの開催

特別展や企画展の開催に併せて、当館職員による「あおもり文学ゼミ」を開催し、出品資料や展示内容に対する理解を深めてもらう機会を提供した。令和5年度は、1回開催し、参加者は17人であった。

ウ 出前講座

職員が依頼を受けて学校等に出向き、青森県の近代文学についての講義を行う出前講座を2回実施し、参加者は46人であった。

印刷物の発行

印刷物の名称	摘 要
要覧	令和5年度版
青森県の図書館	令和5年度版
青森県立図書館報	第46号～第48号（年3回発行）

分類別資料受入冊数（令和5年4月1日～令和6年3月31日）

			0類	1類	2類	3類	4類	5類	6類	7類	8類	9類	E	K	その他	計
			総記	哲学宗教	歴史地理	社会科学	自然科学	技術	産業	芸術	言語	文学	絵本	紙芝居		
本館資料	開架資料	一般資料	349	363	826	2,135	873	952	490	968	186	2,002	0	0	0	9,144
		児童資料	18	14	55	112	142	111	54	84	19	381	964	50	0	2,004
		参考資料	18	4	19	75	13	14	23	26	4	4	0	0	0	200
		郷土資料	36	3	143	272	49	68	84	57	2	13	0	0	0	727
		個人文庫等資料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		計	421	384	1,043	2,594	1,077	1,145	651	1,135	211	2,400	964	50	0	12,075
	書庫資料	一般資料	309	18	140	349	65	34	101	128	16	328	0	0	0	1,488
		児童資料	0	1	0	1	0	0	0	0	0	4	30	4	0	40
		参考資料	3	0	0	8	0	0	1	0	0	0	0	0	0	12
		郷土資料	706	37	296	1,001	239	157	226	290	13	911	0	0	0	3,876
		個人文庫等資料	0	0	0	0	0	0	0	8	0	2	0	0	0	10
		計	1,018	56	436	1,359	304	191	328	426	29	1,245	30	4	0	5,426
	図書資料計			1,439	440	1,479	3,953	1,381	1,336	979	1,561	240	3,645	994	54	0
非図書資料			92	6	66	104	32	8	48	20	0	90	0	0	0	466
電子書籍			20	18	66	209	40	28	30	51	9	95	0	0	0	566
本館資料計			1,551	464	1,611	4,266	1,453	1,372	1,057	1,632	249	3,830	994	54	0	18,533
近代文学館資料																9,283
協力用資料																4,612
図書館資料計																32,428

分類別所蔵資料冊数（令和6年3月31日現在）

			0類	1類	2類	3類	4類	5類	6類	7類	8類	9類	E	K	その他	計
			総記	哲学宗教	歴史地理	社会科学	自然科学	技術	産業	芸術	言語	文学	絵本	紙芝居		
本館資料	開架資料	一般資料	3,949	5,606	9,880	24,271	8,778	10,978	6,901	9,045	2,767	26,845	0	0	0	109,020
		児童資料	505	280	1,304	1,626	2,540	1,034	706	1,161	450	7,320	10,454	727	0	28,107
		参考資料	662	341	1,095	735	548	298	238	627	434	536	0	0	0	5,514
		郷土資料	756	110	2,766	2,237	423	555	856	669	60	243	0	0	0	8,675
		個人文庫等資料	626	4	104	24	13	9	11	604	0	2,196	0	0	0	3,591
		計	6,498	6,341	15,149	28,893	12,302	12,874	8,712	12,106	3,711	37,140	10,454	727	0	154,907
	書庫資料	一般資料	54,765	22,150	48,941	124,954	40,535	38,788	38,441	48,984	9,572	97,624	0	0	0	524,754
		児童資料	1,008	318	1,918	2,149	5,282	1,546	674	1,972	513	15,954	18,704	1,039	0	51,077
		参考資料	2,049	181	1,074	3,567	666	884	1,076	832	479	470	0	0	0	11,278
		郷土資料	17,814	2,054	14,097	46,247	7,122	6,824	18,647	11,135	468	38,012	0	0	0	162,420
		個人文庫等資料	6,579	2,453	10,424	14,260	1,041	466	6,983	1,779	1,717	6,933	1	0	9,302	61,938
		計	82,215	27,156	76,454	191,177	54,646	48,508	65,821	64,702	12,749	158,993	18,705	1,039	9,302	811,467
	図書資料計			88,713	33,497	91,603	220,070	66,948	61,382	74,533	76,808	16,460	196,133	29,159	1,766	9,302
非図書資料			4,129	66	10,725	2,302	310	496	1,368	2,491	102	918	0	0	719	23,626
電子書籍			44	144	149	735	218	187	146	270	40	336	0	0	0	2,269
本館資料計			92,886	33,707	102,477	223,107	67,476	62,065	76,047	79,569	16,602	197,387	29,159	1,766	10,021	992,269
近代文学館資料																176,230
協力用資料																49,777
図書館資料計																1,218,276

4 令和5年度事業の実績

こどもの読書活動推進のための図書セット貸出事業

[趣 旨]

こどもの読書活動の環境づくりを進めることを目的として、小・中学校、高等学校、特別支援学校、市町村立図書館等に対して、幼児・児童・生徒用の図書セットを貸出する事業である。

[概 要]

図書セットの内容		利用対象	前 期		後 期	
			配本先	配本冊数	配本先	配本冊数
1 市町村 村内巡回図書 セット	小学校	低学年	41	3,340	40	2,340
		中学年	43	3,480	41	2,300
		高学年	40	3,440	40	2,340
	中学校	中学校	15	760	15	660
	読み聞かせ絵 本児童書等 (4)大型絵本	幼稚園・保育所等	55	6,780	50	3,000
2 学習支援セット	幼稚園・保育所等	小・中学校、高等 学校、特別支援学 校、市町村立図書 館等	8	647	7	470
		市町村立図書館 等(一部、高等学 校・特別支援学校 を含む。)	30	872	19	538

読書パラフリー推進事業

[趣 旨]

視覚障がい者等さまざまな障がいのある方が図書館をより利用しやすい環境に整備することを目的として、大活字本やデジジー図書等のアクセシブルな書籍の購入や拡大鏡等の読書パラフリーのための機器・用具を整備する事業である。

[概 要]

アクセシブルな書籍の購入及び新しい用具の整備
耳マーク及び補助犬マークの導入

近代文学館 特別展開催事業

[趣 旨]

文学にあまり興味・関心を持っていない中高生を中心とした新たな層の来館者の獲得及び青森県の近代文学に関する理解を深めることを目的として、特定のテーマに添った特別展を開催する事業である。

[概 要]

名称：特別展「おもりのえほん」

会期：7/1(土)～10/9(月・祝)

内容：展示、特別展イベントを実施する。

展 示 三戸町出身の漫画家・馬場のぼるによる「11びきのねこ」シリーズをはじめ

として、作家や児童文学者、漫画家、芸術家など、様々な分野で活躍する青森県出身者が絵本を作成している。そのような「青森に関わりのある絵本」を紹介する展示を開催。

展示資料数：278点

来館者数：3,749名

特別展イベント

特別展と青森県の文学に関心を持ってもらうことを目的として、特別展のテーマに関連したイベントを開催。

ア 絵本の講演会

内容：講演「心とことばを育てる絵本の力 親子の時間を楽しむために」
絵本がこどもに与える影響や絵本の魅力を伝えるため、三戸町出身の漫画家・馬場のぼるの担当を22年間務めた、元こぐま社編集長の関谷裕子氏による講演を実施した。

講師 関谷 裕子 氏(元こぐま社編集長)

日時：7/29(土)14時～15時30分

場所：県立図書館集会室

参加者数：31名

イ 劇場アニメ「11ぴきのねこ」上映会

内容：昭和55年に公開された劇場アニメ「11ぴきのねこ」(16mmフィルム)の上映会。

日時：7/30(日)14時～15時30分

場所：県総合社会教育センター大研修室

参加者数：111名

ウ 「あもりのえほん」おはなし会

内容：稲葉千秋氏による絵本「11ぴきのねこ」の読み聞かせと、青森南高校JRC部によるオリジナル絵本の読み聞かせを交え、「あもりのえほん」について紹介した。

出演 稲葉 千秋 氏(青森朝日放送アナウンサー・三戸町ふるさと応援大使)

県立青森南高等学校JRC部

日時：8/6(日)14時～15時

場所：県立図書館集会室

参加者数：35名

近代文学館 企画展開催事業

[趣 旨]

文学にあまり興味・関心を持っていない中高生を中心とした新たな層の来館者の獲得及び青森県の近代文学に関する理解を深めることを目的として、近代文学館が収蔵している資料を展示・公開する企画展を開催する事業である。

[概 要]

名称：企画展「あもり文学食堂」

会期：12/7（木）～3/10（日）

内容：展示、企画展イベントを実施する。

展 示 生活の中に必ずあるものが食であり、文学作品にも少なからず食事に関わる場面が登場する。「食」という観点から作品や作家を捉えることで、その作品や作家の背景となっている「生活」や「郷土」、「食文化」といった、本質的な部分を垣間見ることができる。「食」という切り口から青森に関わる作品や作家を紹介する展示を開催。

展示資料数：282点

来館者数：2,388名

企画展イベント

企画展と青森県の文学に関心を持ってもらうことを目的として、企画展のテーマに関連したイベントを開催。

あおもり文学ゼミ

内容：講演「あおもり文学食堂」

青森県ゆかりの作家の食についてのエピソードなど、企画展の内容について詳細に解説。

日時：1/7（日）14時～15時

場所：県立図書館研修室

参加者数：17名

アウトリーチサービス推進事業

[趣 旨]

心身に障がいがあるなどの事由により、図書館への来館が困難な者に対して、宅配便による図書の搬送を行い、来館しなくても図書館資料を利用できる環境を提供する事業である。

[概 要]

登録者数：18名(うち新規登録者数4名)

貸出：件数158件 / 冊数835点

県立図書館資料整備

[趣 旨]

県民の生涯学習の拠点として、充実した図書館サービスを提供することを目的に、利用者の幅広い学習のための資料や情報などの整備を図る事業である。

なお、令和3年度から電子書籍を閲覧することができる電子図書館システムを導入している。

[概 要]

受入資料数(R5/4/1～R6/3/31)

区分	受入資料数
県立図書館(本館)	18,533冊
(うち電子書籍)	(566冊)
市町村等協力用	4,612冊
近代文学館	9,283冊
合 計	32,428冊

図書館利用状況(R5/4/1～R6/3/31)

図書館利用者数	226,331名	
近代文学館利用者数	39,283名	
年間利用資料数	一般閲覧室	145,263冊
	児童閲覧室	58,082冊
	オンライン貸出	11,492冊
	新聞未合冊等	17,978冊
	アウトリーチ(全体の内数)	(835冊)
	市町村一括(協力)貸出等	44,713冊
	計	232,815冊
年間登録者数	新規登録者数	2,446名
	総登録者数	8,685名

アウトリーチサービス：
身障者等への配本サービス。

それぞれの登録者数には、
アウトリーチ登録者数を含む。

市町村立図書館等への貸出の状況(R5/4/1～R6/3/31)

市町村一括(協力)貸出等	44,713冊	
相互貸借 (県立図書館からの貸出)	県内市町村立図書館等	3,473冊
	県内大学等図書館	121冊
	県外公共図書館・大学図書館等	579冊
	計	4,173冊

市町村立図書館等職員研修事業

[趣 旨]

市町村立図書館等の運営上の課題解決、情報交換及び職員の資質向上を目的に、初任者研修、基本研修及び学校図書館支援研修等を実施するとともに、相互協力事業を円滑に行うために図書館相互協力事業等担当者会議を開催する事業である。

[概 要]

図書館相互協力事業等担当者会議

ア 開催日	5/18(木)
イ 場所	県立図書館
ウ 参加者	市町村立図書館等職員29名
エ 内容	県立図書館と市町村立図書館等の間で行われる相互協力事業に関する説明、情報交換会

初任者研修

ア 開催日	6/7(水)～6/8(木)
イ 場所	県立図書館
ウ 対象	勤務経験が2年以内の図書館・公民館等の職員及び学校図書館の業務を担当する職員
エ 参加者	1日目：市町村立図書館等職員20名、学校図書館業務担当職員13名 2日目：市町村立図書館等職員19名、学校図書館業務担当職員9名
オ 内容	図書館の役割や基本的なサービス等を理解するための研修 「講話、関係法規、公共図書館・学校図書館の現状と課題、資料管理、読書バリアフリー法関係の取組等、児童サービス、グループワーク」

基本研修

ア 開催日	7/12(水)
イ 場所	県立図書館
ウ 対象	市町村立図書館、公民館図書室等の職員及び学校図書館の業務を担当する職員等
エ 参加者	市町村立図書館等職員38名、学校図書館業務担当職員6名、その他2名
オ 内容	テーマ「レファレンス・サービス基礎のきそ～利用者の知りたいココロに因るために～」
カ 講師	くにたち中央図書館 藤村 せつ子 氏

市町村立図書館等職員ステップアップ研修兼学校図書館支援研修

ア 開催日	11/30(木)
イ 場所	県立図書館
ウ 対象	市町村立図書館、公民館図書室等の職員及び学校図書館の業務を担当する職員等
エ 参加者	市町村立図書館等職員23名、学校図書館業務担当職員5名、その他5名
オ 内容	テーマ「誰もが読書のできる社会を目指して」
カ 講師	専修大学 教授 野口 武悟 氏

2章 県立少年自然の家

1節 梵珠少年自然の家

1 施設・設備

施設

名 称	青森県立梵珠少年自然の家	
所 在 地	青森県五所川原市大字神山字殊ノ峰117 - 602	
設 置 年 月 日	昭和46年 8月 1日	
敷 地 面 積	6,514.42㎡	
建 物 面 積	2,196.35㎡	
構 造	鉄筋コンクリート2階建、体育館鉄骨平屋建	
収 容 人 員	160人	
屋 内 施 設	研 修 棟	研修室 1 (60人)、研修室 2 (60人)、和室、身体障害者用宿泊室兼医務室
	宿 泊 棟	宿泊室13 (14人用 2室、12人用11室)、指導者室 1 (5人用)
	体 育 館 (兼大研修室)	バレーボール (1面)、バスケットボール (1面)、バドミントン (2面)、卓球台 (4台)、研修 (160人)
屋 外 施 設	屋 外 施 設	キャンプセンター (120人)、キャンプ場、営火場、つどいの広場、星見の広場
	そ の 他	車庫

設 備

視 聴 覚 用 具	液晶プロジェクター、ビデオデッキ、CDラジカセ、ポータブルアンブ、テレビ、スクリーン
自 然 観 察 用 具	天体望遠鏡、双眼鏡等
野 外 活 動 用 具	スノーシュー、6人用ドームテント、タープテント、ロールマット、シュラフ、炊事用具一式、火起こし体験用具一式、無線機
レクリエーション ス ポ ー ツ 等	バレーボール用具一式、バスケットボール用具、バドミントン用具一式、ユニホック用具一式、卓球用具一式、ディスクゴルフ用具、チャレンジ・ザ・ゲーム用具等

2 運営の方針と重点

方針

少年たちが、恵まれた自然の中で、多様な体験活動を行うことにより、豊かな感性、社会性、創造性等を培い、自ら学び、考え、行動する、社会を生き抜く力の養成が図れるよう諸条件を整備し、魅力ある活動の場や機会の提供に努めます。

重点

利用の促進

ア 主催事業の充実

- ・魅力あるプログラムの開発と提供
- ・ボランティアの養成と活用

イ 受入事業の促進

- ・多様な利用体系への対応
- ・幼稚園・保育園・社会教育団体の利用促進

支援体制の充実

ア 自然体験活動支援の充実

イ 指導者研修の充実

ウ ホームページ等による情報提供の充実

活動プログラムの充実

ア 発達段階に対応した活動プログラムの開発

イ 自然環境を活用した活動プログラムの開発

ウ 郷土の素材を活用した活動プログラムの開発

安全管理の徹底

ア 定期的な施設整備・活動エリアの安全点検の実施

イ 緊急時における適切な対応の徹底

ウ 給食における衛生管理の徹底

施設設備の充実

ア 施設設備の保守と計画的な整備

イ 活動エリアの保守と整備

3 令和5年度主催事業の実績

看板事業

[趣 旨]

小学生から中学生までの幅広い年代の「子ども」を対象に、豊かな自然環境の中で行う野営・野外炊事などの様々な自然体験活動を通して、基本的な生活習慣の確立や仲間と協力しようとする態度を育てていく事業である。

[概 要]

活 動 名	期 日	対 象	参加者数	内 容
9歳チャレンジキャンプ～ひとりできるぞ～	7/15(土)～ 7/17(月)	小学3年～小学 4年の児童	24名	ダンボール基地作り、野外活動(アドベンチャーゲームほか)、キャンドルサービス、炊事体験、思い出クラフト
夏の7daysキャンプ～自転車と川下りで仲間とともにゴールを目指す真夏のチャレンジ!～	8/5(土)～ 8/11(金)	小学5年～中学 3年の児童生徒	20名	自転車隊列移動、ラフティング、トレッキング、テント泊、野外炊事、りんごもぎ体験、花火大会、煎餅焼き体験、思い出クラフト
冬の3daysキャンプ～かまくら基地をつくって冬を楽しもう～	1/12(金)～ 1/14(日)	小学4年～中学 2年の児童生徒	25名	かまくら基地作り、野外活動(チューブそり、スノーシューハイク)、屋内活動(館内QRゲーム)、炊事体験、思い出クラフト
7歳わんぱくキャンプ～寒さに負けないぼんじゅキッズの冬遊び～	2/17(土)～ 2/18(日)	小学1年～小学 2年の児童	29名	ぼんじゅスノーランド作り・遊び、屋内活動(ぼんチャレンジピック)、炊事体験、思い出クラフト

養成事業

[趣 旨]

当施設利用団体の引率者や高校生・大学生などを対象に、豊かな自然環境の中で行う活動プログラムや自然体験活動を安心・安全に実施するための研修やセミナー、講座等の開催を通して、自然体験活動の指導者及びボランティアを養成する事業である。

[概 要]

活 動 名	期 日	対 象	参加者数	内 容
施設利用団体事前打合せ研修	(全体会) 4/14(金) (個別研修会) 利用日の14 日前までに 実施	令和5年度利用予 定団体の引率者	(全体会) 33名	(全体会) 講義、説明、活動プログラム 体験(野外活動、屋内活動、創 作活動)

<p>自然体験活動ぼんじゅボランティアセミナー</p> <p>【必修】 入門セミナー ふりかえりセミナー 実践レポート</p> <p>【選択】 9歳チャレンジキャンプ 夏の7daysキャンプ 冬の3daysキャンプ 7歳ワンソウキャンプ</p>	<p>実施日は各事業を参照 5/13(土) 3/9(土)</p>	<p>高校生及び大学生</p>	<p>36名 14名 8名 12名 5名 6名 12名</p>	<p>各事業は実施期間に応じて単位が付与されており、7単位以上取得したものは「ぼんじゅマスターボランティア」、10単位以上取得したものは「指導補助員」としてそれぞれ認定する。</p> <p>【対象事業での活動内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管轄グループの活動支援、グループメンバーの体調管理及び安全管理 ・自主企画立案と運営 ・キャンプ等の野外活動における、基本的な知識や技術を習得するための研修や施設ボランティアとしての連携を深めるための実習
<p>ぼんじゅ出前講座</p>	<p>通年実施 【各回即日】 直接指導は11月～3月のみ</p>	<p>小・中学校、各種学校、青少年教育団体、幼児施設等</p>	<p>2,008名</p>	<p>対象の団体が開催する各種行事(事業)において、直接指導又は間接指導を行う。</p> <p>なお、派遣職員の旅費は無料とし、活動材料費や用具運搬費は団体の負担とする。</p>

親子事業

[趣 旨]

小・中学生を含む保護者とその家族、いわゆる「親子」を対象に、豊かな自然環境の中で行う自然に親しむための体験活動や創作活動を通して、家族のふれあいや絆を深める機会を提供する事業である。

[概 要]

活 動 名	期 日	対 象	参加者数	内 容
春を楽しむサンday～五感を使って、春の自然を楽しく学ぼう～	4/29(土)	小・中学生を含む保護者とその家族	145名 (39家族)	野外活動(春の自然観察)、野外炊事(カートンドック)、創作活動
ファミリースプリングキャンプ～家族で初めてのキャンプ体験をしてみませんか～	5/27(土)～ 5/28(日)		76名 (21家族)	テント泊、野外炊事(ダッチオープン料理、ライスクッカー料理)、野外活動、キャンプファイヤー体験、創作活動
自然体験ぼんじゅフェスタ～学・創・食・遊の体験ブースで梵珠の秋を満喫しよう～	10/22(日)		87名 (27家族)	ダッチオープン体験、ホットサンドメーカー体験、たき火・火起こし体験、本格ライス作り体験、創作プログラム体験、遊びリンピック、自然ふれあいハイク、館内食体験、セルフカフェ

冬をいどるクラフトday～クリスマス・お正月飾りを親子でつくろう～	12/10(日)		100名 (27家族)	クラフト 「ミニ門松」 クラフト 「森の羽子板」 クラフト 「クリスマスフォトフレーム」 クラフト 「クリスマスきになる木」 その他、昼食提供やセルフカフェの開設あり
冬を楽しむホワイトday～親子で白銀の世界へとびだそう～	2/4(日)		76名 (23家族)	野外活動 (ミニ雪灯籠作りなど選択活動)、館内炊事、野外活動 (チューブそり遊びなど自由活動)

学習・生活習慣支援事業

【概要】

小学生から中学生までの「子ども」を対象に、豊かな自然環境の中での体験活動を行いながら、主体的に学んだり、規則正しい生活を送ったりする活動をととして、その後の学校・家庭生活に役立てていこうとする基礎的態度を育てていく事業である。

【趣旨】

活動名	期日	対象	参加者数	内容
ぼんじゅネイチャークラブ	7/22(土) 8/19(土) 10/14(土) 11/18(土)	小学3年～小学6年の児童	13名 10名 4名 4名	カブトムシシトラップ、ホタル観察 水中生物の観察 秋の植物観察 ネイチャークラフト作り
ぼんじゅウィンタースクール	12/25(月)～ 12/27(水)	小学4年～中学2年の児童生徒	11名	学習タイム、館内食、歯みがきタイム、野外活動タイム(雪灯籠作り、スノーシューハイク、雪上運動会)、フリータイム

2 節 種差少年自然の家

1 施設・設備

施設

名 称	青森県立種差少年自然の家	
所 在 地	青森県八戸市大字膠町字膳並平 2 - 26	
設 置 年 月 日	昭和50年12月 1 日	
敷 地 面 積	65,976.73㎡	
建 物 面 積	3,487.71㎡	
構 造	鉄筋コンクリート 2 階建 但し体育館棟鉄骨平屋建	
収 容 人 員	200人	
屋 内 施 設	研 修 棟	統括室、事務室、会議室、医務室、食堂、ホール、大ホール(大研修室、200人)、小ホール(小研修室、50人)、自然観察室(50人)
	宿 泊 棟	宿泊室26(車椅子利用者対応3人用2室、8人用24室)、リーダー室(2、和室)、浴室2、トイレ4、車椅子利用者対応トイレ1
	プレーホール (体 育 館)	バレーボール(1面)、バドミントン(2面) 648.90㎡ 移動式バスケットゴール2
屋 外 施 設	屋 外 施 設	キャンプセンター、炊事場、営火場(2)、うんどろ広場、トイレ
	そ の 他	つどいの広場、あそびの広場、なかよし広場、自然観察林、常設テント(13張、5~10月)電気室、車庫、ライフジャケット乾燥室、活動資材置場、倉庫

設 備

視 聴 覚 用 具	C Dプレーヤー、MDプレーヤー、液晶プロジェクター、デジタルカメラ、ポータブルワイヤレスアンプ、実物投影機
自 然 観 察 用 具	顕微鏡、双眼実体顕微鏡、天体望遠鏡、双眼鏡、星座早見盤、クリノメーター、磯の生物観察用具、野山の生物観察用具、魚釣り用具、救命胴衣、懐中電灯、フィールドスコープ
体 育 用 具	卓球台、バレーボール用具、バドミントン用具、肋木、グラウンドゴルフ用具、デジタルタイマー
野 外 活 動 用 具	放送機、簡易無線機、テント、シュラフ、炊事用具
レ ク リ エ ー シ ョ ン ス ポ ー ツ 等	ソフトバレーボール用具一式、バドミントン用具一式、卓球用具一式、frisbeeゴルフ用具、昔遊び用具、ノルディックポール、フロアカーリング、キンボールスポーツ用具一式、室内用ベタンク2セット、ヒットだターゲット、バグジー、モルック2、ミニモルック1、卓球バレー2、ラダーゲッター

2 運営の方針と重点

基本方針

少年たちが、豊かな自然の中でのびのびと体験活動をすることにより、自然と人間のかかわりを理解しながら、生きる力を養うことをめざす。

重点事項

利用団体の主体的活動を促進するために、引率指導者との連携強化を図る。

活動プログラムの開発と見直しを推進する。

主催事業及び自主事業の充実を図る。

教育環境整備と安全確保に努める。

学校・地域・教育関係団体・民間団体との連携強化を図る。

学校・教育機関・団体・報道機関等への資料提供と積極的な広報活動に努め、利用の促進を図る。

職員研修の充実を図る。

3 令和5年度事業の実績

種差少年自然の家主催事業(自然と遊ぼう、子どもの祭典)

[趣 旨]

年長児・小・中学生が自然の中で家族や仲間とのふれあいを深めながら、心豊かでたくましいこどもを育てることを目的として、種差少年自然の家周辺の山野や海での自然体験活動や創作活動、キャンプ活動などの学習機会の提供をする事業である。

[概 要]

自然と遊ぼう

活 動 名	期 日	対 象	参加者数	内 容	
たねさしワールド 「春を感じて」	5/14(日)	年長児・ 小・中 生と その 保護者	97名	春の自然を楽しもう ・潮風トレイルウォーク、創作活動 他	
たねさしワールド 「エンジョイ! 海遊び」 4回開催	7/1(土)		119名	海で思いっきり遊ぼう ・いかだやカヌー遊び、サンドクラフト作り、磯遊び 他	
	7/2(日)		113名	9/2、9/3は荒天のため、館内活動となった。実施内容は、ニュースポーツ、キーホルダーづくり、海の創作活動 他	
	9/2(土)		108名		
	9/3(日)		133名		
たねさしワールド 「秋を感じて」	10/15(日)		109名	秋の自然を楽しもう ・フィールドビンゴ、モビール制作 他	
たねさしワールド 「冬の季節を感じて」 2回開催	12/2(土)		56名	・クリスマスリースづくり	
	12/3(日)		71名		
たねさしワールド 「エンジョイ! 雪遊び」 2回開催	2/3(土)		4歳以上の 幼保・ 小・中 生と その 保護者	109名	冬の自然を楽しもう ・スノーチューブすべり、せんべい焼き、ぐにやぐにゃ風あげ、こま回し 他
	2/4(日)		119名		
たねさしワールド 「こども大作戦」 2回開催	2/24(土) ~25(日)	小学3年 ~4年	116名	こどもだけでとまってみよう ・仲間づくり、レクリエーション、夜の森探検、創作活動 他	
	3/2(土) ~3(日)	小学1年 ~2年	120名		

子どもの祭典

事 業 名	期 日	対 象	参加人数	内 容
おいでよ! サマーキャンプA	7/29(土) ~30(日)	小学5年 ~ 中学3年	37名	・テントでの宿泊体験 ・野外炊事 ・キャンプファイヤー
おいでよ! サマーキャンプB	8/5(土) ~6(日)		24名	・追跡ハイキング ・火おこし体験 他
わくわくどきどきウ インターキャンプ	12/25(月) ~27(水)		26名	・冬の野外テントでの宿泊体験 ・野外炊事 ・星空観察 ・ボンファイヤー ・発見ウォーク ・花炭づくり 他

自然体験活動支援事業

[趣 旨]

学校や公民館、児童館、放課後児童クラブなどの身近な施設内外の活動場所で、こどもたちに自然体験活動やニュースポーツ活動の場を提供することを目的として、種差少年自然の家職員が現地に向いて自然体験活動、創作活動、ニュースポーツ活動の実地支援を行う。また、自然体験活動、創作活動、ニュースポーツ活動の指導者の資質能力の向上を目的として、小・中学校等の教職員及び青少年団体指導者、市町村社会教育関係者等の指導職員を対象に行う研修事業である。

[概 要]

事業名	期 日	対 象	参加者数	内 容
自然体験活動 出前講座	4・5月及び 10～3月 * 6～9月 は原則として 実施なし	三八、上北管内の 小・中学校、児童 館、公民館、放課 後児童クラブ、青 少年団体や成人団 体 等	155団体 13,519名	種差少年自然の家のプログラムの 中で出前対応可能なもの(せんべ い焼き、フォトフレーム、どんぐ りアート、動物マグネット、たね さし万華鏡、ミニ門松 他)
自然体験活動 研修会	6/3(土) ～4(日)	小学校・特別支援 学校教諭、市町村 教育委員会職員、 高校生、ボラン ティアの会 他	68 (34)	ネイチャーゲーム、ツリークライ ミング、ランタン作り、ナイトハ イク、野外炊事、避難・救助訓練 (海活動)、AED操作法 他

在学少年宿泊指導者研修

[趣 旨]

種差少年自然の家を利用する小・中学校及び特別支援学校の引率教員を対象に、宿泊学習や野外活動等を効果的に行うことを目的として、活動プログラムの内容・指導の仕方や施設・設備の利用の仕方等について研修するとともに、利用する際の日課表を具体的に作成する事業である。

期日：4/27(木)～28(金)

場所：種差少年自然の家

対象：令和5年度利用小・中学校及び特別支援学校の引率教員

[概 要]

講義：社会教育施設としての自然の家の効果的な利用の仕方

実習：活動プログラムの実習(野外、自然、創作活動、夜の活動)、施設等の利用方法

演習：活動計画の立案、プログラムの相談、事前打合せ、確認事項

親子で学ぶ防災キャンプ事業

[趣 旨]

種差少年自然の家を避難所とし、避難場所の整備・運営を体験することによって、自然災害時における実践的な防災力・減災力を育むことを目的として、小・中学生とその家族及び小・中学校の教員を対象に行う研修事業である。

[概 要]

事業名	期 日	対 象	参加者数	内 容
親子の絆 「防災キャンプ」	9/23(土) ～24(日)	幼・小・中学生と 保護者、市立公民 館長	84 (42)	・人命救助システムについて ・防災講話 ・テント設営 ・炊き出し体験 ・救命入門コース講習会

3章 青森県総合社会教育センター

1 施設・設備

施設

所在地	青森市荒川字藤戸119 - 7
設置年月日	平成元年7月1日
敷地面積	16,815m ²
建物延床面積	7,053m ²
構造	鉄筋コンクリート造 地上4階 塔屋1階
研修室	大研修室、第1研修室～第10研修室
実習室	和室、調理実習室、第1工作室、第2工作室、教材編集室、第1多目的研修室、第2多目的研修室、第1～3教材開発室
その他	ラーニングスペース、学習情報サービス室、学習相談室、保健室、ほのぼのルーム、団体連絡室、情報処理室、視聴覚ライブラリー

設備(主なもの)

学習情報サービス室(ありず)	ビデオ教材、DVD教材、インターネット端末
教材編集室	モニターテレビ、編集・調整機器一式、VHSデッキ、カムVT R編集機、ダビング装置一式
第1教材開発室	プロジェクター、実物提示装置、モニターテレビ、DVDプレイヤー
第10研修室	パーソナルコンピュータ、プリンタ、サーバー
視聴覚ライブラリー	スライド映写機、モニターテレビ、DVDプレイヤー、16ミリフィルム教材
共用機器	テレビ、VHSプレイヤー、OHP、ビデオプロジェクター、アン プ、DVDプレイヤー、DVDレコーダー、ブルーレイプレイヤー、 ブルーレイレコーダー
情報処理室	サーバー、パーソナルコンピュータ
第1工作室	糸のご盤、グラインダー、木工具
第2工作室	金工具、土練機、ろくろ

2 運営の方針と重点

青森県総合社会教育センターは、社会教育の充実振興を図り、県民の生涯にわたる学習意欲の高揚と学習活動の進展に資するため、市町村及び関係機関・団体と連携しながら、次の事業を総合的に実施する。

人 財 育 成

地域を支える人財の育成

次代を担う青少年の育成

教育活動支援

地域学校協働活動の促進

家庭教育支援の充実

地域によるキャリア教育支援の充実

市町村・団体支援

生涯学習・社会教育関係職員等の養成と資質向上

学習情報等の充実

生涯学習活動支援

県民の学習活動への支援

県民の社会参加活動への支援

施 設 提 供

研修施設・視聴覚機材の提供

3 事業内容

概 況

センターは、人財育成、教育活動支援、市町村・団体支援、生涯学習活動支援の4区分により事業を実施した。

人財育成は、地域を支える人財や次代を担う青少年を育成するため、受講者の実践活動を含め専門的・実践的な研修を行った。

教育活動支援は、家庭や地域の教育力の向上を図るため、地域づくりや家庭教育支援の人財育成に関する専門的・実践的な研修を行った。

市町村・団体支援は、生涯学習・社会教育関係職員の資質向上及び社会参加活動を推進するため、生涯学習・社会教育に関する専門的な研修や社会参加活動支援機関の研修と情報交換を行った。

生涯学習活動支援は、県民の学習活動や社会参加活動を支援するため、生涯学習に関する情報提供、学習相談を行うとともに、今日的課題や生涯の各時期における課題に対応した学習講座を行った。

相談状況
生涯学習相談

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
件数(計)		17	14	9	3	6	7	10	9	7	2	12	5	101
相談者	個人	2	3	1	2	6	7	9	7	6	1	12	4	60
	機関	10	9	8	1					1				29
	団体	5	2					1	2		1		1	12
形態	窓口		4	2	1	2	3	4	9	2	1	8	4	40
	電話	17	10	5	1	2	3	5		5	1	3	1	53
	FAX													0
	郵便													0
分野	Eメール			2		2	1	1						6
	その他				1							1		2
	人材	1		4										5
	学習機会	5	1	2			1	3		2			1	15
別	施設													0
	教材						1	1	1			4		7
	学習プログラム					3	2		3					8
	団体サークル		1											1
別	資格					1	1							2
	調査研究													0
	活動		2				1			1				4
その他	11	10	3	3	2	1	6	5	4	2	8	4	59	

分類別

	個人 60					機関 29					団体 12					総計 101									
	窓 口	電 話	F A X	郵 便	E メ ール	そ の 他	窓 口	電 話	F A X	郵 便	E メ ール	そ の 他	窓 口	電 話	F A X	郵 便	E メ ール	そ の 他	窓 口	電 話	F A X	郵 便	E メ ール	そ の 他	
計	33	21	0	0	4	2	3	24	0	0	2	0	4	8	0	0	0	0	40	53	0	0	6	2	101
人材						2					2		1						2	1	0	0	2	0	5
学習機会	3	5			1		5					1							4	10	0	0	1	0	15
施設																			0	0	0	0	0	0	0
教材	5	1											1						5	2	0	0	0	0	7
学習プログラム	4	1			3														4	1	0	0	3	0	8
団体サークル												1							1	0	0	0	0	0	1
資格		2																	0	2	0	0	0	0	2
調査研究																			0	0	0	0	0	0	0
活動	2	2																	2	2	0	0	0	0	4
その他	19	10			2	1	19					2	6						22	35	0	0	0	2	59

家庭教育相談

	月		4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月		計			
	電話・メール別		電話	メール	電話	メール	電話	メール	電話	メール	電話	メール	電話	メール	電話	メール	電話	メール	電話	メール	電話	メール	電話	メール	電話	メール	電話	メール	面談	合計
	来所面談		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	30	2	0	32
	月別計		4	1	4	4	4	3	2	6	2	1	1	1	2	1	1	2	2											
相談者	父			1						1	1											1					4	0	4	
	母		2	1		3	4	3	1	4	1							1	1						1		20	2	22	
	祖父母					1																					2	0	2	
	本人その他		1											1	1										1		4	0	4	
対象	乳幼児						1	1					1			1											4	0	4	
	小1			1			1															1					2	1	3	
	小2					1																					1	0	1	
	小3					1	1																				2	0	2	
	小4											1															1	0	1	
	小5																										0	0	0	
	小6					1			1																		2	0	2	
	中1			1		1				1	1		1												1		6	0	6	
	中2			1	1											1										1		4	0	4
	中3																											0	0	0
者	高1							1																			1	0	1	
	高2														2												2	0	2	
	高3															2											1	2	1	3
	その他(一般)		1											1									1				3	0	3	
	1 母乳・ミルク																			1							1	0	1	
	2 食事・離乳食							1																			1	0	1	
	計		0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	
	3 身体																											0	0	0
	4 ことば																											0	0	0
	5 性格					1																						1	0	1
6 行動							1																				1	0	1	
7 発達障害			1									1	1													3	1	4		
8 その他																											0	0	0	
計		0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	5	1	6	
9 しつけ・習慣																											0	0	0	
10 睡眠																											0	0	0	
11 排泄																											0	0	0	
12 その他					1																		1				2	0	2	
計		0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0	2		
13 疾病・異常																											0	0	0	
14 けが																											0	0	0	
15 予防接種																											0	0	0	
16 その他(関係機関問合せ)																											0	0	0	
計		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
17 友達																											0	0	0	
18 家族															1												1	0	1	
19 教師																											0	0	0	
20 その他															1												1	0	1	
計		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	
21 いじめ																											0	0	0	
22 虐待																1	1										2	0	2	
23 不応(引きこもり等)																											0	0	0	
24 不登校				1	1				1	1		1															6	0	6	
25 非行・暴力																											0	0	0	
26 反抗										1																	1	0	1	
27 その他								1	1							1											3	0	3	
計		0	0	1	0	1	0	1	0	3	0	1	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	12	0	12	
28 態度																											0	0	0	
29 不振																											0	0	0	
30 勉強法																											0	0	0	
31 進学																1										1	1	1	2	
32 就職																											0	0	0	
33 その他		1					1																				2	0	2	
計		1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1	4	
34 男女交際																											0	0	0	
35 性について																											1	1	1	
計		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1		
36 情緒不安定																											0	0	0	
37 神経症的反応																											0	0	0	
38 心身症状																											0	0	0	
39 その他																											0	0	0	
計		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
40 園・学校等への要望		1			1																						2	0	2	
41 相談者自身(一般)		1																									1	0	1	
42 問い合わせ																											0	0	0	
43 その他																											0	0	0	
計		2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	3	

4 施設利用状況

	研修室等利用								学習情報サービス室 (ありす)		ロビー (ラウンジスペース)		総計	累計
	主催事業		個人		団体利用		計							
	人員	日数	人員	日数	人員	日数	人員	日数	人員	日数	人員	人員	人員	
4月	173	8	40	3	4,061	27	4,274	29	941	29	538	5,753	5,753	
5月	260	12	55	5	3,438	24	3,753	28	818	27	561	5,132	10,885	
6月	301	11	45	4	3,883	29	4,229	30	994	29	660	5,883	16,768	
7月	969	17	40	3	3,502	27	4,511	30	1,026	29	666	6,203	22,971	
8月	180	10	20	2	2,148	21	2,348	25	944	29	780	4,072	27,043	
9月	97	7	71	6	4,058	27	4,226	28	973	28	632	5,831	32,874	
10月	1,083	14	47	5	2,593	25	3,723	29	1,080	29	423	5,226	38,100	
11月	202	12	60	5	3,827	27	4,089	27	1,102	27	420	5,611	43,711	
12月	193	10	43	4	3,289	24	3,525	27	1,049	27	437	5,011	48,722	
1月	95	5	67	4	2,656	23	2,818	25	1,029	26	435	4,282	53,004	
2月	659	9	64	5	3,362	24	4,085	27	1,110	26	401	5,596	58,600	
3月	376	8	99	6	2,712	27	3,187	28	999	29	294	4,480	63,080	
合計	4,588	123	651	52	39,529	305	44,768	333	12,065	335	6,247	63,080		
(昨年度)	(2,910)	(110)	(484)	(50)	(33,771)	(322)	(37,165)	(327)	(12,544)	(337)	(4,492)	(54,201)		

団体利用状況

	団体利用		内 訳													
			社会教育団		学校教育団		学校		大学等		モデル団体等		公共団体		民間団体	
	人員	日数	人員	日数	人員	日数	人員	日数	人員	日数	人員	日数	人員	日数	人員	日数
4月	4,061	27	1,264	16	1,678	16	0	0	0	0	0	0	499	8	620	13
5月	3,438	24	820	19	1,437	17	0	0	0	0	0	0	811	12	370	11
6月	3,883	29	895	17	1,269	22	0	0	0	0	16	1	873	16	830	17
7月	3,502	27	564	17	689	15	200	1	0	0	0	0	1,297	17	752	19
8月	2,148	21	430	11	853	15	0	0	0	0	0	0	580	14	275	11
9月	4,058	27	741	19	1,446	17	0	0	0	0	30	1	977	12	864	18
10月	2,593	25	910	18	320	11	91	1	0	0	95	3	725	11	452	13
11月	3,827	27	1,434	20	943	17	0	0	20	1	0	0	644	8	786	19
12月	3,289	24	983	21	950	14	0	0	0	0	28	2	1,033	16	295	6
1月	2,656	23	582	13	731	15	0	0	0	0	13	1	913	16	417	7
2月	3,362	24	1,123	19	794	14	0	0	0	0	75	1	872	11	498	11
3月	2,712	27	1,182	19	75	7	0	0	0	0	0	0	234	9	1,221	19
合計	39,529	305	10,928	209	11,185	180	291	2	20	1	257	9	9,468	150	7,380	164
(昨年度)	(33,771)	(322)	(9,974)	(222)	(9,112)	(168)	(251)	(7)	(20)	(1)	(422)	(13)	(8,046)	(159)	(5,946)	(196)

5 令和5年度主催事業の実績

人財育成

地域を支える人財の育成

パワフルAOMORI！創造塾

[趣旨]

地域活動に係る潜在的な人財を掘り起こし、地域を担う人財を育成するとともに、育成した人財相互及び地域活動に関わる関係者等のネットワーク形成を促進することを目的として、講義・演習や企画・運営をする事業である。

[概要]

講座内容

回	期日	内容・講師
1	7/22(土)	【開講式、オリエンテーション】 【講義・演習】「地域(自分)を知る、楽しむ、挑戦する」 講師 NPO法人ACTY 理事長 株式会社ACプロモート 代表取締役 町田 直子 氏
2	8/26(土) 8/27(日)	【活動紹介】「地域活動を通して」 紹介者 卒塾生(過去のパワフル参加者) 6名 【演習】「実践活動に向けて」 コーディネーター 町田 直子 氏
3	9/30(土)	【講義・演習】「地域のよさを伝えるヒント～受信者の立場から」 講師 青森朝日放送ディレクター (株)トラストネットワーク青森事業部主任 山内 さおり 氏 【実践活動】「実践活動に向けて」 コーディネーター 町田 直子 氏
4	10/21(土)	【講義・演習】「地域活動のやりがいと楽しさ」 講師 フリーランスタレント 平沼 日菜子 氏 【演習】「研修成果に係る発表会に向けて」
5	12/2(土)	【発表】「研修成果に係る発表会」 講評者 町田 直子 氏 【閉講式】
実践活動	11/25(土)	【実践活動】「- できた！を応援 - ちゃれんじラボ」 於 八戸市種差少年自然の家

場所

県総合社会教育センター

参加者

塾生17名

内訳：(年代別) 10代1名、20代6名、30代2名、40代5名、50代3名

(地域別) 東青地域9名、西北地域2名、中南地域3名、上北地域1名、三八地域2名

(職種別) 会社員・自営業8名、公務員3名、学生4名、その他(主婦等)2名

元気青森人を創造するeラーニング推進事業

[趣 旨]

県民の誰もが、いつでも、どこでも、インターネットで手軽に学べるeラーニング教材を配信するため、各種学習教材の管理を行うとともに、配信に要するサーバ機器等を維持管理する事業である。

[概 要]

インターネットによるeラーニング学習教材の配信

ア	元気青森人PowerUpコンテンツ	計	92本 (アクセス件数: 305件)
	ア はたらく心		92本
イ	あおもり学インターネット講座	計	21本 (アクセス件数: 892件)
	ア あおもリエトセトラ		6本
	イ 青森県の先人		1本
	ウ 青森県の山		7本
	エ わがふるさと		7本
ウ	あおもり子育てネット	計	39本 (アクセス件数: 5,263件)
	ア 子育て動画		39本
	サーバ機器等維持管理		

次代を担う青少年の育成

青森で生きる未来人財育成事業

[趣 旨]

青少年の自己肯定感や主体性を高めることを目的として、高校生を地域で行われるボランティア活動に派遣し、異年齢交流などの多様な体験活動に参加させる事業である。

[概 要]

ボランティアチーム養成講座の実施

異年齢交流などの多様な体験活動実施のため、様々なボランティア活動について扱う講座を実施。

	実施日時	内容・講師	受講者数	動画再生回数
1	6/11(日) 14:00~15:00	テーマ:「ボランティア活動」 日本赤十字社青森県支部事業推進課 主事 岩井 雄太郎 氏	67名	110回
2	6/25(日) 14:00~15:00	テーマ:「災害ボランティア」 青森県社会福祉協議会地域福祉課 課長代理心得 木村 亨 氏	54名	121回
3	7/9(日) 14:00~15:00	テーマ:「国際ボランティア」 JICA青森デスク 国際協力推進員 阿部 翔太 氏	48名	69回

ボランティアチーム員の登録者数及び派遣、コーディネート先

(令和5年度登録者の居住地)

[単位：人]

青森市	蓬田村	五所川原市	つがる市	弘前市	平川市	十和田市
16	1	2	2	6	1	8
三沢市	野辺地町	六戸町	東北町	六ヶ所村	おいらせ町	むつ市
2	1	1	1	1	3	1
東通村	八戸市	三戸町	五戸町	〔計 18市町村〕		
1	14	1	1			

団体名	活動名及び活動内容	回数/人数
青森スポーツクリエイション株式会社	ホームゲーム運営 / 競技運営会場設営・撤去	2/2
農園カフェ日々木	Cars & Coffee in Towada 2023 / 接客・販売	1/4
Family caféあづま～る	Family caféあづま～る / 子育てサロン手伝い	4/4
日本人財発掘育成協会	ギビングツリー / プレゼント受け渡し	1/2
平川市教育委員会	こつこつ教室 / 学習支援	1/1

大学生とカタル！キャリア形成サポート事業

[趣 旨]

大学生が在学中に専門的な研修(コミュニケーション、コーチング等)を受講し、一定のスキルを獲得した上で、中学生・高校生を対象にワークショップを企画運営してもらい、社会人としての実践力を身につけるための一助とする。

また、中学生・高校生には、ワークショップで、少し年上の大学生と自分の今と将来等について「カタル」ことにより、自分自身と向き合うためのきっかけづくりとする。

ワークショップの開催を通して、参加者全員が自らの夢や目標に向かい、主体的に行動できる人材の育成に繋げるとともに、双方のキャリア形成のサポートに資する事業である。

[概 要]

中学生及び高校生の意欲を引き出し、自分自身の見つけ直しにつながる、大学生によるワークショップ「キャリアサポ」(高校企画)、「Jr.キャリアサポ」(中学校企画)の実施

ア 実施校数 17校(高等学校16校、中学校1校)

イ 参加生徒数 1,988名(高校生1,863名、中学生125名)

ウ 延べ参加大学生数 654名

	期 日	実施校	対象中学生・対象高校生	参加大学生
1	8/22(火)	県立七戸高等学校	1学年(3クラス86名)	32名
2	8/24(木)	県立弘前南高等学校	1学年(5クラス195名)	57名
3	8/25(金)	県立北斗高等学校	2・3学年(9クラス121名)	51名
4	8/29(火)	県立三本木農業恵拓高等学校	1・2学年(7クラス219名)	58名
5	8/31(木)	県立浪岡高等学校	1学年(2クラス18名)	16名
6	9/1(金)	県立大間高等学校	1・2学年(4クラス83名)	30名
7	9/5(火)	野辺地西高等学校	1学年(3クラス45名)	27名
8	9/6(水)	県立大湊高等学校	1学年(4クラス106名)	36名
9	9/8(金)	県立六ヶ所高等学校	1・2学年(2クラス68名)	32名
10	9/11(月)	県立黒石高等学校	1学年(5クラス139名)	46名

	期 日	実施校	対象中学生・対象高校生	参加大学生
11	9/14(木)	中泊町立中里中学校	全学年(5クラス125名)	38名
12	9/19(火)	県立鱒ヶ沢高等学校	全学年(3クラス26名)	21名
13	9/21(木)	柴田学園高等学校	1学年(5クラス165名)	50名
14	2/14(水)	八戸工業大学第二高等学校	1学年(8クラス149名)	40名
15	2/20(火)	県立青森南高等学校	2学年(5クラス186名)	48名
16	2/22(木)	県立青森中央高等学校	1学年(5クラス191名)	44名
17	3/7(木)	県立柏木農業高等学校	2学年(4クラス66名)	28名

オンラインワークショップの実施

ア オンライン企画 11/25(土) 参加大学生69名

全員がオンラインで参加

キャリア形成の支援

ア 大学生会議 4回(5/13(土)、7/16(日)、12/17(日)、3/8(金))

イ 合同研修会(11/24(金)) 参加者11校 14名(高校生スキルアッププログラムと共催)

講演:「未来の大人と未来を創る」

講師: 皇学館大学 現代日本社会学部教授、一般社団法人「未来の大人応援プロジェクト」 代表理事 岸川 政之 氏

事例紹介: 発表者 県立七戸高等学校 実習講師 佐藤 未来 氏

野辺地西高等学校 教諭 太田 智博 氏

ウ 大学生対象研修会の開催

基本研修(計4回) 受講者数 192名

ワークショップ演習(計4回) 受講者数 180名

中学校対応研修(計3回) 受講者数 38名

応用研修(計2回) 受講者数 12名

高校生スキルアッププログラム推進事業

[趣 旨]

学校外学修への積極的な取組とレポート作成によって、高校生の知識や経験の幅を広げるとともに、社会の変化に柔軟に対応し、たくましく生きるための様々なスキルの向上を図ることを目的とする事業である。

[概 要]

高校生スキルアッププログラム(スキルアップ認定証・奨励証の交付)の運営

合同研修会の実施

「合同研修会」の開催(大学生とカタル!キャリア形成サポート事業と共催)

ア 期日: 11/24(金)

イ 場所: 県総合社会教育センター

ウ 対象: 県内高等学校教員及び高校生スキルアッププログラム担当者、参加を希望する高等学校教員

エ 参加者: 11校 14名

オ 事業説明・情報交換: 県総合社会教育センター職員

評価サービス

参加校数・参加生徒数・奨励証および認定証交付者数

地区	参加校数	参加生徒数	奨励証交付者数	認定証交付者数
東青	9校	743名	14名	21名
西北	4校	485名	2名	2名
中南	3校	186名	6名	6名
上北	2校	24名	1名	4名
下北	3校	1,106名	2名	6名
三八	6校	1,888名	31名	11名
合計	27校	4,432名	56名	50名

県民カレッジとの連携

事業連携によるあおもり県民カレッジ新規入学人数 1,222名

青少年社会参加活動・創作活動モデル団体研究事業

〔趣 旨〕

青少年の社会参加活動・創作活動の推進に取り組むための方策の研究を目的として、高校生・大学生・専門学校生等を中心に社会参加活動・創作活動を行っている団体をモデル団体に指定し、支援する事業である。

〔概 要〕

団体募集(高校生や大学生、専門学校生等を主体とした団体)

団体の指定

【社会参加活動モデル団体】

	団体名	校種	主な活動内容	人数
1	キャリアサポートクラブコンソーシアム(キャリアサポ連合)	大学	<ul style="list-style-type: none"> ・「大学生とカタル！キャリア形成サポート事業」へのボランティア参加 ・スキル向上イベントの企画 ・県内大学生参加交流会の企画 	718名
2	Lesta(レスタ)	高校 大学	<ul style="list-style-type: none"> ・異年齢交流活動の企画、運営 ・小中学生対象の学習支援 ・発達障がい等についての研修 	22名
3	青森大学三味線部(あおしゃみ)	大学	<ul style="list-style-type: none"> ・異年齢交流活動の企画、運営 ・伝統芸能継承活動の企画、運営 ・スキル向上のための練習、講習会 	16名
4	よさこいチーム彩華	大学	<ul style="list-style-type: none"> ・青森県内のよさこい団体を対象としたイベントの企画、運営 ・異年齢交流活動の企画、運営 ・伝統芸能継承活動の企画、運営 	4名

【創作活動モデル団体】

	団体名	校種	主な活動内容	人数
1	確原色	高校	<ul style="list-style-type: none"> ・青森市内の高校生を主体としたイベントの企画、発表 	9名

団体の活動に対する支援

ア 研修室等使用料の減免

- イ 運営会議・研修・作業等での教材開発室の使用承認
- ウ 発表の場の提供（生涯学習フェア等）
- エ 情報発信用の専用掲示スペースの設置
- オ 所報「響」やHP等での活動状況の紹介
- カ 社会教育主事等による情報提供とアドバイス
- キ 地域活動団体、創作活動団体、教育活動団体等との連携に関する連絡調整
- ク 協力名義使用の承認（「協力 青森県総合社会教育センター」など）
代表者会議の開催

教育活動支援

地域学校協働活動の促進

教員のためのチーム「学校・家庭・地域」連携講座

[趣 旨]

学習指導要領における「社会に開かれた教育課程」について理解を深め、その実現に向けて学校・家庭・地域が『チーム』として連携することを目的として、“未来の学校づくり・人づくり”に取り組みの目的と重要性を共有し、具現化するための実践的な研修を行う事業である。

[概 要]

期日：11/16（木）

場所：県総合社会教育センター

対象：小学校・中学校・高等学校・特別支援学校教員、地域学校協働活動推進員、市町村教育委員会職員等

受講者数：49名

事業内容

- ア 講 義：地域とともにある学校づくり ～コミュニティ・スクールと地域の未来～
講師 ＣＳマイスター、高校と地域の協働・共創 研究所代表、一般社団法人まなびのみなと代表理事 取贈 宏行 氏
- イ 事例報告：「地域とともにある学校づくり」に向けた県内事例の紹介
県立黒石高等学校、県立森田養護学校
コーディネーター ＣＳマイスター、高校と地域の協働・共創 研究所代表、一般社団法人まなびのみなと代表理事 取贈 宏行 氏

家庭教育支援の充実

あおもり家庭教育力向上事業

[趣 旨]

地域における家庭教育支援体制を整備することを目的として、家庭教育支援者としての理論学習や心構えを学ぶ講座を開催するとともに、そこで養成した人財を「あおもり親楽プログラム」を使う研修会等に派遣する事業である。

[概 要]

あおもり家庭教育アドバイザー養成講座

- ア 場所：県内2地区 中南地区（弘前総合学習センター）

下北地区（下北文化会館）

イ 回数：両地区 6 回

ウ 受講者数（1 回以上の受講者数）：37 名（中北地区 18 名、下北地区 19 名）

エ あおもり家庭教育アドバイザー登録者：15 名（中北地区 8 名、下北地区 7 名）

オ 内容：家庭教育支援講座・演習（全 6 回：6～11 月）

回	開催地区 期日	内 容
1	中北地区 6/15(木)	講義 「家庭教育支援者の心構え」 講師 特定非営利活動法人はちのへ未来ネット 代表理事 平間 恵美 氏
	下北地区 6/21(水)	講義 「家庭教育支援者の心構え」 講師 特定非営利活動法人はちのへ未来ネット 代表理事 平間 恵美 氏
2	中北地区 7/11(火)	講義 「子どもをもつ親の気持ち」 講師 スクールカウンセラー 岩田 彩子 氏 演習 「あおもり親楽プログラム」 進行 県総合社会教育センター職員
	下北地区 7/25(火)	講義 「子どもをもつ親の気持ち」 講師 スクールカウンセラー 岩田 彩子 氏 演習 「あおもり親楽プログラム」 進行 県総合社会教育センター職員
3	中北地区 8/8(火)	講義・演習 「家庭教育支援チーム・子育て団体等参観」 講師 社会福祉法人 清光福祉会 城東保育園 園長 三浦 テツ 氏
	下北地区 8/2(水)	講義・演習 「家庭教育支援チーム・子育て団体等参観」 講師 学校法人星美学園 幼保連携型認定こども園星美幼稚園 園長 關 洋子 氏
4	中北地区 9/7(木)	講義 「子どもの気持ちを理解するために」 講師 青森明の星短期大学 子ども福祉未来学科 准教授 高橋 多恵子 氏 演習 「あおもり親楽プログラム」 進行 県総合社会教育センター職員
	下北地区 9/12(火)	講義 「子どもの気持ちを理解するために」 講師 青森明の星短期大学 子ども福祉未来学科 准教授 高橋 多恵子 氏 演習 「あおもり親楽プログラム」 進行 県総合社会教育センター職員
5	中北地区 10/19(木)	講義 「今、親が悩むこと～食育～」 講師 柴田学園大学生生活創生学部 健康栄養学科 准教授 今村 麻里子 氏 演習 「あおもり親楽プログラム」 進行 県総合社会教育センター職員
	下北地区 10/3(火)	講義 「今、親が悩むこと～食育～」 講師 柴田学園大学生生活創生学部 健康栄養学科 准教授 今村 麻里子 氏 演習 「あおもり親楽プログラム」 進行 県総合社会教育センター職員
6	中北地区 11/9(木)	演習 「あおもり親楽プログラム」 進行 県総合社会教育センター職員
	下北地区 11/15(水)	演習 「あおもり親楽プログラム」 進行 県総合社会教育センター職員

あおもり家庭教育アドバイザースキルアップ講座

ア 期 日：9/9(土)9:30~12:15

イ 実施方法：あおもり家庭教育アドバイザーを対象としたオンライン講座

ウ 受講者数：12名

エ 内 容：今日的な家庭教育支援の現状について、講義・演習形式で学ぶ。

講義 「家族のコミュニケーション」

講師 柴田学園大学生生活創生学部 こども発達学科 助教 萩葉 美紀氏
情報交換

あおもり親楽プログラム普及活動

「あおもり親楽プログラム」を活用した研修会等に、あおもり家庭教育アドバイザーを派遣する。

・派遣数14回 延べ派遣人数28名

あおもり家庭教育アドバイザー登録情報の管理

あおもり家庭教育アドバイザーの活用

家庭教育支援動画制作普及事業

[趣 旨]

子育てに対する不安や悩みを解決する糸口とし、家庭教育の充実を図ることを目的として、子育て情報を動画により発信する事業である。

[概 要]

家庭教育支援動画制作普及委員会の設置

委員

	氏 名	所 属 等
1	川 内 規 会	青森県立保健大学 教授
2	松 谷 泰 英	県教育庁生涯学習課 学校地域連携推進監・課長代理
3	吉 田 圭 子	青森県子ども家庭支援センター 部長 (指定管理者 未来へつなぐネットあおもりグループ)
4	横 岡 千和子	青森県PTA連合会 会長
5	遠 藤 弥 生	あおもり家庭教育アドバイザー

家庭教育支援動画制作普及委員会の開催

ア 6/12(月) 委託業者の審査・選定

イ 2/14(水) 次年度に向けてのテーマ等意見を述べる(書面開催)

家庭教育支援動画及びあおもり子育てネットCMの制作(委託業者制作)

家庭教育の重要性を広く普及するため、以下の動画やCMを作成した。

ア 虫歯予防 子どものうちから身につけよう!

イ Z世代のネットリテラシー

ウ 「考える力」を伸ばせる子育てスキル

エ 子どもの悩みと心のケア

オ 子どもの体のよりよい成長 ~家庭で楽しく運動~

カ 親子の絆を育む ~絵本の読み聞かせ~

キ 「あおもり子育てネット」CM

家庭教育支援動画及びあおもり子育てネットCMの放映・配信

12月1日よりYoutubeへの配信を開始し、県総合社会教育センターホームページにも反映した。

12月1日～1月31日の期間、以下の放映・広告を実施した。

ア RAB青森放送にて、毎朝5:50～6:30に、「あおもり子育てネット」CMを計62回放映。

イ YouTubeでの「あおもり子育てネット」CM広告を298,487回表示。

ウ Facebookでの「あおもり子育てネット」CM広告を139,970回表示。

エ Instagramでの「あおもり子育てネット」CM広告を72,709回表示。

あおもり子育てネットのポスター・チラシの制作

あおもり子育てネットに関するポスター・チラシを制作し、県内の幼稚園・保育園・小学校・中学校・特別支援学校、子育てに関する各関係機関、大型商業施設等へ12月上旬より順次発送し、周知した。

家庭教育相談事業

[趣旨]

子育て中の不安や悩みを軽減することを目的として、乳幼児から高校生までの子を持つ保護者やその家族を対象に、電話・メール等により、寄り添い型の家庭教育相談を行う事業である。

[概要]

対象：乳幼児から高校生までの子を持つ保護者やその家族

実施方法：電話相談・週3回 月・水・木曜日（祝日・年末年始を除く）13:00～15:00
メール相談・24時間受付

場所：県総合社会教育センター電話相談室

対応内容：発育・発達、しつけ、対人関係などのこどもに対する悩みや家庭教育全般について

相談体制：家庭教育相談員が対応

相談件数：32件（電話相談30件、メール相談2件）

地域によるキャリア教育支援の充実

地域の今と未来をつなぐキャリア教育推進事業

[趣旨]

地域のこどもたちの望ましい職業観や人生観を育むことを目的として、学校・地域住民・企業・NPO・各種団体等の関係者が相互に理解を深め、キャリア教育推進に向けた体制を整備するための研修を行う事業である。

[概要]

学校と地域・企業等をつなぐキャリア教育研修会

ア 期日・場所：下北地区 6/22（木）むつ市立むつ中学校 受講者31名

西北地区 11/7（火）鱒ヶ沢町立鱒ヶ沢中学校 受講者40名

イ 対象：教育支援活動推進員、地域学校協働活動推進員、地域コーディネーター等、企業・NPO等キャリア教育担当者、PTA関係者、教育委員会等担当者、教職員等

ウ 講師：認定NPO法人ハーベスト 代表理事 山崎 賢治 氏

地域資源を活用したキャリア教育推進フォーラム

- ア 期日：10/27(金)
 イ 場所：県総合社会教育センター
 ウ 対象：教育支援活動推進員、地域学校協働活動推進員、地域コーディネーター等、企業・NPO等キャリア教育担当者、PTA関係者、教育委員会等担当者、教職員、一般県民等
 エ 内容：あおもりキャリア教育応援企業の表彰式、表彰企業による近年の活動状況の報告、講演
 オ 講師：一般社団法人 十勝うらほる^{がくしゃ}楽舎 代表理事 近江 正隆 氏
 カ 参加者：68名
 「我が社は学校教育サポーター」の運営全般
 ア 「我が社は学校教育サポーター」ウェブサイトの管理・運営
 登録企業から報告された令和4年度実績の集計結果（令和6年2月調査まとめ）
 出前授業：1,305件、職場見学：529件、職場体験・インターンシップ：450件、
 その他：340件
 登録企業数：734社(令和6年2月現在)
 イ 「我が社は学校教育サポーター」への新規登録 13社
 ウ 学校からの依頼に対する仲介 10件

市町村・団体支援

生涯学習・社会教育関係職員等の養成と資質向上

生涯学習・社会教育関係職員研修講座

[趣 旨]

生涯学習・社会教育関係職員及び関係団体職員等の資質向上を目的として、業務遂行に係る基礎的・実務的な研修を行うとともに、地域課題の把握と課題解決につながる実践的な知識・技能の習得と人材育成を目的とした研修を行い、ネットワーク形成を図る事業である。

[概 要]

センター研修（全6回）

	実施日時	場所	内 容	受講者数
第1回	5/11(木) 13:00 ～15:00	県総合社会教育センター	テーマ：「生涯学習・社会教育概論」 講師：岩手県教育委員会 教育委員 新妻 二男 氏	39名
第2回	6/16(金) 13:00 ～15:00	県総合社会教育センター	テーマ：「青少年体験活動の充実」 講師：國學院大學人間開発学部子ども支援学科 准教授 青木 康太郎 氏	25名
第3回	7/5(水) 13:00 ～15:00	県総合社会教育センター	テーマ：「次代の地域を担う若者の育成」 講師：NPO法人「おむすび」 副理事長 大畑 伸幸 氏	21名
第4回	8/22(火) 13:00 ～15:00	県総合社会教育センター	テーマ：「学ぶって楽しい」 講師：Mr.マサックこと 工藤 貴正 氏(県民公開講座として実施)	39名

	実施日時	場所	内 容	受講者数
第5回	10/11(水) 13:00 ~15:00	県総合社会教育センター	テーマ：「障害者の学びの機会充実に向け」 講師：ボランティアサークル「麦の会」 代表 若木 政人 氏	21名
第6回	11/1(水) 13:00 ~15:00	県総合社会教育センター	テーマ：「社会教育関係職員の資質向上」 講師：岩手県生涯学習振興協会 事務局長 佐々木 勉 氏	10名

地区研修

	実施日時	場所	内 容	受講者数
東青	5/18(木) 13:00 ~15:00	県総合社会教育センター	テーマ：「多様な人々のつながりと新しい技術の活用による生涯学習・社会教育の推進」 講師：弘前大学 教育学部 講師 深作 拓郎 氏	25名
西北	9/22(金) 13:30 ~16:10	つがる市生涯学習交流センター 松の館	テーマ：「地域と防災」 講師：一般社団法人 男女共同参画地域みらいねっと 代表理事 小山内 世喜子 氏	22名
中南	8/29(火) 13:30 ~16:00	黒石公民館(旧黒石市民文化会館)	テーマ：「異文化共生」 講師：アイビーコンフィグ株式会社 取締役 リー ニョクペン 氏	42名
上北	5/31(水) 14:00 ~16:00	六戸町文化ホール	テーマ：「持続可能な地域づくりに向けた、生涯学習・社会教育関係職員の役割と人材の育成」 講師：日本人財発掘育成協会 理事長 坂本 徹 氏	65名
下北	9/26(火) 13:30 ~16:00	むつ合同庁舎	テーマ：「事業の企画力の向上」 講師：弘前大学 教育学部 准教授 越村 康英 氏	16名
三八	10/4(水) 13:30 ~15:40	階上町道仏交流センター	テーマ：「地域を活性化させるためのつながりづくり」 講師：いちのせき市民活動センター センター長 小野寺 浩樹 氏	26名

ボランティア関係機関職員養成講座

〔趣 旨〕

ボランティア関係者、実践活動者等の資質向上を目的とした対話・参加型の講座を開催し、本県の社会参加活動の推進及び充実を目指す事業である。

〔概 要〕

期日：7/7(金) 13:00~15:30

場所：県総合社会教育センター

対象：あおもり県民カレッジ連携機関、NPO、ボランティア関係団体、ボランティアに関心のある高校生・大学生、一般県民等

受講者数：会場受講21名、オンライン受講119名、計140人

事業内容

ア 講 義 「今だから、ボランティアそもそも論」

講師：大阪ボランティア協会 常務理事・事務局長 永井 美佳 氏
 イ 事例発表 ひろさきボランティアセンター ボランティア支援員 鶴見 智之 氏
 NPO法人日本人材発掘育成協会 事務局長 大鷹 依子 氏
 学生団体レスタ 前代表 須藤 優海 氏

学習情報等の充実

学習情報の収集・提供事業

[趣 旨]

県民の生涯学習活動を促進するために必要とされる各種情報を収集し、インターネットにより県民へ提供するとともに、サーバ・パソコン機器等を維持管理し、ICT講座等を実施できる環境を整備する事業である。

[概 要]

学習情報の収集・提供

4情報（学習機会、指導者人材、団体・サークル、視聴覚教材）の収集・提供

登録データ件数	学習機会情報	1,999件
	指導者人材情報	138件
	団体・サークル情報	145件
	視聴覚教材情報	6,169件
	計	8,451件

ありすネットアクセス回数	学習機会情報	1,470回
	指導者人材情報	457回
	団体・サークル情報	663回
	視聴覚教材情報	340回
	計	2,930回

サーバ・パソコン機器等維持管理

学習情報提供に係るサーバ・パソコン機器及び実習用機器の整備

青森県視聴覚ライブラリー運営事業

[趣 旨]

16mmフィルムをはじめとする県内の貴重な映像資料を収集・保管するとともに、その活用を図り、県内の視聴覚教育の振興発展に寄与することを目的として、「青森県視聴覚ライブラリー」を運営する事業である。

[概 要]

生涯学習社会の充実を図る基礎資料を得るための調査・研究
 社会教育及び県民の学習活動のための研修施設・視聴覚機材の提供
 全国視聴覚教育連盟への加入
 視聴覚教材の購入 6本
 視聴覚教材のデジタル化業務 222本

生涯学習活動支援

県民の学習活動への支援

あおもり県民カレッジ運営業務

[趣 旨]

県民の学習ニーズが多様化・高度化する中、興味・関心の高いテーマについて体系的・継続的に学習し、その学習成果が社会から適切に評価され、学習成果を生かして社会参加できることを目的として、県民の生涯学習を総合的に支援する事業である。

[概 要]

あおもり県民カレッジの運営全般

学生募集

ア ポスター、チラシ(入学申込書)による募集

募集チラシを更新、子どもカレッジコースの募集チラシを新たに作成し、各学校等に配布

イ イベント時にあおもり県民カレッジ(子どもカレッジ)コーナーを設置

ウ 各種講座・映画鑑賞会等の開催時に周知

エ 生涯学習情報誌「てのひら」、ホームページ等による周知

学生対応

ア 入学受付(随時)

イ 学生数 29,729名(新規1,676名)

教養学習コース 25,682名

子どもカレッジコース 4,047名

ウ 単位認定サービス

認定証交付件数 268件(教養学習コース168件、子どもカレッジコース100件)

奨励賞交付件数 72件(教養学習コース 28件、子どもカレッジコース44件)

校友会活動支援(中南地区及び三八地区)

あおもり県民カレッジ連携機関との連携・協力

ア 連携機関数:393機関(体験施設93か所を含む)

イ 連携機関連絡会議の開催

県民の生涯学習活動と社会参加活動の活性化に向け、6地区であおもり県民カレッジ連携機関の会議を開催し、地域キャンパス講座、生涯学習フェア、ボランティア活動支援等について意見交換するとともに、連携機関を含めた出席者相互の情報共有の場とする。

地区	日時(令和5年)	会 場	参加機関数
東青	5月24日(水) 13:30~15:30	県総合社会教育センター第1研修室	33
西北	5月26日(金) 13:30~15:30	西北教育事務所1C会議室	5
中南	5月31日(水) 13:30~15:30	中南合同庁舎本館2階会議室	13
上北	6月1日(木) 13:30~15:30	七戸庁舎1階大会議室	8
下北	5月30日(火) 13:30~15:30	下北教育事務所会議室	4
三八	5月29日(月) 13:30~15:30	三八合同庁舎会議室	11

ウ 教育事務所訪問により、あおもり県民カレッジの各地区の状況を説明
普及啓発事業

ア 生涯学習フェアの開催（10/7（土））

参加者：515名

主な内容 オープニング(青森大学三味線部による演奏)

あおもり県民カレッジ認定証交付式

あおもり県民カレッジ公開授業

公演(声優劇団「津軽カタリスト」による参加体験型ドラマリーディング)

学びと体験のひろば(ものづくり体験)

古本交換会

食彩ひろば

イ 子ども向けイベント

ア 夏のこどもまなびフェスタの開催（7/29（土））

参加者：443名

主な内容 オープニング(油川幼稚園園児によるミュージックベル演奏)

巨大糸掛け曼荼羅のおひろめ

「みんなが先生！」ゼミナール

世界でたった一つの宝物をつくろう！

物語を楽しもう！

仲間と一緒に体を動かそう！

イ 冬のこどもまなびフェスタの開催（2/23（金・祝））

参加者：553名

主な内容 ステージ発表(キッズシアタガス / 青森市立篠田小学校合唱クラブ)

「みんなが先生！」ゼミナール

モノを大切に！（おもちゃ病院 / 絵本・児童書交換会）

体験・遊び(スノーランドで遊ぼう！ / アイスクリームを作ろう！ / 青森

市立新城中学校生徒と一緒に遊ぼう！ / タグラグビーを体験しよう！)

子どもカレッジ〇×クイズ

ウ 県民カレッジ&生涯学習情報誌「てのひら」の作成・発行（年6回）

エ 映画鑑賞会開催（毎月1回）

オ ホームページ<https://www.manabi-aomori.com>、フェイスブック、インスタグラムによる
情報提供

学習相談・学習情報提供事業

ア 学習相談の実施

窓口、電話、FAX、郵便、メール等による学習相談の受付 相談件数：84件

イ 学習機会情報の収集及び提供

青森県学習情報提供サイト(ありすネット)への学習情報の登録 登録件数：1,637件

ウ マスメディア活用による情報提供

テレビ、ラジオ、新聞を通して、講座、イベント情報や展示内容について告知

学習機会提供事業

ア 地域キャンパス講座（県内6地区）の開催

開催数：計26回（東青4回、西北7回、中南4回、上北3回、下北3回、三八5回）

受講者数：延べ961名

社会参加活動支援

ア ボランティア講師による自主講座の開催 講座数：97講座、受講者数：延べ577名

講師登録数：126名

イ まなびサポーター(各種講座やイベントにおける運営ボランティア)の登録・活動奨励

登録者数29名（内高校生14名）

延べ活動者数：141名

ウ イベント時における高校生・中学生ボランティアの活動奨励

延べ活動者数：113名

ボランティア活動証明書の発行

県民の社会参加活動への支援

インフォメーションプラザありすの運営

[趣 旨]

インフォメーションプラザありす(学習情報サービス室)は、生涯学習に関する総合窓口であり、各種の相談対応のほか、視聴覚教材の貸出サービスの業務を行っている。

[概 要]

窓口対応時間 9：00～19：00

視聴覚教材貸出サービス

ポスター、チラシの配架

学習成果の展示

ア 階段ギャラリー、コリドー展示室、2階展示ギャラリー「画伯のたまご」、ギャラリーありす、1階ロビー等を活用して、多様な作品を展示した。

イ 季節ごとの館内装飾と展示

4章 青森県総合学校教育センター

1 施設・設備

所在地 青森市大字大矢沢字野田80 - 2

敷地面積 40,000㎡ 建物敷地 11,484㎡ 多目的広場等 13,285㎡ その他 15,231㎡

建 物 (鉄骨・鉄筋コンクリート造、4階建、他にピロティ及び塔屋)

延床面積 15,439㎡ (管理研修棟 10,210㎡ 大研修室棟 1,113㎡

体育館棟 1,342㎡ 食堂・宿泊棟 2,774㎡)

管理研修棟 (10,210㎡)

ピロティ階 駐車場 (洪水時の遊水施設)

1 階 (2,837㎡)

[管 理] 所長室、職員室、応接室、講師室、会議室等

[特別支援教育・管理] 相談室、ブレイルーム、検査室、職員室等

2 階 (2,359㎡)

[研修・一般] 中研修室 (70人)、第1～第3研修室 (32人)、

第4～第6研修室 (30人)、第7研修室 (20人)等

[共 用] 図書資料室

[教育相談・管理] 相談室、ブレイルーム、学びの部屋、職員室等

3 階 (2,351㎡)

[研修・情報教育] 応用技術研修室 (40人)、情報教育研修室1 (36人)、情報教育研

修室2 (32人)、情報教育研修室3 (24人)、CAD・CG研修室

(76人)、産業教育研修室 (76人)等

4 階 (2,498㎡)

[研修・実験実習] 音楽・美術・技術・食物・被服・物理・化学・有機化学・生物・

地学研修室、初等理科準備室等

プラネタリウム (26席+補助14席)

走査電子顕微鏡 (35～20万倍まで)

塔 屋 (165㎡)

[研修・実験実習] 天体望遠鏡 (60cm反射望遠鏡)

大研修室棟 (1,113㎡)

大研修室座席 (410席)、控室、ロビー等

体育館棟 (1,342㎡)

アリーナ (バスケットボールコート2面又はバレーボールコート2面又はバドミントン

コート6面)、器具庫、更衣室 (男女別)、体育準備室等

食堂・宿泊棟 (2,774㎡)

[1 階] 食堂 (収容椅子席133人、和室84人)

[2～4階] 宿泊室 (一般用84室、身障者用1室、ゲスト用1室)

多目的広場等 (13,285㎡)

駐 車 場

500台 (ピロティ階220台、屋外280台)

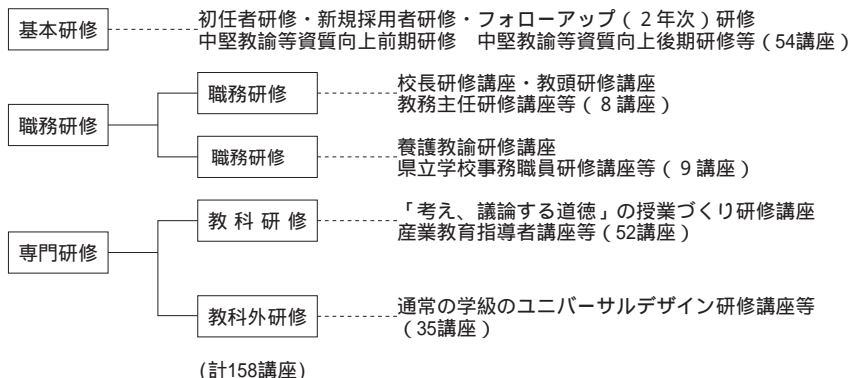
2 運営の方針

青森県総合学校教育センターは、子どもたちの未来を創るため、所員の心と力を結集して、学校を支援します。

3 研修事業

概要

青森県教職員研修体系に基づき、教職員の専門性を高め、教育活動の充実に資する各種の研修を行った。



実績

基本研修

ア 初任者研修

講座名	対象	人数 (聴講者を含む)	期日	内 容
初任者研修 (小学校) 学級経営基礎講座	令和5年度初任者 研修(小学校)対 象教諭	小62	5/11～5/12	<ul style="list-style-type: none"> 信頼関係を築き上げる学級経営への取組 ユニバーサルデザインを取り入れた学級経営 望ましい集団へと変容を促す学級担任の取組 学級経営案から考えるこれまでとこれからの学級経営 社会人としてのマナー 講師：オフィス円香 代表 大坂 彰子
初任者研修 (小学校) 学級経営基礎講座	令和5年度初任者 研修(小学校)対 象教諭	小62	9/7	<ul style="list-style-type: none"> 小学校における生徒指導とは 教師のメンタルヘルスについて 教育相談の進め方 危機管理を通じた学級経営の見直し
初任者研修 (小学校) 学級経営基礎講座	令和5年度初任者 研修(小学校)対 象教諭	小61	12/7	<ul style="list-style-type: none"> 学級経営の評価と改善 学級経営の評価と改善策

講座名	対象	人数 (聴講者を含む)	期日	内 容
初任者研修 (小学校) 学習指導基礎講座	令和5年度初任者 研修(小学校)対 象教諭	小62	6/8	<ul style="list-style-type: none"> ・授業づくりの基礎・基本 ・「主体的な学び」の授業を目指して
初任者研修 (小学校) 学習指導基礎講座	令和5年度初任者 研修(小学校)対 象教諭	小62	11/2	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が協力し、実践する学級活動の展開 ・情報モラルの指導について ・児童がよりよく生きるための道徳科の展開
初任者研修 (中学校) 学級経営基礎講座	令和5年度初任者 研修(中学校)対 象教諭	中47	5/18	<ul style="list-style-type: none"> ・学級経営の意義とねらい ・学級経営を支える「道徳科」の授業の在り方 ・生徒や保護者との信頼関係の築き方 ・教師のメンタルヘルスについて
初任者研修 (中学校) 学級経営基礎講座	令和5年度初任者 研修(中学校)対 象教諭	中47	8/31	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導の進め方 ・一人一人を大切にす学級経営 ～いじめ・不登校への対応～ ・一人一人を大切にす学級経営 ～特別支援教育の視点から～ ・学級活動を核とした学級経営
初任者研修 (中学校) 教科等教育 基礎講座	令和5年度初任者 研修(中学校)対 象教諭	中46	6/1～6/2	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが主体的・対話的で深い学びに向かう授業づくり ・授業改善に向けて ・社会人としてのビジネスマナー 講師：オフィス円香 代表 大坂 彰子 ・単元計画の作成
初任者研修 (中学校) 教科等教育 基礎講座	令和5年度初任者 研修(中学校)対 象教諭	中46	10/12	<ul style="list-style-type: none"> ・特別活動の果たす役割 ・総合的な学習の時間の進め方 ・教科指導におけるICT活用
初任者研修 (中学校) 教科等教育 基礎講座	令和5年度初任者 研修(中学校)対 象教諭	中45	11/16	<ul style="list-style-type: none"> ・情報モラルとデジタル・シティズンシップの指導 ・授業実践を振り返って ・採用初年度のこれまでの実践を振り返って
初任者研修 (高等学校) 教職基礎講座	令和5年度初任者 研修(高等学校)対 象教諭	高17	4/13～4/14	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の服務規律について ・教職員のメンタルヘルス 講師：弘前医療福祉大学 教授 小玉 有子 ・社会人としてのマナー 講師：国家資格キャリアコンサルタント 森 岩樹 ・初任者研修ガイダンス ・生徒理解への取組 ・温かい人間関係づくり ・特別な配慮を要する生徒への対応 ・初任者に期待すること
初任者研修 (高等学校) 教科教育基礎講座	令和5年度初任者 研修(高等学校)対 象教諭	高17	5/18～5/19	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で身に付けさせる資質・能力 ・資質・能力を育む授業づくり

講座名	対象	人数 (聴講者を含む)	期日	内容
初任者研修 (高等学校) 教科教育基礎講座	令和5年度初任者 研修(高等学校) 対象教諭	高17	6/15～6/16	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用した授業づくり ・ユニバ-サルデザインを取り入れた授業づくり ・主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくり ・資質・能力を育む授業の工夫
初任者研修 (高等学校) 教科教育基礎講座	令和5年度初任者 研修(高等学校) 対象教諭	高17	11/9～11/10	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの授業の振り返り ～授業改善に向けて～ ・資質・能力を育む学習指導と評価の工夫
初任者研修 (高等学校) ホームルーム 経営基礎講座	令和5年度初任者 研修(高等学校) 対象教諭	高17	7/27～7/28	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームルーム担任としての心構え ・SOSの出し方教育 ・不登校への理解と対応 ・いじめと問題行動への理解と対応 ・特別活動におけるホームルーム活動 ・ホームルーム担任としての在り方 ・ホームルーム経営目標の作成
初任者研修 (高等学校) 協力校研修	令和5年度初任者 研修(高等学校) 対象教諭	高17	10/19,20, 26,27	<ul style="list-style-type: none"> ・本日の授業について ・参観授業について
初任者研修 (高等学校) まとめ研修	令和5年度初任者 研修(高等学校) 対象教諭	高17	1/6	<ul style="list-style-type: none"> ・教育活動全体で進める道德教育 ・探究的な学びに向けて ・学校において初任者に期待すること ・1年間の研修を振り返る～学び続ける教員となるために～
初任者研修 (特別支援 学校)教職 基礎講座	令和5年度初任者 研修(特別支援学 校)対象教諭	特38	4/13～4/14	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の服務規律について ・教職員のメンタルヘルス 講師：弘前医療福祉大学 教授 小玉 有子 ・社会人としてのマナー 講師：国家資格キャリアコンサルタント 森 岩樹 ・初任者に期待する ・本県の特別支援教育 ・効果的な協議・発表の仕方 ・初任者研修を終えて ・新たに教員になって
初任者研修 (特別支援 学校)特別 支援教育指 導法基礎講 座	令和5年度初任者 研修(特別支援学 校)対象教諭	特37	5/25～5/26	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学校の教育課程 ・自立活動の基礎・基本 ・障害特性に応じた指導 ・個別の指導計画の作成と活用 ・障害のある幼児児童生徒の実態把握と目標設定

講座名	対象	人数 (聴講者を含む)	期日	内 容
初任者研修 (特別支援 学校)特別 支援教育指 導法基礎講 座	令和5年度初任者 研修(特別支援学 校)対象教諭	特37	6/29～6/30	<ul style="list-style-type: none"> ・子供が主体的・対話的で深い学びに向かう授業づくり ～教科指導の基礎・基本～ ・特別支援学校における授業づくり ～教科別の指導・各教科等を合わせた指導の基礎・基本～ ・特別支援学校における授業実践 ・特別支援学校における授業づくり ～ICTの活用～ ・一人一人のニーズに応じた指導 ～授業づくり～
初任者研修 (特別支援 学校)特別 支援教育指 導法基礎講 座	令和5年度初任者 研修(特別支援学 校)対象教諭	特35	11/30～12/1	<ul style="list-style-type: none"> ・学習評価の基本的な在り方 ・一人一人のニーズに応じた指導 ～評価と改善～ ・小・中学校等における特別支援教育 ～インクルーシブ教育システムの観点から～
初任者研修 (特別支援 学校)学級 経営基礎講 座	令和5年度初任者 研修(特別支援学 校)対象教諭	特38	4/28	<ul style="list-style-type: none"> ・学級経営の基礎・基本 ・保護者との関係づくり ・学級経営で大切なこと
初任者研修 (特別支援 学校)生徒 指導基礎講 座	令和5年度初任者 研修(特別支援学 校)対象教諭	特37	6/8～6/9	<ul style="list-style-type: none"> ・発達を踏まえた幼児児童生徒の理解 ・特別支援教育における教育相談 ・生徒指導上の課題への対応 ～情報モラル～ ・生徒指導上の課題への対応 ～いじめ・不登校～ ・発達障害の理解と支援 ・青森県発達障害者支援センターの役割について 講師：青森県発達障害者支援センター 「わかば」 所長 今 幸子 ・安心・安全な生活を支える児童相談所の機能 講師：青森県中央児童相談所・女性相談所 総括主幹 石田 大地 ・生徒指導における幼児児童生徒理解
初任者研修 (特別支援 学校)まと め研修	令和5年度初任者 研修(特別支援学 校)対象教諭	特37	1/11	<ul style="list-style-type: none"> ・これからの教員に期待すること 講師：県立青森第二高等養護学校 前校長 奈良岡 守 ・1年間の研修を振り返って ～実地研修、校外研修をとおして～

イ 新規採用者研修

講座名	対象	人数 (聴講者を含む)	期日	内容
新規採用養護教諭研修	令和5年度採用養護教諭	小3 中3 特1	5/25～5/26	<ul style="list-style-type: none"> ・学校保健の現状と課題 ・養護教諭に関する法規と職務内容 ・スクールカウンセラーとの連携 ・感染症・食中毒の知識 ・養護教諭が行う救急処置活動 講師：女子栄養大学 教授 遠藤 伸子 <ul style="list-style-type: none"> ・社会人としてのマナー 講師：オフィス円香 代表 大坂 彰子
新規採用養護教諭研修	令和5年度採用養護教諭	小3 中3 特1	7/27～7/28	<ul style="list-style-type: none"> ・養護教諭が行う健康相談の考え方と進め方 ・学校管理下における災害 講師：独立行政法人日本振興センター 課長補佐 千葉 清文 主任 小関 伽奈 <ul style="list-style-type: none"> ・発達障害の理解と対応 ・保健室経営について
新規採用養護教諭研修	令和5年度採用養護教諭	小3 中3 特1	12/19～12/20	<ul style="list-style-type: none"> ・保健教育の工夫 ・学校における健康教育の進め方 ～健康状態の評価、健康問題の原因と分析と対応、健康診断の事前・事後措置～ ・養護教諭のメンタルヘルス ・心肺蘇生法の理解と実習 ～様々な状況への対応～ 講師：日本赤十字社青森県支部 救急法指導員 佐藤 千雪 中堤 大介 <ul style="list-style-type: none"> ・保健室経営について ～学級（HR）担任との連携～ ・養護教諭のためのICT活用
新規採用公立学校事務職員研修	令和5年度採用の公立学校事務職員（臨時事務職員を含む）	小9 中9 高2	5/25～5/26	<ul style="list-style-type: none"> ・服務について ・給与制度について ・福利厚生制度について ・学校における事務職員としての役割 ・旅費制度について ・社会人としてのマナー 講師：オフィス円香 代表 大坂 彰子

講座名	対象	人数 (聴講者を含む)	期日	内 容
新規採用県立学校実習助手研修(前期)(後期)	令和5年度採用県立学校実習助手	高1 特1	前期 4/13 後期 9/1	<p>前期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の服務規律について ・教職員のメンタルヘルス <p>講師：弘前医療福祉大学 教授 小玉 有子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会人としてのマナー <p>講師：国家資格キャリアコンサルタント 森 岩樹</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習助手の職務について <p>後期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育の視点に立った生徒理解への取組 ・実習助手の職務と課題について ・学校における人間関係づくり・役割について ・私の実践発表 ・ICT機器の接続 ・実習時における安全管理について
幼児教育基礎講座	幼稚園教諭、保育教諭	幼・こ・保 14	5/22	<ul style="list-style-type: none"> ・青森県の幼児教育 ・特別な配慮を要する幼児との関わり方 ・健やかな成長のための環境と習慣づくり <p>講師：千葉幼稚園 園長 岡本 潤子</p>
幼児教育基礎講座	幼稚園教諭、保育教諭	幼・こ・保 14	9/29	<ul style="list-style-type: none"> ・素材に親しみ工夫して遊ぶためのつくる活動 ・幼児期における発達の理解と幼小連携 <p>講師：弘前大学 准教授 武内 裕明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育の展開と援助の在り方 <p>講師：青森明の星短期大学 准教授 高橋 多恵子</p>

ウ 経験者研修

講座名	対象	人数 (聴講者を含む)	期日	内 容
小・中学校フォローアップ(2年次)研修講座(前期)(後期)	令和4年度初任者研修(小学校)(中学校)対象教諭 前年度までの受講対象者のうち、本研修を受講又は修了していない者	小50 中27	前期 5/31 後期 12/15	<ul style="list-style-type: none"> ・教員2年目としての心構え ・学びと社会を関連付けるキャリア教育の実践 ・学習指導を振り返る ・実践を振り返って(中堅教諭等資質向上後期研修と合同) ・カリキュラム・マネジメントの実際
高等学校フォローアップ(2年次)研修講座	令和4年度初任者研修(高等学校)対象教諭 前年度までの受講対象者のうち、本研修を受講又は修了していない者	高27	5/23～5/24	<ul style="list-style-type: none"> ・学び続ける教員を目指して ・創意を生かしたホームルーム経営 ・ホームルーム担任のための教育相談 ～保護者との連携を深めるために～ ・ホームルームにおける課題解決に向けて ・学校安全と危機管理 <p>講師：日本災害医学会 災害セミナーインストラクター 吉川 靖之</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思考力を引き出す教科指導

講座名	対象	人数 (聴講者を含む)	期日	内容
特別支援学校フォローアップ(2年次)研修講座	令和4年度初任者研修(特別支援学校)対象教諭 前年度までの受講対象者のうち、本研修を受講又は修了していない者	特32	9/21~9/22	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の指導計画に基づく授業改善 講師：東北福祉大学 教授 大西 孝志 ・授業検討 ・これからの教員に求められること
養護教諭フォローアップ(2年次)研修講座	令和4年度新規採用養護教諭研修対象者 前年度までの受講対象者のうち、本研修を受講又は修了していない者	小6 中3 特1	10/31	<ul style="list-style-type: none"> ・保健室経営について ・現代的健康課題に対応した保健室経営について
栄養教諭・学校栄養職員フォローアップ(2年次)研修講座	令和4年度新規採用栄養教諭・学校栄養職員研修対象者 前年度までの受講対象者のうち、本研修を受講又は修了していない者	中1 特1	6/30	<ul style="list-style-type: none"> ・給食業務の実際 ・給食業務の実際・管理運営上の諸問題 ・教科等における食に関する指導の実際 ・児童生徒の心理
中堅教諭等資質向上前期研修(小・中学校)共通講座	令和5年度中堅教諭等資質向上研修(前期)対象者(小・中学校)	小69 中32	7/4~7/5	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の理解と指導について振り返る ・“児童生徒が育つ”働きかけ 講師：日本大学 文理学部 教授 藤平 敦 ・特別の教科 道徳の授業づくり ・後期中堅教諭までの研修プランを考える ・中堅前期教諭に期待すること
中堅教諭等資質向上前期研修(高等学校)共通講座	令和5年度中堅教諭等資質向上研修(前期)対象者(高等学校)	高63	5/16	<ul style="list-style-type: none"> ・前期中堅教諭に期待すること ～本県教育の現状と課題をふまえて～ ・地域との連携・協働を生かしたキャリア教育 ・いじめのない学校づくり ～情報モラル教育～ ・いじめ・不登校のない学校づくり ～温かいホームルームづくり～ ・保護者との連携について
中堅教諭等資質向上前期研修(高等学校)共通講座	令和5年度中堅教諭等資質向上研修(前期)対象者(高等学校)	高65	9/12	<ul style="list-style-type: none"> ・これからの学校教育を考える ～生徒の主体的・対話的で深い学びのために～ ・「主体的・対話的で深い学び」の視点で行う授業改善
中堅教諭等資質向上前期研修(特別支援学校)共通講座	令和5年度中堅教諭等資質向上研修(前期)対象者(特別支援学校)	特31	5/16	<ul style="list-style-type: none"> ・前期中堅教諭に期待すること ～本県教育の現状と課題をふまえて～ ・関係機関との連携 ・主体的・対話的で深い学びとキャリア発達支援 講師：弘前大学教職大学院 教授 菊地 一文

講座名	対象	人数 (聴講者を含む)	期日	内 容
中堅教諭等 資質向上前期 研修(特別支 援学校)共通 講座	令和5年度中 堅教諭等資質 向上研修(前 期)対象者(特 別支援学校)	特30	10/18	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善 講師：上越教育大学大学院 教授 村中 智彦 ・メインティーチャーとしてのティーム ティーチング ・授業を見直す
中堅教諭等 資質向上前期 ・後期研修 (養護教諭)	令和5年度中 堅教諭等資質 向上研修(前 期)対象者(養 護教諭) 令和5年度中 堅教諭等資質 向上研修(後 期)対象者(養 護教諭)	小15 中 8 高 3 特 4	6/22～6/23	<ul style="list-style-type: none"> ・健康教育の今日的課題 ・養護教諭に関する法規と職務内容 ・救急処置の理論・応用 講師：日本赤十字社青森県支部 救急法指導員 山野内 博見 船橋 訓子 岩井 雄太郎 小寺 芳人 三浦 一郎 大坂 美保 ・保健教育の在り方/保健教育の実際 講師：鎌倉女子大学 藤原 昌太
中堅教諭等 資質向上前期 ・後期研修 (養護教諭)	令和5年度中 堅教諭等資質 向上研修(前 期)対象者(養 護教諭) 令和5年度中 堅教諭等資質 向上研修(後 期)対象者(養 護教諭)	小14 中 8 高 3 特 4	11/21～11/22	<ul style="list-style-type: none"> ・学校環境衛生と保健室における薬剤管理 講師：青森大学 教授 川村 仁 ・中堅養護教諭の役割と資質能力の向上 講師：神奈川県立保健福祉大学 准教授 高橋 佐和子 ・中央研修会伝達 ・SOSの出し方教育 ・ネットトラブルへの対応 ・危機管理と保護者対応
中堅教諭等 資質向上前期 ・後期研修 (栄養教諭・学 校栄養職員)	令和5年度中 堅教諭等資質 向上研修(前 期)対象者(栄 養教諭・学校 栄養職員) 令和5年度中 堅教諭等資質 向上研修(後 期)対象者(栄 養教諭・学校 栄養職員)	小 3 中 2	6/22～6/23	<ul style="list-style-type: none"> ・健康教育の今日的課題 ・歯と口に関する基礎知識 ・衛生管理責任者の役割 ・保健教育の在り方・保健教育の実際 講師：鎌倉女子大学 講師 藤原 昌太
中堅教諭等 資質向上前期 ・後期研修 (栄養教諭・学 校栄養職員)	令和5年度中 堅教諭等資質 向上研修(前 期)対象者(栄 養教諭・学校 栄養職員) 令和5年度中 堅教諭等資質 向上研修(後 期)対象者(栄 養教諭・学校 栄養職員)	小 3 中 2	10/5～10/6	<ul style="list-style-type: none"> ・教科等における食に関する指導 ・栄養教諭・学校栄養職員の食に関する指 導の在り方と進め方 ・食に関する指導の充実 ・児童生徒の心理 ・給食業務の実際 ・アレルギー対応食の取組 ・健康教育と栄養教諭・学校栄養職員の役 割

講座名	対象	人数 (聴講者を含む)	期日	内容
中堅事務職員資質向上前期・後期研修(小・中学校)	平成24年度及び平成30年度に公立学校(小・中学校)の事務職員として採用された者 受講を希望する公立学校(小・中学校)の事務職員(臨時事務職員を含む)	小9 中5	9/7	<ul style="list-style-type: none"> ・小・中学校教職員の身分制度と服務 ・学校における情報公開と個人情報 ・これからの学校組織と事務職員の役割 ・学校における事務職員の役割
中堅教諭等資質向上後期研修(小・中学校)スクールマネジメント講座	令和5年度中堅教諭等資質向上研修(後期)対象者(小・中学校)	小18 中21	7/6~7/7	<ul style="list-style-type: none"> ・中堅教諭に必要なマネジメント意識 講師：上越教育大学大学院 教授 安藤 知子 ・協働で取り組む校務分掌 ・協働で取り組む特別支援教育 ・協働で取り組む職場のメンタルヘルス 講師：弘前医療福祉大学 教授 小玉 有子 ・協働で取り組む危機管理 ・P D C A サイクルを基にした授業実践に向けて
中堅教諭等資質向上後期研修(小・中学校)授業実践力アップ講座	令和5年度中堅教諭等資質向上研修(後期)対象者(小・中学校)	小18 中21	12/14~12/15	<ul style="list-style-type: none"> ・P D C A サイクルを基にした授業の自己評価 ・同僚性を発揮した授業改善のために ・P D C A サイクルを基にした授業改善に向けて ・同僚性を高める実践に向けて ・中堅後期研修後に向けたキャリアデザイン ・中堅後期教員に期待すること
中堅教諭等資質向上後期研修(高等学校)共通講座	令和5年度中堅教諭等資質向上研修(後期)対象者(高等学校)	高58	6/27~6/28	<ul style="list-style-type: none"> ・これからの教育の担い手として ~カリキュラム・マネジメント~ 講師：國學院大學 教授 田村 学 ・教職員の服務規律について ・組織で取り組むメンタルヘルス 講師：弘前医療福祉大学 教授 小玉 有子 ・学校改善に向けた組織的な取組 講師：弘前大学教職大学院 教授 菊地 一文 教授 三戸 延聖 教授 甲田 隆 教授 吉田 美穂 ・温かい人間関係づくり ~保護者・同僚との接し方~ ・配慮を要する生徒への組織対応

講座名	対象	人数 (聴講者を含む)	期日	内 容
中堅教諭等 資質向上後 期研修(高 等学校)共 通講座	令和5年度中堅教 諭等資質向上研修 (後期)対象者(高 等学校)	高59	8/25	<ul style="list-style-type: none"> 生徒を生かす学習指導 講師：教育コンサルタント 盛岡白百合学園 (元花巻北高等学校長) 講師 下町 壽男 資質・能力を育む学習指導と評価の工夫 資質・能力を育む授業づくりに向けて
中堅教諭等 資質向上後 期研修(高 等学校)共 通講座	令和5年度中堅教 諭等資質向上研修 (後期)対象者(高 等学校)	高53	12/8	<ul style="list-style-type: none"> 授業改善に向けた取組 後期中堅教諭に期待すること
中堅教諭等 資質向上後 期研修(特 別支援学 校)共通講 座	令和5年度中堅教 諭等資質向上研修 (後期)対象者(特 別支援学校)	特26	6/27～6/28	<ul style="list-style-type: none"> これからの教育の担い手として ～カリキュラム・マネジメント～ 講師：國學院大學 教授 田村 学 教職員の服務規律について 組織で取り組むメンタルヘルス 講師：弘前医療福祉大学 教授 小玉 有子 学校改善に向けた組織的な取組 講師：弘前大学教職大学院 教授 菊地 一文 教授 甲田 隆 教授 三戸 延聖 教授 吉田 美穂 本県の特別支援教育の現状と課題 中堅教員としての資質向上に向けて
中堅教諭等 資質向上後 期研修(特 別支援学 校)共通講 座	令和5年度中堅教 諭等資質向上研修 (後期)対象者(特 別支援学校)	特24	9/6	<ul style="list-style-type: none"> 主体的・対話的で深い学びの実現に向け た組織的な授業改善 講師：北海道教育大学函館校 教授 北村 博幸 自校の教育活動についての課題分析と改 善策の検討
中堅教諭等 資質向上後 期研修(特 別支援学 校)共通講 座	令和5年度中堅教 諭等資質向上研修 (後期)対象者(特 別支援学校)	特26	12/8	<ul style="list-style-type: none"> 障害のある生徒の自立と社会参加 講師：独立行政法人 国立特別支援教育 総合研究所 主任研究員 榎本 容子 学校安全に向けた組織的な取組 後期中堅教諭として期待すること

職 務 研 修

講 座 名	対 象	人数 (聴講者を含む)	期 日	内 容
校長研修講座（前期） （後期） <指定>	小学校、中学校、 高等学校、特別支 援学校の新任校長 前年度までの受講 対象者のうち、本 研修を受講又は修 了していない者	小33 中24 高 9 特 2	前期 4/26 後期 7/25	前期 ・新任校長に期待する ・学校における情報公開・個人情報保護 ・私の学校経営（校種別） ・学校課題への取組（校種別） 後期 ・学校の組織力とスクールリーダーシップ 講師：筑波大学 教授 浜田 博文
教頭研修講座（前期） （後期） <指定>	小学校、中学校、 高等学校、特別支 援学校の新任教頭 前年度までの受講 対象者のうち、本 研修を受講又は修 了していない者	小26 中30 高17 特 4	前期 5/9 後期 8/29	前期 ・新任教頭・新任事務長に望むこと ・教育法規について ・学校におけるリスクマネジメント 講師：有限会社 エンカツ社 代表取締役社長 宇於崎 裕美 後期 ・教頭の職務と役割 後期 ・学校組織を活性化させるためのマネジメント 講師：兵庫教育大学大学院 特任教授 浅野 良一
県立学校事務長研修講座（前期） （後期） <指定>	高等学校、特別支 援学校の新事務長 ・事務長心得 前年度までの受講 対象者のうち、本 研修を受講又は修 了していない者	特 1	前期 5/9 後期 8/29	前期 ・新任教頭・新任事務長に望むこと ・教育法規について ・学校施設の管理について ・情報公開・個人情報保護について 後期 ・事務長の職務と役割について ・学校事務室経営について
教務主任研修講座 <一部指定>	小学校、中学校、 高等学校、特別支 援学校の教務主任 （指定）新任教務 主任 （希望）教務主任	小22 中24 高20 特 4	5/17	・教務主任に期待する ・教育活動と教育法規について ・教務主任の職務について（講義） ・教務主任の職務について（協議）
学年主任研修講座 <一部指定>	小学校、中学校、 高等学校、特別支 援学校の学年主任 （指定）新任学年 主任 （希望）学年主任、 その他学年経営の 中核となる教員	小15 中30 高17 特13	5/30	・学年主任の役割とは ・組織経営とミドルリーダー 講師：日本大学 教授 藤平 敦
保健主事研修講座 <一部指定>	小学校、中学校、 高等学校、特別支 援学校の保健主事 （指定）新任保健 主事 （希望）保健主事 及び学校保健活動 の中核となる教員	小17 中12 高 9 特11	5/29	・保健主事の職務と役割 ・学校保健活動の実践 ～健康教育実践研究支援事業指定校として～ ・保健主事としての取組について

講座名	対象	人数 (聴講者を含む)	期日	内 容
生徒指導主任・主事研修講座 <一部指定>	小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の生徒指導主任・主事 (指定) 新任生徒指導主任・主事 (希望) 生徒指導主任・主事、その他生徒指導の中核となる教員	小24 中21 高 8 特11	4/27	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導主任・主事の役割と生徒指導上の諸課題への対応 ・県内の生徒指導上の諸課題について ・不登校・いじめを生まない魅力ある学校づくりを目指して 講師：国立教育政策研究所 生徒指導・進路指導研究センター 総括研究官 高橋 典久
中学校進路指導担当者研修講座	中学校、特別支援学校 中学校の進路指導主事及び進路指導に関わる教員	中10 特 1	5/26	<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導の考え方と進路指導主事の役割 ・自校における進路指導の課題と対策 ・自校における進路指導の進め方
校内研修担当者研修講座(前期) (後期)	小学校、中学校の新任研修主任 特別支援学校の新任研修担当教員 上記以外で希望する教員	小26 中19 特 6	前期 5/15 後期 8/18	前期 <ul style="list-style-type: none"> ・研修主任の職務 ・校内研修の充実・活性化 ・本校の校内研修 後期 <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラム・マネジメントと校内研修 講師：甲南女子大学 教授 村川 雅弘 ・校内研修プランの見直しと今後の対策
道徳教育推進教師研修講座	小学校、中学校の新任道徳教育推進教師 特別支援学校の新任道徳教育担当教員 上記以外で希望する教員	小 6 中15 特16 その他2	6/6～6/7	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳教育推進教師の役割と取組 ・我が校の道徳教育 ・学校の特色を生かした道徳教育 講師：十文字学園女子大学 教授 浅見 哲也 ・自校の特色を生かした道徳教育展開プランづくり
特別支援教育コーディネーター研修講座 <一部指定>	小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、幼稚園等の特別支援教育コーディネーター (指定) 教頭以外の新任特別支援教育コーディネーター (希望) 新任以外の特別支援教育コーディネーター (希望) 特別支援教育コーディネーターの教頭	小12 中 9 高 3 特10	6/6	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育コーディネーターの役割 ・特別支援教育コーディネーターの実践 ・事例検討の進め方
養護教諭研修講座	小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の養護教諭、養護助教諭	小 6 中 5 高 2 特 1	9/6	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒヤリ・ハット事例から学ぶ保健管理・危機管理 講師：女子栄養大学 教授 大沼 久美子

講座名	対象	人数 (聴講者を含む)	期日	内容
食育研修講座	小学校、中学校、特別支援学校の教諭、養護教諭、栄養教諭、学校栄養職員	小12 中4 特3	7/28	<ul style="list-style-type: none"> ・特別活動における食育の授業づくり ・子どもの食育活動の充実に向けて 講師：文部科学省初等中等教育局 健康教育・食育課 食育調査官 山上 望
県立学校事務職員研修講座	高等学校、特別支援学校の事務職員（臨時事務職員を含む）	高4 特1	10/4	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の勤務条件について ・学校における災害対応 講師：日本赤十字社青森県支部 事業推進課長 山野内 博見 <ul style="list-style-type: none"> ・就学支援金の手続きについて
県立学校臨時講師等研修講座	令和5年度に採用された高等学校、特別支援学校の臨時講師・臨時養護助教諭（本研修講座当日において勤務している者）	高19 特14	4/11～4/12	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員としての心構え ・教職員の服務規律について ・学校安全について ・生徒理解について ・教職員として知っておきたいこと ～情報セキュリティについて～ ～特別支援教育について～ ・教科指導について ・教育課程・特別支援教育について ・各教科における指導について ・指導上の課題とその対応について
県立学校臨時講師等研修講座	令和5年度に採用された高等学校、特別支援学校の臨時講師・臨時養護助教諭（本研修講座当日において勤務している者）	特6	10/10～10/11	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員としての心構え ・教職員の服務規律について ・学校安全について ・生徒理解について ・教職員として知っておきたいこと ～情報セキュリティについて～ ～特別支援教育について～ ・教科指導について ・教育課程・特別支援教育について ・各教科における指導について ・指導上の課題とその対応について
寄宿舎指導員研修講座	特別支援学校の寄宿舎指導員、臨時寄宿舎指導員	特16	7/26	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の服務について ・身に付けさせたい社会生活力 講師：青森大学 教授 船木 昭夫 <ul style="list-style-type: none"> ・寄宿舎指導員としての私の実践 ・寄宿舎における指導・支援

専 門 研 修
ア 教科研修

講 座 名	対 象	人数 (聴講者を含む)	期 日	内 容
「考え、議論する道徳」の授業づくり研修講座	小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校教員	小 8 中10 特 8 その他7	10/30～10/31	<ul style="list-style-type: none"> ・「考え、議論する道徳」の実現に向けて ・「考え、議論する道徳」の授業づくり ・「特別の教科 道徳」の教材研究と授業構想 講師：秋田公立美術大学 副学長 毛内 嘉威 ・「特別の教科 道徳」の授業改善とICT活用 ・「考え、議論する道徳」の授業実践
小学校国語科授業づくり講座〔読むこと〕	小学校及び特別支援学校小学部教員 特別支援学校中学部・高等部の国語科担当教員	小15 特 4 その他2	8/29～8/30 一部オンライン 講義	<ul style="list-style-type: none"> ・読む力を育てる授業改善 ・読む力を育てる言語活動 ・タブレット端末を活用した国語科の授業 ・主体的・対話的で深い学びを実現する「読むこと」の指導 オンライン 講師：京都女子大学 教授 水戸部 修治 ・書く力を育てる単元構想
中学校国語科授業づくり講座	中学校国語科担当及び特別支援学校中学部・高等部の国語担当教員	中 7 特 3	6/22～6/23	<ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」指導の授業改善 ・「読むこと」指導の授業改善 ・ICTを活用した国語科の授業 ・「深い学び」の実現に向けた授業づくりの考え方 講師：岩手大学 教授 藤井 知弘 ・「深い学び」を実現する授業づくり 講師：岩手大学 教授 藤井 知弘
高等学校国語科授業づくり講座	高等学校国語科担当及び特別支援学校高等部の国語担当教員	高13	6/20～6/21	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的・対話的で深い学びを実現する授業づくり 講師：筑波大学 教授 島田 康行 ・主体的・対話的で深い学びを実現する指導と評価の工夫 ・主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善
主体的・対話的で深い学びを実現する国語科「言語活動」実践力アップ講座	小学校、中学校、高等学校の国語科担当教員 特別支援学校小学部、特別支援学校中学部・高等部の国語担当教員	小 6 中 8 高 7 特 4	7/13～7/14	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの成長に応じた言語活動の実践 ・主体的・対話的で深い学びを実現する言語活動の実践 ・主体的・対話的で深い学びを実現する言語活動のモデルづくり〔話すこと・聞くこと〕 ・新聞で育てる言語能力 講師：東奥日報 販売局NIE・NIB推進部 次長 三浦 博史 部長 久保 信行 主任 安田 武史 ・主体的・対話的で深い学びを実現する言語活動のモデルづくり〔書くこと〕

講座名	対象	人数 (聴講者を含む)	期日	内容
考える力を高める小学校社会科教育講座	小学校及び特別支援学校小学部教員	小12 その他3	9/14～9/15	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的・対話的で深い学びの実現を目指す問題解決的な学習の授業改善 ・ICTを活用した社会科の授業 ・思考力、判断力、表現力等を育てる社会科教育の実践 ・主体的・対話的で深い学びの実現を目指す問題解決的な学習の在り方 講師：大妻女子大学 教授 澤井 陽介
中学校社会科教育講座	中学校社会科担当及び特別支援学校中学部社会科担当教員	小1 中10 特1 その他1	9/14～9/15	<ul style="list-style-type: none"> ・思考力、判断力、表現力等の育成を図る社会科の授業 ・ICTを活用した社会科の授業 ・思考力、判断力、表現力等の育成を図る社会科の授業実践 ・主体的・対話的で深い学びの実現を目指す問題解決的な学習の在り方 講師：大妻女子大学 教授 澤井 陽介
社会科教材開発講座	中学校及び特別支援学校中学部の社会科担当教員 高等学校及び特別支援学校高等部の地理歴史科、公民科教員	小1 中2 高2 特3	7/24～7/25 一部オンライン 講義	<ul style="list-style-type: none"> ・資質・能力を育む授業づくりに向けて ・裁判員制度及び刑事事件について 講師：青森地方裁判所弘前支部 裁判官 渋谷 俊介 ・刑事裁判の傍聴等 講師：青森地方裁判所弘前支部 裁判官 渋谷 俊介 ・「社会的な見方・考え方を働かせる授業づくり ～法教育を中心に～ オンライン 講師：福井大学 教授 橋本 康弘 ・「社会的な見方・考え方を働かせる授業づくり（演習）」 ・「社会的な見方・考え方を働かせる授業づくり（協議）」
高等学校地理歴史科公民科教育講座	高等学校及び特別支援学校高等部の地理歴史科、公民科教員	高12 特2	8/31～9/1	<ul style="list-style-type: none"> ・資質・能力を育む「歴史総合」の授業づくり 講師：文部科学省初等中等教育局 教科調査官 空 健太 ・思考力を深めるICTを活用した授業づくり ・金融リテラシーを育む「公共」の授業づくり 講師：東洋大学文学部 教授 栗原 久 ・社会的な見方・考え方を働かせる授業づくりに向けて
小学校算数科教育講座	小学校及び特別支援学校小学部教員	小23 特3 その他5	7/27	<ul style="list-style-type: none"> ・既習をいかす授業づくり ・指導と評価の一体化に向けた授業の在り方 講師：国立教育政策研究所 教育課程調査官 笠井 健一

講座名	対象	人数 (聴講者を含む)	期日	内 容
小学校算数 科授業づくり 講座	小学校及び特別支 援学校小学部教員	小29 特 3 その他3	8/16	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末を活用した算数科の授業 ・数学的な見方・考え方を広げる授業 ・深い学びのある授業 講師：弘前大学大学院教育学研究科 教授 中野 博之
中学校数学 科教育講座	中学校数学担当及 び特別支援学校中 学部数学担当教員	中 8 特 1 その他1	6/29	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの資質・能力を育む授業 講師：国立教育政策研究所 教育課程調査官 水谷 尚人 <ul style="list-style-type: none"> ・「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業実践
中・高等学 校数学科授 業づくり講 座	中学校、高等学校 及び特別支援学校 中学部・高等部の 数学担当教員	中 4 高12 特 2	8/22～8/23	<ul style="list-style-type: none"> ・問題発見・解決の過程をイメージした授業づくり ・「中高の接続を見通した付けさせたい力」を明確にする ・明確にした課題から改善策を考え、協議する ・ICTを効果的に活用した数学科の授業づくり ・「付けさせたい力」を明確にした授業づくり ・これからの授業づくりに向けて
高等学校数 学科教育講 座	高等学校及び特別 支援学校高等部の 数学担当教員	高14	9/1	<ul style="list-style-type: none"> ・数学における探究的な学び 講師：東京学芸大学大学院 教育学研究科 教授 西村 圭一 <ul style="list-style-type: none"> ・統計教育の充実 ～仮説検定を軸とした数学 ABの授業づくり～ 講師：東京学芸大学大学院 教育学研究科 教授 西村 圭一 <ul style="list-style-type: none"> ・数学的に考える活動を意識した授業づくり
小学校理科 実践力向上 研修講座	小学校及び特別支 援学校小学部教員	小 3 その他1	6/6～6/7	<ul style="list-style-type: none"> ・理科の授業改善の視点 ・観察、実験の工夫 ・問題解決の力を育む観察、実験 ・理科におけるプログラミング学習
小・中学校 理科授業づ くり講座	小学校、中学校、 特別支援学校小学 部及び中学部の理 科担当教員	小 5 中 4	8/17～8/18	<ul style="list-style-type: none"> ・理科の授業改善の視点 ・問題解決の力を育む観察、実験 ・問題解決の力を育む授業づくり ・問題解決の力を育む授業の在り方
中学校理科 実験講座	中学校及び特別支 援学校中学部の理 科担当教員	中13	6/20～6/21	<ul style="list-style-type: none"> ・理科授業改善の視点 ・授業で使える観察・実験の工夫
高等学校理 科研修講座 [物理基礎/ 化学基礎/ 生物基礎/ 地学基礎]	高等学校及び特別 支援学校高等部の 理科担当教員 実習助手も対象	高 8 特 1	6/23	<ul style="list-style-type: none"> ・観察・実験を取り入れた授業づくり ～物理基礎/化学基礎/生物基礎/地学基礎～

講座名	対象	人数 (聴講者を含む)	期日	内容
学びを実感させる高等学校理科研修講座〔物理〕	高等学校及び特別支援学校高等部の理科担当教員 実習助手も対象	高 5	8/30～8/31	<ul style="list-style-type: none"> ・理科の見方・考え方を働かせる授業デザイン ・身近な素材を用いた観察・実験とその教材開発 ・単元を貫く観察・実験を取り入れた授業づくり <ul style="list-style-type: none"> ～資質・能力をバランスよく育むために～ ・思考力・判断力・表現力を引き出す実践とその工夫
学びを実感させる高等学校理科研修講座〔化学〕	高等学校及び特別支援学校高等部の理科担当教員 実習助手も対象	高 6	8/23～8/24	<ul style="list-style-type: none"> ・理科の見方・考え方を働かせる授業デザイン ・身近な素材を用いた観察・実験とその教材開発 ・単元を貫く観察・実験を取り入れた授業づくり <ul style="list-style-type: none"> ～資質・能力をバランスよく育むために～ ・思考力・判断力・表現力を引き出す実践とその工夫
学びを実感させる高等学校理科研修講座〔生物〕	高等学校及び特別支援学校高等部の理科担当教員 実習助手も対象	高 4	7/12～7/13	<ul style="list-style-type: none"> ・理科の見方・考え方を働かせる授業デザイン ・単元を貫く観察・実験を取り入れた授業づくり <ul style="list-style-type: none"> ～資質・能力をバランスよく育むために～ ・地域の素材を用いた観察・実験とその教材開発 ・地域の素材を活用した授業実践とその工夫
時間的・空間的な関係を探る理科野外実習講座〔地学〕	小学校及び特別支援学校小学部教員 中学校、高等学校、特別支援学校中学部・高等部の理科担当教員 実習助手も対象	中 2 高 1	7/10～7/11	<ul style="list-style-type: none"> ・野外観察の方法 ・地域素材の活用の方法 <p>講師：弘前大学 教授 折橋 裕二</p>
学びを実感させる理科実習講座〔天体観察〕	小学校、特別支援学校小学部教員 中学校、高等学校、特別支援学校中学部・高等部の理科担当教員 実習助手も対象	小 4 高 1	10/16	<ul style="list-style-type: none"> ・天体望遠鏡の基本操作 ・天体観察の方法 <p>講師：NPO法人星のソムリエ 理事 甲田 昌樹</p>
気付きの質を高める小学校生活科講座	小学校、特別支援学校小学部、幼稚園等教員	小 5 特 4	9/4～9/5	<ul style="list-style-type: none"> ・気付きの質を高める生活科の授業づくり <p>講師：千葉大学 教授 鈴木 隆司</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気付きの質を高める生活科の授業 ・身近な素材を通じた指導と評価の在り方 ・望ましい動物飼育の在り方

講座名	対象	人数 (聴講者を含む)	期日	内容
感性を育む音楽科実践講座	中学校、特別支援学校中学部の音楽担当教員	中 8 特 2	10/24	・鑑賞から広がるこれからの学び 講師：武蔵野音楽大学 講師 山崎 正彦 ・資質・能力を育む鑑賞の授業づくりについて
豊かな表現力を育む音楽科講座	中学校、高等学校、特別支援学校中学部・高等部の音楽担当教員	小 1 中 6 高 1 特 2	11/28	・表現から広がるこれからの学び 講師：新潟大学 名誉教授 伊野 義博 ・資質・能力を育む授業づくりについて
芸術系教科の資質・能力を育む授業づくり講座	中学校、特別支援学校中学部の音楽または美術担当教員 高等学校、特別支援学校高等部の芸術担当教員	中 3 高 1 特 2	6/30	・芸術科が育む資質・能力について ・資質・能力を育む授業づくり ～単元・題材構成の工夫～ ・資質・能力を育む授業づくり ～指導と評価の一体化について～
「見方・考え方」を働かせて資質・能力を育成する！小学校図工・音楽科講座	小学校、特別支援学校小学部、幼稚園等教員	小 9 特 9 幼・こ・保 3	8/17～8/18	・図画工作科における指導と評価の一体化 講師：文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 小林 恭代 ・「造形的な見方・考え方」を働かせて資質・能力を育成する造形遊び ・「音楽的な見方・考え方」を働かせて資質・能力を育成する表現活動 ・造形と音楽のコラボレーション ・これからの図工と音楽の授業づくり
鑑賞の学びを考える！小学校図工・音楽科講座	小学校及び特別支援学校小学部教員	小 4 その他1	10/23～10/24	・意味や価値をつくりだす鑑賞の学習 ・見方や感じ方を深める美術鑑賞の学び 講師：国立文化財機構文化財活用センター 研究員 小島 有紀子 研究員 飯田 茂雄 ・感性を育むこれからの資質・能力 ・鑑賞から広がるこれからの学び 講師：武蔵野音楽大学 講師 山崎 正彦 ・資質・能力を育む鑑賞の授業づくり
創造活動を通じた学びを考える美術科教育講座	中学校、高等学校、特別支援学校中学部・高等部美術担当教員	中 3 特 3	9/22	・指導と評価の一体化を目指す美術の授業 講師：文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 平田 朝一 ・指導と評価の一体化を目指す美術の授業づくり
見方や感じ方を深める美術科教育講座[鑑賞]	中学校、高等学校、特別支援学校中学部・高等部美術担当教員	中 1 特 3	10/23	・意味や価値をつくりだす鑑賞の学習 ・見方や感じ方を深める美術鑑賞の学び 講師：国立文化財機構文化財活用センター 研究員 小島 有紀子 研究員 飯田 茂雄

講座名	対象	人数 (聴講者を含む)	期日	内容
家庭科教育講座	小学校、特別支援学校小学部教員 中学校、高等学校、特別支援学校中部・高等部の家庭科担当教員	小 2 中 2 高 2 特 5	11/1	・ICTを効果的に活用した調理実習の授業デザイン
中学校技術・家庭科（家庭分野）・高等学校家庭科教育講座	中学校、高等学校、特別支援学校中部・高等部の家庭科担当教員	中 6 高 4 特 3 その他1	8/31	<ul style="list-style-type: none"> ・中・高家庭科における「幼児と高齢者との触れ合いを取り入れた授業」について ・幼児と触れ合う活動を取り入れた家庭科の授業について 講師：社会福祉法人 黎明会 ひなづる 保育園 園長 林 秀雄 ・高齢者の理解や接し方等を取り入れた家庭科の授業について 講師：青森県社会福祉協議会 福祉人材課長 青田 俊枝 ・幼児と高齢者との触れ合いを取り入れた授業デザイン
中学校技術・家庭科教育講座 [材料と加工・生物育成]	中学校及び特別支援学校中学部教員	中 2 特 2	5/25～5/26	<ul style="list-style-type: none"> ・技術・家庭科の学習指導の現状と課題 ・木材製品の設計・製作 ・技術の見方・考え方を働かせた授業づくり
中学校技術・家庭科教育講座 [情報]	中学校及び特別支援学校中学部教員	中 5	9/28～9/29	<ul style="list-style-type: none"> ・技術・家庭科の学習指導の現状と課題 ・ネットワークを利用した双方向性のあるコンテンツの設計・制作 ・計測・制御システムの設計・制作
中学校技術・家庭科教育講座 [エネルギー変換]	中学校及び特別支援学校中学部教員	中 1 特 1	7/26	<ul style="list-style-type: none"> ・エネルギー変換の技術の指導内容と指導計画 ・電気機器の設計・製作
小学校体育科研修講座	小学校及び特別支援学校小学部教員	小12 特 4 その他1	8/17	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用した体育科の授業づくり ・表現運動系の特性や魅力を生かした授業づくり 講師：東海大学 准教授 田巻 以津香
小・中学校体育授業づくり研修講座	小学校、特別支援学校小学部教員 中学校及び特別支援学校中部の保健体育担当教員	小 5 中10 特 2 その他2	9/26	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを活用した体育科・保健体育科の授業づくり ・豊かなスポーツライフの基礎を築く共生体育の在り方 講師：横浜国立大学 教授 梅澤 秋久
豊かなスポーツライフを実現する保健体育授業研修講座	小学校、特別支援学校小学部教員 中学校、高等学校、特別支援学校中部・高等部の保健体育担当教員	中12 高11 特 3	11/17	<ul style="list-style-type: none"> ・体育授業における課題と工夫 ・新学習指導要領に基づいた体育授業づくり 講師：日本女子体育大学 教授 高橋 修一

講座名	対象	人数 (聴講者を含む)	期日	内容
保健授業づくり研修講座	小学校、特別支援学校小学部教員 中学校、高等学校、特別支援学校中学部・高等部の保健体育担当教員	小 1 中 7 高16 特 4	7/24	・保健における課題と工夫 ・新学習指導要領に基づいた保健の授業づくり ～保健におけるがん教育の進め方～ 講師：横浜国立大学 教授 物部 博文
体育授業ICT利活用研修講座	小学校、特別支援学校小学部教員 中学校、高等学校、特別支援学校中学部・高等部の保健体育担当教員	小 3 中 3 高 1 特 1 その他2	8/22	・主体的・対話的で深い学びを支える体育のICT利活用 講師：東京学芸大学 准教授 鈴木 直樹
小学校外国語・外国語活動研修講座	小学校及び特別支援学校小学部教員	小10 中 1 特 4 その他2	6/13	・ICTを活用した外国語・外国語活動の授業づくり ・わたしの実践発表 ・外国語・外国語活動の指導の在り方 講師：東京学芸大学 教授 粕谷 恭子
中学校英語指導法研修講座	中学校、特別支援学校中学部の外国語（英語）科担当教員	中11 特 1	9/25	・中学校英語における課題とICTを活用した授業改善の方向性 ・中学校英語教師に求められる役割 講師：国立教育政策研究所 教育課程調査官 入之内 昌徳
中学校英語授業づくり研修講座	中学校、特別支援学校中学部の外国語（英語）科担当教員	小 1 中13 特 3	10/10	・ICTを活用した英語の授業改善 ・子どもの資質・能力を高める授業づくり 講師：信州大学学術研究院 教授 酒井 英樹
高等学校英語科言語活動実践講座	高等学校、特別支援学校高等部の外国語（英語）科担当教員	高14	7/4～7/5	・生徒の英語運用能力を育成する言語活動の実際 ～授業デザイン、ICT活用、指導と評価の一体化～ ・言語活動を取り入れた授業デザインの構築
高等学校英語指導法改善講座	高等学校、特別支援学校高等部の外国語（英語）科担当教員	高13	8/30～8/31	・英語指導法の改善に向けて 講師：上智大学 教授 和泉 伸一 ・統合的な言語活動を重視した授業づくり
情報科教育講座	高等学校、特別支援学校高等部の情報科担当教員	高 5 特 2	12/5～12/6	・情報科の指導と評価について ・データベースとSQL ・表計算ソフトによるデータの活用と分析 ・プログラミングによるデータの活用と分析 ・情報 の指導について
高等学校プログラミング基礎講座	プログラミングを担当している高等学校及び特別支援学校高等部教員 実習助手も対象	高 9 特 1	9/26～9/27	・プログラミング教育と環境構築 ・アルゴリズムと基本制御構文 ・応用的プログラム ・プログラムの関数化 ・ライブラリとWebAPIの活用 ・事象のモデル化とシミュレーション

講座名	対象	人数 (聴講者を含む)	期日	内容
産業教育指導者講座 (前期)(後期)	高等学校で産業教育に携わる教員 特別支援学校高等部の産業養育担当教員 実習助手も対象	高 8	前期 6/9 後期 9/19	前期 ・本県における産業の現状と展望 講師：株式会社 ジョイ・ワールド・パシフィック 代表取締役 木村 祝幸 ・本県における産業の現状と展望 講師：紅屋商事株式会社 取締役SM事業部 部長 秦 武史 後期 ・探究する学習のデザイン ・学習活動の設計と評価 講師：東北学院大学 教授 稲垣 忠
農業教育指導者講座	高等学校の農業科担当教員 特別支援学校高等部の農業科担当教員 実習助手も対象	高 6 特 1	7/11～7/12	・「指導と評価の一体化」のための学習評価 ・「高等学校における農業教育について」 ・「青森県のスマート農業の取組について」 ・ICTを活用した教科指導の実践 ・GAPやHACCPを取り入れた農業の6次化・ブランド化 講師：タムラファーム株式会社 代表取締役 田村 昌司 ・スマート×有機農業で地域をデザインする 講師：株式会社アグリーンハート 代表取締役 佐藤 拓郎
工業教育指導者講座	高等学校の工業科担当教員 特別支援学校高等部の工業科担当教員 実習助手も対象	高 7	11/7～11/8	・学習指導要領 教科「工業」について ・3Dプリンタ ・シーケンス制御
商業教育指導者講座	高等学校の商業科担当教員 特別支援学校高等部の商業科担当教員 実習助手も対象	高 7	7/11～7/12	・学習指導要領教科「商業」について ・ビジネスゴールを達成するWebマーケティング戦略 講師：株式会社 コンシス 代表取締役 大浦 雅勝 ・ビジネスにおける資産形成とリスク管理 講師：R&C株式会社 青森支社 セミナー推進部 マネージャー 石澤 枝美子 ・主体的・対話的で深い学びを実現する授業デザインの構築

イ 教科外研修

講座名	対象	人数 (聴講者を含む)	期日	内 容
総合的な学習の時間研修講座	小学校、中学校、特別支援学校小学部・中学部教員	小 7 中 3 特 1 その他1	5/29～5/30	<ul style="list-style-type: none"> 総合的な学習の時間の役割 置かれた場所で、夢を叶える方法 講師：有限会社 リンゴミュージック 代表取締役 樋川 新一 探究的な学習の過程で学ぶ総合的な学習の時間 探究的に学ぶ総合的な学習の時間の実践 探究的な学習の過程で取り組む総合的な学習の時間 講師：山形大学学術研究院 教授 野口 徹
高等学校総合的な探究の時間研修講座	高等学校及び特別支援学校高等部教員	高21	9/19	<ul style="list-style-type: none"> 探究する学習のデザイン 学習活動の設計と評価 講師：東北学院大学 教授 稲垣 忠
小・中学校特別活動研修講座	小学校、中学校、特別支援学校小学部・中学部教員	小15 中17 特 2 その他3	8/28	<ul style="list-style-type: none"> 自主的・実践的な態度を育てる学級活動とICTの活用 生きる力の育成と特別活動の役割 講師：文部科学省初等中等教育局 視学官 安部 恭子
教育活動全体をつなぐキャリア教育研修講座	小学校、中学校、高等学校、特別支援学校教員	小 1 中 6 高10 特 6 その他1	9/9	<ul style="list-style-type: none"> いま、なぜキャリア教育なのか？ ～学校教育におけるキャリア教育の役割～ 講師：筑波大学人間系 教授 藤田 晃之 キャリア教育への取組
高等学校における道徳教育講座	高等学校、特別支援学校高等部教員	高36	6/12	<ul style="list-style-type: none"> 高等学校における道徳教育の推進 小・中学校における道徳教育の実践 本校の道徳教育 自校の特色を活かした道徳教育の展開に向けて
高等学校における特別支援教育講座	高等学校教員	高15	10/3	<ul style="list-style-type: none"> 小・中学校における特別支援教育 高等学校における特別支援教育の実践に向けて 高等学校における特別支援教育 ～個別の指導計画の作成に向けて～
「気になる子供」のかかわり方研修講座	小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、幼稚園等教員	小 8 中13 高18 特12 幼・こ・保 7 その他8	9/29	<ul style="list-style-type: none"> 「気になる子供」の視点でかかわり方を見直す 講師：弘前医療福祉大学 教授 小玉 有子
SOSの出し方教育研修講座	小学校、中学校、高等学校、特別支援学校教員	小10 中12 高10 特10 その他5	7/31	<ul style="list-style-type: none"> 子供の安心・安全な生活を支える児童相談所の機能 SOSの出し方教育の実践 講師：中央大学 客員研究員 高橋 聡美

講座名	対象	人数 (聴講者を含む)	期日	内容
今日から始めるいじめ対策研修講座 一部指定	(指定) 小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の新任ハートフルリーダー (希望) 小学校、中学校、高等学校、特別支援学校教員	小 8 中 7 高 11 特12 その他2	5/19	・いじめについての認識と理解 ・いじめの理解といじめ防止のための取組 講師：上越教育大学大学院・いじめ生徒指導研究センター 教授・センター長 高橋 知己
今日から始める保護者対応研修講座	小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、幼稚園等教員	小 8 中10 高 7 特 9 幼・こ・保 9 その他2	9/20	・保護者とのより良い関係のつくり方 講師：明治大学 教授 諸富 祥彦
今日から始める学級(HR)集団づくり研修講座	小学校、中学校、高等学校、特別支援学校教員	小 6 中 9 高 8 特 3 その他3	8/17	・教育相談アプローチによる学級経営実践 ・より良い学級(HR)集団づくり 講師：文教大学 教授 会沢 信彦
今日から始めるグループ・アプローチ研修講座	小学校、中学校、高等学校、特別支援学校教員	小 6 中 6 高 7 特 7 その他3	8/16	・グループ・アプローチについて 講師：聖徳大学 教授 鈴木 由美 ・グループ・アプローチの実際
今日から始める不登校対策研修講座	小学校、中学校、高等学校、特別支援学校教員	小 2 中15 高10 特 4 その他5	7/3	・不登校児童生徒の理解・対応とチーム連携 講師：東京家政大学・同大学院 名誉教授・客員教授 相馬 誠一
今日から始める教育相談研修講座	小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、幼稚園等教員	小 3 中 5 高 7 特 2 その他5	10/11	・教育相談の理論と実践 講師：秋田公立美術大学 教授 野々口 浩幸
特別支援教育新担当教員研修講座 [知的、肢体、病弱、通級コース]	小学校、中学校の特別支援学級(弱視、難聴、自閉症・情緒障害)の新担当教員	前期 小38 中21 後期 小34 中21	前期 5/10 後期 10/2	前期 ・特別支援教育の基礎・基本 ・保護者との関係づくり ・障害特性に応じた指導 後期 ・特別支援教育におけるICT活用の基礎・基本 ・特別支援学級、通級指導教室児童生徒の進路 ・障害特性に応じた指導 ～授業改善と評価～

講座名	対象	人数 (聴講者を含む)	期日	内 容
特別支援教育新担当教員研修講座 〔自・情、弱視、難聴コース〕	小学校、中学校の特別支援学級（知的障害、肢体不自由、病弱・身体虚弱）及び通級指導教室の新担当教員	前期 小40 中12 後期 小40 中11	前期 5/23 後期 10/13	前期 ・特別支援教育の基礎・基本 ・保護者との関係づくり ・障害特性に応じた指導 後期 ・特別支援教育におけるICT活用の基礎・基本 ・特別支援学級、通級指導教室児童生徒の進路 ・障害特性に応じた指導 ～授業改善と評価～
自立活動研修講座	小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、幼稚園等教員	小 3 中10 高 2 特 6	6/14	・自立活動の指導の基本的理解 ・カード整理法による実態把握の進め方 講師：筑波大学附属桐が丘特別支援学校 教諭 佐々木 高一 ・「実態把握図」作成による指導すべき課題の整理 ・自立活動の指導の充実に向けて
教育相談（特別支援教育）研修講座	小学校、中学校、高等学校、特別支援学校、幼稚園等教員 寄宿舎指導員も対象	小 1 中 4 高 1 特 9 幼・こ・保 4 その他1	7/14	・本人・保護者の思いに寄り添う教育相談 講師：独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所 上席総括研究員 久保山 茂樹 ・学校における教育相談の実際 ・保護者との面談
特別支援学級授業づくり研修講座	小学校、中学校の特別支援学級担当2年目以降の教員	小 3 中 2	前期 7/25 後期 9～12月から 1日	前期 ・特別支援学級における授業づくり ・授業における課題解決 後期 ・現地研修（授業実践、協議）
特別支援学校授業力アップ講座	特別支援学校採用3年目以降の教員	特 2	前期 7/31 中期 9～11月から 1日 後期 12/6	前期 ・特別支援学校における実践研究の進め方 講師：弘前大学 准教授 天海 丈久 ・PDCAサイクルによる授業改善 中期 ・PDCAサイクルによる授業改善 現地研修（授業実践、協議） 後期 ・授業実践のまとめ方 ・PDCAサイクルによる授業改善 ・PDCAサイクルによる授業改善
特別支援教育におけるICT活用「基礎・基本」研修講座	小学校、中学校の特別支援学級担当教員、特別支援学校教員	小 3 中 3 高 2 特17 その他1	8/30	・特別支援教育におけるICT活用について ～基本的な考え方と実践で大事にしたいこと～ 講師：東北福祉大学 准教授 杉浦 徹 ・特別支援学校におけるICTを活用した実践 ・授業改善に向けて

講座名	対象	人数 (聴講者を含む)	期日	内容
通常の学級のユニバーサルデザイン研修講座	小学校、中学校、高等学校、特別支援学校教員	小29 中12 高10 特5 その他4	10/5	<ul style="list-style-type: none"> 通常の学級における学習のユニバーサルデザイン ～どの子も分かる授業づくり～ 講師：新潟大学大学院 教授 長澤 正樹 ・授業改善に向けて
読み書きに困難のある児童生徒への指導・支援研修講座	小学校、中学校、高等学校教員	小10 中5 高2 特2 その他3	10/20	<ul style="list-style-type: none"> ・読み書きに困難のある児童生徒の学び方を考え支援する 講師：宮城学院女子大学 教授 梅田 真理 ・読み書きの困難さを補うタブレットPCの活用方法
発達支援と教材教具研修講座	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校特別支援学級及び通級指導教室担当教員、特別支援学校教員 ・障害の程度の重い幼児児童生徒の初期の発達について学びたい教員 	小2 特21 幼・こ・保1 その他2	11/7	<ul style="list-style-type: none"> ・発達支援と教材教具 講師：淑徳大学 准教授 池畑 美恵子 ・発達を促す授業の検討
校内LAN講座 [はじめてのネットワーク]	小学校、中学校、高等学校、特別支援学校教員	高4 特2	5/17	<ul style="list-style-type: none"> ・IPアドレスとネットワーク機器 ・PCのネットワーク設定
校内LAN講座 [Windows ServerAD管理]	高等学校、特別支援学校教員	中1 高4 特2	7/25	<ul style="list-style-type: none"> ・ユーザー・グループの管理 ・アクセス権の設定 ・バックアップとリストア
ゼロから学ぶ！ Chromebook 初心者講座	小学校、中学校、高等学校、特別支援学校教員	小1 中1 高2 特2 その他2	6/2	<ul style="list-style-type: none"> ・Chromebookの基本操作 ・標準アプリの活用 ・電子黒板との接続 ・授業への活用
はじめての Google Workspace [Chromebook編]	小学校、中学校、高等学校、特別支援学校教員	小2 中1 高4 その他2	9/5	<ul style="list-style-type: none"> ・クラウドの活用について ・Googleアプリの機能と基本操作 ・Google Classroomの活用
はじめての Google Workspace [iPad編]	小学校、中学校、高等学校、特別支援学校教員	小3 高7 特2	9/5	<ul style="list-style-type: none"> ・クラウドの活用について ・Googleアプリの機能と基本操作 ・Google Classroomの活用

講座名	対象	人数 (聴講者を含む)	期日	内容
はじめての Microsoft Teams	小学校、中学校、 高等学校、特別支 援学校教員	小 7 中 4 高 2	5/30	<ul style="list-style-type: none"> ・クラウドの活用について ・PowerPointによる動画作成 ・OneNoteの基本操作 ・Formsの基本操作 ・Teamsの基本操作 ・OneNoteとTeamsの連携 ・FormsとTeamsの連携
はじめての オンライン 授業実践講 座	小学校、中学校、 高等学校、特別支 援学校教員	中 2 高 5 特 3	6/26	<ul style="list-style-type: none"> ・「個別最適な学びの実現」とオンライン授業 ・オンライン授業における著作権 ・Web会議システムを活用したオンライン授業 ・動画共有サービスを活用したオンライン授業 ・クラウドサービスを活用したオンライン授業
NetCommons 活用講座 (6月開 催)	高等学校、特別支 援学校教員	高 9 特 2	6/20～6/21	<ul style="list-style-type: none"> ・WebページとCMS ・設定・管理画面 ・基本ページの作成 ・プラグインの利用 ・ルーム管理 ・SFTPによるファイル転送 ・総合演習
NetCommons 活用講座 (10月開 催)	高等学校、特別支 援学校教員	小 1 高 3 特 7	10/3～10/4	<ul style="list-style-type: none"> ・WebページとCMS ・設定・管理画面 ・基本ページの作成 ・プラグインの利用 ・ルーム管理 ・SFTPによるファイル転送 ・総合演習
小学校プロ gramming 教育研修講 座	小学校、中学校、 特別支援学校小学 部・中学部教員	小13 特 9	9/13	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校段階におけるプログラミング教育の在り方 講師：弘前大学 教授 上之園 哲也 ・自校におけるプログラミング教育 ・プログラミングツールの演習
幼保小連携 基礎講座	小学校、特別支援 学校幼稚部・小学 部、幼稚園等教員	小 3 特 4 その他20	11/10	<ul style="list-style-type: none"> ・保育参観：青森愛育学園愛育幼稚園 ・「幼保小の架け橋プログラム」について 講師：文部科学省初等中等教育局幼児教育課 幼児教育調査官 横山 真貴子

4 研究事業

本県学校教育の諸課題について調査研究を行い、その成果を公表及び提供します。

学校への還元を第一とし、教育活動に役立つ実践的・先導的な研究を行います。

学校での活用を進めるため、研究報告書、実践の手引き、指導資料等を作成して学校に提供します。

研究成果や研究過程を、Web上へ掲載し、広く県民に理解いただくとともに、全国に向け発信します。

研究の種類

センター研究

本県学校教育の課題解決や学校支援に資する実践的・先導的な研究として、「学校におけるICTの効果的な利活用」をテーマとして、全指導主事が研究にあたり、成果物等をWebページに掲載した。

2023 センター研究 第 期（令和5年度）

グループ名	研究テーマ
国語	ICTを活用した国語科の授業づくりに関する研究
社会、地理歴史、公民	社会科・地理歴史科・公民科の授業における1人1台端末の日常的な活用
算数、数学	統計分野におけるICTを活用した算数・数学科教育の研究
理科	理科、物理、化学、生物、地学の授業におけるICTの効果的な利活用
音楽、図画工作、美術	ICTを活用した音楽・図画工作・美術の授業づくり
体育、保健体育	体育科・保健体育科の学習指導における1人1台端末の活用
家庭、技術・家庭	家庭科、技術・家庭科の指導における主体的な学びに対応する、生徒の個別課題支援のためのICT活用の工夫・研究
外国語	授業の充実に向けた、ICTを効果的に活用した言語活動の研究
特別の教科 道徳	特別の教科 道徳の学習指導におけるICTの効果的な利活用に関する研究
特別支援教育	読み書きに困難のある児童生徒への機能代替アプローチによるICT活用の理解啓発に関する研究～開発コンテンツの有用性の検証と研修パッケージの作成～

研究員研究（2年間）

義務教育課、産業教育課、特別支援教育課、教育相談課に所属する研究員が、所属課の領域に関する研究主題を設定して、個人研究を行い、研究論文を作成し、Web上に掲載した。

「あおもり教育研究発表会2023」

2年目研究員の研究発表、センター研究の発表、外部講師による講演会等を行った。また、2年目研究員の研究発表については、オンデマンド配信も行った。

5 教育相談事業

幼児・児童及び生徒の教育に関する諸問題の解決に向け、医師等の専門相談員の指導助言を受けながら、本人、保護者及び教育関係者の相談に応じた。

相談件数

相談件数(件)		電話(件)	来所(件)
2,702	教育相談課 2,549	1,426	1,123
	特別支援教育課 153	97	56

6 資料・情報の収集・提供の事業

学校教育に関する資料及び情報を収集・整理し、これを保存するとともに、研修、研究その他に活用できるように提供した。

所蔵資料数

図書	20,850冊
資料(教科等関係)	4,122冊
視聴覚教材	429本

7 その他の事業

広報事業

センターの事業について理解を得、周知徹底を図るため、Webページ・刊行物、メール配信等により広報事業を進めた。

主な内容は次のとおりである。

- ・「センターだより」をWebページで発行
- ・「研修講座等」をWebページで公開
- ・「開催した講座の様子」をWebページで公開
- ・要覧の発行
- ・「青森県総合学校教育センターInformation」の発行
- ・リーフレットの配布「教育相談のご案内」「こころの教育相談センターのご案内」
- ・メール配信を活用した各種情報提供
- ・「青森県総合学校教育センター センターセミナー」の開催
- ・「広報あおもりけん」等の広報誌へ記事提供

情報化の推進

学校教育の情報化推進に関する相談や情報通信ネットワークに関する技術支援を行った。

「教育の情報化」支援

学習者用コンピュータやICT機器の活用法など教育の情報化に関わる技術の提供。

授業に役立つ情報の提供

- ア 「教育情報の提供」、「WEB授業動画配信」、「ICT活用応援サイト」など、授業で役立つ情報の提供。
- イ 青森県教育ネットワーク（ASN）を活用した様々なサービスの提供。

校内研修等講師派遣事業

学校が抱える教育課題等の解決に向けて、教員の資質・能力の向上を目指して行う校内研修等に講師として指導主事を派遣し、研修の活性化を図るとともに教育活動を支援する。

申込方法

当センターWebページの「Web申込みフォーム」から申し込む。

研修までの流れ

日時が決定し、文書が通知された後、担当者間で詳細な打合せを行う。

教科指導等サポート事業

県内教員から寄せられる教科指導等の質問に対して的確な情報を提供し、サポートする。

利用方法

当センターWebページの「質問入力フォーム」から入力する。

サポートの方法

当センター指導主事が、電話、電子メール、オンライン等により情報を提供してサポートする。

青森県総合学校教育センター センターセミナー（年2回）

教育の今日的課題や学校を取り巻く喫緊の課題についての理解を深めるため、著名な講師を迎えセミナーを開催した。

センターセミナー

「不登校児童生徒への支援」

参加者：74名

FR教育臨床研究所 所長 花輪 敏男 氏を講師に迎え、年々増加傾向にある不登校児童生徒への支援について、花輪先生が出会った数多くの不登校児童生徒や保護者、教師との事例をもとに、子ども達の社会的自立や学校復帰に向けて、周囲の大人はどのような支援を行えばよいのかを、具体的な言葉や行動で示唆していただいた。

センターセミナー

「もっと聞きたい！授業のユニバーサルデザインVol.1 ～あらためて『視覚化』を考える～」

参加者：53名

星槎大学大学院 教授 阿部 利彦 氏を講師に迎え、授業UDの3つの柱「焦点化」「視覚化」「共有化」のうちの「視覚化」にスポットを当てて多くの実践例を交えながら、分かりやすく御講演いただいた。講演を通して、授業のユニバーサルデザイン化の視点でこれまでの授業実践を振り返り、明日からの授業改善につなげるためのヒントを得ることができたという声が参加者からたくさん寄せられた。

5章 青森県営体育施設

[1] 施設の概要

1 新青森県総合運動公園

所在地 青森市大字宮田字高瀬22の2

設置年月日 平成15年1月8日

敷地面積 626,000㎡

施設 (~ の総合体育館には、「マエダアリーナ」、の陸上競技場には、「カクヒログループアスレチックスタジアム」の特定呼称が付与されています。)

メインアリーナ・サブアリーナ

構造 鉄筋コンクリート造、鉄骨鉄筋コンクリート造及び一部鉄骨造

競技施設

(メインアリーナ) 面積2,944㎡(64m×46m)

バレーボール4、バスケットボール3、テニス3、ハンドボール2、卓球24、バドミントン14、柔道、体操、その他
観覧席 5,348人(固定席3,368人、移動席1,980人)

(サブアリーナ) 面積1,472㎡(46m×32m)

バレーボール3、バスケットボール2、テニス2、ハンドボール1、卓球12、バドミントン6、柔道、その他
(その他)シャワー室、ロッカー室、研修室等

室内プール 25m 8コース

合宿所

構造 鉄筋コンクリート造

面積 3,700㎡

収容人数等 145名

部屋タイプ：シングル20、ツイン28、トリプル3、和室(15畳)6、
食堂約100名収容、談話室、ランドリールーム、浴室、その他

テニスコート(平成23年7月23日サブコート供用開始)

面積 20,800㎡

競技施設 砂入人工芝24面(内4面サブコート)、一部ナイター照明有

観覧席 4,213席

その他 クラブハウス(トイレ、ロッカー室、シャワー室、休憩ラウンジ)、
かべ打ちテニスコート

多目的運動場

面積 21,150㎡

競技施設 天然芝

球技場(平成24年6月23日供用開始)

面積 フィールド11,620㎡(140m×83m)

競技施設 天然芝、ナイター照明完備、電光掲示板

観覧席 3,300席(固定席1,500席、芝生席1,800席)

そ の 他 本部棟（本部室、放送室、審判控室、事務室、介護室）
更衣室・トイレ棟（更衣室2チーム分、トイレ、シャワー室）
トイレ棟
倉庫

陸上競技場（令和元年9月1日供用開始）

面 積 43,438.1m²

競技施設 トラック1周400m、直線140m、9コース、フィールド（天然芝）、走幅跳・三段跳砂場6、棒高跳6、走高跳7、砲丸投3、やり投2、円盤投・ハンマー投2

観 客 席 20,809席

補助陸上競技場（令和元年9月1日供用開始）

面 積 22,802.4m²

競技施設 トラック1周400m、8コース、フィールド（天然芝）、走幅跳・三段跳砂場6、棒高跳6、走高跳7、砲丸投3、やり投2、円盤投・ハンマー投2

観 客 席 320席

投てき・アーチェリー場（令和元年9月1日供用開始）

面 積 23,394.9m²

競技施設 フィールド（天然芝）、砲丸投3、円盤投・ハンマー投1、やり投1

スポーツ科学センター

面 積 3,089.21m²

施設内容 トレーニングルーム、体力測定室、メンタルトレーニング室、カウンセリング室、スポーツ科学研究室、スタジオ、リコンディショニング室、キッズルーム

遊具広場

面 積 11,000m²

整備施設 複合遊具 2基（児童用 1基、幼児用 1基）

跳躍遊具 2基（児童用 1基、幼児用 1基）

単体遊具 16基（児童用 14基、幼児用 2基）

健康遊具 10基（大人用）

監視カメラ 1台

四 阿 3基

ベンチ 3基

2 青森県総合運動公園

所 在 地 青森市大字安田字近野234の7

設置年月日 昭和41年6月5日

敷地面積 171,000m²

競技施設

野 球 場

グラウンド 本塁・センター間121m 両翼93m

観 覧 席 21,016人

メインスタンド 1,492人
内野スタンド 3,524人
外野スタンド 16,000人
水泳場 令和6年3月31日供用終了
競技施設 屋外プール(50m・日本水泳連盟公認)・屋内プール(25m)、徒渉プール(変形)・深水プール
観覧席 800人

公園施設

中央広場
展望広場 面積 1,052.2㎡
旧陸上競技場(旧主競技場及び旧補助競技場)
令和2年7月17日園地として一般開放

3 盛運輸アリーナ(青森県営スケート場)

所在地 青森市大字浜田字豊田地内
設置年月日 昭和60年11月1日
敷地面積 42,769.74㎡
建築面積 11,884.208㎡
施設規模

屋内施設

ア スケートリンク 冬期間はアイススケートリンク、夏期間はインラインスケートリンク
1周250mスピードリンク1面、ホッケーリンク1面
(30m×60m)

イ スポーツライミング施設 ボルダリング壁 高さ 約5.3m 幅 約18m
リード壁 高さ 約13.7m 幅 約12m

ウ 観覧席 1,058席(固定席)

エ 事務室、会議室、選手控室、食堂、ロッカー室、貸靴コーナー、採暖室他
オ 機械室(空調、ボイラー、電気室等)

屋外施設

ア 運動広場 3,900㎡
イ ジョギングコース 1周860m

4 青森県武道館

所在地 弘前市大字豊田2丁目3番

設置年月日 平成12年5月1日

敷地面積 22,810㎡

施設

武道館

構造 鉄骨・鉄筋コンクリート造

競技施設

(主競技場) 面積2,265㎡(47.6m×47.6m)、相撲1(移動式土俵)、柔道8、
剣道9、バスケットボール2、バレーボール2、卓球20、バドミントン10、テニス2、体操、その他

観覧席5,000人

(固定席1,700人、移動式席640人、移動椅子席2,660人)

(補助競技場) 面積 419㎡、各種競技の練習等の多目的利用

(柔道場) 面積 529㎡、2面

(剣道場) 面積 529㎡、2面

(相撲場) 面積 777㎡、常設土俵1、支度部屋、観覧席480人(ます席)

(近的弓道場) 面積 1,344㎡、射場12人立、射程28m、観覧席100人

(トレーニング室)、(会議室)、(軽食・喫茶室)

合宿棟

構造 鉄筋コンクリート造

面積 1,626.9㎡

宿泊人員等 宿泊100人程度、和室16室(1～4階)、ミーティングルーム兼食堂

遠的弓道場

構造 鉄骨・鉄筋コンクリート造

競技施設 射場 6人立、射程 60m

観覧席 100人程度(固定席)

[2] 事 業

1 指定管理者による各施設の管理・運営

- ・新青森県総合運動公園

指定管理者 スポーツ青い森グループ

- ・青森県総合運動公園

指定管理者 スポーツ青い森グループ

- ・盛運輸アリーナ（青森県営スケート場）

指定管理者 豊産管理㈱

- ・青森県武道館

指定管理者 （公財）弘前市スポーツ協会

令和5年度に新青森県総合運動公園（マエダアリーナ、カクヒログループアスレチックスタジアム等）、青森県総合運動公園、盛運輸アリーナ（青森県営スケート場）及び青森県武道館で行われた主な大会等は、次の表のとおりである。

施設の利用状況

主な大会等

区分	行 事 名	期 間
新 青 森 県 総 合 運 動 公 園	・マエダアリーナ（メイン/サブ）	
	東青地区バウンドテニス親善大会	4月2日
	STARDOM in AOMORI	4月8日
	青森県銃剣道選手権大会	4月9日
	青森山田高校バトミントン部練習	4月10日
	青森明の星中学校オリエンテーション	4月12日～14日
	2022-23 B2.LEAGUE青森ワッツ公式戦	4月14日～16日
	青森県中学校剣道錬成会	4月15日
	第42回全日本クラブ卓球選手権大会青森県予選会	4月16日
	第80回国民スポーツ大会「青の煌めきあおもり国スポ」総合視察	4月19日
	青森県特別支援学校技能検定・発表会 第1回ワーキングチーム会議	4月20日
	2023東北ジュニアトランポリンカップシリーズ第1戦	4月21日～22日
	令和5年度第23回青森県高等学校春季卓球選手権大会東青地区予選	4月22日
	第30回青森県バウンドテニス選手権大会	4月23日
	令和5年度あおもりスポーツアカデミー事業「第1回育成プログラム及び認定証交付式」	4月28日～29日
	東青地区春季中学校バスケットボール大会	4月28日～29日
	青森県中学校剣道春季大会	4月30日～5月2日
	第5回AOMORI VENUS CUP	5月2日～3日
	青森県中学校春季バドミントン選手権大会	5月3日～4日
	2023年度青森県小学生バレーボール審判伝達講習会	5月5日～6日
スプリングカップ第39回青森市小学生バレーボール強化交流大会	5月7日	
令和5年度青森県高等学校春季バレー選手権大会	5月12日～14日	
青森県私立高等学校春季バレーボール交流大会	5月12日	
スポーツ交流会	5月19日	
新日本プロレスBEST OF THE SUPER Jr.	5月19日	
令和5年度第76回青森県高等学校総合体育大会卓球競技会兼全国高等学校総合体育大会・東北大会青森県予選会東青地区予選会	5月20日	

区分	行 事 名	期 間
	青森市社会人卓球リーグ戦(前期)	5月21日
	中学校バスケット合同練習試合	5月21日
新	青森ワッツ ブースター感謝祭	5月27日
	青森県ママさんバレーボール連盟審判講習会	5月28日
	青森市小・中学生卓球大会	5月28日
	第76回青森県高等学校総合体育大会	5月31日～6月2日
青	第76回青森県高等学校総合体育大会バドミントン競技	6月2日～5日
	青森県特別支援学校技能検定・発表会運営協議会	6月8日
森	第73回青森県高等学校定時制通信制総合体育大会卓球競技	6月10日
	第41回全国・第37回北日本ホープス卓球大会青森県予選会	6月10日
	令和5年度弘前第一養護学校中学部宿泊学習	6月15日
	令和5年度第74回東青地区中学校体育大会夏季大会バスケットボール競技	6月16日～19日
森	青森県フットサルリーグ	6月18日
	令和5年度東北高等学校バスケットボール選手権大会	6月19日
県	令和5年度東北高等学校バスケットボール選手権大会	6月23日～25日
	青森県立第二養護学校小学部第5学年宿泊生活学習	6月29日
	第16回青森県民スポーツ・レクリエーション祭ソフトバレーボール競技	6月30日～7月1日
	第16回青森県民スポーツ・レクリエーション祭オープニングセレモニー準備	6月30日
総	第16回青森県民スポーツ・レクリエーション祭オープニングセレモニー、綱引・トランポリン競技	7月1日
	第43回全日本バレーボール小学生大会青森県大会	7月2日
合	青森県特別支援学校技能検定・発表会 第2回ワーキングチーム会議	7月6日
	令和5年度東北地区聾学校卓球大会青森大会	7月7日～9日
	令和5年度第3回青森県特別支援学校総合スポーツ大会	7月12日～13日
	令和5年度第74回青森県中学校体育大会夏季大会卓球競技	7月15日～17日
運	青森FC交流大会	7月15日
	バスケットボール大会夏	7月16日
動	青森県私立高等学校バレーボール選手権大会兼私立高等学校男女バレーボール選手権大会青森県予選会	7月17日
	第35回青森県小学生バレーボール親善交流大会	7月22日
公	青森県フットサルリーグ	7月23日
	青森市卓球協会創立100周年記念第2回VICTAS杯卓球選手権大会	7月23日
	第39回全国選抜フットサル大会東北大会	7月29日～30日
	aolMOri COSplay	7月31日
園	青森県国スポ男子強化練習会事業	8月4日～7日
	青森県U15クラブリーグ戦	8月4日～6日
	令和5年度第51回東北中学校ソフトテニス大会	8月7日～10日
	第38回青森県トランポリン競技選手権大会	8月11日～12日
園	JFA第29回全日本U-15フットサル選手権大会青森県大会	8月11日～12日
	第11回PIPE CLUB 交流大会	8月18日～20日
	青森市夏季剣道練成大会兼飛龍杯争奪剣道大会	8月19日～20日
	社会福祉法人和幸福大運動会	8月26日
園	青森県フットサルリーグ	8月27日
	2023青森県ママさんバレーボール親善大会	8月27日
	オールサンデーユニオンチーム対抗球技大会	8月28日
	第33回東北私立高等学校男女バレーボール選手権大会	9月1日～3日
	第32回U-15ジュニアセレクトカップハンドボール大会東北ブロック予選会	9月8日～10日

区分	行 事 名	期 間		
新	令和5年度第74回青森市中学校体育大会秋季大会	9月15日～17日		
	青森県フットサルリーグ	9月18日		
	令和5年度第74回青森市中学校体育大会秋季大会	9月18日		
	聖ウルスラ学院英智高等学校吹奏楽部吹奏楽リハーサル	9月20日		
	青森県特別支援学校技能検定・発表会 第3回ワーキングチーム会議	9月21日		
	令和5年度第24回あおもりシニアフェスティバル「ラージボール卓球」「剣道」「なぎなた」「ソフトバレーボール」「バウンドテニス」交流大会	9月22日		
	令和5年度あおもりスポーツアカデミー事業「発掘プログラム（一次選考会）」	9月23日～24日		
	令和5年度第24回あおもりシニアフェスティバル「ラージボール卓球」「剣道」「なぎなた」交流大会	9月23日		
	令和5年度第24回あおもりシニアフェスティバル「ソフトバレーボール」「バウンドテニス」交流大会	9月24日		
	第42回全日本小学生バウンドフェスティバル東北大会・第36回全日本マーチングコンテスト東北大会	9月30日～10月1日		
青	2023ナイスハート・ふれあいのスポーツ広場青森大会	10月2日		
	秋のEthics Fan Meeting 2023 in 東北	10月6日～7日		
	東北地区支部設立58周年記念講演会	10月6日～7日		
	令和5年度第24回あおもりシニアフェスティバル「太極拳」交流大会	10月8日～9日		
	第31回青森県障害者スポーツ大会バレーボール競技の部	10月8日		
	青森県U-10フットサル大会	10月9日		
	森	第41回青森県社会人バスケットボール大会	10月13日～15日	
		キッズキャンパス	10月16日	
		第21回臙懸杯バドミントン大会	10月21日	
		KIDS Campus Sports Festival 2023	10月21日	
令和5年度あおもりスポーツアカデミー事業「第3回育成プログラム」		10月22日		
青森県特別支援学校技能検定・発表会 第4回ワーキングチーム会議		10月24日		
青森県特別支援学校技能検定・発表会		10月25日		
第57回全日本社会人卓球選手権大会		10月26日～29日		
県		第34回ナガセ杯東北レディースインドア大会県予選	11月2日	
		第42回秋季選抜小学生バレーボール青森大会	11月2日～3日	
	令和5年度青森県高等学校卓球新人選手権大会	11月3日～6日		
	令和5年度青森県高等学校新人バスケットボール大会	11月10日～12日		
	運	第73回青森県高等学校秋季ハンドボール選手権大会	11月17日～19日	
		第26回青森県ユニバーサルホッケー選手権大会	11月19日	
		あおもりマーチングフェスタ2023	11月23日	
		第65回青森県卓球選手権大会	11月24日～26日	
		動	青森県フットサルリーグ	11月26日
			青森山田高校バドミントン部練習	11月30日
第76回東京卓球選手権大会青森県予選会			12月1日～2日	
第20回全国スポーツ少年団バレーボール交流大会青森県大会			12月3日	
公			青森県フットサルリーグ	12月3日
			第5回東北U-18選抜フットサル大会	12月9日～10日
	令和5年度ソフトテニス中学生強化事業合同練習会		12月9日～10日	
	aolMOri COSplay		12月12日	
	園		2023-24 B2.LEAGUE青森ワッツ公式戦	12月15日～18日
			WillISCソフトテニスクリニック	12月15日
		2023-24 B2.LEAGUE青森ワッツ公式戦	12月20日～21日	
		Club D交流大会	12月22日～24日	
		JFA第29回全日本フットサル選手権大会東北大会	12月22日	

区分	行 事 名	期 間
新	JFA第29回全日本フットサル選手権大会東北大会	12月24日
	県下高校室内テニス大会	12月25日～26日
	令和5年度全国高体連卓球専門部冬季合宿兼海外遠征二次選考会	1月4日～7日
	令和5年度全国指導者講習会	1月4日～7日
	あおりフットサルリーグ2023	1月8日
	F.challenge2024強化大会青森インドア	1月8日
	青森中学校冬季バドミントン選手権大会	1月12日～13日
	第21回全国ホープス選抜卓球大会青森県予選会	1月14日
	あおりフットサルリーグ2023	1月14日
	全国高等学校選抜バドミントン大会東北地区予選会	1月18日～21日
青	2023-24 B2.LEAGUE青森ワッツ公式戦	1月26日～2月1日
	TSC青森ソフトテニス強化大会	1月27日～28日
	森	
	教員指導者研修会	2月3日
	会長杯第2回青森オープン大会	2月3日～4日
	F.challenge スキルアップ講習会	2月3日～4日
	あおりフットサルリーグ2023	2月4日
	県	
	青森県選抜中学校インドアソフトテニス選手権大会	2月10日～11日
	F.challenge CUP	2月12日
総	2023-24 B2.LEAGUE青森ワッツ公式戦	2月16日～18日
	青森県森林組合職員連盟 冬の大運動会	2月16日
	F.challenge ソフトテニス講習会	2月17日
	あおりフットサルリーグ2023	2月18日
	令和5年度あおりスポーツアカデミー事業「第5回育成プログラム」	2月23日
	東青地区小・中学校ソフトテニス講習会(Step1地域講習会)	2月23日
	合	
	青森市ジュニア卓球選手権大会及び青森市カブ・バンビ卓球大会	2月24日
	青森市社会人卓球リーグ戦(後期)	2月25日
	あおりフットサルリーグ2023	2月25日
運	2023-24 B2.LEAGUE青森ワッツ公式戦	3月1日～3日
	F.challenge ジュニアソフトテニス大会	3月2日
	あおりフットサルリーグ2023	3月3日
	F.challenge 練習会・講習会	3月3日
	FINAL STAGE2023 U-12バスケットボール選手権大会	3月8日～10日
	動	
	フットサル大会春	3月9日
	AOFA青森県フットサル大会	3月10日
	青森県マスターズテニス協会青森地区交流大会	3月12日
	榎引正敏カップフットサル大会	3月16日
公	F.challenge ジュニアソフトテニス大会	3月16日
	第26回青森県ユニバーサルホッケー交流大会	3月17日
	青森県ソフトテニスジュニアサーキット大会、青森県公認ソフトテニス審判講習会	3月17日
	第22回青森マスターズフットサルフェスタ	3月20日
	園	
	青森県少林寺拳法連盟 考試員・審判員講習会	3月20日
	F.challenge 練習会・講習会	3月20日
	第22回青森マスターズフットサルフェスタ	3月21日
	2023-24 B2.LEAGUE青森ワッツ公式戦	3月22日～24日
	ユアテックユニオン青森支部 2023年度青年スポーツ大会～健康促進運動in青森～	3月23日

区分	行 事 名	期 間
	2023-24 B2. LEAGUE青森ワッツ公式戦	3月29日～31日
	バスケットボール大会春	3月31日
新	・テニスコート	
	青森地区高等学校ソフトテニス春季大会	4月15日
	青森県シングルス・ソフトテニス選手権大会	4月16日
青	令和5年度青森オープンジュニアチーム対抗テニス大会	4月22日～23日
	Princeレディーステニストーナメント2023	4月26日～27日
	令和5年度県下高校春季テニス選手権大会中央地区予選会	4月29日～30日
森	青森市民春季ソフトテニス大会	4月30日
	青森県ジュニア選手権	5月3日～5日
	第72回青森県高等学校ソフトテニス春季大会兼第52回コーセン杯争奪ハイスクールジャパンカップソフトテニス大会2023青森県代表選考会	5月7日～9日
	カトリア杯 チャリティ親睦試合	5月10日
	青森県マスターズテニス春季大会	5月11日～12日
県	青森県春季シングルス選手権兼国スポ一次予選(男女A・B・ベテラン男女)	5月14日
	青森県ソフトテニス選手権大会	5月14日
	第46回東北都市対抗テニス大会	5月20日～21日
総	青森県中学生春季ソフトテニス選手権大会	5月27日～28日
	第45回全日本レディース青森県大会	6月1日
	第76回青森県高等学校総合体育大会 ソフトテニス競技	6月3日～6日
	第73回青森県高等学校定時制通信制総合体育大会 ソフトテニス競技	6月10日
	令和5年度高体連テニス専門部中央地区強化練習会	6月10日
合	青森県春季ダブルス選手権兼国スポ一次予選(男女A・B・ベテラン男女)	6月11日
	令和5年度 北東北マスターズテニス大会	6月15日
	第37回東北レディーステニス県団体対抗戦 青森県予選会(第23回)	6月17日
	青森県成年国スポ二次予選・兼全日本県予選	6月18日
	Fチャレンジカップ	6月18日
運	第37回東北レディーステニス県団体対抗戦 青森県予選会(第23回)	6月19日
	第19回青森県レディースミズノカップ大会	6月23日
	東北6県職員対抗テニス大会	6月24日～25日
動	弘前大学医学部 交流試合	6月25日
	青森県少年国スポ選手選考会 ダンロップジュニア選手権	7月1日～2日
	第16回青森県民スポーツ・レクリエーション祭 テニス・ソフトテニス競技	7月2日
	青森市シングルス・ソフトテニス大会	7月8日
	第44回東北レディースソフトテニス大会	7月9日
公	青森マスターズテニス協会ふれあい大会	7月12日～13日
	令和5年度第74回青森県中学校体育大会	7月15日～17日
	ピンクリボンレディーステニス大会by Admiral	7月19日～20日
園	第18回青森県ジュニア・オープンソフトテニス大会	7月22日～23日
	国体・インターハイ強化 合宿	7月26日～28日
	青森県サマーカップジュニアテニス大会	7月26日～27日
	第9回青森県中学生学年別シングルス・ソフトテニス大会	7月29日
	第17回競技者育成プログラムStep3東北ブロック最終選考会兼第5回青森県ソフトテニス・クラブ選手権大会	7月30日
	青森県ヨネックスカップジュニア選手権	8月5日～6日
	令和5年度第51回東北中学校ソフトテニス大会	8月7日～10日

区分	行 事 名	期 間
新 青 森 県 総 合 運 動 公 園	北海道・北東北テニス大会	8月11日～12日
	第73回東奥日報杯県下総合ソフトテニス選手権大会	8月13日
	青森県ジュニアテニス夏季強化練習会	8月16日～18日
	青森市民チーム対抗ソフトテニス大会	8月20日
	青森地区高等学校ソフトテニス新人大会 個人戦	8月26日
	第18回青森市小学生ソフトテニス大会	8月26日
	東北DUNLOP SRIXON県予選 男女ABベテラン男女	8月27日
	青森地区高等学校ソフトテニス新人大会 個人戦	8月27日
	ソニー生命カップ 第45回全国レディーステニス大会 青森県大会	8月30日
	第28回東北秋季ジュニアテニス選手権大会・中牟田杯選考会	9月2日～3日
	第45回県下レディースルーセント杯選手権大会(団体戦)	9月7日
	ソニー生命カップ 第45回全国レディーステニス大会 青森県大会	9月9日
	青森市民クラブ対抗ソフトテニス大会	9月9日
	MUFGジュニア24県予選	9月10日
	青森市中高生ソフトテニス講習会及び強化練習試合	9月10日
	令和5年度青森県高等学校テニス選手権大会	9月15日～17日
	第4回みちのくオープンベテランテニス選手権大会	9月18日～24日
	令和5年度 第24回あおもりシニアフェスティバル テニス・ソフトテニス交流大会	9月24日
	第16回YONEX杯青森県レディース大会	9月28日
	青森県下中学校ソフトテニス選手権大会	9月30日～10月1日
	第18回北東北三県(秋田・岩手・青森)対抗戦	10月4日
東北春季ジュニア県予選	10月7日～8日	
第18回青森県ミックスダブルス・ソフトテニス大会	10月9日	
DUNLOP SRIXONジュニアダブルス選手権	10月14日～15日	
東北インドアダブルス選手権	10月15日	
第16回YONEX杯青森県レディース大会	10月16日	
ヨネックスレディースチャレンジカップ2023	10月25日	
第24回ルーセントカップin青森	10月28日～29日	
第2回Fチャレンジカップ争奪戦	11月3日	
2023年度青森県学生テニス選手権大会	11月4日～5日	
Fチャレンジシングルス大会	11月5日	
KURO球納め交流試合	11月11日	
青森工業高校強化練習会	11月11日	
	・多目的運動場(旧アーチェリー場)	
	JFA 2023 U-12サッカーリーグ 青森県あすなるリーグ3部	6月3日～4日
	JFA 2023 U-12サッカーリーグ 青森県あすなるリーグ3部	6月24日～25日
	JFA 2023 U-12サッカーリーグ 青森県あすなるリーグ3部	7月8日～9日
	所沢トレセン招待大会	7月15日～17日
	JFA 2023 U-12サッカーリーグ 青森県あすなるリーグ3部	7月22日～23日
	JFA 2023 U-12サッカーリーグ 青森県あすなるリーグ3部	8月5日～6日
	青森FC サッカー交流戦	8月15日～17日
	AOFA2023 トンボ U-11サッカー青森大会	8月19日～20日
	AOFA2023 トンボ U-11サッカー青森県大会 青森地区予選	8月16日～18日
	令和5年度 第24回あおもりシニアフェスティバル ゲートボール・ベタンク交流大会	9月23日～24日

区分	行 事 名	期 間	
	JFA 2023 U-12サッカーリーグ 青森県あすなろリーグ3部	9月30日～10月1日	
	JFA 2023 U-12サッカーリーグ 青森県あすなろリーグ3部	10月9日	
新 青 森 県	・球技場		
	第25回JFLラインメール青森FCホーム戦	4月29日～30日	
	中学生ラグビー選抜合宿	5月20日～21日	
	第25回JFLラインメール青森FCホーム戦	5月27日～28日	
	第25回JFLラインメール青森FCホーム戦	6月10日～11日	
	第74回東北高等学校ラグビーフットボール大会	6月16日～19日	
	第25回JFLラインメール青森FCホーム戦	6月24日～25日	
	第25回JFLラインメール青森FCホーム戦	7月8日～9日	
	第3回青森県特別支援学校総合スポーツ大会	7月12日～13日	
	第25回JFLラインメール青森FCホーム戦	7月22日～23日	
森 県	青森ユースサッカーフェスティバル(中学)	7月26日～28日	
	青森ユースサッカーフェスティバル(高校)	8月18日～20日	
	第31回青森県民駅伝競走大会	9月3日	
	第25回JFLラインメール青森FCホーム戦	9月9日～10日	
	第25回JFLラインメール青森FCホーム戦	9月23日～24日	
	第25回JFLラインメール青森FCホーム戦	9月30日～10月1日	
	青森県高等学校男子・女子駅伝競走大会	10月5日	
	第103回全国高等学校ラグビーフットボール大会青森県予選会	10月21日～22日	
	第103回全国高等学校ラグビーフットボール大会青森県予選会	10月27日～28日	
	第25回JFLラインメール青森FCホーム戦	11月11日～12日	
総 合 運	第25回JFLラインメール青森FCホーム戦	11月18日～19日	
	・室内プール		
	小学校体育実技(着衣泳)研修講座	5月23日	
	令和5年度青森県公立学校教員採用候補者選考試験二次試験	9月23日	
	第31回青森県障害者スポーツ大会水泳競技の部	10月8日	
	動 公 園	・陸上競技場(主/補助)	
		2023マエダ桜まつり健康マラソン大会	4月15日
		青森県春季陸上競技選手権	5月4日～6日
		第37回東青地区中学校春季陸上競技選手権大会兼2023年東青小学生陸上競技記録会	5月13日～14日
		第70回青森県高等学校総合体育大会陸上競技兼第73回青森県高等学校校定時制・通信制総合体育大会陸上競技	5月26日～29日
第36回青森県自治体職員職域対抗駅伝大会		6月10日	
建設ICT施工講習会		6月14日	
第74回東青地区中学校体育大会夏季大会		6月17日～18日	
第70回青森市小学校体育デー		6月23日	
第16回青森県民スポーツ・レクリエーション祭・マスターズ陸上競技		6月24日	
園	全国小学生陸上競技交流大会青森県予選会	6月25日	
	令和5年度青森県立青森工業高等学校運動会	6月30日	
	全日本中学校通信陸上競技青森県大会	7月1日～2日	
	第51回市職労団結駅伝大会	7月8日	
	第3回青森県特別支援学校総合スポーツ大会	7月13日	

区分	行 事 名	期 間		
新	第25回JFLラインメール青森FCホーム戦	7月15日		
	第74回青森県中学校体育大会夏季大会	7月16日～17日		
	東奥学園高等学校体育祭	7月19日		
	第14回東青地区陸上競技選手権大会兼第42回青森県小学生交流陸上競技大会東青ブロック予選	7月22日～23日		
	青森ユースサッカーフェスティバル	7月28日		
	第25回JFLラインメール青森FCホーム戦	7月30日		
	青森県小学生交流駅伝競走大会	8月6日		
	東日本小学生陸上競技交流大会	8月11日		
	青	2026国スポ強化事業・2023年度中学校・高校合同夏季県内選抜強化合宿	8月16日～18日	
		青森ユースサッカーフェスティバルU-18	8月20日	
第30回青森県障害者スポーツ大会陸上競技の部		8月27日		
第30回青森県障害者スポーツ大会フライングディスク競技の部		8月27日		
森		第31回青森県民駅伝競走大会	9月3日	
		青森県高等学校新人陸上競技選手権大会	9月8日～10日	
		第74回青森市中学校体育大会秋季大会	9月16日～17日	
		青森県立青森南高等学校第48回マラソン大会	9月22日	
		県	全国統一かけっこチャレンジ2023	9月24日
			ユニバース・S&B杯ちびっこ健康マラソン大会	9月30日
	青森県高等学校男子・女子駅伝競走大会		10月5日	
	青森県秋季陸上競技選手権大会		10月6日～8日	
	総		第102回全国高校サッカー選手権大会青森県大会代表決定戦	10月5日
			JAAFアスリート育成プロジェクトU13・U10クリニック	11月12日
JAAF公認ジュニアコーチ兼日本スポーツ協会公認スポーツリーダー養成講習会			11月18日	
JAAF公認ジュニアコーチ兼日本スポーツ協会公認スポーツリーダー養成講習会			11月25日	
合			2026年国スポに向けた総合選手強化事業「冬季ADT」	12月10日
			令和5年度第1回冬季県内選抜週末強化練習会	12月16日～17日
		青森県中学生陸上競技選抜冬季練習会	12月24日	
		青森県中学生陸上競技選抜冬季練習会	1月7日	
		運	令和5年度第2回冬季県内選抜週末強化練習会	1月13日～14日
			2026年国スポに向けた総合選手強化事業「冬季ADT」	1月27日
	令和5年度第3回冬季県内選抜週末強化練習会		1月28日	
	2026年国スポに向けた総合選手強化事業「冬季ADT」		2月17日	
	動		青森県中学生陸上競技選抜冬季練習会	2月18日
			令和5年度第4回冬季県内選抜週末強化練習会	2月24日～25日
令和5年度第5回冬季県内選抜週末強化練習会			3月2日～3日	
令和5年度第6回冬季県内選抜週末強化練習会			3月9日	
公			2026年国スポに向けた総合選手強化事業「冬季ADT」	3月10日
			・投てき、アーチェリー場	
		青森県高等学校アーチェリー春季大会	4月28日～30日	
		青森県春季陸上競技選手権大会	5月4日～6日	
		第32回全日本学生アーチェリー東日本大会	5月19日～20日	
		第75回青森県高等学校総合体育大会陸上競技件第72回青森県高等学校校定時制・通信制総合体育大会陸上競技	5月26日～29日	
	第76回青森県高等学校総合体育大会アーチェリー競技	6月2日～4日		
	第1回青森県高校アーチェリー記録会	7月28日～29日		

区分	行 事 名	期 間
新 青 森 県 総 合 運 動 公 園	リベルタベースボール大会初夏	6月18日
	令和5年度国民体育大会鹿児島大会アーチェリー競技青森県最終予選	7月1日～2日
	第74回青森県中学校体育大会夏季大会	7月16日～17日
	アーチェリー夏季選手強化講習会	7月22日～24日
	国スポ強化合宿	8月16日～17日
	2023年度中学校・高校合同夏季県内選抜強化合宿	8月17日～18日
	あおもり夏季投てき記録会	8月19日
	第31回青森県障害者スポーツ大会陸上競技の部	8月27日
	第31回青森県障害者スポーツ大会アーチェリー競技の部	9月2日
	第31回青森県民駅伝競走大会	9月3日
	青森県高等学校新人陸上競技選手権大会	9月8日～10日
	全国高等学校アーチェリー選抜大会青森県予選会	9月29日～10月1日
	青森県高等学校男子・女子駅伝競走大会	10月5日
	青森県秋季陸上競技選手権大会	10月6日～8日
	・多目的広場	
	中学生ラグビー選抜合宿	5月20日～21日
第74回東北高等学校ラグビーフットボール大会	6月18日	
第3回青森県特別支援学校総合スポーツ大会	7月12日～13日	
青森ユースサッカーフェスティバル(中学)	7月27日～28日	
第31回青森県民駅伝競走大会	9月3日	
第24回あおもりシニアフェスティバル「ターゲット・バードゴルフ」交流大会	9月23日～24日	
青森県高等学校男子・女子駅伝競走大会	10月5日	
第103回全国高等学校ラグビーフットボール大会青森県予選会	10月21日～22日	
第103回全国高等学校ラグビーフットボール大会青森県予選会	10月27日～28日	
青 森 県 総 合 運 動 公 園	・野球場	
	令和5年度春季青森地区高等学校交流試合	4月15日
	令和5年度春季青森地区高等学校交流試合	4月22日～23日
	第7回青森市軟式野球連盟会長杯争奪少年軟式野球大会兼第40回全日本少年軟式野球大会青森支部予選会	5月3日～5日
	令和5年度 春季青森県高等学校野球選手権大会	5月9日
	第16回青森県古希軟式野球大会	5月11日
	2023年度 北東北大学野球春季リーグ戦	5月13日～15日
	第16回青森県古希軟式野球大会	5月18日
	令和5年度 春季青森県高等学校野球選手権大会	5月20日～22日
	令和5年度 春季青森県高等学校野球選手権大会	5月27日
	令和5年度 春季青森県高等学校野球選手権大会	5月29日
	第16回青森県古希軟式野球大会	6月1日
	令和5年度東北地区高等学校野球連盟審判講習会	6月3日～4日
	第5回青森県スーパーエイジ野球大会	6月5日
高松宮賜杯第67回全日本軟式野球大会(1部)青森県予選	6月10日～11日	
第5回青森県スーパーエイジ野球大会	6月12日	
令和5年度第74回東青地区中学校体育大会夏季大会野球競技	6月17日～20日	
高円宮賜杯第43回全日本学童軟式野球大会マクドナルド・トーナメント青森県大会	6月24日～25日	
2023年度 北東北大学野球新人戦	7月1日～3日	

区分	行 事 名	期 間
青 森 県 総 合 運 動 公 園	第54回青森県少年軟式野球大会（小学生の部）青森支部予選会	7月8日～9日
	第13回エービッツ旗学童親善野球大会	7月17日
	第4回2023ロータスクラブ青森カップ少年軟式野球大会	7月22日～23日
	第47回全日本クラブ選手権第2次予選東北大会	7月28日～31日
	文部科学大臣杯第15回全日本少年春季軟式野球大会兼第21回東北少年軟式野球新人大会青森支部予選会	8月5日～6日
	令和5年度 青森県高校野球リーグ戦大会	8月11日～12日
	令和5年度 青森県高校野球リーグ戦大会	8月17日
	2023年度 北東北大学野球秋季リーグ戦	8月19日～21日
	第35回青森県選層野球大会	8月26日～27日
	2023CBS少年軟式野球東日本大会青森県強化交流試合	9月2日
	2023MLBドリームカップ全国軟式野球大会青森県予選会（後期）	9月3日
	令和5年度 秋季青森県高等学校野球選手権大会	9月9日～11日
	令和5年度 秋季青森県高等学校野球選手権大会	9月16日～18日
	令和5年度 秋季青森県高等学校野球選手権大会	9月23日～24日
	第6回NEXTチャレンジカップ	9月30日
	令和5年第29回東奥日報社杯争奪青森県熟年野球選手権大会	10月1日
	令和5年第29回東奥日報社杯争奪青森県熟年野球選手権大会	10月8日
	第13回エービッツ旗学童親善野球大会	10月9日
	第3回YAMADAカップ	10月14日～15日
	第7回CBS少年軟式野球「学童新人」全国大会青森県予選会	10月28日～29日
第1回CBS中学生クラブ軟式野球東北大会青森県予選会	11月3日	
・水泳場		
第76回青森県高等学校選手権水泳競技大会第71回東北高等学校選手権水泳大会県予選会	6月16日～18日	
第27回青森県選手権水球競技大会	6月24日～25日	
令和5年度第74回青森県中学校体育大会夏季大会 水泳競技	7月15日～18日	
青森県選手権水泳競技大会（競泳）	7月29日～30日	
盛 運 輸 ア リ ー ナ （ 青 森 県 管 営 ス ケ ー ト 場 ）	インラインスケートリンクオープン・オープンイベント	4月22日～23日
	第78回国民体育大会スポーツクライミング競技青森県予選大会	4月29日
	スポーツクライミンググリード使用者認定講習会	5月7日
	ジュニアインラインホッケー教室(自主事業)	5月～8月
	インラインスケートスクール全9コース	5月～8月
	三代目JSOUL BROTHERS LIVE TOUR 2023 STARS	5月27日～28日
	水樹奈々LIVE TOUR 2023	7月2日
	クライミングチャレンジデー	7月15日
	スポーツクライミングデー(自主事業)	7月22日
	Housan Cup インラインホッケー大会	8月16日～25日
	ジャパンオープンインラインホッケー大会	8月26日～27日
	インラインスケートフェスタ	9月10日
	ブリヂストンタイヤ試乗会	10月12日～13日
	アイススケートリンクオープン・オープンイベント	10月14日～15日
	ヨコハマタイヤ試乗会	10月16日
ダンロップタイヤ試乗会	10月20日	
ジュニアアイスホッケー教室(自主事業)	10月～3月	

区分	行 事 名	期 間
青 森 県 武 道 館	公益財団法人弘前市スポーツ協会ターゲットエイジ育成・強化プロジェクト新体操講習会	8月3日～4日
	公益財団法人弘前市スポーツ協会ターゲットエイジ育成・強化プロジェクトバレーボール講習会	8月12日～13日
	公益財団法人弘前市スポーツ協会ターゲットエイジ育成・強化プロジェクトバスケットボール講習会	8月16日
	弘前東高校球技大会	8月31日～9月1日
	日本柔道整復師会東北ブロック会「第29回東北少年柔道大会」「第10回東北少年形競技会」	9月2日～3日
	令和5年度第26回津軽地区ソフトバレーボール大会	9月3日
	令和5年度弘前地区・南地方中学校体育大会秋季大会バレーボール競技	9月9日
	第23回全東北空手道選手権大会	9月10日
	第27回県下高等学校弓道遠の大会	9月10日
	弘前学院聖愛中学高等学校スポーツ大会	9月15日
	令和5年度あおもりスポーツアカデミー事業「発掘プログラム(一次選考会)」	9月16日～17日
	第31回全国ソフトバレー・シルバーフェスティバルin弘前	10月7日～8日
	令和5年度秋季津軽地区高等学校弓道大会	10月7日～8日
	令和5年度青森県高等学校新人柔道津軽地区大会	10月8日
	ひろさき絆カップ2023バスケットボール、柔道大会	10月14日～15日
	令和5年度青森県高等学校体操競技・新体操選手権新人大会第37回東北ジュニア新体操選手権大会青森県予選会	10月21日～22日
	令和5年度秋季県下高等学校弓道大会	10月21日～22日
	県民共済カップ第76回全日本バレーボール高等学校選手権大会青森県代表決定戦	10月28日～29日
	第18回全国ブロック選抜U-12体操競技選手権大会	11月4日～5日
	令和5年度青森県高等学校新人柔道大会兼全国高等学校柔道選手権大会県予選	11月11日～12日
第31回東北青森県高等学校相撲選抜大会	11月18日	
青森ワッツVS福島ファイヤーボンズ戦	12月2日～3日	
2023冬季ソフトバレーボール青森県フェスティバル	12月10日	
2023年青森県極真空手道新人錬成大会	12月10日	
第1回若の里杯相撲大会	12月10日	
青森県武道館トップアスリート交流事業柔道教室	12月15日～17日	
克雪弓道大会	12月17日	
青森ワッツホームゲーム青森VS福岡	2月2日～4日	

利用者数

ア 新青森県総合運動公園

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
メインアリーナ	2,351	9,620	16,757	4,841	5,088	10,986	8,068	10,644	5,107	11,669	3,692	3,034	91,857
サブアリーナ	3,631	5,913	12,658	3,191	4,058	6,786	7,688	5,990	3,401	10,794	2,637	2,793	69,540
プー ル	1,582	2,688	3,231	4,379	4,545	1,105	1,936	2,331	2,311	2,406	2,783	2,268	31,565
トレーニングルーム	3,884	4,259	4,043	4,571	4,286	2,978	3,861	4,284	4,298	5,078	5,372	4,646	51,560
庭 球 場	4,420	9,111	6,715	8,672	6,643	8,978	5,819	1,426	0	0	0	0	51,784
多目的運動場	20	0	450	790	843	885	300	73	0	0	0	0	3,361
球 技 場	158	328	2,534	725	300	378	1,367	314	0	0	0	0	6,104
合 宿 所	692	1,169	1,101	1,511	1,992	873	592	513	260	210	459	181	9,553
陸上競技場	2,021	14,439	9,216	8,834	5,052	11,851	4,826	943	765	1,005	995	840	60,787
室内練習場	611	554	313	296	300	394	548	1,363	1,601	1,814	1,519	1,774	11,087
周 回 走 路	655	283	267	203	291	278	459	978	2,539	2,447	2,053	1,621	12,074
陸上競技場 トレーニングルーム	449	305	341	260	419	424	500	438	650	655	740	567	5,748
補助競技場	220	12,282	6,347	7,514	2,479	9,087	3,876	0	0	0	0	0	41,805
投 て き ・ アーチェリー場	495	2,425	916	1,140	566	946	1,216	4	0	0	0	0	7,708
観 客 ・ 見 学	6,750	15,550	15,970	17,670	4,300	14,035	10,854	13,505	5,580	6,900	5,300	9,250	125,664
計	27,939	78,926	80,859	64,597	41,162	69,984	51,910	42,806	26,512	42,978	25,550	26,974	580,197

イ 青森県総合運動公園

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
陸上競技場	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
補助競技場	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
野 球 場	570	2,020	3,460	2,665	2,266	1,260	1,223	198	0	0	0	0	13,662
水 泳 場	0	0	1,300	4,726	1,263	0	0	0	0	0	0	0	7,289
観 客 ・ 見 学	350	2,050	3,120	2,550	1,915	2,110	1,140	320	0	0	0	0	13,555
計	920	4,070	7,880	9,941	5,444	3,370	2,363	518	0	0	0	0	34,506

ウ 盛運輸アリーナ（青森県営スケート場）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
計	894	22,661	2,665	7,305	2,379	623	2,945	7,602	8,023	13,118	9,124	6,097	83,436

エ 青森県武道館

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
主競技場	5,201	7,010	11,169	7,742	2,312	6,827	5,248	5,116	4,102	0	3,007	3,467	61,201
補助競技場	878	652	547	868	867	838	809	1,019	458	0	1,405	960	9,301
柔道場	1,152	1,241	861	1,214	1,277	1,162	940	1,007	415	0	888	727	10,884
剣道場	554	418	556	830	559	632	696	626	314	0	492	354	6,031
相撲場	0	260	218	188	0	0	0	185	625	0	0	0	1,476
近的弓道場	506	2,444	3,312	271	459	321	2,406	492	879	0	0	338	11,428
遠的弓道場	119	113	288	135	115	293	91	106	42	0	188	37	1,527
会議室	793	659	728	1,011	483	750	1,238	1,017	318	0	577	619	8,193
トレーニングルーム	2,105	2,109	2,421	2,435	2,162	2,116	2,407	2,391	1,468	0	2,365	2,177	24,156
合宿所	135	227	144	449	317	118	81	191	50	174	491	0	2,377
観客・見学	0	0	0	0	0	86	0	0	0	0	0	207	293
計	11,443	15,133	20,244	15,143	8,551	13,143	13,916	12,150	8,671	174	9,413	8,886	136,867

オ 過去3年間の利用状況

施設名	令和3年度	令和4年度	令和5年度
新青森県総合運動公園	376,223	807,377	580,197
青森県総合運動公園	18,740	18,071	34,506
盛運輸アリーナ	46,131	95,552	83,436
青森県武道館	77,594	112,791	136,867

2 スポーツ事業

県民スポーツ関連事業

多様化するスポーツ・レクリエーション活動に対する県民ニーズに的確に対応し、「いつでも、どこでも、だれでも」が気軽に楽しめる生涯スポーツの普及振興を図るため、各種事業を実施した。

事業名	期 日	場 所	参加対象及び事業内容	参加人数
第31回青森県民駅伝競走大会	9月3日	青森県観光物産館アスパム前を出発点とし、カクヒログループアスレチックスタジアムを決勝点とする片道コース	・対象 40市町村代表選手 ・内容 市町村対抗による駅伝競走大会	選手団 805名 関係役員 698名
第16回青森県民スポーツ・レクリエーション祭	6月～11月	県 内 7市5町1村	・対象 種目別大会参加者 ・内容 33種目別大会の開催	参加者 3,768名 関係役員 471名

競技スポーツ関連事業

本県競技力向上を図ることを目的として、指導者の資質向上やジュニア層の育成強化、県内外での強化合宿等をはじめとする各種競技力向上対策事業を実施した。

事業名	期 日	場 所	参加対象及び事業内容	参加人数
総合選手強化事業	通 年	国 内	・対象 国体正式41競技団体 ・内容 関係競技団体が実施する、国内における合宿に対する補助金交付	4,349名
中学生強化事業	通 年	県 内 外	・対象 中体連、関係競技団体 ・内容 中体連が実施する県内外における強化合宿に対する補助金交付	996名
高校生強化事業	通 年	国 内	・対象 高体連、指定高校及び関係競技団体 ・内容 高体連が実施する国内における強化合宿に対する補助金交付	1,160名
あおもりスポーツアカデミー事業	・発掘プログラム 9～10月 ・育成プログラム 年5回 ・選択プログラム 年2回	・発掘プログラム 県内3会場（青森市、弘前市、八戸市） ・育成プログラム マエダアリーナカクヒログループスタジアム 八戸大学 ・選択プログラム 八戸市東体育館 青森県武道館 マエダアリーナ	発掘プログラム ・対象 新体力テストA判定の小学4、6年生 ・内容 運動能力が高く優れた素質を有する選手を発掘するため、選考会を実施 育成プログラム ・対象 あおもりスポーツアカデミー生 165名（小5:35名、小6:35名、中1:28名、中2:36名、中3:31名） ・内容 スポーツ医・科学やトップアスリートを活用した講義、発達段階や競技特性に応じたトレーニング、県内外での競技体験の実施	・発掘プログラム 197名 ・育成プログラム 延べ260名 ・選択プログラム 延べ10名

事業名	期 日	場 所	参加対象及び事業内容	参加人数
			選択プログラム ・対象 小6・中3のアカデミー生 ・内容 中学校・高等学校進学以降にトップアスリートを目指す可能性のある最適な競技種目を選択できるよう、選手・保護者との面談を実施	
第 50 回 東北総合体育大会	8月18日 ～20日 (主会期)	岩 手 県 他	・対象 青森県代表選手・監督・本部役員 ・内容 代表選手・監督・役員を派遣する競技団体等への補助金交付	役員・ 監督・選手 1,042名
特別国民 体育大会 (本 国 体)	10月7日 ～ 10月17日	鹿 児 島 県	・対象 青森県代表選手・監督・本部役員 ・内容 代表選手・監督・役員を派遣する競技団体等への補助金交付	役員・ 監督・選手 429名
第78回国民 スポーツ大会 (冬 季)	スケート・ アイスホッケー競技会 1月27日 ～ 2月3日	北 海 道	・対象 代表選手・監督・役員 ・内容 代表選手・監督・役員を派遣する競技団体等への補助金交付	役員・ 監督・選手 79名
	スキー競技会 2月21日 ～24日	山 形 県		役員・ 監督・選手 52名
コ ー チ スキルアップ 事 業	通 年	県 内 外	・対象 国体正式41競技団体 ・内容 若手指導者の育成と資質向上を図るための指導者派遣事業、招聘事業並びに公認資格の取得支援を行う競技団体への補助金交付	指導者派遣 185名 トップレベル コーチ招聘 2,819名 資格取得支援 29名

スポーツ科学関連事業

県民の健康・体力の増進、本県競技力の向上及び体育・スポーツ指導者の資質の向上を図ることを目的として、各種事業を実施した。

事業名	期 日	場 所	参加対象及び事業内容	参加人数
アスリート プログラム サ ー ビ ス	通 年	県スポーツ 科学セン ターほか	・対象 県民一般、県内外競技者 ・内容 体力、筋力、運動能力等の測定運動フォームの撮影と動作分析リコンディショニング心理サポート	体力測定 2,111名 動作分析 773名 リコンディショニング 2,849名 心理サポート 2,748名

事業名	期 日	場所	参加対象及び事業内容	参加人数
チームサポート事業	通 年	県 内	<ul style="list-style-type: none"> ・対象 青森県高等学校体育連盟専門部から推薦を受けた高等学校の運動部（24チーム） ・内容 <ul style="list-style-type: none"> 体力測定分野からのサポート（6チーム） ・定期的な体力測定と測定データの評価 ・評価に基づいたトレーニングプログラムの作成 ・作成プログラムによるトレーニング指導 動作分析分野からのサポート（6チーム） ・定期的・継続的なフォームの撮影と動作分析 ・分析結果に基づく技術改善のための情報提供 リコンディショニング分野からのサポート（6チーム） ・スポーツ傷害予防プログラムの作成と実施指導 ・テーピング・ボディケア等の指導 ・試合時におけるリコンディショニング指導 心理サポート分野からのサポート（6チーム） ・目標設定技法の実施と設定目標の見直し方の指導 ・リラクゼーション技法の講義と実習 ・イメージ技法の講義と実習 	<ul style="list-style-type: none"> 体力測定分野 6校60回 延べ562名 動作分析分野 6校45回 延べ327名 リコンディショニング分野 6校58回 延べ464名 心理サポート分野 6校70回 延べ810名
スポーツ科学センター チームサポート指導者懇談会	第1回 (6月29日) 第2回 (2月15日)	県スポーツ科学センターほか	<ul style="list-style-type: none"> ・対象 チームサポート対象校顧問 ・内容 チームサポート事業におけるサポート内容の確認及び今後のサポートに向けた課題等についての意見交換 	第1回 24名 第2回 20名

6章 青森県立郷土館

[1] 施設・設備

所在地	青森市本町二丁目8番地14
敷地面積	3,847.64㎡
主要施設	
旧「青森銀行本店」部分	鉄筋コンクリート造 地上2階 延床面積 1,123.40㎡
増築部分	鉄筋コンクリート造（一部鉄骨鉄筋コンクリート造） 地上3階、地下1階、塔屋2階 延床面積 6,483.43㎡
延床面積合計	7,606.83㎡
主要各室床面積	
展示室	常設展示室 8室 2,514㎡ 特別展示室 1室 487㎡
小ホール	1室 119㎡
収蔵庫	10室 853㎡
エントランスホール	267㎡
事務室等	3,366.83㎡

[2] 運営方針

青森県立郷土館基本的運営方針

青森県立郷土館は、昭和48年に「ふるさとの過去を語り現在を考え未来を展望する」総合博物館として設置され、以来長きにわたり、県民が郷土に誇りをもち、夢や希望を感じられるよう、郷土に根ざした活動を行ってきました。

総合博物館としての当館の使命は、社会教育施設として資料収集・保存、展示、調査研究、教育普及などの活動を通して、本県の歴史や自然、文化などについて誰もが幅広い理解を得られるように支援することにあります。今後も広く県民の意見を取り入れ、経営資源を最大限に生かしながら、未来に向け、下記の博物館活動の充実に努めてまいります。

1 資料の収集・保存

当館は、開館以来、一貫して郷土の歴史、民俗、産業、自然などに関する資料の収集・保存に努めています。県民・国民共有の財産である貴重な資料の収集・整理に努め、良好な状態で次の世代に継承していきます。

2 展示

収蔵資料の中からテーマごとに精選した資料を展示する常設展示室は、観覧者が分かりやすいよう資料や解説パネルを効果的に展示します。

常設展示室に解説員を配置し、展示資料について分かりやすい解説や、説明資料の配布により、来館者の学習活動を支援します。

調査研究の成果や県民の関心の高いテーマに関する資料を展示する特別展、民間事業者と連携した共催展など、多彩な展示活動を実施します。

3 調査研究

収蔵資料に関する館内研究や館外調査を実施するほか、教育普及活動を一層充実させるための研究を進めます。

4 教育普及

郷土館資料及び郷土についての講演会・講習会、観察会、体験活動などを実施します。

郷土館資料及び郷土に係るレファレンスサービスを行います。

学校の学習活動を支援する活動のほか、公共施設や福祉施設等を支援する活動も実施します。

5 連携・交流・情報発信

県内外の博物館及び図書館等の社会教育施設、民間事業者等と積極的に連携・協力し、社会の要請に応える博物館として総合力を高めます。

国外の博物館や研究者との連携、訪日外国人旅行者の受入体制の整備など、博物館としての国際交流活動の充実を図ります。

郷土館の利用機会の拡大や調査研究の成果の普及に資するパンフレット、年報、展示図録、研究紀要等を作成し、県民の郷土理解の促進を図ります。

様々な広報・情報媒体を積極的に活用して郷土の歴史や文化を県内外に広く発信し、郷土館が行う博物館活動への一層の理解の促進を図ります。

6 施設管理

来館者が安全・快適に利用できるよう、施設・設備の整備と管理を行います。

公共的な施設として、地震等の自然災害や火災等に備え、防災意識の向上と危機管理体制の強化を図ります。

ライフサイクルコストを勘案し、施設・設備の効率的維持管理を行います。

[3] 事 業

1 資料の収集・保存

資料収集・保存活動の結果、令和5年度は1点の減少となり、年度末時点における資料総数は101,624点となった。増減を分野別にみると次のとおりである。

考古 1点増（土器・石器等資料一式）

歴史 2点増（駅名標）

自然 4点減（動物剥製の管理換えによる登録解除）

2 展示

令和2年10月から休館中のため、サテライト展など館外での展示活動を行った。

サテライト展

県立美術館を会場に、日本の近代銅版画家の先駆者の一人 今純三が描いた戦前の青森の風景や暮らしを紹介するサテライト展「生誕130年 今純三 - 純三が描いた戦前の青森 -」（9月30日～1月28日）を開催した。

連携展

県内博物館・資料館など館外の施設を会場として、郷土の歴史・文化・自然をテーマとした展示を次のとおり行った。

県民福祉プラザ（青森市）との連携展

「絵はがきで見る昔の青森」（7月15日～8月31日）

深浦町歴史民俗資料館・美術館（深浦町）との連携展

「あおもり旅ものがたり」（10月21日～12月17日）

常盤ふるさと資料館あすか（藤崎町）との連携展

「加藤武夫版画展～津軽情景～」（1月5日～2月12日）

NHK青森放送局・青森市教育委員会との共催展

青森県立美術館コミュニティギャラリー

「NHK連続テレビ小説『ブギウギ』と淡谷のり子展」（2月17日～3月3日）

3 調査研究

分野ごとに設定したテーマに基づき調査を実施した。

考古分野「青森県出土考古資料の所在調査」（5年計画1年次目）

県内外に所在する青森県ゆかりの考古資料について、県外大学及び県内高等学校で調査を行った。

自然分野「青森県の鉱山調査」（6年計画1年次目）

青森県内で稼行していた鉱山について、文献調査と青森市東岳の鉱山跡の実地調査を行った。

歴史分野「青森県の交通史」（5年計画1年次目）

青森県を中心とした近世・近現代の交通の様相について、館蔵資料と弘前市立博物館所蔵資料の調査を行った。

民俗分野「現代社会の中の民俗」（7年計画1年次目）

近代の社会変化と現代の消費文化、観光などの社会的需要が、民間の儀礼や習俗にどのような影響を与え、現在の形態を形成したのかについて調査を行った。

美術分野「青森県関係の美術作品及び資料の調査研究」（5年計画1年次目）

青森県の美術作品について、昭和・平成期を中心に活躍した作家と関連資料の調査を行った。

4 教育普及

県民の郷土に対する理解を深めるため、各種講座・講演会などの実施と研究紀要・資料冊子などの刊行を行った。

土曜セミナー

一般を対象に、歴史・文化・自然に関わるテーマについて、当館職員が講演を行った。（実施回数13回）

講師派遣事業

当館の学芸員を、各分野に関する講演会・学習会などへ講師として派遣した。（実施件数14件）

移動博物館

郷土館が収蔵している資料を県内の公共施設などに運び、展示・解説を行った。（実施件数7件）

自然観察会

一般を対象に、大地のつくりや動植物の観察などを通じて、自然界の不思議や仕組みについて考え、自然に親しみ、自然のすばらしさを学ぶ「自然観察会」を行った。

夏の自然観察会（7月2日）

西目屋村 目屋溪谷

秋の自然観察会（10月1日）

今別町 高野崎

あおもり街かど探偵団

地域の歴史的建造物や街並みの歴史を探索する街歩きツアーを実施した。

第1回 「浅虫温泉と道」（6月25日）

第2回 「湯の町 浅虫の歴史」（10月15日）

博物館の仕事普及啓発事業

博物館活動や博物館資料への理解を深めるため、県内博物館職員等を対象に地域で作る博物館の展示に関する講演会を開催するとともに、当館の活動や資料解説などを掲載した小冊子を作成し関係機関に配布した。

出前授業

郷土館が収蔵している資料を県内の学校に運び、授業の中で実物資料の展示・解説を行った。（実施件数21件）

こどものくに

夏休み・冬休み中の子どもの学習を支援し、博物館に対する興味関心を深めるため、体験活動やものづくりを中心としたイベントを実施した。

夏休みこどものくに

ワークショップ「縄文を学んで作ろう ミニチュア土器&土偶」（7月30日）

冬休みこどものくに

「冬休みづくりまわし大会」（1月13日）

出版物

『青森県立郷土館報』通巻50号

『青森県立郷土館研究紀要』第48号

『青森県立郷土館だより』第54巻1～2号（通巻184～185号）

5 連携・交流・情報発信

在宅のままでも郷土館所蔵資料について楽しみながら知ることができるよう、動画投稿サイト・YouTubeに開設している公式チャンネル「キョドチャンネル」に、新たに動画コンテンツを1本追加した。

6 施設管理

耐震補強を含めた施設設備の長寿命化改修に向けて、令和4年度に取りまとめた基本計画を踏まえ、改修・展示の基本設計を行った。

[4] 利用状況

令和5年度利用状況

		4月	5月	6月	7月	8月	
開館日数		0	0	0	0	0	
展 示 事 業	常設展・特別展・移動展	小・中学生	0	0	0	0	0
		前年度	0	0	0	0	0
		対前年度	-	-	-	-	-
		高校・大学生	0	0	0	0	0
		前年度	0	0	0	0	0
		対前年度	-	-	-	-	-
		一般	0	0	0	2,823	5,792
		前年度	0	0	5,581	5,040	2,728
		対前年度	-	-	0.0	56.0	212.3
	観覧者合計	0	0	0	2,823	5,792	
	前年度	0	0	5,581	5,040	2,728	
	対前年度	-	-	0.0	56.0	212.3	
	1日当たり観覧者数	-	-	-	-	-	
教 育 普 及 ・ ホ ー ル 利 用 事 業	教育普及事業	資料の調査研究利用	0	0	0	0	0
		レファレンス利用	47	62	60	42	30
		講演会等への参加	0	25	29	70	9
		出前授業等の館外活動	0	40	0	9	88
		計	47	127	89	121	127
	ホール利用	展示の観覧	0	0	0	0	0
		講習会等の参加	0	0	0	0	0
		計	0	0	0	0	0
	合計	47	127	89	121	127	
	前年度	33	50	69	267	177	
	対前年度	142.4	254.0	129.0	45.3	71.8	
利 用 合 計	利用者合計	47	127	89	2,944	5,919	
	前年度	33	50	5,650	5,307	2,905	
	対前年度	142.4	254.0	1.6	55.5	203.8	
	1日当たり利用者数	-	-	-	-	-	

9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0
-	-	-	-	-	-	-	-
0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0
-	-	-	-	-	-	-	-
325	8,697	8,441	6,921	7,610	5,385	1,174	47,168
1,361	3,246	924	4,079	3,581	0	0	26,540
23.9	267.9	913.5	169.7	212.5	-	-	177.7
325	8,697	8,441	6,921	7,610	5,385	1,174	47,168
1,361	3,246	924	4,079	3,581	0	0	26,540
23.9	267.9	913.5	169.7	212.5	-	-	177.7
-	-	-	-	-	-	-	-
0	0	0	0	0	0	0	0
56	49	37	42	32	39	37	533
35	42	30	20	63	27	20	370
161	135	489	252	88	55	0	1,317
252	226	556	314	183	121	57	2,220
0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	0	0	0	0	0	0
252	226	556	314	183	121	57	2,220
485	365	309	566	325	504	259	3,409
52.0	61.9	179.9	55.5	56.3	24.0	22.0	65.1
577	8,923	8,997	7,235	7,793	5,506	1,231	49,388
1,846	3,611	1,233	4,645	3,906	504	259	29,949
31.3	247.1	729.7	155.8	199.5	1,092.5	475.3	164.9
-	-	-	-	-	-	-	-

7章 青森県埋蔵文化財調査センター

[1] 施設

1 埋蔵文化財調査センター

所在地 青森市大字新城字天田内152 - 15

敷地面積 17,955.29m²

主要施設

- ア 新館 鉄筋コンクリート造 地上2階 延床面積 3,123.08m²
収蔵・展示室、第1 - 第4整理室、写場、図書閲覧室、多目的室等
- イ 本館 鉄筋コンクリート造 地上2階 延床面積 1,819.56m²
一般収蔵庫、水洗い室、PEG含浸室、木製品前処理室、木製品・金属製品保管室、種子等保管・分析室、樹脂含浸錆び落し室、脱塩処理室、注記室、写真・スライド保管室、ネガアルバム保管室、実測図保管室等
- ウ 体育館収蔵庫 鉄骨造 地上1階 床延面積 846.90m²
- エ 遺物乾燥室 軽量鉄骨造 地上2階 延床面積 129.60m²

2 六ヶ所収蔵庫

所在地 六ヶ所村大字倉内字笹崎1066 - 1

敷地面積 13,224.48m²

収蔵庫 木造 地上1階 延床面積 162.00m²

3 七戸収蔵庫

所在地 七戸町舟場向川久保243 - 1

敷地面積 8,760.00m²

収蔵庫

- ア 南棟 鉄筋コンクリート造 地上2階 延床面積 2,386.00m²
- イ 西棟 鉄骨造 地上2階 延床面積 1,157.71m²
- ウ 東棟 鉄筋コンクリート造 地上2階 延床面積 668.70m²
- エ その他 機械室、物置

4 大鰐収蔵庫

所在地 大鰐町大字虹貝字中熊沢10 - 4

敷地面積 17,128.00m²

収蔵庫

- ア 南棟 鉄筋コンクリート造 地上5階 延床面積 3,591.85m²
- イ 西棟 鉄骨造 地上2階 延床面積 1,211.23m²
- ウ その他 受水槽室、倉庫

[2] 事 業

1 埋蔵文化財発掘調査

国道394号榎林バイパス道路改築事業

七戸町 鉢森平(7)遺跡

〔所在地〕上北郡七戸町字鉢森平地内

〔調査期間〕令和5年5月9日～令和5年8月31日

〔調査面積〕1,450㎡

〔委託者〕青森県県土整備部(道路課)

〔調査結果〕検出遺構 縄文

竪穴建物跡1、掘立柱建物跡4、土坑61、柱穴36、溝状土坑8、土器埋設遺構3、焼土遺構1

出土遺物 縄文

土器、石器、土製品、石製品等 段ボール箱43箱

国道279号横浜北バイパス道路改築事業

横浜町 林ノ後遺跡

〔所在地〕上北郡横浜町字林ノ後、字中椴名木地内

〔調査期間〕令和5年9月1日～令和5年10月13日

〔調査面積〕3,000㎡

〔委託者〕青森県県土整備部(道路課)

〔調査結果〕検出遺構 縄文・時代不明

土坑10、溝跡1

出土遺物 縄文・平安・中世以降

石器、陶磁器、鉄滓等 段ボール箱1箱

常海橋銀線道路改築事業

青森市 郷山前村元遺跡

〔所在地〕青森市浪岡大字郷山前字村元地内

〔調査期間〕令和5年5月9日～令和5年7月28日

〔調査面積〕1,670㎡

〔委託者〕青森県県土整備部(道路課)

〔調査結果〕検出遺構 縄文・平安

竪穴建物跡1、円形周溝1、土坑3、掘立柱建物跡1、井戸跡2、柱穴7、性格不明遺構2

出土遺物 縄文・平安・近世

土器、石器、陶磁器等 段ボール箱2箱

弘前柏線道路改築事業

弘前市 鳴瀬遺跡

〔所在地〕弘前市大字三世寺字鳴瀬地内

〔調査期間〕令和5年9月5日～令和5年10月27日

〔調査面積〕900㎡

〔委託者〕青森県県土整備部（道路課）

〔調査結果〕検出遺構 平安以降・時期不明

堀跡1、溝跡2、小穴13、土坑1

出土遺物 縄文・平安

土器、石器、陶磁器等 段ボール箱1箱

新青森県総合運動公園整備事業

青森市 米山(2)遺跡

〔所在地〕青森市大字宮田字米山地区内

〔調査期間〕令和5年6月6日～令和5年9月22日

〔調査面積〕1,000㎡

〔委託者〕青森県県土整備部（都市計画課）

〔調査結果〕検出遺構 縄文・中世

掘立柱建物跡1棟を含む柱穴群、土坑20、焼土遺構1

出土遺物 縄文・中世

土器、石器、陶磁器等 段ボール箱89箱

2 刊行物

酪農(3)遺跡

（青森県埋蔵文化財調査報告書第641集）

鉢森平(6)遺跡

（青森県埋蔵文化財調査報告書第642集）

毛合清水(3)遺跡外

（青森県埋蔵文化財調査報告書第643集）

戸来館遺跡

（青森県埋蔵文化財調査報告書第644集）

研究紀要第29号

3 「地元の縄文」再発見プロジェクト事業

事業の概要

「地元の縄文」の活用促進を目的とする「取組1」と、「地元の縄文」の魅力の再発見と情報の発信を行う「取組2」を実施した。

取組1 活用促進

地域連携会議

「地元の縄文」再発見フェア開催地域における発掘成果と出土品に関する概要報告、県所蔵出土品の活用案の提示、埋蔵文化財の保護と活用に関する事例報告等を行った。

〔第3回会議〕

開催日 7月5日

対象地域及び参加市町村 三八地域（八戸市、三戸町、五戸町、田子町、南部町、階上町、新郷村）

会場 三戸町中央公民館（三戸町）

〔第4回会議〕

開催日 9月29日

対象地域及び参加市町村 西北地域（五所川原市、つがる市、深浦町、中泊町）

会 場 五所川原市中央公民館（五所川原市）

教材の制作

三八地域と西北地域の発掘調査による出土品を用いた教材及び指導者用の取扱説明書を制作した。

〔三八地域〕

制作数 40セット

1セットの内容 土器破片40点以上、石器10～12点

配布対象市町村 八戸市・三戸町・五戸町・田子町・南部町・階上町・新郷村

〔西北地域〕

制作数 20セット

1セットの内容 土器破片40点以上、石器10～12点

配布対象市町村 五所川原市・つがる市・鱒ヶ沢町・深浦町・板柳町・鶴田町・中泊町

取組2 魅力再発見・情報発信

「地元の縄文」再発見フェアの開催

三八地域・西北地域を対象とした出土品展示会、体験学習会、講演会・シンポジウムの3要素で構成されるフェアを開催した。

〔三八地域〕

開催期間 9月16日～18日（月・祝）

名 称 「地元の縄文」再発見フェア in さんばち

共 催 三戸町教育委員会

会 場 三戸町民体育館、三戸町中央公民館（三戸町）

来場者数 488名（16日：108名 17日：208名 18日：172名）

・出土品展示会

展示対象市町村 八戸市・三戸町・五戸町・田子町・南部町・階上町・新郷村

展 示 遺 物 数 1,150点

展 示 パネル数 199点

・体験学習会

さ わ る 「ならべてみよう」・「なかもみつけ」、ハンズオン「さわってみよう」

つ く る 「JOMON缶バッジ作り」

たいけんする 射る（弓矢）・起こす（火おこし）・割る（木の実割り）・切る（紙を切る）

・講演会・シンポジウム

参 加 者 76名

基 調 講 演 「さんばちの縄文時代」野田尚志（三戸町教育委員会）

事 例 報 告 「八戸市と階上町の縄文時代」市川健夫（八戸市教育委員会）

「新郷村と五戸町の縄文時代」村本恵一郎（五戸町教育委員会）

「田子町・三戸町・南部町の縄文時代」岡本洋（県埋文センター）

シンポジウム 「再発見“さんばちの縄文” - 沿岸と内陸の縄文文化を語る - 」

パネリスト 野田尚志・市川健夫・村本恵一郎・岡本洋

コーディネーター 木村高（県埋文センター）

〔西北地域〕

開催期間 11月11日 ~12日

名 称 「地元の縄文」再発見フェア in せいほく

会 場 五所川原市中央公民館（五所川原市）

来場者数 413名（11日：184名 12日：229名）

・出土品展示会

展示対象市町村 五所川原市・つがる市・鱒ヶ沢町・深浦町・板柳町・鶴田町・中泊町

展 示 遺 物 数 651点

展 示 パネル数 152点

・体験学習会

さ わ る 「ならべてみよう」・「なかまみつけ」、ハンズオン「さわってみよう」

つ く る 「JOMON缶バッチ作り」

たいけんする 射る（弓矢）・起こす（火おこし）・割る（木の実割り）

・講演会・シンポジウム

参 加 者 75名

基 調 講 演 「せいほくの縄文時代」齋藤淳（中泊町博物館）

事 例 報 告 「津軽平野の縄文時代1」江戸邦之（五所川原市教育委員会）

「津軽平野の縄文時代2」小林和樹（つがる市教育委員会）

「西海岸の縄文時代」岡本洋（県埋文センター）

シンポジウム 「再発見“せいほくの縄文” - 平野と沿岸の縄文文化を語る - 」

パネリスト 齋藤淳・江戸邦之・小林和樹・岡本洋

コーディネーター 木村高（県埋文センター）

あおもり縄文カードの作成

所蔵する遺物写真に解説文を添えたカードを作成し、県内の道の駅、登録博物館・博物館類似施設、その他各地の拠点的な公開施設等で配布した。

〔制作種類〕100種類

〔制作枚数〕80,000枚（1種類につき800枚）

〔対象遺物の出土地〕青森県内全40市町村

8章 三内丸山遺跡センター

[1] 施設

特別史跡三内丸山遺跡と青森県総合運動公園の公園センターである縄文時遊館を合わせて教育機関「三内丸山遺跡センター」として平成31年4月に設置された。

1 所在地 青森市三内字丸山305

2 遺跡ゾーン 42.2ha（開園面積33.3ha）うち、特別史跡範囲25.2ha

3 縄文時遊館

延床面積 10,385.37㎡（地階 1,464.71㎡、1階 8,474.82㎡、2階 445.84㎡）

構造 鉄筋コンクリート造 地上2階建地下1階建

既存部分

ア 延床面積 7,347.96㎡

イ 主要各室

ア 1階 さんまるミュージアム（875㎡、約1,700点（うち重要文化財約500点）展示）、縄文シアター、体験工房等

イ 2階 会議室

増築部分

ア 延床面積 3,037.41㎡

イ 主要各室

ア 1階 企画展示室（245.91㎡）、展示準備室（70.04㎡）、ギャラリー（269.91㎡）、整理作業室（404.44㎡）等

イ 地階 一般収蔵庫（680.84㎡）、特別収蔵庫（194.19㎡）、撮影室等

[2] 運営方針

三内丸山遺跡センター基本的運営方針

遺跡は、平成6年に保存・活用が決定されて以来、発掘調査を継続するとともに、遺跡公園としての整備を進め、公開・活用に努めてきました。平成31年4月に「三内丸山遺跡センター」を設置し、遺跡の保存・管理体制をさらに強化するとともに、国内外からより一層多くの見学者が遺跡を訪れ、縄文の「ムラ」のたたずまいの中で、遺跡を知り、体感し、親しむことができるよう、日本を代表する縄文遺跡にふさわしい調査・研究、保存・活用、展示、教育普及などの取組を進めていきます。

また、令和3年7月27日に縄文遺跡群の世界遺産登録決定を受け、縄文遺跡群を守り未来へ伝えていくため、縄文遺跡群の一体的な保存管理を推進していきます。

1 遺跡の保存・活用の推進と三内丸山遺跡センターの効率的な運営

「特別史跡三内丸山遺跡整備計画（令和2年3月策定）」に基づき、遺構等を適切に保存するとともに見学者へ魅力や価値を伝達するため、着実に史跡整備を実施します。

保存活用課、世界文化遺産課及び総務課の所掌事務を踏まえ、三課が連携して更なる魅

カづくりや来訪促進事業に取り組み、その効果を最大限に発揮できるよう、効率的な運営を推進します。

遺跡活用団体や地域住民の理解と協力のもと、積極的な保存・活用を実施します。

2 調査研究の推進

遺跡の全体像の解明、保存・活用の推進のため、発掘調査を継続するとともに特別研究推進事業や出土品に関する調査研究を実施します。

3 出土品及び資料の適切な管理と活用

出土品及び出土資料は、適切な環境の下で保存します。

4 遺跡の積極的な展示・公開

縄文の「ムラ」のたたずまいを体感・体験できる場として遺跡を整備公開するとともに、県民の関心の高いテーマについて、各方面から資料を集めて展示する特別展など、多彩な展示活動を実施します。

5 遺跡についての学習の機会及び情報の提供

体験学習や講座、出前講座、発掘調査報告会、体感・体験イベントなどを実施します。

リーフレット、展示図録、研究紀要等を作成・配布し積極的な情報発信をします。

6 縄文遺跡群の一体的な保存管理の推進

縄文遺跡群の顕著な普遍的価値を守り伝えていくため、包括的保存管理計画に基づき、資産の適切な保存と管理を実施します。

各構成資産の周辺に適切な範囲の緩衝地帯を設定し、顕著な普遍的価値を伝達する各属性に負の影響を及ぼさないよう、構成資産と一体的に保全します。

来訪者の顕著な普遍的価値の理解を促進するため、施設及び受入体制の整備・充実を図ります。

構成資産及び緩衝地帯を適切に保護・保全するため、関係行政機関の連携・協働による管理を実施します。

縄文遺跡群の顕著な普遍的価値を守るため、観察指標を設定し、構成資産及び緩衝地帯の継続的な経過観察（モニタリング）を実施します。

縄文遺跡群の顕著な普遍的価値を確実に次世代に継承するため、学校、地域住民、民間団体等と連携・協働しながら、保存・活用を実施します。

7 縄文遺跡群の普及啓発の推進

縄文遺跡群の顕著な普遍的価値を伝え、保護意識を高めていくため、県内外での様々な企画を実施します。

県内の構成資産を管理する自治体と連携し、さらなる魅力向上の取組を進め、縄文遺跡群の受入態勢の充実を促進します。

[3] 事 業

1 調査研究

発掘調査（第48次調査）

ア 調査期間 令和5年6月1日～10月31日

イ 調査面積 545㎡

ウ 調査結果

第48次調査は、第3期発掘調査計画の8か年目に当たり、以下を課題として調査を実施。

南地区東側の土坑墓及び竪穴遺構の分析と時期の確認

検出遺構

縄文時代の竪穴建物跡2棟、フラスコ状土坑1基、古代の竪穴建物跡1棟、縄文時代及び古代以降のピット4基を検出。

出土遺物

段ボール箱約4箱分の縄文土器・石器・土製品・石製品等が出土。

関連遺跡調査

ア 調査期間 令和6年2月27日

イ 調査地 群馬県立歴史博物館（高崎市）

（公財）群馬県立埋蔵文化財調査事業団（渋川市）

ウ 調査成果等

3Dデータの作成及び活用について先進事例の調査を実施

三内丸山遺跡特別研究推進事業

遺跡の全体像解明並びに円筒土器文化及び縄文文化に関する調査・研究を推進するため、三内丸山遺跡センターが実施する共同研究のほか、公募研究を実施。

ア 共同研究

「円筒土器文化における集落の実態をさぐる」

特定非営利活動法人 三内丸山縄文発信の会

ア 第1回研究会議（令和5年12月9日）

円筒上層c式、d式、e式の有効な属性を探り、細分できるか検討した。また、青森平野の遺跡を対象に、遺構から出土した土器について検討を行った。

イ 第2回研究会議（令和6年2月10日）

円筒土器文化圏内の本州の日本海側と太平洋側について、地域ごとの円筒上層式土器の比較検討を行った。

ウ 第3回研究会議（令和6年3月18日）

渡島半島で出土した円筒上層式土器について比較検討を行った。

イ 公募研究

応募3件（採択2件）

・「円筒土器文化圏の集落形態と変遷に関する比較考古学的研究」

研究者：永瀬 史人氏（さいたま市教育委員会）

・「縄文人のDNAを解読する - 堆積物からDNAを取り出せるか? - 」

研究者：山谷 あかり氏（青森大学青森ねぶた健康研究所）

遺跡環境調査

露出展示遺構の長期的な保存・公開に向けて、その具体的な対応を検討するための基礎的な資料として、覆屋内の気温・湿度等について定期的にデータを収集。

また、北の谷において有機質遺物の保存状況をモニタリングするため、地下水位と水質を測定。

三内丸山遺跡発掘調査委員会

遺跡に関する学術的な解明や継続的な発掘調査計画検討のため、専門家による委員会を

開催。

ア 第1回発掘調査委員会（令和5年8月24日）

開催場所 三内丸山遺跡センター 2階会議室（第2、3回も同じ）

内 容：発掘調査について

特別研究推進事業について

第4期発掘調査計画について

イ 第2回発掘調査委員会（令和5年10月4日）

内 容：発掘調査について

第4期発掘調査計画について

特別研究推進事業について

ウ 第3回発掘調査委員会（令和6年3月19日）

内 容：今年度の発掘調査について

来年度の発掘調査について

特別研究推進事業について

第3期調査の成果と第4期発掘調査計画について

発掘調査報告書の刊行

令和2年度から令和5年度まで発掘調査を行った旧都市計画道路予定地付近（第44～46次発掘調査）及び南地区東側（第47・48次発掘調査）の調査成果をまとめた発掘調査報告書（三内丸山遺跡48）を刊行。

2 保存

遺構等の維持管理

公開している遺構を年16回清掃し、適切に維持・管理。また、北盛土の露出展示遺構面の保存処理を実施。

重要文化財修理事業

三内丸山遺跡の出土品で重要文化財に指定されたもののうち、展示や貸出機会の多いもの、劣化や脆弱な箇所が認められるものについて保存修理を実施。（土器6点、骨角器5点）

三内丸山遺跡長寿命化事業

高床建物29号長寿命化工事及び大型竪穴建物改修設計を実施。

三内丸山遺跡保存活用推進協議会（令和6年3月21日）

開催場所：三内丸山遺跡センター 体験工房3

内 容：令和5年度資産の保存・管理及び緩衝地帯の保全について

令和6年度資産の保全・管理及び緩衝地帯の保全（予定）について

保存・活用について

史跡境界標打設

特別史跡指定範囲を明示する史跡境界標を43点打設。

遺跡影響評価の実施

28件実施

経過観察の実施

令和4年度の経過観察について、経過観察年次報告書を作成した。

3 整備

三内丸山遺跡史跡整備事業

西側法面保護工事、西盛土隣接展望エリア整備、子どもの墓覆屋撤去、給水・給電施設実施設計、園路改修実施設計を実施。

三内丸山遺跡史跡整備検討委員会

ア 第1回三内丸山遺跡史跡整備検討委員会（令和5年8月17日）

開催場所：三内丸山遺跡センター 2階会議室（第2回も同じ）

内 容：令和4年度の史跡整備事業について

令和5年度の史跡整備事業について

史跡整備全体計画の見直しについて

令和6年度の史跡整備事業について

植栽整備計画について

イ 第2回三内丸山遺跡史跡整備検討委員会（令和5年11月14日）

内 容：令和5年度の史跡整備事業について

三内丸山遺跡史跡整備事業における覆屋の考え方について

植栽整備計画について

常設展示室環境整備事業

常設展示室「さんまるミュージアム」のLEDライト更新等を実施し、エアタイト展示ケース1台を整備した。

4 普及啓発

縄文体験学習

体験学習名	内 容	開催日	参加人数
石のアクセサリーを作ろう	石を使ってアクセサリーを作りました。	5月13日	19人
発掘をしてみよう	遺跡内で発掘調査を体験しました。	7月28日	17人
土器を作ろう	粘土を使って縄文土器を作りました。	8月19日	10人
粘土のアクセサリーを作ろう	粘土を使ってアクセサリーを作りました。	9月2日	9人
釣り針を作って魚を釣ろう	シカの角で釣り針を作って魚を釣る体験をしました。	9月30日	15人
土器を作ろう	土器の野焼き体験をしました。	10月21日	中止
土偶のレプリカを作ろう	本物の土偶を使ってレプリカを作りました。	11月11日	8人
土偶を作ろう	粘土を使って土偶を作りました。	1月20日	17人
貝のアクセサリーを作ろう	ペンケイガイで腕輪等のアクセサリーを作りました。	2月10日	15人

縄文学講座

内 容	講 師	開催日	参加人数
青森県のヒスイ製品	業天 唯正（三内丸山遺跡センター）	4月29日	22人
遠隔地のヒスイ利用	高橋 哲（三内丸山遺跡センター）	5月27日	23人
原産地のヒスイ利用	山岸 洋一（糸魚川市教育委員会）	6月17日	28人
青森県の漆利用	木村 恵理（三内丸山遺跡センター）	7月30日	17人
縄文人と漆	岡田 康博（三内丸山遺跡センター）	8月26日	23人
現代の漆工からみえる縄文漆の魅力	斉藤 和彦（日本文化財漆協会）	9月9日	30人
企画展 遺跡北側を知る	舘山 友香理（三内丸山遺跡センター）	11月4日	17人

特別史跡三内丸山遺跡報告会

令和6年3月9日に実施。

企画展

「さんまる北側・新発見」

ア 開催期間：令和5年10月28日～令和6年3月10日

イ 内 容：遺跡北側における近年の発掘調査成果について紹介。

特別展

ア 「三内丸山とヒスイ - 本州最北に集う緑と技術 - 」

ア 開催期間：令和5年4月15日～7月2日

イ 内 容：ヒスイ製品や玉づくりに関わる出土品から青森県の縄文人とヒスイの深いつながりについて紹介。

イ 「三内丸山と漆 - 暮らしを彩る技 - 」

ア 開催期間：令和5年7月21日～9月18日

イ 内 容：漆製品や製作技術に関する出土品から縄文時代の漆利用について紹介。

5 三内丸山遺跡の魅力に関する情報発信

刊行物

ア 三内丸山通信第78号、第79号

遺跡に関する情報発信紙

イ 特別史跡三内丸山遺跡研究紀要5

令和4年度の成果を中心とした調査・研究の報告

ウ 特別展「三内丸山とヒスイ」展示図録

特別展「三内丸山とヒスイ」の展示内容解説

エ 特別展「三内丸山と漆」展示図録

特別展「三内丸山と漆」の展示内容解説

オ 特別史跡三内丸山遺跡リーフレット

三内丸山遺跡・縄文時遊館観覧の案内

カ 三内丸山遺跡ガイドブック

三内丸山遺跡とその出土品について解説

縄文体験イベント等の実施

ア 縄文祭り

四季を通じて縄文文化の魅力等を伝えるため、縄文祭りを4回開催。

ア 縄文春祭り（4月22日～23日）

参加人数：4,183人

イ 縄文夏祭り（7月22日～23日）

参加人数：9,912人

ウ さんまるJOMONの日（9月16日～18日）

参加人数：8,700人

エ 縄文冬祭り（2月3日～4日）

参加人数：3,461人

イ 出土品のレプリカ、縄文服及び写真貸出

ア 出土品のレプリカ、縄文服

延べ13件を貸出（出土品のレプリカ8件、縄文服5件）。

イ 写真

63件を貸出。

三内丸山遺跡センター運営協議会

ア 第1回（令和5年8月31日）

開催場所：三内丸山遺跡センター 体験工房3（第2回も同じ）

内 容：令和5年度事業実施状況及び今後の予定等について

イ 第2回（令和6年3月11日）

内 容：令和5年度事業実施状況について

令和6年度の予定（方向性）等について

三内丸山遺跡の「縄文」里山育成・継承の取組

ア 遺跡の植生についての学習・調査の機会の提供

遺跡内の「縄文」里山植物について、地域住民の理解を深めるため、遺跡内での生息環境や分布等の学習・調査を実施。

イ 「縄文」里山植物の苗木育成や収穫祭等の体験

地域住民参加型の「縄文」里山植物の苗木育成・植樹、剪定・伐採、収穫祭等の体験会を5回実施。

体験者延べ56名、高校生サポーター延べ18名

遺跡内の自然素材を活用したムラづくり体験

竪穴建物1棟について、解体から素材の採集・加工・組立までの体験会を6回実施。

体験者延べ98名、高校生サポーター延べ35名

県内中・高・大学生による観光客への遺跡の価値を伝える商品開発

県内の中・高・大学生に、遺跡の価値を観光客へ伝えるためのPRグッズの提案をしてもらい、作成した。

応募件数130件各校種1点（マスキングテープ、定規、絆創膏）を製品化した。

遺跡の価値を伝える体験メニューやプログラムの開発・実施

ア 外国人観光客向け体験メニュー及び修学旅行用体験メニューの開発

縄文服や小物を着用したうえで、森の中で植物を採集するイメージや炉を活用し、当

時の調理シーンを連想できる仮設ブースを設営した。

クルミ割り体験等（4回開催）196名参加

イ 遺跡の価値を伝える三内丸山遺跡動画の制作

遺跡への来訪を促すためのステージイベント等の実施

令和5年9月17日：100名参加、令和6年2月3日：120名参加（パブリックビューイング含む）

6 縄文遺跡群に関連する取組

縄文遺跡群に関連する取組として、以下の取組を実施。

一体的な保存と活用の推進

ア 縄文遺跡群世界遺産本部等の運営

ア 第1回縄文遺跡群世界遺産協議会（令和5年6月19日、オンライン開催）

内 容：令和5年度縄文遺跡群世界遺産本部事業について

保存活用推進行動計画について

遺産影響評価について 等

イ 第2回縄文遺跡群世界遺産協議会（令和5年11月30日、オンライン開催）

内 容：縄文遺跡群の来訪者数について

縄文遺跡群保存活用推進行動計画について

遺産影響評価について 等

ウ 第3回縄文遺跡群世界遺産専門家委員会（令和5年7月18日、オンライン開催）

内 容：保存活用推進行動計画の策定について

遺産影響評価の運用方法・体制の検討について 等

エ 第4回縄文遺跡群世界遺産専門家委員会（令和5年12月12日）

開催場所：アートホテル盛岡

内 容：2022年度縄文遺跡群経過観察年次報告書（案）について

遺産影響評価の取組状況について 等

オ 令和5年度縄文遺跡群世界遺産協議会青森県部会（令和6年2月28日）

開催場所：三内丸山遺跡センター

内 容：2022年度縄文遺跡群経過観察年次報告書（青森県内分）について

県内自治体における遺産影響評価の取組事例について 等

イ 来訪者動向調査

実施期間：令和5年8月

実施場所：各構成資産又はガイダンス施設

ウ 刊行物

「2022年度北海道・北東北の縄文遺跡群経過観察年次報告書」（令和6年3月）

エ その他

北海道・北東北の縄文遺跡群デジタルアーカイブ「JOMON ARCHIVES」が、令和5年8月25日にデジタルアーカイブジャパン推進委員会及び実務者検討委員会（事務局：内閣府知的財産戦略推進事務局）「デジタルアーカイブジャパン・アワード2023」を受賞した。

魅力発信プロモーション

ア 世界遺産2周年記念フォーラム

ア 青森フォーラム(令和5年7月29日)

場 所:三内丸山遺跡センター

内 容:報告「世界遺産になって変わったこと」

三内丸山遺跡センター世界文化遺産課 中澤 寛将

講演「青森の縄文時代遺跡 - 世界文化遺産と国指定史跡の理想と現実 - 」

縄文遺跡群世界遺産専門家委員会委員

同志社大学文学部教授 水ノ江 和同

講演「縄文遺跡群の未来」

縄文遺跡群世界遺産協議会長

三内丸山遺跡センター所長 岡田 康博

意見交換「遺産を未来へ伝えるために」

同志社大学文学部教授 水ノ江 和同

三内丸山遺跡センター所長 岡田 康博

参加人数:50人

イ 大阪フォーラム(令和5年11月23日)

場 所:堺市産業振興センター(大阪府堺市)

内 容:講演「百舌鳥・古市古墳群の価値とその魅力」

兵庫県立考古博物館 館長 和田 晴吾

講演「北海道・北東北の縄文遺跡群の価値とその魅力」

縄文遺跡群世界遺産協議会長

三内丸山遺跡センター所長 岡田 康博

講演「世界文化遺産と国指定史跡 - 相違点と展開の可能性 - 」

縄文遺跡群世界遺産専門家委員会委員

同志社大学文学部教授 水ノ江 和同

意見交換「世界遺産を未来へ伝えるために」

同志社大学文学部教授 水ノ江 和同

藤井寺市教育委員会 文化財専門員 福田 英人

三内丸山遺跡センター所長 岡田 康博

共 催:百舌鳥・古市古墳群世界遺産保存活用会議(大阪府、堺市、羽曳野市、藤井寺市)

参加人数:500人

ウ 東京フォーラム(令和6年1月28日)

場 所:有楽町朝日ホール(東京都千代田区)

内 容:基調講演「縄文時代の始まりと終わり」

縄文遺跡群世界遺産専門家委員会委員

東京大学大学院人文社会系研究科 准教授 根岸 洋

報告「縄文の始まりを掘る-大平山元遺跡-」

外ヶ浜町教育委員会 世界遺産対策室 室長補佐 駒田 透

報告「縄文のムラを掘る-垣ノ島遺跡-」

北海道環境生活部文化局文化振興課縄文世界遺産推進室

特別研究員 阿部 千春
 パネルディスカッション 「縄文の始まりと終わり」
 パネリスト

大阪府立弥生文化博物館 館長 禰亘田 佳男
 東京大学大学院人文社会系研究科 准教授 根岸 洋
 北海道縄文世界遺産推進室 特別研究員 阿部 千春
 コーディネーター
 縄文遺跡群世界遺産協議会長
 三内丸山遺跡センター所長 岡田 康博

参加人数：600人

イ 北海道・北東北の縄文遺跡群ガイダンス映像制作
 縄文遺跡群の顕著な普遍的価値や構成資産の特徴について紹介する映像を以下のとおり制作。

- ・15分版映像（日本語版、英語版）
- ・ダイジェスト版映像（日本語版、英語版）

ウ 世界遺産でパシャ！北海道・北東北の縄文遺跡群フォトコンテスト2023

応募作品の中でも魅力ある作品を集めてカレンダーを作成。

募集期間：令和6年1月12日まで

応募総数：838枚

発行部数：8,000部

エ 刊行物

「北海道・北東北の縄文遺跡群まるごとナビ2023」を発行。

世界遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」パンフレットを改訂。

普及啓発事業

ア 県内8遺跡での来訪促進周遊企画・2周年記念催事を実施。

ア 県内8遺跡での周遊来訪企画（縄文おでかけスタンプラリー）

期 間：令和5年4月28日～10月31日

参加組数：延べ7,679組

イ 世界遺産登録2周年記念催事（さんまる世界遺産ウィーク）

特別展、夏祭り、フォーラム等を合わせ、一連の登録記念催事として実施。開催期間内の土・日・祝日については、常設展観覧料無料。夏祭り（7月22日、23日）ではキャラクターショーやFM青森の公開生放送等のステージイベントとマルシェを実施。

期 間：令和5年7月21日～30日

来館者数：17,763人

イ 縄文あおもりプロモーション事業

団 体 名	事 業 内 容
(株)Pastorelli JAPAN	縄文をテーマとした新体操パフォーマンスの制作・上演
(株)青森イベントサービス	オリジナル縄文Tシャツ製作公募キャンペーン
(株)金入	土偶をモチーフにしたショートバスタ製作・PR
(株)東奥アドシステム	県内縄文遺跡群を巡るバスツアー（南部編）
(NPO)つがる縄文の会	木造高生とコラボして行う縄文AR制作及びそれを活かした情報発信

ウ 縄文“体感”世界遺産講座の開催

団体名	開催日	参加人数
青森市立泉川小学校(知事講座)	令和5年5月29日	132人
青森市立浪岡野沢小学校	令和5年6月2日	13人
青森県よろこびの会	令和5年6月29日	25人
五戸町立上市川小学校	令和5年6月30日	16人
北海道教育庁渡島教育局教育支援課	令和5年9月4日	7人
中泊町立小泊小学校	令和5年11月1日	11人
東北卸商業団地連絡協議会	令和6年2月5日	17人
計		221人

R5から青森、弘前、八戸、つがる、七戸は各自自治体主催の世界遺産の講座を実施している。

エ 世界遺産ガイド養成講座の開催

ア 前期講座

	日時	内容	受講者
第1回	令和5年8月27日	講義、現地研修(三内丸山遺跡、小牧野遺跡)	12名
第2回	令和5年9月2日	現地研修(大平山元遺跡、田小屋野貝塚、亀ヶ岡石器時代遺跡、大森勝山遺跡等)	17名
第3回	令和5年9月3日	現地研修(七戸町二ツ森貝塚、八戸市是川石器時代遺跡)	19名

イ 後期講座

	日時	内容	受講者
第1回	令和5年11月14日	現地研修(大平山元遺跡、亀ヶ岡石器時代遺跡、大森勝山遺跡)	20名
第2回	令和5年11月21日	現地研修(七戸町二ツ森貝塚、八戸市是川石器時代遺跡)	21名
第3回	令和5年12月2日	講演・ワークショップ 「インタープリターの役割 ～来訪者が感動する「伝え方」・「話し方」～」 講師：川嶋 直 氏 (公社)日本環境教育フォーラム 主席研究員 (一社)日本インタープリテーション協会理事	26名

オ 刊行物

「世界遺産 北海道・北東北の縄文遺跡群 縄文あおもりテキストBOOK」
認知度向上事業

ア 交通広告等や誘客促進ツールの制作の実施

ア 青森駅・新青森駅でポスターを掲示

掲載期間：令和5年4月1日～令和6年3月31日（イ、ウも同じ。）

イ 青森空港・三沢空港で電飾看板を掲示

ウ 青い森鉄道車体広告

エ ブックカバー等広告

配布枚数：ブックカバー57,000枚、しおり47,000枚

配布場所：青森県、首都圏、関西圏

配布期間：令和6年3月

イ 「青森の縄文遺跡群」世界遺産県外プロモーション2023「ホレボレ縄文」

タレントの王林さんを起用して、令和6年3月まで、以下の取組を実施。

ア ポスター掲示

・県内外の観光施設などにポスターを配布、掲示を依頼

・ポスター作成数 三内丸山遺跡版 B1 100枚 B2 200枚

小牧野遺跡版 B1 100枚 B2 200枚

大森勝山遺跡版 B1 100枚 B2 200枚

イ SNS広告

・媒体としてInstagramを使用 表示回数：148万回

・制作数 短尺動画（15-30秒程度） 3本（三内丸山1 小牧野1 大森勝山1）

本編動画（60-90秒程度） 3本（三内丸山1 小牧野1 大森勝山1）

メイキング動画（90-120秒程度）3本（三内丸山1 小牧野1 大森勝山1）

ウ スマホ待ち受け画像

・県内構成資産にQRコード入りポスター掲出、チラシ配布

・QRコード読み取りで来訪者が「スマホ待ち受け画面」をダウンロード

・ダウンロード回数：847回

エ PRグッズの配布

・大阪イベント等で、クリアファイル等を配布・web広告

・クリアファイル作成数 三内丸山遺跡版 200枚

小牧野遺跡版 200枚

大森勝山遺跡版 200枚

ウ 「青森の縄文遺跡群」世界遺産県外プロモーション2023

「あもりJOMONフェスタ おおさかのKOFUNと一緒に楽しもう」

百舌鳥・古市古墳群世界遺産保存活用会議（大阪府、堺市、羽曳野市、藤井寺市）と共催して、青森の縄文と百舌鳥・古市古墳群の価値や多彩な魅力、世界遺産登録の意義を幅広く伝えるため、楽しみながら理解を深める普及啓発イベントを大阪府内の大型ショッピングセンターで開催した。また、新聞広告も実施した。

期 間：令和5年11月25日～26日

会 場：セブンパーク天美（大阪府松原市）

内 容：普及啓発展示

・縄文遺跡群や古墳群のパネル展示

・縄文遺跡群や古墳群のPR映像放映

・縄文遺跡群や古墳群の関連刊行物の設置・配布

・縄文遺跡群の出土品展示、来場者への解説

- ・縄文体感コーナー（縄文ファッション・三内丸山遺跡出土品ハンズオン）
- ・古墳文体感コーナー（甲冑着用体験、鏡パズル、土器パズル）

ワークショップ

- ・土偶型クッキー「ドグッキー」づくり
- ・板状土偶づくり
- ・縄文組紐づくり

グリーティング

- ・さんまる（キャラクター）の店内での展開

新聞広告

- ・読売新聞大阪版 令和5年11月2日朝刊 15段広告

チラシ・ポスターの配布

- ・B2ポスター 50部 A4チラシ 13万部

大阪府及び堺市、藤井寺市、羽曳野市広報紙等でのPR

参加人数：1,500人

受入態勢充実事業

ア 民間団体との協働による世界遺産を守る人づくり実証事業の実施

団体名	事業内容
一般社団法人 小牧野遺跡保存活用協議会	ガイド人材定着のための環状列石を学ぶスキルアップ研修の実施、ワークショップで使用する体験グッズの開発等
二ツ森貝塚ボランティアガイドの会	ガイド人材獲得・定着のためのアナウンサーから学ぶガイド講座の実施、お土産品の開発等

イ ビジョン関係者会議の開催

「青森の縄文遺跡群」活用ビジョン関係者会議の開催（令和6年3月書面開催）

内 容：「青森の縄文遺跡群」活用推進ビジョンの実現に向けた保存・活用の取組状況について

「青森の縄文遺跡群」情報発信拠点施設整備事業

令和4年度に実施した設計に基づき、JR青森駅東口ビル4階に、「青森の縄文遺跡群」情報発信拠点施設を整備。

7 新型コロナウイルス感染症対策

新型コロナウイルス感染症対策として、以下の取組を実施。

取組実績

- ・館内への手指消毒液及び授乳室への除菌シートを設置
- ・清掃業者及び職員による館内・備品等の消毒を毎日実施
- ・職員・解説員のマスク・フェイスシールド等の着用及びボランティアガイドへのマスク・フェイスシールド等の着用を依頼
- ・アンケート、「ギネスに挑戦」テーブルの撤去、土器ハンズオンの中止
- ・休憩用椅子等の数量調整と間隔を保って利用することを表示
- ・既存のITガイドシステムのコンテンツの拡充及びアプリの導入
- ・券売機等へのキャッシュレス導入

- ・常設展示室内、企画展示室内、券売機前等への待機位置等及び進行方向を示すフロアマーカ―を設置
- ・2次元コード（QRコード）を利用した展示解説の動画を提供
- ・各案内カウンター及び机上用アクリルパーテーションの設置

集客施設としての対応

- ア 来館者への体調管理、手指消毒のお願い
- イ ホームページ及び館内への注意事項掲示及びサイン表示
- ウ 来館者及び職員への検温実施（赤外線カメラ、非接触式体温計の導入）
- エ 団体等の適正人数での鑑賞のための取組（予約時の調整、ミュージアム等での誘導調整等）

8 縄文時遊館の長寿命化

縄文シアター映像・音響機器の更新及び縄文時遊館屋上柵増設外工事を実施。

[4] 来館者数

令和5年度の来館者数は、244,579人である。

展 覧 会 等	来館者数
常設展等の来館者数	243,217人
内、常設展以外の各展覧会等の来館者数	
1 特別展「三内丸山とヒスイ - 本州最北に集う緑と技術 - 」 令和5年4月15日～7月2日	24,964人
2 特別展「三内丸山と漆 - 暮らしを彩る技 - 」 令和5年7月21日～9月18日	15,152人
3 企画展「さんまる北側・新発見」 令和5年10月28日～3月10日	37,953人
4 縄文体験学習 令和5年5月、7月、8月、9月（2回）、10月、11月、 令和6年1月、2月 計9回	110人
5 縄文学講座 令和5年4月、5月、6月、7月、8月、9月、11月 計7回	160人
視察等来館者数	1,362人
合 計	244,579人

青森県の教育 - 令和5年度の実績 -

令和6年10月発行

編集 青森県教育庁教育政策課

発行者 青森県教育委員会

印刷所 協同印刷工業株式会社

